

# 講 義 概 要

## シラバス

共通科目 .....	P. 165
専門科目(英語観光学科) .....	P. 205
専門科目(心理こども学科) .....	P. 275
教職に関する科目(英語観光学科) .....	P. 333



現代人間学部  
共通科目



キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教入門	ET/PC	11101	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
尾崎 秀夫	必修	2			

### 授業の到達目標

現代の文化に大きな影響を与えているキリスト教についての理解を深める。また世界で多くの信徒がいるイスラム教や仏教についても基礎知識を身につける。信教の自由は、自分が選んだ宗教を信仰できるという権利であるとともに、他人の信仰を尊重するという義務でもある。従って、どの宗教を選ぶにしろ、いかなる宗教も信じないにしろ、さまざまな宗教について知っておくことは必要である。この授業を通して、K A I S E I パーソナリティの異文化理解のIn(国際性)とキリスト教が説く他者に対する隣人愛、K(思いやり)の心を養う。

### 授業の概要

キリスト教は西暦1世紀に現在のパレスティナに成立し、現在では世界の3大宗教のひとつとされ、現代の文明に計り知れない影響を与えていることは周知の事実である。では、キリスト教とは何か。本講義では、世界の主要な宗教を概観してキリスト教の位置を確認するとともに、ユダヤ人の歴史などキリスト教の成立の背景を考察し、キリスト教の基本的な教えと、その後の発展を検討する。

### 授業計画

1. はじめに 宗教とは
2. 世界の三大宗教(仏教)
3. 世界の三大宗教(イスラム教)
4. 創造神話
5. アブラハム
6. 出エジプト
7. カナンへの帰還
8. 王国の成立と発展
9. 王国の分裂
10. バビロン捕囚
11. ユダヤ教の成立とメシア待望
12. ナザレのイエス その生涯
13. イエスの宣教
14. イエスの裁判、十字架上の死と復活
15. キリスト教の成立と発展

### 授業の方法

講義、発問、討議

### 準備学修

信仰に関係なく聖書は人類の重要な遺産であり、現代人にとっても学ぶところが大きい。関心のある部分を読んで授業にのぞんでもらいたい。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

最低でも3分の2以上の出席が必要である。

### テキスト

『聖書』(新共同訳(旧約統編つき)) 日本聖書協会(新共同訳であればどの版でも構わない。)

### 参考図書

井瀬文児『キリスト教の輪郭』(女子パウロ会)  
井上洋二『キリスト教がよくわかる本』(PHP研究所)

### 留意事項

この講座は、決して受講生をキリスト教徒にすることを目的としたものではないが、ホスピタリティには相手を受け入れることが不可欠であり、宗教の理解が必要である。その意味でもしっかり学んで欲しい。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書概論	ET/PC	11105	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
	必修	2			

### 授業の到達目標

聖書の基本的な思想、本格的な内容を形作っている要素を探求し、その思想や概念が人類の歴史・文化の中にどのように現れているかを参照し、知的満足のためではなく、心を開き、人間として真実に生きるための光とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのK(思いやり)、I(知性)とE(倫理)を目指す。

### 授業の概要

神と人間の歴史における出会いの物語である旧約聖書・新約聖書全般についての基礎知識を得て、具体的に聖書の箇所を読み、質問、分かち合いを含めながら聖書に親しむ。聖書記者が当時の世界像から取った題材としてこれを用い、彼らが言おうとしていること、その教えの内容を受け止められるようにする。それが単なる知識にとどまらず、人間とは何か、神とは何か、そして人間と神との関係は何かを一人一人の人生の中で味わう。

### 授業計画

1. 聖書を読むということー聖書について
2. イエスの告げた福音
3. イエスのもたらした解放ー新たな出発
4. イエスの人との接し方ー人を立ち上がらせる
5. リフレクション
6. ゆるしと愛ー神の心
7. 神の国(天の国)ー山上の説教
8. 祈りー「主の祈り」
9. イエスの力ある業ー悪の克服
10. リフレクション
11. 最後の晩餐ー永遠のいのちーいのちの糧
12. イエスの誕生ークリスマス(降誕祭)
13. イエスの苦しみと死ー受難と十字架の死
14. エマオの弟子たちー復活ー希望の保証
15. リフレクションー全体のまとめ

### 授業の方法

講義形式と小グループで話し合う。リアクション・ペーパーを提出する。

### 準備学修

『聖書』(新共同訳)の最初、創世記1章～11章まで、およびテキスト「根本問題をつかめ!」を読んでおくこと。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

1回の欠席につき5点減点とする。

### テキスト

『聖書』旧約聖書統編つき 新共同訳 日本聖書協会 発行  
「イエス登場!」(気合の入ったキリスト教入門) 来住英俊著 ドン・ボスコ新書  
「根本問題をつかめ!」(気合の入ったキリスト教入門) 来住英俊著 ドン・ボスコ新書

### 参考図書

『旧約聖書』図解雑学 雨宮慧著 ナツメ社  
『聖書 Q & A』和田幹男監著 女子パウロ会  
『聖書読解へのアクセス 50のポイント』湯浅俊治著 教友社

### 留意事項

聖書とルーズリーフ形式のノート(大きさは自由)を毎時間持参すること。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教海外研修			11109	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	選択	2				

### 授業の到達目標

本学と深い関係のある7ジアの聖フランシスコの足跡を辿ることによって大学の建学の精神を具体的に理解することを目的としている。キリスト教の土台にある愛と他者に仕える姿勢を生きたフランシスコの町、アジアを訪れる人の心に深い感銘を与え、人生への生き方に大きな影響力を持つ。この授業ではIn（国際性）に重点を置く。

### 授業の概要

中世、教会の権力が政治の世界でも強大な力を持ち、キリスト教の本質が危うくなった12世紀後半に現れたフランシスコは聖書に従った生き方を選び、その生き方によって現代に至るまで人々に大きな影響を与えている。ローマとアジアを中心に8泊9日の研修の旅を実施し、フランシスコゆかりの土地や自然、聖堂や絵画を訪ね、鑑賞することでキリスト教の世界の豊かさに触れていく。

### 授業計画

1. 研修に出る前の準備のクラス 第1回—イエスの生涯を中心に—
2. 研修に出る前の準備のクラス 第2回—フランシスコの生涯と思想—
3. 研修に関する具体的な準備の集まり
4. 研修の日程1日目:関西空港から出発ミラノ着
5. 研修の日程2日目:ミラノにて大聖堂、聖アンブロジーオ教会等を訪問
6. 研修の日程3日目:フィレンツェにて聖マルコ修道院、大聖堂を訪問
7. 研修の日程4日目:アシジの聖フランシスコ大聖堂、クララ教会等を訪問
8. 研修の日程4日目:サンタ・マリア・デリ・アンジェリ教会へ
9. 研修の日程5日目:アシジにてカルチェリの隠遁所を訪ねる
10. 研修の日程5日目:サンダミアーノ修道院へ
11. 研修の日程6日目:ローマのフォロロマーノ、ラテラノ教会等を訪ねる
12. 研修の日程7日目:パチカン美術館、特にシステリーナ礼拝堂を訪ねる
13. 研修の日程7日目:サンピエトロ大聖堂

14. 研修の日程8日目:日本に向けて出発
15. 研修の日程9日目:関西空港着

### 授業の方法

事前の講義と研修旅行。

### 準備学修

イエスやアッシジの聖フランシスコやイタリアについて書物や映像資料などで調べ、基礎知識を身につけておくこと。

### 課題・評価方法

その他

### テキスト

川下勝「アッシジのフランシスコ」清水書院、2004

### 参考図書

j.ヨルゲンセン著、佐藤要一訳「アシジの聖フランシスコ」ドン・ボスコ社、1988  
 チェラノのトマス著、石井健吾訳「聖フランシスコ第一伝記」あかし書房、1989

### 留意事項

研修はフランシスコをよりよく理解するためなので、他者と協力し、助け合う精神をもつこと。また、歩いていく所が多いので体力を鍛えておくこと。人間性の豊かさや広さ、深さや多様性に関心をもって望んでほしい。また視野を広げるために、クラスで言及する作品を自主的に読んだり、観賞したりする努力をしてほしい。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
聖書と現代	ET/PC		11113	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
	必修	2				

### 授業の到達目標

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げ、それらに対する聖書の教え、キリスト教の説教、歴史的取り組みなどを紹介しながら、受講生一人一人が、主体的に考え、行動できる力を養うことを目標としている。この授業はKAISEIパーソナリティのI（知性）とS（奉仕）を学ぶクラスである。

### 授業の概要

現代は、科学技術が急速な進歩を遂げる一方で、様々な既成の価値が崩壊し、ますます多様化、多元化する社会の中で人々が自分にとって最も大切なものは何か、また、自分はどうのように生きてらよいかを見つけるのが、大変困難な時代となっている。一般にポスト・モダンと呼ばれるこのような社会状況の中で長い歴史をもつ伝統宗教としてのキリスト教もその対応と存在意義が改めて問い直されている。キリスト教は現代社会が直面する様々な問題にどのように取り組み、答えようとしているのか。本講座では、現代社会との関わりにおいて21世紀におけるキリスト教のメッセージを読み解こうとする試みである。

### 授業計画

1. 序—現代を生きるキリスト教
2. I. 人間—真に人間らしく ①「男と女」—新しい関係を求めて
3. ②「家庭」—危機と再生
4. ③「生と死」—生命倫理をめぐる
5. リフレクション①
6. II. 社会—価値多様化と多文化共生を目指して ④「戦争と平和」—平和の作り方
7. ⑤「民族主義と差別」
8. ⑥「宗教多元主義の問題」
9. リフレクション②
10. III. 世界—グローバル化の進退の中で ⑦「富・貧・欲望」
11. ⑧「環境破壊とエコロジー」
12. リフレクション③
13. IV. 将来への展望—希望を抱いて ⑨「不幸・不公平」—人間の苦しみと神の義の問題
14. ⑩「世の終わりと希望」
15. リフレクション④

### 授業の方法

講義と受講生によるディスカッションを組み合わせて行う。

### 準備学修

現代社会が抱えている様々な問題を取り上げるので、日頃から問題意識をもって、自ら考える習慣を身につけて欲しい。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

授業の中でリアクション・ペーパーを書いてもらったり、ディスカッションを行う。それらへの積極的参加も平常点の一部として扱うので最低でも3分の2以上の出席がなければ学期末レポートを提出する資格を失う。

### テキスト

【聖書】（新共同訳（旧約統編つき））日本聖書教会（新規に購入するならN143DCH-APを勧めるが、新共同訳であればどの版でも構わない。）

### 参考図書

芦名定道、土井健司、辻学【現代を生きるキリスト教—もう一つの道から】 教文館。  
 教皇庁正義と平和協議会【教会の社会教説綱要】 カトリック中央協議会。

### 留意事項

テキストの【聖書】を教室に持参すること。遅刻や早退は、明確な理由のない限り、欠席と見なす。

キリスト教〈キリスト教〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キリスト教と文化	①/②	11117	Ⅲ	春/秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
尾崎 秀夫	選択	2			

### 授業の到達目標

とりわけ日本では宗教を非科学的なもの、科学と対立するものとの考えが根強い。キリスト教に关しても、教会は科学の発達に反対の立場をとってきたと考えられている。本講義では、キリスト教と科学の関係について再検討する。この授業ではE（倫理）に重点を置く。

### 授業の概要

まず、聖書と科学の関係を考察する。聖書、たとえば旧約聖書の冒頭部分などは現代の科学で否定されているが、キリスト教はそれをどのように考えてきたのであろうか。次に地動説の出現に対してキリスト教がどのように対応したかを考察する。一般に、キリスト教は新しい考えに否定的で、それを弾圧したとされるが、コペルニクスやガリレオなどに対する教会の対応を検討する。

### 授業計画

1. 導入
2. 聖書と歴史
3. 出エジプトと歴史研究(1)
4. 出エジプトと歴史研究(1)
5. 古代における宇宙観
6. 古代における天動説と地動説
7. 中世における天動説
8. コペルニクス(1)
9. コペルニクス(2)
10. ジョルダノ・ブルーノの地動説
11. ガリレオ・ガリレイ(1)
12. ガリレオガリレイ(2)
13. 科学の発達とキリスト教
14. 聖骸布
15. まとめ

### 授業の方法

講義を中心に、意見を求めたり、話し合いを取り入れたりする。

### 準備学修

地動説について復習しておくこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

### テキスト

とくに定めない。

### 留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ	ET①/ET②/ET③/ET④	11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石原 敬子/宮副 紀子/佐伯 瑠璃子/吉野 美智子	必修	1			

### 授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

### 授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

### 授業計画

1. (1)オリエンテーション
- (2)言語1
2. (1)言語2
- (2)オリエンテーション(図書館)
3. 春学期での目標設定。
4. (1)言語3
- (2)留学発表
5. (1)言語4
- (2)レポート作成:レポート、段落について。
6. (1)社会1
- (2)レポート作成:段落とは。
7. (1)社会2
- (2)レポート作成:直接引用のやり方。
8. (1)社会3
- (2)レポート作成:直接引用のやり方。参考文献の様式。
9. (1)社会4
- (2)レポート作成:参考文献の様式。表紙の様式。
10. (1)数学1
- (2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
11. (1)数学2
- (2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
12. (1)数学3

(2)啓発活動

13. (1)数学4
- (2)「ホスピタリティ研修」の事前指導
14. (1)確認試験1
- (2)レポート作成:教員からの添削をもとにレポートを完成する。
15. (1)確認試験2
- (2)教員からの添削をもとにレポートを完成し、提出する。

### 授業の方法

演習形式  
後半は言語活動、クラス討議や研修を行う

### 準備学修

テキストでしっかり予習・復習すること。eラーニングで学ぶこと。準備学修には60時間以上かけること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

### テキスト

一般常識リメディアルテキスト（育伸社）

### 留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅰ	PC①/PC②/PC③/PC④		11201	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石畠 多恵／森 晴美／中園 佐恵子／渋谷 美智	必修	1				

### 授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

### 授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、人間関係を築いて欲しい。

### 授業計画

1. (1)オリエンテーション(大学生としての姿勢)  
(2)言語1
2. オリエンテーション(図書館の利用方法について)
3. (1)言語2  
(2)オリエンテーション(本学の学生としての姿勢)
4. (1)言語3  
(2)キャンパスライフ(クラスでの自己紹介)
5. (1)言語4  
(2)キャンパスライフ(相談)
6. (1)社会1  
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
7. (1)社会2  
(2)キャンパスライフ(課外活動について)
8. (1)社会3  
(2)キャンパスライフ(課外活動)
9. (1)社会4  
(2)スタディスキル(受講)
10. (1)数学1  
(2)スタディスキル(理解と表現1)
11. (1)数学2  
(2)スタディスキル(理解と表現2)
12. (1)数学3  
(2)キャンパスライフ(今後の学修について)

13. (1)数学4  
(2)キャンパスライフ(学生相談)
14. (1)確認試験1  
(2)スタディスキル(理解と表現3)
15. (1)確認試験2  
(2)スタディスキル確認演習

### 授業の方法

演習形式

### 準備学修

webで参照すること。

### 課題・評価方法

リメディアル 50% (平常点70% 定期試験30%)  
後半学習50% (平常点70% eラーニング30%)

### 欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

### テキスト

一般常識リメディアルテキスト (育仲社)  
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック (ナカニシヤ出版)

### 留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上をとらなければ不合格とする。欠席1回につき合格点は1点上がる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト10クリアすることとする。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務j課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	ET①/ET②/ET③/ET④		11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子／宮副 紀子／佐伯 瑠璃子／吉野 美智子	必修	1				

### 授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学で必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

### 授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

### 授業計画

1. (1)言語1  
(2)今学期の目標を設定する。
2. (1)言語2  
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
3. (1)言語3  
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
4. (1)言語4  
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
5. (1)社会1  
(2)共同作業:大学祭での企画立案と実施。
6. (1)社会2  
(2)レポート作成:参考文献様式の復習。
7. (1)社会3  
(2)レポート作成:参考文献様式の復習と間接引用のやり方。
8. (1)社会4  
(2)レポート作成:間接引用のやり方。要約とは。
9. (1)数学1  
(2)レポート作成:要約をする。
10. (1)数学2  
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
11. (1)数学3  
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。

12. (1)数学4  
(2)Kaisei English and Tourism Festival
13. (1)確認試験1  
(2)レポート作成:学生同士で交換し、互いのレポート草稿の添削を行う。
14. (1)確認試験2  
(2)レポート作成:教員からの添削をもとにレポートを完成する。
15. (1)確認試験3  
(2)教員からの添削をもとにレポートを完成し、提出する。

### 授業の方法

演習形式

### 準備学修

テキストでしっかり、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

### テキスト

一般常識リメディアルテキスト (育仲社)

### 留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。教学カルテも評価対象とする。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
基礎演習Ⅱ	PC①/PC②/PC③/PC④	11205	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石畠 多恵/森 晴美/中園 佐恵子/渋谷 美智	必修	1			

### 授業の到達目標

この授業では、大学入学以前に学んだことを復習するとともに、大学に必要なスキル等について学ぶ。この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

### 授業の概要

前半では、高校以前に学んだことを復習する。基礎学力は大学での学修でも、あるいは卒業後の生活でも必要である。すでに理解していることは確認し、忘れていたことはしっかりと思い出して欲しい。後半では、大学での学修に必要なアカデミック・スキルを学ぶ。大学の授業で必要なこと、そして卒業後社会人として役立つことなどを身に付けていく。また基礎演習後半のクラスが、1年次のクラスとなるので、しっかりと人間関係を築いて欲しい。

### 授業計画

1. (1)言語1  
(2)オリエンテーション
2. (1)言語2  
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
3. (1)言語3  
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
4. (1)言語4  
(2)キャンパスライフ(課外活動についてのディスカッション)
5. (1)社会1  
(2)スタディスキル(教学カルテ入力について)
6. (1)社会2  
(2)キャリアデザイン(社会意識1)
7. (1)社会3  
(2)キャリアデザイン(社会意識2)
8. (1)社会4  
(2)キャリアデザイン(社会意識3)
9. (1)数学1  
(2)キャリアデザイン(社会意識4)
10. (1)数学2  
(2)スタディスキル(リサーチ1)
11. (1)数学3  
(2)スタディスキル(リサーチ2)
12. (1)数学4  
(2)スタディスキル(リサーチ3)

13. (1)確認試験1  
(2)社会人への一歩(今後の学修について)
14. (1)確認試験2  
(2)スタディスキル(リサーチ4)
15. (1)確認試験3  
(2)アカデミックスキル確認演習

### 授業の方法

演習形式

### 準備学修

テキストでしっかりと、予習・復習すること。eラーニングを活用すること。準備学習には60時間以上かけること。

### 課題・評価方法

リメディアル50% (平常点70% 定期試験30%)  
後半学修50% (平常点70% eラーニング30%)

### 欠席について

3分の1以上欠席した者には受験資格を認めない。

### テキスト

一般常識リメディアルテキスト(育伸社)  
3訂 大学 学びのことはじめ～初年次セミナーワークブック(ナカニシヤ出版)

### 留意事項

リメディアル学習の確認試験では、原則として80点以上を盗らなければ不合格とする。欠席1回につき、合格点を1点上げる。eラーニングを課題とし、実力診断テスト20クリアをすること。教学カルテも評価対象とする。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ	ET①/ET②/ET③/ET④/ET⑤	11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人/一尾 敏正/箕野 聡子/佐伯 瑠璃子/酒井 新一郎	必修	1			

### 授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために、人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学び、並行し行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを持ち、内面的に自らを磨き自身のキャリアデザインを磨く。

### 授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、チームでプレゼンテーションを作り上げ、それを発信する力をつけていく。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムから社会で働くこと・社会との関係について考え、自身の将来に意識を向けていく。

授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

### 授業計画

1. KAISEIパーソナリティについて
2. ポートフォリオ(学生カルテ)
3. キャリアプログラム①社会を知る
4. キャリアプログラム②「社会で働く」とは
5. キャリアプログラム③「職種・業界」
6. キャリアプログラム④学科の学びとキャリア
7. 海外旅行プラン①「A: 自律」自らが企画する
8. 海外旅行プラン②「K: 思いやり」人との共感
9. 海外旅行プラン③「S: 奉仕」他者と自己との関係
10. 海外旅行プラン④「I: 知性」調査し考える
11. 海外旅行プラン⑤「E: 倫理」現代の日本社会を考える
12. 留学体験を共有する「I: 国際性」ボーダレスの世界 前に踏み出す力
13. 旅行プラン グループ発表①
14. 旅行プラン グループ発表②
15. ポートフォリオ(学生カルテ)

### 授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレゼンテーションなど授業によってさまざまな形で行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①各教員から課題が与えられる。フィードバックの方法は教員によって異なる。
- ②出席点30%、レポート・小テスト・発表など40% eラーニング30%

### 欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

### テキスト

プリント使用

### 留意事項

eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

### 教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp・ichio@kaisei.ac.jp・mino@kaisei.ac.jp・saeki@kaiei.ac.jp・sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅰ	PC①/PC②/PC③/PC④		11206	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智/石畠 多恵/南 夏世/中園 佐恵子	必修	1				

### 授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために、人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目について学び、並行して行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを確立し、内面的に自らを磨き、自身のキャリアデザインを描く。

### 授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけていく。

また、キャリア教育のプログラムから社会で働くこと・社会との関係について考え、自身の将来に意識を向けていく。

授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

### 授業計画

1. ポートフォリオ(学生カルテ)
2. 海星学とは
3. キャリアプログラム1「社会を知る・年金制度」
4. キャリアプログラム2「社会で働くとは」
5. キャリアプログラム3「職種・業界を学ぶ」
6. キャリアプログラム4「キャリアを考える」
7. 海星の歴史と建学の精神
8. 大学祭について
9. KAISEIパーソナリティについて
10. KAISEIパーソナリティについて
11. KAISEIパーソナリティについて
12. KAISEIパーソナリティについて
13. KAISEIパーソナリティについて
14. 海星パーソナリティの理解と自分の振り返り
15. ポートフォリオ(学生カルテ)

### 授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレゼンテーションなど授業によってさまざまな形で行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①各教員から課題が与えられる。フィードバックの方法は教員によって異なる。
- ②平常点40%、定期試験30% eラーニング30%

### 欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

### テキスト

プリント使用

### 留意事項

eラーニングを課題とし、実力テスト診断テストを10クリアさせること。  
 教学カルテを入力しておくこと。

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
 各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅱ	ET①/ET②/ET③/ET④/ET⑤		11207	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人/一尾 敏正/箕野 聡子/佐伯 瑠璃子/酒井 新一郎	必修	1				

### 授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史についての理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために、人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学び、並行して行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを持ち、内面的に自らを磨き自身のキャリアデザインを磨く。

### 授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、チームでプレゼンテーションを作り上げ、それを発信する力をつけていく。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムを通し、自身の将来に対する意識を確立させていく。

授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

### 授業計画

1. 大学祭についての準備
2. ポートフォリオ(学生カルテ)
3. 海星を学ぶ① 建学の精神と校歌
4. 海星を学ぶ② 歴史と文化
5. 海星を学ぶ③ 「K:思いやり」と「A:自律」
6. 卒業生によるピアサポート①
7. 卒業生によるピアサポート②
8. 社会で働く①(キャリアセンター)
9. 社会で働く②(学科教員)
10. 学科の特質を学ぶ
11. 海星を学ぶ④ 「I:知性」と「S:奉仕」
12. 海星を学ぶ⑤ 「E:倫理」と「I:国際性」
13. 海星を学ぶ⑥ 周辺地域と大学聖堂
14. 将来の選択 演習ゼミについて理解する
15. ポートフォリオ(学生カルテ)

### 授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレゼンテーションなど授業によってさまざまな形で行う。

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

- ①各教員から課題が与えられる。フィードバックの方法は教員によって異なる。
- ②出席点30%、レポート・小テスト・発表など40% eラーニング30%

### 欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

### テキスト

プリント使用

### 留意事項

eラーニングを課題とし、指定された箇所まで進んでいなければ単位を認めない。

### 教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp ・ ichio@kaisei.ac.jp ・ mino@kaisei.ac.jp ・ saeki@kaiei.ac.jp ・ sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
 各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海星学Ⅱ	PC①/PC②/PC③/PC④	11207	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
渋谷 美智／石畠 多恵／南 夏世／中園 佐恵子	必修	1			

### 授業の到達目標

神戸海星女子学院大学の建学の精神や歴史について理解し、本学の学生としての自覚を深める。そのために人格的素養としてのKAISEIパーソナリティの項目についての学び、並行して行われるキャリアプログラムと合わせ、各自の考えを確立し、内面的に自らを磨き、自身のキャリアデザインを描く。

### 授業の概要

KAISEIパーソナリティ「K・A・I・S・E・I」の6つの言葉をグループでの討論や研究を通して身につける。具体的にはコミュニケーションを養いながら、他者と協力する力、発信する力をつけ、最終的にチームでプレゼンテーションを作り上げ発表する。それと並行して行われるキャリア教育のプログラムを通し、自身の将来に対する意識を確立させていく。

授業は授業内容に合わせて、学年全体、学科別、またはクラス別に行う。

### 授業計画

- 1.ポートフォリオ(学生カルテ)
- 2.KAISEIパーソナリティの研究項目の選択とチーム確認
- 3.大学祭についてのディスカッション①
- 4.大学祭についてのディスカッション②
- 5.大学祭についてのディスカッション③  
職業研究
- 6.卒業生によるピアサポート①
- 7.卒業生によるピアサポート②
- 8.社会で働く①(キャリアセンター)
- 9.社会で働く②(学科教員)
- 10.テーマについてのグループディスカッションと研究と報告①
- 11.テーマについてのグループディスカッションと研究と報告②
- 12.グループのプレゼンテーションの準備作業
- 13.グループのプレゼンテーションの発表準備
- 14.全学科の学生の前でのプレゼンテーションと意見交換
- 15.ポートフォリオ(学生カルテ)

### 授業の方法

講義または個人作業・協同作業、グループディスカッション、プレ

ゼンテーションなど授業によってさまざまな形で行う。

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

- ①各教員から課題が与えられる。フィードバックの方法は教員によって異なる。
- ②平常点40%、定期試験30% eラーニング30%

### 欠席について

出席を重視する。欠席が5回を超えると単位は修得できない。

### テキスト

プリント使用

### 留意事項

eラーニングを課題とし、実力テスト診断テストを10クリアさせること。教学カルテを入力しておくこと。

### 教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学Ⅰ	ET/PC	11209	Ⅰ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
尾崎 秀夫	必修	2			

### 授業の到達目標

本学では、キリスト教的人間観に基づく人間教育を基本理念の一つとしている。本講義は、学生が1人の人間として社会に対する責任を果たすことができるよう、現代社会の様々な動きや問題点について考えていく。この授業では、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

現代は急速な変化の時代である。私たちはその中で一人ひとりが責任を持って生きていかねばならない。そのためには現代の動きや様々な問題などについて知り、考えることが不可欠である。本講義では、新聞などを利用して、この1、2年に起こった様々な問題について解説し、皆で考えていきたい。

### 授業計画

1. 昨年の時事問題(1)
2. 昨年の時事問題(2)
3. 1月頃の時事問題
4. 2月頃の時事問題
5. 3月頃の時事問題
6. 4月頃の時事問題
7. 5月頃の時事問題
8. 6月頃の時事問題
9. 7月頃の時事問題
10. 8月頃の時事問題
11. 9月頃の時事問題
12. 10月頃の時事問題
13. 11月頃の時事問題
14. 12月頃の時事問題
15. この1年の時事問題

### 授業の方法

講義、演習、発表形式。

### 準備学修

日々新聞やテレビ、インターネットで時事問題に関心を持ち、興味

を持った事柄については自分で調べてこと。家族や友人ともそのような話題を取り上げて、いろいろな意見を聞くこと。準備学修には、参考文献を読むことなどで60時間以上を必要とする。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

5回を超える欠席者には受験資格を認めない。

### テキスト

特に定めなし

### 留意事項

講義中の私語は禁止する。授業の途中での退出も原則として禁じる。途中退出は遅刻、15分を超える場合は欠席とみなす。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎〈基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人間学 2	ET/PC		11213	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
	必修	2				

### 授業の到達目標

キリスト教的価値観を土台とした本学での学びの中で、人格的に成長していくため、人間としての営みをさまざまな角度から理解し、深めていく。KAISEIパーソナリティのすべての要素をてがかりに、建学の精神を体得し、人間として、女性としての存在の主体的意味を発見する。  
このクラスではKAISEIパーソナリティの全体について理解を深めるが、とりわけ、共感性に満ちた I (知性) とIn(国際性) を養うことを目指す。

### 授業の概要

身近な体験を通して、「問題」と「神秘」を峻別しつつ、人間存在について多様な角度から考察する。「ビッグバン」から「欲望の資本主義」の時代まで、時の流れの中の「いのち」について、人間がどのように理解し、生きてきたのかを、通時的、共時的な文化の側面から考察し、環境、家族、地域社会、国家等のかかわりへの理解を深めていく。さらに、「生きることは何か」、「人間の尊厳とは何か」などを自らに問いかけることによって、人生の旅を探求していく。知的な問いかけだけでなく、内的な精神の営み、超越的な存在への問いかけもとりあげていく。

### 授業計画

1. 人間学とは何か
2. 存在の神秘
3. 他者とは誰か
4. 人間の誕生から死まで
5. 人種・民族・国民
6. 正義と平和
7. 宗教と科学
8. 異文化理解と文化共生
9. 伝統と近代化
10. 環境問題と「ラウダート・シ」
11. いのちを脅かすもの
12. 自助・公助・共助
13. ケアの文化とケアの倫理
14. 人間の尊厳
15. 海星で学ぶということ

### 授業の方法

講義とディスカッションを土台とし、討論に基づいた発表の時間をとる。また、グループや個人による課題研究、ロールプレイング、プレゼンテーション等を課す。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

①課題について、各時間に提出されるレポートに基づきグループ討論等を行い、発表を実施する。その後各レポートを評価し、全体のフィードバックを行う。  
②評価方法、平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

出席の評価を成績評価全体の15%とし、出席評価は欠席1回につき20%減するものとする。

### テキスト

配布プリント及び電子ファイル、映像等を使用する。

### 参考図書

日本カトリック司教団「いのちへのまなざし 増補改訂版」カトリック中央協議会  
柳澤桂子『癒されて生きる』岩波現代文庫  
林典子「人間の尊厳——いま、この世界の片隅で」岩波新書  
教皇フランシスコ「回勅 ラウダート・シ」カトリック中央協議会  
三田一郎「科学者はなぜ神を信じるのか」講談社ブルーバックス

### 留意事項

自己と他者に関心をもち、世界の出来事に興味をもち、現代社会を注視すること。また日本と世界の歴史について理解し、人生に対する自らの姿勢を意識すること

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キャリアデザイン入門	ET		11301	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
前田 典子	必修	2	大学キャリアコンサルタント			

### 授業の到達目標

充実した学生生活を過ごすために自己のキャリアについて考えて行動できるようになることが到達目標である。具体的には①キャリア=仕事(人生)のビジョンを言語化、文章化できるようになる。②キャリア=仕事(人生)に関する考え方や希望を把握できるようになる。KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養う。

### 授業の概要

生きていくうえで、いろいろな出会いがある。人、社会、仕事、そして自分。  
出会いを中心にして、これからのキャリア=仕事(人生)を考えていく。

### 授業計画

1. 学長による講義
2. 適性検査の実施
3. 人との出会い① 出会いのワーク①
4. 人との出会い② 出会いのワーク②
5. 人との出会い③ コミュニケーション演習
6. 社会との出会い① 社会に出るとは?
7. 社会との出会い② 業界研究
8. 社会との出会い③ 業種・職種・雇用形態
9. 適性検査の結果報告
10. キャリアセンター員による講義 本校のキャリア教育
11. 学科教員による講義 将来のために今すべきこと
12. 自分との出会い① ライフパワーグラフ
13. 自分との出会い② 現在の私は? 未来の私は?
14. 自分との出会い③ キャンパスライフプラン
15. まとめとテスト(作文)

### 授業の方法

講義(聴く) グループワーク(話す)を中心に、ワークシートへの記入(書く)を行う。聴く・話す・書くを中心に発表(プレゼンテーション)までつなげる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題・グループ・個人発表後は担当教員によるフィードバックを行う。  
評価方法・平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

規定に従う

### テキスト

プリント配布

### 参考図書

随時紹介する

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キャリアデザイン入門	PC		11301	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
前田 典子	必修	2	大学キャリアコンサルタント			

### 授業の到達目標

充実した学生生活を過ごすために自己のキャリアについて考えて行動できるようになることが到達目標である。具体的には①キャリア＝仕事（人生）のビジョンを言語化、文章化できるようになる。②キャリア＝仕事（人生）に関する考え方や希望を把握できるようになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

### 授業の概要

生きていくうえで、いろいろな出会いがある。人、社会、仕事、そして自分。出会いを中心にして、これからのキャリア＝仕事（人生）を考えていく。

### 授業計画

1. 学長による講義
2. 適性検査の実施
3. 人との出会い① 出会いのワーク①
4. 人との出会い② 出会いのワーク②
5. 人との出会い③ コミュニケーション演習
6. 社会との出会い① 社会に出るとは？
7. 社会との出会い② 子どもを取り巻く社会情勢
8. 社会との出会い③ 業種・職種・雇用形態
9. 適性検査の結果報告
10. キャリアセンター員による講義 本校のキャリア教育
11. 学科教員による講義 将来のためにいますべきこと
12. 自分との出会い① ライフパワーグラフ
13. 自分との出会い② 現在の私は？未来の私は？
14. 自分との出会い③ キャンパスライフプラン
15. まとめとテスト(作文)

### 授業の方法

講義（聴く）グループワーク（話す）を中心に、ワークシートへの記入（書く）を行う。聴く・話す・書くを中心に発表（プレゼンテーション）までつなげる。

### 準備学修

日ごろから自分の将来について考える習慣を身につける。社会の出来事に関心をもつ。ニュースに触れる（新聞・TV・ネット）ことで自分はどう思うのか？問いかけ考える時間を毎日20分程度とする。

### 課題・評価方法

課題・グループ・個人発表後は担当教員によるフィードバックを行う。  
評価方法・平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

規定に従う

### テキスト

プリント配布

### 参考図書

随時紹介する

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
文学入門			11309	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

### 授業の到達目標

近代の文学作品を進んで読むことができるようにする。近代という時代が、過去とも現代ともつながった時空であることを理解し、自らの視野を広げる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

日本の文学に登場する異界について考察する。日本の古典も参考にしながら、近代・現代作家の作品を講読したい。また、近代の文学が、現代の映像文化へどのような影響をあたえているかも、加えて考察する。神々や妖怪ら、異界のもの達に託された日本文化の一面にも注目する。

### 授業計画

1. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その1)
2. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その2)
3. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その3)
4. 泉鏡花「龍潭譚」と「千と千尋の神隠し」(その4)
5. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その1)
6. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その2)
7. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その3)
8. 永井荷風「狐」と「もののけ姫」(その4)
9. 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」(その1)
10. 萩原朔太郎「猫町」と「猫の恩返し」(その2)
11. 中島敦「悟浄歎異」と「バケモノの子」
12. 中島敦「悟浄出世」と「バケモノの子」
13. 中島敦「李陵」と「バケモノの子」
14. 中島敦「名人伝」と「バケモノの子」
15. 佐藤春夫「西班牙犬の家」と「耳をすませば」(その1)

### 授業の方法

作品講読と関係資料映像の鑑賞が中心となる。

### 準備学修

Web参照すること。

### 課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。  
平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

規定に従う

### テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

### 参考図書

必要に応じて随時紹介する。

### 留意事項

授業中に鑑賞する映像は、文学作品を理解するためのものである。そのため、授業中では一部のみしか鑑賞しない場合もある。

### 教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学概論			11317	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

### 授業の到達目標

心理学とは何を学ぶ学問であるか、また、どのように研究され、現在の形になったのか、心理学の成り立ち、実験心理学から社会的行動、臨床的問題に至る歴史について概観し人の心の基本的な仕組み及び働きについて基礎的な理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）とを養う。

### 授業の概要

ヴェントを祖とする科学的な心理学の世界では、人間の感覚や知覚に関する理論において、どのような研究が課題であったか、それは同様に学習認知の研究においてはどのような展開を見せてきたのか、思考や言語という領域においてはどのような知見が新たに必要となったのか、人格を捉えるうえで、そのような知見は十分であったのか、臨床的な視点で人間に変容をもたらすとはどのようなことであるのか、また現在の心理学が抱える課題について、具体的な資料を挙げながら概観する。

### 授業計画

1. オリエンテーション 心理学が誕生するまで
2. 行動主義と学習理論1
3. 行動主義と学習理論2
4. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学)1
5. 感覚・知覚(ゲシュタルト心理学)2
6. 発達心理学1
7. 発達心理学2
8. 認知心理学1
9. 動機づけ・情動
10. 社会的行動理論
11. 人格の形成
12. 人格の評価
13. 臨床心理学1
14. 臨床心理学2
15. 総括・期末テスト

### 授業の方法

講義と単元内容（実験・行動・学習・ゲシュタルト・発達・認知・社会的行動理論・人格・臨床）に相応した課題に毎時間回答しながら学習を進める。

ら学習を進める。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点30点、定期試験70%

### 欠席について

欠席は1回で3点、遅刻は2点の減点とする。欠席5回を超えた場合は不合格とする。

### テキスト

『心理学の最先端』あいら出版 2013

### 参考図書

授業中に適宜紹介する。

### 留意事項

毎回小テストを実施するので、予習復習を徹底すること。小テスト結果は平常点に加算する。

### 教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
統計学入門			11321	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2				

### 授業の到達目標

基本的な統計的手法を理解することを目標とする。具体的には、代表値、分散、標準偏差、統計的推定の内容を理解し、統計量を計算できるようになることである。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

情報化が進むいま、テレビの視聴率や世論調査など様々な場面において統計データが利用されている。最近ではコンピュータの普及によって、統計計算は容易に実行され、意味を理解していなくても結果だけは得られるようになってきた。しかし、意味を分からずに結果を出しても、それらを正しく利用することはできないし、また、場合によっては誤った判断を下す危険がある。本講義では、はじめに基本的な統計量について概観する。さらに、実際に統計量を計算することで理解を深める。

### 授業計画

1. 講義ガイダンス
2. 度数分布表とヒストグラム
3. 平均値
4. 分散と標準偏差
5. 度数分布表からの分散と標準偏差
6. 標準偏差でデータの評価
7. 相関と回帰
8. 正規分布
9. 正規分布を使って予言を行う
10. 仮説検定の考え方
11. 区間推定の考え方
12. 母集団を調べる①
13. 母集団を調べる②
14. 母集団を調べる③
15. まとめ

### 授業の方法

授業では、受講者が受け身にならず、統計量を計算することで、自ら「やってみる」、「考えてみる」という姿勢を身につけてもらう。

### 準備学修

いままで学習した簡単な割合の内容を理解していることが望ましい。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

### テキスト

小島寛之著『統計学入門』（ダイヤモンド社）

### 留意事項

数学が苦手な人も安心して受講してほしい。また、心理分野に興味がある人は本講義終了後、心理統計学を選択することが望ましい。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ジェンダー論			11325	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

### 授業の到達目標

ジェンダーとは何かを説明できる。あたりまえとされている社会生活の諸側面を、ジェンダーの視点からとらえ直すことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

生物的差異にもとづく性差・性別に対して、社会的文化的につくられた性差・性別をジェンダー（gender）という。この授業では、社会の様々な制度、慣習、政策、教育、メディア、文学、歴史など人間の諸活動を、ジェンダーの視点でとらえ直す。とくに日本において、これまで見過ごされがちだった社会現象や社会問題を、ジェンダーとの関連において考察したい。また、これまでの女性学や男性学が、何をどのように問題にしてきたかを概観する。

### 授業計画

1. ジェンダーとは
2. 「女らしさ」「男らしさ」と性別役割
3. 教育とジェンダー
4. 労働とジェンダー 1
5. 労働とジェンダー 2
6. 結婚・離婚とジェンダー 1
7. 結婚・離婚とジェンダー 2
8. 子育てとジェンダー 1
9. 子育てとジェンダー 2
10. ケアとジェンダー
11. 暴力とジェンダー
12. 表現とジェンダー
13. 政策とジェンダー
14. 国際化の中の女性問題・男性問題
15. まとめ

### 授業の方法

講義に加えて、グループディスカッションやプレゼンテーションをとり入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。  
平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席1回につき2点減点する。

### テキスト

伊藤公雄ほか『女性学・男性学 ジェンダー論入門』有斐閣

### 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

### 留意事項

様々な立場からの様々な意見を紹介するので、批判的に摂取し、自分の意見をまとめてほしい。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本国憲法			11329	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
四本 健二	選択	2				

### 授業の到達目標

この講義を通じて、学生がニュースなどで見聞きする基本的な人権や統治機構が憲法上はどのような内容をもつものであるかを系統的に理解することができる。また、立法や政府の政策には違憲の疑いがあるものもあり、それらを批判的に分析する能力を養うことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

この科目は、日本国憲法の全体像を理解することを目的とする。講義は、初学者向けにすすめる。その内容は、日本国憲法の制定に至る過程と基本原理（国民主権、基本的人権の保障、平和主義）について説明したのち、人権（身体的自由、精神的自由、経済的自由、参政権）と統治機構（立法、行政、司法、地方自治）をめぐる諸規定の解釈を学説と判例の紹介を交えながらわかりやすく解説する。また、地方分権や国際貢献などの最近の議論についても紹介する。

### 授業計画

1. 憲法と立憲主義、日本憲法史
2. 国民主権の原理、平和主義の原理
3. 基本的人権の原理とその限界
4. 包括的基本権と法の下での平等
5. 精神的自由権（内心の自由）
6. 精神的自由権（表現の自由）
7. 経済的自由権
8. 人身の自由
9. 国務請求権と参政権
10. 社会権
11. 国会
12. 内閣
13. 裁判所
14. 財政と地方自治
15. まとめ

### 授業の方法

講義形式

### 準備学修

法学の入門書を読んでおくことが望ましい。

### 課題・評価方法

期末の試験によって評価する。

### 欠席について

出欠は問わない。

### テキスト

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

### 参考図書

芦部信喜『憲法』岩波書店

### オフィスアワー

講義の前後に学生との面談時間を設ける

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康科学			11333	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
柳本 有二	選択	1	国立附属小学校教官			

### 授業の到達目標

受講生および重要な他者（保護者など）が、望ましい健康観や健康行動を獲得できるように、ウエルネス的健康観を主体とした基礎的知識を習得することを旨とする。  
さらに、現代社会において検討すべき、高齢化および少子化に伴う諸問題を解決する糸口を、ヘルスプロモーション的な実践活動と科学的理論から探る能力を養成する。  
この授業では、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）およびI（知性）を養う。

### 授業の概要

講義形式で行うが、適宜アクティブラーニング（グループディスカッション）を行う。  
Health in All Policies（全ての政策の中に健康という視点を取り入れる）という視点から、日常生活、災害時等の緊急対応および地域活性化などの中に、すべて「健康」という概念を取り入れた政策を目指すための知識を学ぶ。そして、これからの健康づくりには、どのような活動が重要かを考えていく。  
なお、毎授業ごとに授業に関する感想と意見を書き込む授業ノートを作成し、次授業の最初にその意見等を紹介し、学習の連続性を確保する。

### 授業計画

1. オリエンテーション. 授業の進め方を説明. グループで「論」と「学」の違いについて話し合いをする。
2. 一日一万歩の意義, ウォーキングと健康について講義とディスカッションをする。
3. Health in All Policiesという視点から、現在の健康を考える。
4. 健康づくりとして、骨の重要性について、運動、栄養および生活習慣による骨質の低下予防について。
5. 肥満と糖尿病について、最新の予防医学から検討する。
6. 子供たちの健康づくり(発育発達)について最新の科学的根拠から検討する。
7. 少子化や認知症など現代の諸問題についてその解決策を検討する。
8. ウエルネス的健康観から「よりよく生きる」という意味を考える。  
なお、まとめを行ってから試験をする。

### 授業の方法

毎授業ごとに授業ノートを作成し、次授業の最初にその意見等を紹介し、学習の連続性を確保する。

### 準備学修

日常や社会における健康づくりについて、新聞やメディアなどを通じて意識し、まとめておく。  
(Web で参照すること)

### 課題・評価方法

- 1) レポート：受講した授業内容から選択し、レポートを提出する
- 2) 評価方法：定期試験：70%、授業時の感想ノート：30%

### 欠席について

神戸海星女子学院大学の欠席条件に合わせる。

### テキスト

使用しない。

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康スポーツ 1	①/②		11337	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 磨也子/片岡 安美子	選択	1	医療系専門学校非常勤講師、スポーツクラブ・幼児教室運営会社勤務			

### 授業の到達目標

充実した学生生活を送りその後社会で活躍するためにも、健康や体力増進について知識や理解を深めることは大切な基礎となる。授業中の積極的な身体活動により、日常生活においても運動が習慣化し自己管理するための方法を身につける。  
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

### 授業の概要

リズムジャンプ（後藤担当）とアジャタ競技（片岡担当）の特徴を生かしながら、個人の体力増進を目指しつつ、グループ活動のなかで他者との関わりや個々の役割について考え実行する。この2種の主運動と共に体ほぐしの運動や筋力トレーニング、リラクゼーションなどの方法を学ぶ。

### 授業計画

1. オリエンテーション  
リズムジャンプとアジャタについて説明。
2. 後藤担当、片岡担当のクラス分けをする（6回の授業で入れ替わる）  
簡易的体力測定と健康状態の把握をする
3. 後藤：運動動作と筋肉の動きを理解してリズム運動を行う。  
片岡：ルールを理解と用具の設置の仕方について
4. 後藤：リズム運動。ウォーミングアップとクールダウンについて。  
片岡：ゲーム展開と審判方法について
5. 後藤：リズムジャンプの基本パターンを反復する。運動強度について。  
片岡：投球練習とゲーム
6. 後藤：リズムジャンプの習得。筋力トレーニングについて。  
片岡：投球練習とゲーム
7. 後藤：グループでジャンプを組み合わせた創作活動を行う。リラクゼーションについて。  
片岡：投球練習とゲーム
8. 後藤：創作活動の完成と発表。  
片岡：投球練習とゲーム
9. 後藤：運動動作と筋肉の動きを理解してリズム運動を行う。  
片岡：ルールを理解と用具の設置の仕方について

10. 後藤：リズム運動。ウォーミングアップとクールダウンについて。  
片岡：ゲーム展開と審判方法について
11. 後藤：リズムジャンプの基本パターンを反復する。運動強度について。  
片岡：投球練習とゲーム
12. 後藤：リズムジャンプの習得。筋力トレーニングについて。  
片岡：投球練習とゲーム
13. 後藤：グループでジャンプを組み合わせた創作活動を行う。リラクゼーションについて。  
片岡：投球練習とゲーム
14. 後藤：創作活動の完成と発表。  
片岡：投球練習とゲーム
15. まとめ

### 授業の方法

実技中心の授業である。  
正当な事由があるときは見学とレポート提出を課す。

### 準備学修

毎日20分程度、授業で学ぶストレッチやトレーニングをして健康管理に努める。

### 課題・評価方法

毎回授業内容の記録をすること。課題と発表に対するフィードバックは授業の中で行う。  
評価方法、平常点70% 定期試験30%

### 欠席について

規定に従う  
欠席はマイナス評価の対象とする。

### テキスト

プリント配布

### 留意事項

運動に相応しい服装と運動用靴で臨むこと

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化史			11353	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

### 授業の到達目標

日本史の概略を理解する。日本の伝統行事を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

### 授業の概要

時代ごとに歴史の重要事項を確認する。さらにその時代の文化に注目し、その文化を題材として取り扱った現代の文学・文化作品を鑑賞する。

### 授業計画

- 神々の歴史  
『古事記』と荻原規子『空色勾玉』を読む
- 縄文時代・弥生時代  
たつみや章『月神の統べる森で』を読む
- 邪馬台国・古墳時代  
森嶋外『生田川』を読む
- 邪馬台国のあった頃の中国（魏）  
吉川英治『三国志』を読む。
- 飛鳥時代  
池田理代子『聖徳太子』を読む
- 大化の改新  
里中満智子『天上の虹』を読む
- 奈良時代  
手塚治虫『火の鳥』を読む
- 平安時代  
大和和紀『あさきゆめみし』を読む  
清少納言『枕草子』を読む
- 年中行事 その老  
(正月について)
- 年中行事 その式  
(節分・3月3日・5月5日・衣替え・賀茂(葵)祭)
- 年中行事 その参  
(夏祭り・天神祭・祇園祭・ねぶた祭り・竿灯祭・七夕祭・花笠祭)
- 年中行事 その四  
(7月7日・盆・風祭・十五夜・十三夜・重陽の節会・神無月・七五三)
- 鎌倉時代  
小泉八雲『耳なし芳一』を読む

- 戦国時代  
遠藤周作『叛逆』を読む
- 江戸時代  
菊池寛『忠直卿行状記』を読む

### 授業の方法

講義中心の授業である。

### 準備学修

Web参照すること。

### 課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

規定に従う

### テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

### 参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

### 教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
簿記会计学			11357	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2	税理士			

### 授業の到達目標

この授業は、簿記の初学者に対し、簿記の基本概念、計算原理、作成技術などを説明する。到達目標は、日本商工会議所簿記検定3級の基本部分を習得することである。さらに、この授業は、自らを律して積極的に受講することにより、全世界で使用されている簿記の知識をより深く理解することにより、「KAISEIパーソナリティー」のI（知性）とIn（国際性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

### 授業の概要

簿記とは、お金の計算を会計帳簿に記入することである。授業は、日々の取引がどのように記録されているのか、また決算においてどのような手続きが行われているのかを説明する。簿記を修得するためには、解説を聞くだけでなく、自ら電卓を持ち、問題の反復練習が重要になる。本授業では、授業で学んだことを実践的に確認するために、具体的な記帳練習を行いながら講義する。

### 授業計画

- 簿記の基礎
- 仕訳①～商品売買
- 仕訳②～現金・当座預金・当座借越・小口現金
- 仕訳③～手形
- 仕訳④～貸付金・借入金他・有価証券
- 仕訳⑤～その他の債権債務
- 仕訳⑥～消耗品の処理・固定資産と減価償却
- 仕訳⑦～租税公課と資本金
- 仕訳⑧～費用・収益の繰延べと見越し
- 決算①～帳簿への記入
- 決算②～試算表の作成
- 決算③～伝票制度
- 決算④～精算表と財務諸表
- 決算⑤～帳簿の締め切り
- まとめと確認

### 授業の方法

講義と演習問題を多く取り入れて授業をする。

### 準備学修

授業の始まる前には、必ず予習をすること。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

### テキスト

「スッキリわかる 日商簿記3級」 TAC出版

### 留意事項

電卓は必要なので持参すること。本講義は、全国大学実務教育協会「情報処理士」の認定に必要な科目である。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
現代家族関係論			11365	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

### 授業の到達目標

家族についての基礎知識を習得する。現代社会における家族関係の問題に科学的に接近できる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

### 授業の概要

家族関係への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この講義では、主に家族社会学の立場から家族の諸相に接近を試みる。まず、家族についての基礎知識、家族関係の基本的問題を解説する。また、現代日本の家族が直面している問題を取りあげ、家族関係のあり方について考え議論する機会を設ける。さらに、家族の先端的研究を紹介するとともに、歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶこととする。

### 授業計画

1. 家族とは
2. 家族に関する基礎知識 1
3. 家族に関する基礎知識 2
4. 配偶者の選択
5. 結婚と夫婦関係
6. 離婚・再婚と家族関係
7. ライフコースと家族
8. 子どもの養育と家族関係 1
9. 子どもの養育と家族関係 2
10. 中年期の家族関係
11. 高齢期の家族関係
12. 家族に関する政策と法
13. 家族と社会的ネットワーク
14. 家族の変化と家族関係
15. まとめ

### 授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションやディスカッションを取り入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。  
平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席1回につき2点減点する。

### テキスト

森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学』培風館

### 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

### 留意事項

「家庭支援論」を履修する前に、この科目を履修することが望ましい。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
人権教育論			11373	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会人権同和教育室指導主事			

### 授業の到達目標

人権教育の基本的な概念を学習し、人権感覚を高め人権学習の実践力を養う。そして学校での人権学習の具体的な指導法を考察する。さらに人権学習の指導案を作成し実践的な模擬授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティ-I(知性)を養い、プレゼンや模擬授業、ロールプレイを体験する過程でK(思いやり)の諸能力を生かします。

### 授業の概要

毎回配布するレジュメ・資料を中心に授業を進める。人権感覚を磨く方法や、人権教育の在り方について考察し、実際の取り組み方を学ぶ。

### 授業計画

1. 人権とは(人権感覚、考え方)
2. 偏見と差別
3. 人権・同和教育とは
4. 人権尊重の教育
5. 子どもの人権Ⅰ(虐待、体罰、子どもの安全)
6. 子どもの人権Ⅱ(いじめ、不登校、権利条約)
7. 学校における人権学習Ⅰ(学習権、個性)
8. 学校における人権学習Ⅱ(複数指導、生活科)
9. 人権教育指導実践Ⅰ(項目別)
10. 人権教育指導実践Ⅱ(資料研究)
11. 人権教育指導実践Ⅲ(人権ゲーム、ロールプレイ)
12. 阪神淡路大震災と人権
13. 人権学習のコラム
14. 諸外国の人権教育事情
15. 人権教育の課題、まとめ

### 授業の方法

講義を中心に発表やロールプレイも取り入れ、模擬授業を実践してもらいます。

### 準備学修

世界中で報道される人権問題に関心を持っておくこと。毎回配布さ

れるレジュメやプリントをファイルし、講義メモを添えて整理保存すること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

やむをえず欠席する時は事前事後に届け出ること。

### 参考図書

授業の中で適宜紹介します。

### 留意事項

ロールプレイやゲーム等で人権感覚を磨く訓練をします。毎回の授業の記録ファイルを最後に提出してもらいます。

### 教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会科学概論			11377	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
尾崎 秀夫	選択	2				

### 授業の到達目標

本授業では、歴史学のあり方について学ぶ。歴史は小学校から高校まで必ず学ぶ科目であるが、暗記科目と見られることが多い。歴史学者が史料に基づいて如何に過去を明らかにしていくかを体験させる。この授業では、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

歴史は決して暗記科目ではなく、史料に基づいて過去を再構成していく営みである。先行研究の成果である通説と対峙しつつ、修正・変更を加えて新しい通説を構築していくのが歴史学の進歩である。本授業ではローマ皇帝の対キリスト教政策をテーマとして、そのような歴史学の営みを受講生に体験してもらいたい。

### 授業計画

- 1.はじめに、歴史学とは何か
- 2.古代ローマ史(1)
- 3.古代ローマ史(2)
- 4.古代ユダヤ史
- 5.ネロの迫害(1)
- 6.ネロの迫害(2)
- 7.ドミティアヌスの迫害
- 8.トラヤヌスの勅令
- 9.1, 2世紀の迫害の実態
- 10.アントニヌス勅令
- 11.デキウス、ヴァレリアヌスの迫害、カリエヌスの平和令
- 12.ディオクレティアヌスの迫害
- 13.ミラノ勅令
- 14.キリスト教国教化
- 15.まとめと試験

### 授業の方法

講義、討論、演習形式。

### 準備学修

授業内容の背景を知るため、古代ローマ史やキリスト教史に関する

書物を読んでおくこと。（60時間）

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

通常欠席が5回を超える場合は受験資格を認めない。

### テキスト

テキストは特に定めなし。随時、史料のプリントを配布。

### 参考図書

とくに指定しない。

### 留意事項

私語は慎み、求められたときは積極的に発言すること。

### 教員連絡先

ozaki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合<総合>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家政学概論			11381	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

### 授業の到達目標

学問としての家政学を理解する。家政学の各分野を学ぶことを通して、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

「家政学はどのような学問か」については、諸説が林立している。経済・社会の変化にともなって、家族や生活のあり方が変化し、家政学自体も改革を続けている。この講義では、家政学についての様々な主張を解説し検討することを通して、家政学とは何かにアプローチしたい。さらに、家庭経営、家庭経済、消費者問題、家族関係、食生活、衣生活、住生活、生活情報、生活環境などの各論・各分野についても学ぶこととする。家政学、生活科学、生活環境学などを網羅し概観することで、小学校家庭科の教材研究や教材開発の基礎となる知識と技術を身に付け、実践的能力を養う。

### 授業計画

1. 様々な家政学
2. 家政学の定義・目的・対象・方法
3. 家政学の発展過程と改革
4. 家庭生活と生活経営
5. 家庭経済・消費者問題
6. 家族関係
7. 食生活 1
8. 食生活 2
9. 衣生活 1
10. 衣生活 2
11. 住生活 1
12. 住生活 2
13. 生活情報
14. 生活環境
15. まとめ

### 授業の方法

講義に加えて、プレゼンテーションをとり入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席1回につき3点減点する。

### テキスト

実教出版編集部『生活学Navi』実教出版

### 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

総合〈総合〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
経営学入門			11385	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
栗木 契	選択	2	官公庁や企業のアドバイザー、研修講師、社外取締役、等。			

### 授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)とS(奉仕)を養うことをめざす。組織において経営にかかわる上で欠かせないコミュニケーション能力、情報活用力、社会情勢の理解、チームワーク、自然・文化への理解を養う。

### 授業の概要

20世紀に勃興した巨大企業は、神戸の地にも多くの足跡を残している。経営学はこの時期に、この巨大企業の誕生を受けて、アメリカをはじめとする世界の各国で発展していく。このクラスでは、マーケティング論を中心に経営学が現代の各種の企業をはじめとする事業主体において果たす役割を考える。入門のクラスとして具体的な経営に関わるビデオ教材や事例を用いた講義を行う。

### 授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.経営と何か
- 3.経営学とマーケティング
- 4.マーケティング・ミックス
- 5.製品政策
- 6.価格政策
- 7.チャネル政策
- 8.プロモーション政策
- 9.ゲスト・セッション(マーケティング企画の実験)
- 10.リーダーシップ
- 11.消費者行動の分析
- 12.製品ライフサイクル
- 13.顧客管理
- 14.ブランド管理
- 15.まとめと振り返り

### 授業の方法

講義とクラスディスカッションを中心に授業を進める。

### 準備学修

各回の授業の事前学習については、第1回目のガイダンスで説明する。

る。それ以外の準備学習の必要はない。

### 課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%で成績評価を行う。平常点については、毎回の授業の終了前10分間に「振り返りシート」への記入を求め、その記入にもとづく評価を行う。「振り返りシート」への記入については、各回講義の中でフィードバックを行う。

### 欠席について

出欠の有無は成績評価に直接は影響しない。ただし、毎回の授業時に求められる「振り返りシート」への記入を欠かすことは成績評価(平常点)に影響する。

### テキスト

石井淳蔵、嶋口充輝、栗木契、余田拓郎著『ゼミナール・マーケティング入門・第2版』日本経済新聞出版、2013年

### 参考図書

伊丹敬之、加護野忠男著『ゼミナール経営学入門・第3版』日本経済新聞出版、2003年

日本語〈日本語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	ET①/ET②		11401	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

### 授業の到達目標

敬語をつかい、文章を書けるようにする。また、敬語をつかい、自己表現ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を養う。

### 授業の概要

言葉を公に使用するという事は、社会的責任を負うということでもある。授業では、社会人として必要な日本語表現の常識を学ぶ。注意深く、日本語に接する訓練をする。

### 授業計画

- 1.聞く力を養う。  
質問力・雑談力を高める。
- 2.間違いやすい「敬語」  
尊敬語と謙譲語を学ぶ
- 3.「敬語の種類」
- 4.「日常生活と言葉づかい」(1)
- 5.「日常生活と言葉づかい」(2)
- 6.「ビジネス社会における敬語(1)」
- 7.「ビジネス社会における敬語(2)」
- 8.「さまざまな文章」[文章の構成]
- 9.「原稿用紙の用法」
- 10.「評論文」の書き方。
- 11.「誤用文と推敲の方法」
- 12.「手紙とはがき(1)」
- 13.「手紙とはがき(2)」
- 14.「ビジネス文書」[修辭法と慣用語]
- 15.「就職活動と書類」[さまざまな熟語]

### 授業の方法

演習中心の授業である。新聞投稿などを通じて、社会と繋がっていく準備をする。

### 準備学修

Web参照すること。

### 課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

小テストやノートの提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

### テキスト

西尾宣明編『日本語表現法』(樹村房)

### 参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

### 留意事項

演習が中心の授業となる。

### 教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語表現法	PC	11401	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
大岸 啓子	必修	2	公立小学校教員		

### 授業の到達目標

日本語の特質を理解するとともに、言葉の使い方・話し方・文章の書き方等、社会生活の中で必要とされる基礎的な国語力を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

### 授業の概要

基本的な日本語の知識や文章の書き方を修得するために、実践的な演習を取り入れた講義を行う。また、実用的な挨拶・自己紹介等における話し言葉の表現法についても学ぶ。言葉に対する感性を磨くために、詩や名文等の学修を取り入れていく。

### 授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、美しい日本語
2. 国語の力(読む・調べる・書く)
3. 話し方の基本
4. 挨拶と敬語
5. 敬語の使い方、自己紹介の仕方
6. 自己紹介
7. 文字の書き方と表記
8. 文章の書き方①
9. 文章の書き方②
10. 文章の書き方③
11. 文章の書き方④
12. 文章の書き方⑤
13. 書写①
14. 書写②
15. 日本語表現の振り返り

### 授業の方法

書く活動や発表を多く取り入れる。

### 準備学修

テキストの指定ページを予習し、学修内容を把握しておくこと。詳細については、Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①小テストは、講義の中でフィードバックを行う。
- ②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

### 欠席について

欠席は3点減点し、遅刻は1点減点する。

### テキスト

田上貞一郎『保育者になるための国語表現』萌文書林

### 参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

### 留意事項

出席と授業態度（準備と提出物含む）を重視する。

### 教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

日本語〈日本語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本語文章構成法		11405	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
箕野 聡子	選択	2			

### 授業の到達目標

他人の意見を理解し、それを要約する力をつける。また、客観的資料をもとに、自分の意見を述べる力をつける。このクラスではKAISEIパーソナリティのE（倫理）とI（知性）とを養う。

### 授業の概要

簡潔で的確な日本語表現の習得を目指す。表現力向上のために必要な基礎的知識を、演習のなかで体得していく。与えられた課題に対して、自分で文章を作り、それを推敲していく演習形式の授業である。読み手を意識した文章を書く練習をするため、書き上げた文章は発表する。

### 授業計画

1. 〈評論文〉(1) 感想文と評論文とはどう違うのか。
2. 〈評論文〉(2) アウトラインのたてかたを学ぶ。
3. 〈評論文〉(3) 推敲の仕方を学ぶ。
4. 〈評論文〉(4) 書評を書く。図書・雑誌の探し方を学ぶ。
5. 〈評論文〉(5) 引用の規則を学ぶ。
6. 〈新聞投稿〉 検索能力を養う。
7. 〈意見文〉 他説・自説・証明といった三段構成の方法を学ぶ。
8. 〈意見文・説得文〉 反論の仕方を学ぶ。予想される反論をあげ、それに反論する。
9. 〈意見文・説得文〉 結論・本論・結論の三段構成の方法を学ぶ。
10. 〈小説〉 語り手の位置を学ぶ。
11. 〈小説〉 テーマにそった短編小説を書く。
12. 〈エントリーシート〉 キャッチコピーを学ぶ。接近法・強調法・暗示法などを学ぶ。
13. 〈エントリーシート〉 ネーミングコピーの作り方を学ぶ。
14. 〈エントリーシート〉 標語の作り方を学ぶ。ブレンライティング法を学ぶ。
15. 〈随筆〉を書く

### 授業の方法

演習が中心の授業となる。コンピューター教室で、情報を検索しながら文章を作り、それを推敲していく。新聞投稿などをおして、書き上げた文章は発表していく。社会の一員としての自分の位置を理解していく。

### 準備学修

Web参照すること。

### 課題・評価方法

毎回課題を与え、その提出を求める。提出物は教員が評価し、次週にフィードバックする。平常点70%、定期試験に変わるレポート30%

### 欠席について

課題の提出は、授業当日が原則となるため、欠席するとその点数がすべて減点される。

### テキスト

必要に応じて授業中に随時紹介する。

### 参考図書

必要に応じて授業中に随時紹介する。

### 留意事項

演習が中心の授業となる。

### 教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

情報<情報>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報活用の基礎知識			11313	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
埴岡 忠清	選択	2				

### 授業の到達目標

情報活用をする前の基礎知識として、「数学」、「表計算」、「情報検索」、「ビジネス」をキーワードにこれらの基本的な内容を習得してもらう。  
さらに、本講義は、自らを律して積極的に授業を受講することにより、情報活用の基礎知識をより深く理解することにより、「KAISEI パーソナリティ」のI（知性）とA（自律）を身につけてもらうことを目標とする。

### 授業の概要

パソコン、インターネット、さまざまなアプリケーションソフトが個人レベルに普及し、社会の情報化が急速に進んできた。しかしながら、これらがそろったからといってビジネスチャンスをつかみ、成功できるとは限らない。これらから届く大量の情報を上手に活用するためには、「情報活用のための基礎知識や技術」を習得しておく必要がある。本講義では、まず、情報活用に必要な数学を割合など初歩から徹底し、データ処理に使用する表計算のしくみについて学習する。さらに、大量の情報から正しい情報を取り出せるよう情報検索の基礎知識を学ぶ。最後にビジネスとコンピュータについて概観する。

### 授業計画

1. 情報活用に必要な数学1～N進法
2. 情報活用に必要な数学2～割合
3. 情報活用に必要な数学3～統計
4. 表計算のしくみ1～計算式
5. 表計算のしくみ2～論理式
6. 表計算のしくみ3～相対参照と絶対参照
7. 情報検索の基礎1～ITに関する基礎知識
8. 情報検索の基礎2～一次情報と二次情報
9. 情報検索の基礎3～情報管理の方法
10. 情報検索の基礎4～基礎知識のまとめ
11. ビジネスとコンピュータ1～文書作法
12. ビジネスとコンピュータ2～簿記
13. 有価証券報告書の読み方1
14. 有価証券報告書の読み方2
15. 有価証券報告書の読み方3

### 授業の方法

講義と授業内容の理解を深めるための発表を取り入れる。

### 準備学修

初回の授業が始まる前までに、テキストの前半部分を簡単に眺めておくこと。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席が5回を超えた場合は、不合格とする。

### テキスト

プリントを配布する。

### 留意事項

本講義は、全国大学実務教育協会認定の「情報処理士」資格取得に必要な科目である。

情報<情報>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー1	ET①/ET②		11501	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
米田 里香	必修	2				

### 授業の到達目標

情報に関する基礎的な知識と技術を修得し、現代社会における情報のしくみを理解するとともに、情報を活用し、さまざまな問題を解決できる能力を育成することを目標とする。このクラスではK A I S E I パーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

ハード、ソフト、ネットワークなどのコンピュータの基礎知識を学習し、実技においては、マイクロソフトワードの基本操作を学習する。さらにプレゼンテーションソフトの簡単な操作方法も学習する。学習の動機付けとして、日本語ワープロ技能標準試験2級の資格取得を目指す。

### 授業計画

1. スキルチェック/入力速度の測定、ウィンドウズの基本操作
2. コンピュータの基礎知識/文章編集/フォルダの操作
3. コンピュータの基礎知識/ワード基本操作(書式設定)
4. コンピュータの基礎知識/ワード基本操作(表作成)
5. コンピュータの基礎知識・情報モラルについて/ワード基本操作(表作成)
6. ビジネス文書作成
7. ワード基本操作まとめ
8. 日本語ワープロ技能標準試験2級対策
9. 日本語ワープロ技能標準試験2級対策
10. 日本語ワープロ技能標準試験2級対策
11. 日本語ワープロ技能標準試験2級対策
12. 日本語ワープロ技能標準試験2級対策
13. 図形練習
14. プレゼンテーションソフトの基本
15. 確認演習

### 授業の方法

知識学習と実技とを並行しながら学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

### 準備学修

Webを参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。

### テキスト

情報リテラシーオリジナルテキスト（授業内で販売）  
日本語ワープロ技能標準試験過去問題集 noa出版

### 留意事項

テキストは必ず持参すること。

情報<情報>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 1	PC①/PC②		11501	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡辺 卓也	必修	2				

### 授業の到達目標

情報に関する基礎的な知識と技術を修得し、現代社会における情報のしくみを理解するとともに、情報を活用し、さまざまな問題を解決できる能力を育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

PCやインターネットの基本操作や注意点を確認した後、3種のオフィスアプリケーション(Word、Excel、PowerPoint)の基礎知識を演習を通して修得する。

### 授業計画

1. 本科目の概要、PC操作の基本
2. インターネットの利用法と注意点
3. ワープロ(Word)① 基礎
4. ワープロ(Word)② 表
5. ワープロ(Word)③ 画像と図形
6. ワープロ(Word)④ 文書作成の実践
7. 表計算(Excel)① 基礎
8. 表計算(Excel)② 関数
9. 表計算(Excel)③ グラフ
10. 表計算(Excel)④ データ分析の実践
11. プレゼンテーション(PowerPoint)① 基礎
12. プレゼンテーション(PowerPoint)② アニメーション
13. プレゼンテーション(PowerPoint)③ スライドの作成
14. プレゼンテーション(PowerPoint)④ 発表の実践
15. まとめ

### 授業の方法

演習を中心に行い、最後に作成したファイルを提出して成果を確認する。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

提出された課題については、教員によるフィードバックを行う。  
平常点50% 定期試験50%

### 欠席について

規定に従う

### テキスト

30時間でマスター Office2019 実教出版

情報<情報>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 2	ET①/ET②		11505	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
米田 里香	必修	2				

### 授業の到達目標

現代ビジネス社会においてさまざまなデータを活用できるスキルを育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

はじめに、データ処理に必要な数学の割合を中心に学習し、表計算ソフトを利用したデータの処理のために必要な数式をたてる練習を行う。またビジネスにおいて必要となるデータ処理の手法について簡単に学ぶ、そのご表計算ソフトの基本操作を習得し、グラフなどで適切なビジュアル化が行えるように指導する。学習の動機付けとして、表計算技能標準試験2級の資格取得を目指す。

### 授業計画

1. 計算復習(割合)
2. 計算復習(割合)
3. エクセル基本操作(数式入力)
4. エクセル基本操作(関数について)
5. エクセル基本操作(書式設定)
6. エクセル基本操作(表作成)
7. エクセル基本操作まとめ
8. 表計算技能標準試験3級対策
9. 表計算技能標準試験3級対策
10. 表計算技能標準試験3級対策
11. 表計算技能標準試験2級対策
12. 表計算技能標準試験2級対策
13. 表計算技能標準試験2級対策
14. 表計算技能標準試験2級対策
15. 確認演習

### 授業の方法

実技中心で学習する。学習の成果として資格取得にも挑戦する。

### 準備学修

Webを参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。

### テキスト

情報リテラシーオリジナルテキスト（情報リテラシー1受講者は購入必要なし）  
表計算技能標準試験過去問題集 noa出版

### 留意事項

テキストは必ず持参すること。

情報<情報>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情報リテラシー 2	PC①/PC②		11505	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渡辺 卓也	必修	2				

### 授業の到達目標

現代ビジネス社会においてさまざまなデータを活用できるスキルを育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

表計算ソフトExcelの演習を通してデータ分析、可視化、データベース操作の基本を修得する。

### 授業計画

1. Excel入門① 授業の概要、基本操作
2. Excel入門② グラフ作成の基本
3. ワークシートの活用① 行・列の編集
4. ワークシートの活用② 罫線
5. ワークシートの活用③ 相対参照と絶対参照
6. ワークシートの活用④ 条件の判定
7. グラフ① 棒グラフ、折れ線グラフ
8. グラフ② 円グラフ、3-Dグラフ、複合グラフ
9. グラフ③ その他のグラフ
10. データベース① データベースの作成方法
11. データベース② 検索と抽出
12. Excelの応用①
13. Excelの応用②
14. Excelの応用③
15. まとめ

### 授業の方法

演習を中心にを行い、最後に作成したファイルを提出して成果を確認する。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

提出された課題については、教員によるフィードバックを行う。  
平常点50% 定期試験50%

### 欠席について

規定に従う

### テキスト

30時間でマスター Excel2019 実教出版

情報<情報>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 1	①/②		11509	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
米田 里香	選択	2				

### 授業の到達目標

ビジネス社会において役立つ文書作成能力を育成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

情報リテラシー1で学習したことを元にさらに応用的なビジネス文書の編集を学習する。学習の動機付けをとして、日商PC検定3級（文書作成）の取得を目指す。

### 授業計画

1. ワードの基本操作確認
2. 日商PC検定3級知識対策／ワードの基本操作確認(書式設定)
3. 日商PC検定3級知識対策／ワードの基本操作確認(表作成)
4. 日商PC検定3級知識対策／ワードの基本操作確認(表作成)
5. 日商PC検定3級知識対策／ワードの基本操作確認(表作成)
6. 図形練習
7. まとめ
8. 日商PC検定3級文書作成実技対策
9. 日商PC検定3級文書作成実技対策
10. 日商PC検定3級文書作成実技対策
11. 日商PC検定3級文書作成実技対策
12. 日商PC検定3級文書作成実技対策
13. 日商PC検定3級文書作成実技対策
14. 日商PC検定3級文書作成実技対策
15. 確認演習

### 授業の方法

日商PC検定3級（文書作成）の合格を目指し実技対策と知識対策をしていく。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。  
欠席1回につき6点減点とする。

### テキスト

日商PC検定試験文書作成3級公式テキスト&問題集(ver2013対応)  
FOM出版  
情報リテラシーオリジナルテキスト（未購入の学生は講師に問い合わせること）

### 留意事項

テキストを必ず持参すること。

情報 < 情報 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
オフィス情報処理 2			11513	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
米田 里香	選択	2				

### 授業の到達目標

ビジネス実務に必要なとされる基本的なデータ処理能力を養成することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

情報リテラシー 2 で学習したことを元にさらに応用的なデータ処理を学習する。学習の動機付けとして、日商PC検定 3 級（データ活用）の取得を目指す。

### 授業計画

1. エクセルの基本操作確認
2. 四則演算復習
3. 関数練習
4. 関数練習
5. 集計について
6. 集計について
7. まとめ
8. 日商PC検定3級データ活用対策
9. 日商PC検定3級データ活用対策
10. 日商PC検定3級データ活用対策
11. 日商PC検定3級データ活用対策
12. 日商PC検定3級データ活用対策
13. 日商PC検定3級データ活用対策
14. 日商PC検定3級データ活用対策
15. 確認演習

### 授業の方法

日商PC検定 3 級（データ活用）の合格を目指し実技対策と知識対策をしていく。

### 準備学修

Webを参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

通常欠席が5回を超えた場合は、不可とする。  
欠席 1 回につき 6 点減点とする。

### テキスト

日商PC検定試験データ活用3級公式テキスト&問題集(ver2013対応)  
FOM出版

### 留意事項

情報リテラシー 2 を受講していること。テキストは必ず持参すること。

外国語 < 外国語 >	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 1	a		11601	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
小野 礼子	選択	1				

### 授業の到達目標

私たちの身のまわりのことをはじめ、様々なトピックについて読んだり、話し合ったり、書いたり、発表したりすることを通して英語のコミュニケーション能力の向上を図る。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）及びIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

まず、中学校や高等学校で学んだ語彙や文法をリスニング、リーディング、スピーキングの活動を通して復習する。次に、復習した語彙や文法を実際のコミュニケーションの中でどんどん使うようにする。最後に、コミュニケーションの中で話した内容等を短いパラグラフにまとめたり、クラスで発表したりする。

### 授業計画

1. Introduction  
Unit 9: Now and Then
2. Unit 9: Now and Then
3. Unit 9: Now and Then
4. Test for Unit 9  
Unit 10: Famous Lives
5. Unit 10: Famous Lives
6. Unit 10: Famous Lives
7. Unit 10: Famous Lives
8. Test for Unit 10  
Unit 11: Travel
9. Unit 11: Travel
10. Unit 11: Travel
11. Unit 11: Travel
12. Test for Unit 11  
Unit 12: What do You Want?
13. Unit 12: What do You Want?
14. Unit 12: What do You Want?
15. Unit 12: What do You Want?

### 授業の方法

ペアワークと発表を多く取り入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

宿題（練習問題の解答等）や発表のフィードバックは当該授業の中で行い、提出物やテストのフィードバックは、翌週の返却時に行う。  
平常点70%、定期試験30%  
平常点には、ユニットごとのテスト（30%）、宿題（予習、復習）（15%）、発表（10%）、出席状況（10%）、日頃の学習態度（5%）の評価が含まれる。

### 欠席について

出席点（100点満点）は全体の10%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

### テキスト

*Cutting Edge Starter New Edition* by S. Cunningham, P. Moor, C. Redston and A. Crace (Pearson Education)

### 留意事項

間違えることを恐れずに積極的に英語を使って授業に参加してほしい。

### 教員連絡先

onoreiko@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 1	b		11601	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	選択	1				

### 授業の到達目標

将来、保育士を目指す学生に必要とされる語彙と知識を学習する。保育の現場で役立つ表現と語彙に取り組みながら、読む、書く、話す、聞く、の4技能の実用能力の向上も図る。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

テキストに沿って、様々なシーンを一回1ユニットづつ授業を進める。毎回キーワードの小テストを実施し、確実に語彙を増やしていく。

### 授業計画

1. Pre-unit Please Speak More Slowly
2. UNIT 1 Hi, I'm Yuri Tanaka
3. UNIT 2 Where Is the Multi-purpose Room ?
4. UNIT 3 Good Morning, How Are You Today ?
5. UNIT 4 What Color Do You Like ?
6. UNIT 5 There's a Ladybug on the Leaf
7. UNIT 6 It's Time to Play Outside
8. UNIT 7 She Is Allergic to Eggs
9. UNIT 8 You Should Go to the Bathroom
10. UNIT 9 We Made Masks Today
11. UNIT 10 If It Rains, What Happens ?
12. UNIT 11 What Shall We Do Today ?
13. UNIT 12 I Feel Feverish
14. UNIT 13 This Is Yuri from Cosmos Day Care Center
15. UNIT 14 Thank You Very Much for Everything & 試験

### 授業の方法

テキストに沿って毎回1ユニットづつ進めていく。

### 準備学修

必ず指定された個所を予習、復習してくること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

### テキスト

Happy English for Childcare 土屋麻衣子著 金星堂

### 留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

### 教員連絡先

sam@alohawalker.net

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 2	a		11605	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
入江 和子	選択	1				

### 授業の到達目標

保育や幼児教育の現場でよく使われる英語表現・語彙を習得するとともに、4技能(聞く、話す、読む、書く)を効果的に学習し、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。このクラスでは、KAISEI I パーソナリティのIn(国際性)を養い、K(思いやり)を考える。

### 授業の概要

Children's Gardenという国際的な保育園を舞台に、一人の学生が保育の実習を通して成長していく体験を読み進める。さまざまなタスクを通して基礎的な文法や語法を復習しながら関連語句や表現を習得し、保育の現場で欠かせない日常の出来事や実習の心得、実習中のエピソードなど、平易な英語で書かれた英文のリスニングやリーディング、会話の内容を理解する。また手遊び唄やなぞなぞ、子守唄、詩歌を楽しみながら英語の発音、イントネーション、リズムの練習を行う。

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Children's Garden
3. Chapter 2 The First Day of the Internship
4. Chapter 3 Out We Go!
5. Chapter 4 Splish, Splash
6. Chapter 5 Pancake Day
7. Chapter 6 Read Me, Tell Me Stories
8. Review, Mid Term
9. Chapter 7 Activities with Watermelons
10. Chapter 8 Happy Birthday!
11. Chapter 9 Children at Play
12. Chapter 10 Baby News
13. Chapter 11 The Tooth Fairy
14. Chapter 12 The Green-Eyed Witch
15. Review, Final Exam

### 授業の方法

テキストに沿って進み、発表とディスカッションを多く取り入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%  
グループ/個人発表や中間試験は講義の中でフィードバックを行う。

### 欠席について

欠席1回につき、平常点から2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

### テキスト

Naoko Akamatsu, *Children's Garden* (Seibido)

### 参考図書

授業中、必要に応じて指示する。

### 留意事項

毎回小テストを行い、その結果は平常点に組み入れる。英語辞書必携

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 2	b		11605	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木下 奈美	選択	1				

### 授業の到達目標

世界の新聞記事や身近なニュースを英語で聴いたり読んだりすることによって、総合的な英語運用能力の向上を図るとともに、題材となるトピックの理解を通して多様なものの見方ができるようになることを目指す。  
このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養い、K（思いやり）を考える。

### 授業の概要

リスニング、スピーキングを含むReading Sectionsでは、シャドーイングや歌を通じて英語の音声・リズムに慣れ親しみ、英文を前から順次ブロックで読み下していくという母語的スタイルを学ぶ。必要に応じてGrammar Sectionsより文法項目を取り上げ、英語学習における基礎力をつける。

### 授業計画

1. Introduction
2. Peace, Education & Hope: Malala
3. Food Savings: OzHarvest Market
4. Safety: An Eye on Crime
5. Work: Work Balance
6. Exercise: Sport BMX and Urban Fun?
7. Happiness: Happiness
8. Entertainment: Sports and Games
9. Medical Science Health: Medical Science
10. Psychology: Resilience
11. Facts: Efforts to Flag Fake-news
12. Intelligence: Brain Development
13. Friendship: Yosegaki Hinomaru
14. Humanity: A Hero
15. Review/ Final Exam

### 授業の方法

テキストに沿って講義を進め、議論し、taskの解答を検討する。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%  
内容に応じて随時小テストを行い、講義の中でフィードバックを行う。

### 欠席について

履修要綱に従い、欠席状況を評価に反映する。

### テキスト

Nagamoto/ Machida/ Yagi/ Ellsworth, *Dear Learners - Drop Everything and Read*, Nan'un-do

### 参考図書

必要に応じて指示する。

### 留意事項

英語辞書は必携である。初回到座席を指定する。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 3			11609	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
入江 和子	選択	1				

### 授業の到達目標

人に関するさまざまな英語の「ことば」や「表現」を学び、実用的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのIn（国際性）を養い、K（思いやり）を考える。

### 授業の概要

各ユニットでカラフルなイラストや写真を用いたスピーキング、リスニング、ライティングそれぞれのタスクを通して、コミュニケーションに役立つ英語表現、英単語を繰り返し学習して英語の運用能力を高める。また英語コミュニケーションに必要な基本的文法事項を確認しながら人の身体的な特徴、性格、感情や経験などを表現する多様なアクティビティとロールプレイで双方向コミュニケーションを円滑に進める練習を行う。

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Speaking About Yourself
3. Unit 2 What Do You Do?
4. Unit 3 What Does He Look Like?
5. Unit 4 Where Are You From?
6. Unit 5 Likes and Dislikes
7. Unit 6 What's She Like?
8. Review, Mid Term
9. Unit 7 Tell Me About Your Family
10. Unit 8 Communication
11. Unit 9 How Are You Feeling?
12. Unit 10 Memories
13. Unit 11 Talking About Health
14. Unit 12 Mindset
15. Review, Final Exam

### 授業の方法

テキストに沿って進み、発表とディスカッションを多く取り入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%  
試験やグループ発表は、講義の中でフィードバックを行う。

### 欠席について

欠席1回につき、平常点より2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

### テキスト

Peter Vincent et al. *Speaking of People* NAN'UN-DO

### 参考図書

授業中、必要に応じて指示する。

### 留意事項

毎回復習テストを行い、結果を平常点に組み入れる。英語辞書必携

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 4			11613	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木下 奈美	選択	1				

**授業の到達目標**  
 テキストの精読および、これを題材とする実習を繰り返して、英語を「読む、書く、聴く、話す」の4技能を高めることを目標とする。  
 このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのK（思いやり）とA（自律）を考える。

**授業の概要**  
 図書館という身近な空間を扱った英語の絵本をテキストとして読み進めながら、音読、ブレンストーミング、テキストのretelling（絵の情景や登場人物の気持ちを簡単な英語で説明したり、要約したりすること）、トピックに関するディスカッション等の実習（activities）を繰り返し、英語コミュニケーションへの関心を高め、英語運用能力が自然に身につくように試みる。

**授業計画**

1. Introduction
2. Text reading (1) - One day
3. Text reading (2) - The next day
4. Activity [1] - Brainstorming
5. Activity [2] - Comparing library rules
6. Activity [3] - Retelling English text (1)
7. Text reading (3) - One day
8. Text reading (4) - The next day
9. Midterm review
10. Activity [4] - Retelling English text (2)
11. Text reading (5) - One evening
12. Text reading (6) - The next day
13. Activity [5] - Discussion on rule-breaking
14. Activity [6] - Drafting your summary
15. Review/ Final exam

**授業の方法**  
 講読の際には、文意の理解に加えて、発音に注意しリズムよく表現豊かに音読できること、用いられた英語表現から登場人物やライオンの心情や所作のニュアンスをくみ取れるようになることを目指す。実習の際には、各自のアイデアを英語で表現できることを目指す。

す。

**準備学修**  
 Webで参照すること。

**課題・評価方法**  
 随時小テストを行い、講義の中でフィードバックを行う。  
 平常点50%、定期試験50%

**欠席について**  
 履修要項に沿って判定し、評価に反映する。

**テキスト**  
 Michelle Knudsen, *Library Lion*, Candlewick Press

**留意事項**  
 英語辞書は必携である。初回到座席を指定する。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 5	a/b		11617	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
James C. JENSEN／Tim KERN	選択	1				

**授業の到達目標**  
 Upon completion of this course, students will be able to :

- participate in group discussions and interviews
- identify main ideas and supporting details from listening materials and prepare spoken and written summaries
- give advice and recommendations
- ask for and give examples
- give instructions
- demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
- prepare and deliver two 3-5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

**授業の概要**  
 The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include countries, nationalities, languages, family connections, and hobbies.

**授業計画**

1. Introduction
2. Unit 1 People and Places
3. Unit 1 People and Places
4. Unit 2 People and Things
5. Unit 2 People and Things
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 3 Your Life
10. Unit 3 Your Life
11. Unit 4 Likes and Dislikes
12. Unit 4 Likes and Dislikes
13. Review
14. Presentations

15. Presentations

**授業の方法**  
 Students will work individually, in pairs, and in groups

**準備学修**  
 Be familiar with the content of the textbook: preview and review

**課題・評価方法**  
 Your final grade will be determined using the following scale:  
 Final Exam 20%  
 Tests and Quizzes 10%  
 Presentations 40%  
 Class Participation 20%  
 Homework 10%

**欠席について**  
 As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

**テキスト**  
 Longman Cutting Edge Elementary, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

**参考図書**  
 Will be assigned as needed

**留意事項**  
 Active participation is essential

外国語 < 外国語 >	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 6	a/b	11621	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
國本 恵理香	選択	1			

### 授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep?
3. Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep?
4. Chapter 2 Mika's Homestay in London
5. Chapter 2 Mika's Homestay in London
6. Chapter 3 It's Not Always Black and White
7. Chapter 3 It's Not Always Black and White
8. Mid Term
9. Chapter 4 Helping Others
10. Chapter 4 Helping Others
11. Chapter 5 Generation Z: Digital Natives
12. Chapter 5 Generation Z: Digital Natives
13. Chapter 6 How to Be Successful Businessperson
14. Chapter 6 How to Be Successful Businessperson
15. Review

### 授業の方法

Be Familiar with the textbooks before class

### 準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%  
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Oxford Select Readings Pre-Intermediate, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen  
Oxford Bookworms New Yorkers Short Stories by O Henry retold by Diane Mowat

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

外国語 < 外国語 >	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 7	a/b	11625	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
James C. JENSEN / Andy RUSHTON	選択	1			

### 授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to :

- participate in group discussions and interviews
- identify reasons and explanations
- express opinions and summarize
- ask for and give clarification
- demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
- prepare and deliver two 3-5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include shop and services, clothes, personality, and natural features.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 8 Fact or Fiction?
3. Unit 8 Fact or Fiction?
4. Unit 9 Buy and Sell
5. Unit 9 Buy and Sell
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 10 Look Good
10. Unit 10 Look Good
11. Unit 11 Nature
12. Unit 11 Nature
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

### 授業の方法

Students will work individually and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 20%  
Tests and Quizzes 10%  
Presentations 40%  
Class Participation 20%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Longman Cutting Edge Elementary, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential for success

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語 8			11629	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	1				

**授業の到達目標**  
 This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

**授業の概要**  
 The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including understanding meaning from context, compound words, prefixes, and collocations.

**授業計画**

1. Introduction
2. Chapter 8 Can You Live Forever?
3. Chapter 8 Can You Live Forever?
4. Chapter 9 Baseball Fans Around the World
5. Chapter 9 Baseball Fans Around the World
6. Chapter 10 Mobile Phones: Hang up or Keep Talking?
7. Chapter 10 Mobile Phones: Hang up or Keep Talking?
8. Mid Term
9. Chapter 11 Vanessa-Mae: A 21st Century Musician
10. Chapter 11 Vanessa-Mae: A 21st Century Musician
11. Chapter 12 A Day in the Life of a Freshman
12. Chapter 12 A Day in the Life of a Freshman
13. Chapter 13 Love at First Sight
14. Chapter 13 Love at First Sight
15. Review

**授業の方法**  
 Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

**準備学修**  
 Be familiar with the textbook: preview and review

**課題・評価方法**  
 Your final grade will be determined using the following scale:  
 Final Exam 40%

Tests and Quizzes 30%  
 Class Participation 20%  
 Homework 10%

**欠席について**  
 As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

**テキスト**  
 Oxford Select Readings Pre-Intermediate, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen  
 Oxford Bookworms Anne of Green Gables by L. M. Montgomery

**参考図書**  
 Will be assigned as needed

**留意事項**  
 Active Participation is essential

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 1			11633	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

**授業の到達目標**  
 平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn (国際性)を養う。

**授業の概要**  
 フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

**授業計画**

1. オリエンテーション. Leçon 0: Bonjour !
2. Leçon 0: Je m'appelle Daisuke.
3. Leçon 1: Je suis étudiant.
4. Leçon 1: Daisuke à l'aéroport
5. Leçon 2: J'habite au Japon.
6. Leçon 2: Daisuke à l'université
7. Leçon 1/2 総復習
8. Leçon 3: J'ai dix-neuf ans.
9. Leçon 3: La famille de Daisuke
10. Leçon 4: J'adore la cuisine française !
11. Leçon 4: Daisuke avec sa famille d'accueil
12. Graphie et son (綴り字と発音). 第1部のまとめ
13. Leçon 5: Qu'est-ce que c'est ?
14. Leçon 5: Daisuke au café
15. まとめと試験

**授業の方法**  
 数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

**準備学修**  
 webを参照のこと

**課題・評価方法**  
 平常点50%、定期試験50%  
 平常点のうち10%は出席点 (1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする)、40%は小テスト (聞き取り、読み取り、歌)、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

**欠席について**  
 外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

**テキスト**  
 FLASH! (2020 三訂版 駿河台出版社)

**参考図書**  
 特になし、必要な場合は授業中に紹介する。

**留意事項**  
 フランス語1と2はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声教材をよく聞いておくこと。

**教員連絡先**  
 hirataj@kaisei.ac.jp

**オフィスアワー**  
 予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 2			11637	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

### 授業の到達目標

平易で実用的な会話を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。全く触れたことのない言語を学習し始める際に最低限必要な質問文を学びつつ、簡単な自己紹介、家族や友人の紹介ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

### 授業計画

1. オリエンテーション, Leçon 0: Bonjour!
2. Leçon 0: Je m'appelle Daisuke.
3. Leçon 1: Je suis étudiant.
4. Leçon 1: Daisuke à l'aéroport
5. Leçon 2: J'habite au Japon.
6. Leçon 2: Daisuke à l'université
7. Leçon 1/2 総復習
8. Leçon 3: J'ai dix-neuf ans.
9. Leçon 3: La famille de Daisuke
10. Leçon 4: J'adore la cuisine française!
11. Leçon 4: Daisuke avec sa famille d'accueil
12. Graphie et son (綴り字と発音)、第1部のまとめ
13. Leçon 5: Qu'est-ce que c'est?
14. Leçon 5: Daisuke au café
15. まとめと試験

### 授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

### 準備学修

webを参照のこと

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%  
平常点のうち10%は出席点（1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする）、40%は小テスト（聞き取り、読み取り）、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

### 欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

### テキスト

FLASH! (2020 三訂版 駿河台出版社)

### 参考図書

特になし、必要があれば授業中に紹介する。

### 留意事項

フランス語1と2はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声教材をよく聞いておくこと。

### 教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 3			11641	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

### 授業の到達目標

平易で実用的な会話を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。日常生活で利用できる簡単な会話（人や物について、交通手段、天候や時刻、食習慣や値段について尋ねる、説明する、話す）ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

### 授業計画

1. 既習事項の確認と復習, Leçon 6: Qu'est-ce qu'ils portent?
2. Leçon 6: Qu'est-ce qu'ils portent?
3. Leçon 6: Jeanne et Daisuke
4. Leçon 7: On y va comment?
5. Leçon 7: Daisuke chez Jeanne
6. Leçon 6/7 総復習
7. Leçon 8: Quel temps fait-il?
8. Leçon 8: Daisuke voyage
9. 数字、時間等の聞き取り、読みテスト、Civilisation、第2部のまとめ
10. Leçon 9: Je bois du café.
11. Leçon 9: Daisuke au marché
12. Leçon 10: Je m'amuse!
13. フランス映画鑑賞
14. Leçon 10: Daisuke au bord de la Loire
15. まとめと試験

### 授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、既習のフランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

### 準備学修

webを参照すること

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%  
平常点のうち10%は出席点（1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする）、40%は小テスト（聞き取り、読み取り）、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

### 欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

### テキスト

FLASH! (2020 三訂版 駿河台出版社)

### 参考図書

特になし、必要があれば授業中に紹介する。

### 留意事項

フランス語1及び2のどちらかを履修していなければ3及び4は履修できない（テキスト内容が継続しているため）。またフランス語3と4はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声教材をよく聞いておくこと。

### 教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 4			11645	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

### 授業の到達目標

平易で実用的な会話を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。日常生活で使用できる簡単な会話（人や物について、交通手段、天候や時刻、食習慣や値段について尋ねる、説明する、話す）ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

### 授業計画

1. 既習事項の確認と復習, Leçon 6: Qu'est-ce qu'ils portent ?
2. Leçon 6: Qu'est-ce qu'ils portent ?
3. Leçon 6: Jeanne et Daisuke
4. Leçon 7: On y va comment ?
5. Leçon 7: Daisuke chez Jeanne
6. Leçon 6/7 総復習
7. Leçon 8: Quel temps fait-il ?
8. Leçon 8: Daisuke voyage
9. 数字、時間等の聞き取り、読みテスト. Civilisation. 第2部のまとめ
10. Leçon 9: Je bois du café.
11. Leçon 9: Daisuke au marché
12. Leçon 10: Je m'amuse !
13. Leçon 10: Daisuke au bord de la Loire
14. Leçon 11: J'ai fait les courses.
15. まとめと試験

### 授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

### 準備学修

webを参照のこと

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%  
平常点のうち10%は出席点（1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする）、40%は小テスト（聞き取り、読み取り）、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

### 欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

### テキスト

FLASH! (2020 三訂版 駿河台出版社)

### 参考図書

特になし、必要があれば授業中に紹介する。

### 留意事項

フランス語1及び2のどちらかを履修していなければ3及び4は履修できない（テキスト内容が継続しているため）。またフランス語3と4はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加すること。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声教材をよく聞いておくこと。

### 教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 5			11649	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

### 授業の到達目標

平易で実用的な会話を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。複合過去、半過去、単純未来、条件法などを駆使し、日常生活で使用できる簡単な会話ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

### 授業計画

1. 既習事項の確認と復習, Leçon 11: J'ai fait les courses.
2. Leçon 11: J'ai fait les courses.
3. Leçon 11: Le week-end de Daisuke
4. Leçon 12: Je suis allé à la mer !
5. Leçon 12: Voyage de Daisuke à Rouen
6. Leçon 13: J'habitais à Nagano.
7. Leçon 13: L'enfance de Daisuke
8. Leçon 11/12/13 総復習. Civilisation. 第3部のまとめ
9. Leçon 14: Je dois étudier.
10. Leçon 14: Demain, Daisuke se lève tôt.
11. Leçon 15: J'irai à la mer.
12. Leçon 15: Les projets de Daisuke
13. フランス映画鑑賞
14. Leçon 16: Je voudrais voyager.
15. まとめと試験

### 授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

### 準備学修

webを参照のこと

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%  
平常点のうち10%は出席点（1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする）、40%は小テスト（聞き取り、読み取り）、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

### 欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

### テキスト

FLASH! (2015 第2版 駿河台出版社)

### 参考図書

特になし、必要があれば授業中に紹介する。

### 留意事項

フランス語5、6を履修するには次の条件（1～4のうち2科目を履修している、または同等のフランス語力がある）が必要である。フランス語5と6はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードしよく聞いておくこと。

### 教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 6			11653	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

### 授業の到達目標

平易で実用的な会話文を通して生きたフランス語を学び、コミュニケーションツールとして活かすことを目標にする。複合過去、半過去、単純未来、条件法などを駆使し、日常生活で使用できる簡単な会話ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

### 授業計画

1. 既習事項の確認と復習, Leçon 11: J'ai fait les courses.
2. Leçon 11: J'ai fait les courses.
3. Leçon 11: Le week-end de Daisuke
4. Leçon 12: Je suis allé à la mer!
5. Leçon 12: Voyage de Daisuke à Rouen
6. Leçon 13: J'habitais à Nagano.
7. Leçon 13: L'enfance de Daisuke
8. Leçon 11/12/13 総復習, Civilisation. 第3部のまとめ
9. Leçon 14: Je dois étudier.
10. Leçon 14: Demain, Daisuke se lève tôt.
11. Leçon 15: J'irai à la mer.
12. Leçon 15: Les projets de Daisuke
13. Leçon 16: Je voudrais voyager.
14. Leçon 16: Daisuke à Domremy
15. まとめと試験

### 授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの訓練。教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

### 準備学修

webを参照のこと

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%  
平常点のうち10%は出席点(1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする)、40%は小テスト(聞き取り、読み取り)、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

### 欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

### テキスト

FLASH! (2015 第2版 駿河台出版社)

### 参考図書

特になし、必要があれば授業中に紹介する。

### 留意事項

フランス語5、6を履修するには次の条件(1~4のうち2科目を履修している、または同等のフランス語力がある)が必要である。フランス語5と6はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードしよく聞いておくこと。

### 教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 7			11657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

### 授業の到達目標

実社会で使用頻度の高い語彙や表現、フランスの観光名所や文化イベントについての知識を得ながら、聞く、話す、読む、書くの4技能を養い、コミュニケーション能力の育成を図る。イベントに参加する、映画館に行く、地方を訪れるなどの際に役立つ会話ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかりとする。

### 授業計画

1. 挨拶表現、綴りと発音の関係, Bonjour, madame(こんにちは)
2. Dans le Quartier Latin(カルティエ ラタンで)文法, 表現復習(冠詞, être動詞, 挨拶表現)
3. Les deux amis au téléphone(電話で話す友人たち)/ Un Anglais à Paris(パリのイギリス人)
4. 文法, 表現復習(avoir動詞, 否定文)/ A la boutique du musée(美術館の売店で)
5. La jolie robe(素敵なワンピース)
6. 文法, 表現復習(第一群規則動詞, 第二群規則動詞)
7. Nathalie appelle un taxi(タクシー, タクシーを呼ぶ)
8. Dans le taxi(車中で)/ 文法, 表現復習(第三群動詞, 命令法)
9. Bon anniversaire!(お誕生日おめでとう!)
10. L'addition s'il vous plait!(お会計お願いします)
11. 文法, 表現復習(直接目的補語, 間接目的補語, 比較級, 最上級)
12. Interview d'un jeune champion(チャンピオンへのインタビュー)
13. Le cours de tennis(テニスのレッスン)
14. 文法, 表現復習(代名動詞, 可能・欲求・義務の表現)
15. まとめと試験

### 授業の方法

数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの

訓練。教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

### 準備学修

webを参照のこと

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%  
平常点のうち10%は出席点(1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする)、40%は小テスト(聞き取り、読み取り)、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

### 欠席について

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

### テキスト

Amicalement plus (2018 駿河台出版社)

### 参考図書

必要があれば授業中に紹介する。

### 留意事項

フランス語7、8を履修するには次の条件(フランス語1~6のうち2科目を履修している、または同等のフランス語力がある)が必要である。フランス語7と8はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードしよく聞いておくこと。

### 教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
フランス語 8			11661	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	1				

**授業の到達目標**

実社会で使用頻度の高い語彙や表現、フランスの観光名所や文化イベントについての知識を得ながら、聞く、話す、読む、書くの4技能を養い、コミュニケーション能力の育成を図る。イベントに参加する、映画館に行く、地方を訪れるなどの際に役立つ会話ができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

**授業の概要**

フランス語の音、リズム、イントネーションになれ親しめるよう、使用頻度の高い会話文の聞き取りや口頭練習に重点を置く。取り上げる会話項目については以下に示す計画に沿う。会話文を通して単語や文型を習得、更に数字や時刻の読みと聞き取り、練習問題、多様なフランス語の歌は毎回の課題とし、言語や文化の一端を知る手がかかりとする。

**授業計画**

- 1.挨拶表現、綴りと発音の関係、Bonjour, madame.(こんにちは)
2. Dans le Quartier Latin(カルティエ ラタンで)/ 文法、表現復習(冠詞, etre動詞, 挨拶表現)
3. Les deux amis au téléphone(電話で話をする友人たち)/ Un Anglais à Paris(パリのイギリス人)
4. 文法、表現復習(avoir動詞, 否定文)/ A la boutique du musée(美術館の売店で)
5. La jolie robe(素敵なワンピース)
6. 文法、表現復習(第一群規則動詞, 第二群規則動詞)
7. Nathalie appelle un taxi(ナタリー、タクシーを呼ぶ)
8. Dans le taxi(車中で)/ 文法、表現復習(第三群動詞, 命令法)
9. Bon anniversaire!(お誕生日おめでとう)
10. L'addition s'il vous plait!(お会計お願いします)
11. 文法、表現復習(直接目的補語, 間接目的補語, 比較級, 最上級)
12. Interview d'un jeune champion(チャンピオンへのインタビュー)
13. Le cours de tennis(テニスのレッスン)
14. 文法、表現復習(代名動詞, 可能・欲求・義務の表現)
15. まとめと試験

**授業の方法**

数字、時間の聞き取りと読み、フランス文の読みと意味理解などの

訓練、教員や仲間との会話、必要最低限の文法やフランス文化の理解を含む総合的実践授業

**準備学修**

webを参照のこと

**課題・評価方法**

平常点50%、定期試験50%

平常点のうち10%は出席点（1回の欠席を-2点、遅刻を-1点とする）、40%は小テスト（聞き取り、読み取り）、教員への質問、発表、課題提出物等で総合的に判断する。

**欠席について**

外国語学習においては授業出席が必要不可欠である。殊に初めて当該言語を学ぶ学生は、一度欠席すると自分で遅れを取り戻さねばならず困難をきたす場合が多いので留意すること。

**テキスト**

Amicalement plus (2018 駿河台出版社)

**参考図書**

特になし。必要があれば授業中に紹介する。

**留意事項**

フランス語7、8を履修するには次の条件（フランス語1～6のうち2科目を履修している、または同等のフランス語力がある）が必要である。フランス語7と8はタイアップしている授業であるため、同時履修し積極的に授業に参加することが望ましい。やむを得ず1科目しか履修できない場合は、個人的な学習を欠かさず必ず授業に追いつかねばならない。聞き取りや口頭練習に重点が置かれるので、音声ダウンロードしよく聞いておくこと。

**教員連絡先**

hirataj@kaisei.ac.jp

**オフィスアワー**

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 1	①/②		11665	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
坂口 文馨	選択	1				

**授業の到達目標**

中国は世界の政治や経済に影響力を持つ大国の一つに発展してきた。そのため中国語は益々重要になり、中国語ができることはいろんな面において役に立つと考えられる。本授業では、まず発音から始まり重要な語彙を習いその使い方を説明しさらに使えるように短文の読み書きを練習する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

**授業の概要**

基礎を確実に習得できるよう、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導し、各単元で習ったことを身につけるように練習する。

**授業計画**

1. 発音、子音と母音(それぞれの発音をしっかり練習する)
2. 発音、音節(子音と母音、さらに声調を付け加えた発音の練習)
3. 日常よく使われる挨拶と数字(ピンインから発音の仕方を覚える練習)
4. 第一課 志願者
5. 第一課 志願者
6. 第二課 閑談
7. 第二課 閑談
8. 第三課 特忙
9. 第三課 特忙
10. 第四課 请跟我来
11. 第四課 请跟我来
12. 第五課 找银行
13. 第五課 找银行
14. 第六課 点菜
15. 第六課 点菜 試験

**授業の方法**

新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法、語順を説明し訳をする。その応用と会話の練習もする。

**準備学修**

習った単元の単語や会話の文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語と会話の文をノートに写しておいて読んでみる

**課題・評価方法**

平常点30%、定期試験70%

**欠席について**

校則に従う。

**テキスト**

オリンピックへようこそ 会話編

**参考図書**

必要な場合、授業時に指示する。

**留意事項**

授業中は発音の仕方に注意を傾け声を出して練習する。私語は慎むこと。

授業以外でも、各自テープなどを繰り返し聴き、語彙や文を暗記するように。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 2	①/②	11669	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
沈 竑	選択	1			

### 授業の到達目標

今日、中国は最も目覚ましい発展を遂げている国の一つである。中国語を話すことができれば、自分の可能性が広がると考えられる。本授業では、基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深めながら、初歩的なコミュニケーションができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

まず発音から始まり、次に単元ごとに重要な語彙の使い方や語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。さらに実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループなどで発表を行う。

### 授業計画

1. 導入・発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 第1課 你是中国人吗？
6. 第1課 你是中国人吗？
7. 第2課 这是什么？
8. 第2課 这是什么？
9. 第2課 这是什么？
10. 第3課 你去哪儿？
11. 第3課 你去哪儿？
12. 第3課 你去哪儿？
13. 第4課 这个包多少钱？
14. 第4課 这个包多少钱？
15. まとめ・テスト

### 授業の方法

講義とペアやグループの活動を中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

規定に従う。

### テキスト

竹島金吾監修 尹 景春・竹島 毅著『中国語はじめの一步』 白水社

### 参考図書

授業中に指示する。

### 留意事項

授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 3	①	11673	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
坂口 文馨	選択	1			

### 授業の到達目標

本授業は、「中国語1」において基礎を学んだ者が、さらに多くの語彙や文を学び、会話や文作りに応用できる能力を養うことを目的とする。そのため、中国語の語順や表現の仕方を正しく理解し丸暗記した上で、書いたり話したりする練習を行う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

本授業では重要な語彙の発音をよく練習したうえで、使い方や語順を説明し実用的な短文を丸暗記することを求める。それによって、授業中には友達同士や先生との会話ができるように、たくさん話す練習を行い、充実した授業にしたい。

### 授業計画

1. 第七課 住宾馆
2. 第七課 住宾馆
3. 第八課 回路
4. 第八課 回路
5. 第九課 当翻译
6. 第九課 当翻译
7. 第十課 看病
8. 第十課 看病
9. 第十一課 看比赛
10. 第十一課 看比赛
11. 第十二課 再会
12. 第十二課 再会
13. 第十三課 欢迎下次再来
14. 第十三課 欢迎下次再来
15. 試験

### 授業の方法

新出単語はピンインから発音の仕方を確認したうえで発音練習をし意味や使い方を説明する。文についての文法や語順を説明し訳する。その応用と会話の練習もする。

### 準備学修

習った単元の単語と会話の短文をしっかりと覚えることと、これから習う新しい単元の単語を読んでみる。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

校則に従う。

### テキスト

オリンピックへようこそ 会話編

### 参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

### 留意事項

- 1) 常にテープを聴き文を読むこと。
- 2) 会話をする機会を逃さず、積極的に話してみるよう心がけること。
- 3) 分からないところがあったら、すぐに辞書で調べる習慣を身につけること。
- 4) 私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 3	②		11673	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
沈 竑	選択	1				

**授業の到達目標**  
 本授業は基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深めながら、初歩的なコミュニケーションができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

**授業の概要**  
 単元ごとに、発音の仕方や重要な語彙の使い方、語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。その上、実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループなどで発表を行う。

**授業計画**

1. 復習・第5課 你晚上有事吗？
2. 第5課 你晚上有事吗？
3. 第5課 你晚上有事吗？
4. 第7課 你家有几口人？
5. 第7課 你家有几口人？
6. 第7課 你家有几口人？
7. 第9課 你去过美国吗？
8. 第9課 你去过美国吗？
9. 第9課 你去过美国吗？
10. 第11課 你在干什么呢？
11. 第11課 你在干什么呢？
12. 第11課 你在干什么呢？
13. 自我介绍
14. 自我介绍
15. まとめ・テスト

**授業の方法**  
 講義とペアやグループの活動を中心とする。

**準備学修**  
 Webで参照すること。

**課題・評価方法**  
 平常点50%、定期試験50%

**欠席について**  
 規定に従う。

**テキスト**  
 竹島金吾監修 尹 景春・竹島 毅著『中国語はじめの一步』 白水社

**参考図書**  
 授業中に指示する。

**留意事項**  
 授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 4	①		11677	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
沈 竑	選択	1				

**授業の到達目標**  
 本授業は基礎を確実に習得できるように、正しい発音の仕方や語彙の使い方、語順を丁寧に指導する。また、関連する中国の歴史・文化なども紹介し、中国語や中国への理解を深めながら、初歩的なコミュニケーションができるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

**授業の概要**  
 単元ごとに、発音の仕方や重要な語彙の使い方、語順を説明する。各単元で習ったことが身につくように、口や耳を使って練習する。その上、実践的に使えるように短文を読み、例文を作り、ペアやグループなどで発表を行う。

**授業計画**

1. 復習・第6課 你吃饭了吗？
2. 第6課 你吃饭了吗？
3. 第6課 你吃饭了吗？
4. 第8課 你从几点开始打工？
5. 第8課 你从几点开始打工？
6. 第8課 你从几点开始打工？
7. 第10課 你会唱歌吗？
8. 第10課 你会唱歌吗？
9. 第10課 你会唱歌吗？
10. 第12課 祝你旅途愉快！
11. 第12課 祝你旅途愉快！
12. 第12課 祝你旅途愉快！
13. 自我介绍
14. 自我介绍
15. まとめ・テスト

**授業の方法**  
 講義とペアやグループの活動を中心とする。

**準備学修**  
 Webで参照すること。

**課題・評価方法**  
 平常点50%、定期試験50%

**欠席について**  
 規定に従う。

**テキスト**  
 竹島金吾監修 尹 景春・竹島 毅著『中国語はじめの一步』 白水社

**参考図書**  
 授業中に指示する。

**留意事項**  
 授業へ積極的に参加すること。

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 4	②	11677	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
王 嫣	選択	1			

### 授業の到達目標

本授業は「中国語 2」の続きになる。中国語の発音、単語と文法を学び、本文の内容を十分に理解する。単語と本文の読み話練習を通して、中国文化への理解を広げる。この授業ではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

発音の練習を大事にする、リスニングの練習も行う。単語の意味と使い方を説明し、読むと書くの練習を通して単語をしっかりと覚える。会話文を流暢に言えるように繰り返し練習して、中国語を使ってコミュニケーションが取れるようにする。

### 授業計画

1. 第5課、你晚上有事吗？
2. 第5課、你晚上有事吗？
3. 第5課、你晚上有事吗？
4. 第6課、你吃饭了吗？
5. 第6課、你吃饭了吗？
6. 第6課、你吃饭了吗？
7. 第7課、你家有几口人？
8. 第7課、你家有几口人？
9. 第7課、你家有几口人？
10. 第8課、你从几点开始打工？
11. 第8課、你从几点开始打工？
12. 第8課、你从几点开始打工？
13. 第9課、你去过美国吗？
14. 第9課、你去过美国吗？
15. 授業のまとめ・テスト

### 授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

規定に従う。

### テキスト

竹島金吾監修 尹 景春・竹島 毅著『中国語はじめの一步』 白水社

外国語〈外国語〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 5		11681	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
坂口 文馨	選択	1			

### 授業の到達目標

今まで培った基礎力をさらに高めることを目標とする。そのために、文章を丁寧に読み、正しく書けるように鍛える。また、常にリスニング練習をし、問答により話す習慣を身につけるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

授業前に予習してもらおう。授業後は、習ったテーマについて自分の実際の状況で会話に使う短文を書く練習をする。添削後、その会話を発表してもらおう。このようにして同じテーマでも異なった内容のものをいくつも聴くことができる。会話に求められる聴く力と話す力を養う。文化や習慣、または様々な事情を教科書を通して学ぶ。

### 授業計画

1. 第一課 一年級
2. 第一課 一年級
3. 第二課 主人公の家庭
4. 第二課 主人公の家庭
5. 第三課 就要开幕了
6. 第三課 就要开幕了
7. 第四課 盛大的开幕式
8. 第四課 盛大的开幕式
9. 第五課 想去银行
10. 第五課 想去银行
11. 第六課 日本料理
12. 第六課 日本料理
13. 第七課 要住双人房
14. 第七課 要住双人房
15. 試験

### 授業の方法

新出単語の発音を確認して、その意味と使い方を説明する。文章についての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認する。最後に繰り返し会話を練習する。

### 準備学修

習った単元の単語と文章を覚えることと、これから習う新しい単元の単語の意味を辞書で調べ全文を読んでみる。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

校則に従う。

### テキスト

オリンピックへようこそ 講読編

### 参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

### 留意事項

いつも予習と復習をすること。  
積極的に授業に参加し、聞ける、話せるように努力すること。  
分からない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。  
私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 6			11685	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
王 嫣	選択	1				

### 授業の到達目標

中国語の発音、単語と文法を学び、本文の内容を十分に理解する。単語と本文の読み話す練習を通して、中国語会話能力を身につける。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。この授業ではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とA（自律）を身につける。

### 授業の概要

発音の練習を大事にする。大きな声を出して発音を練習すると同時に、聞く練習と書く練習も行う。単語の意味と使い方を説明し、読むと書くの練習を通して単語をしっかりと覚える。会話文を流暢に言えるように繰り返し練習して、中国語を使ってコミュニケーションが取れるようにする。

### 授業計画

1. 第1課: 楊麗さんですか
2. 第1課: 楊麗さんですか
3. 第2課: 荷物は多いですか
4. 第2課: 荷物は多いですか
5. 第3課: 明日はどこへ行きますか
6. 第3課: 明日はどこへ行きますか
7. 第4課: ケーキを食べたいですか
8. 第4課: ケーキを食べたいですか
9. 第5課: これはいくらですか
10. 第5課: これはいくらですか
11. 第6課: 電子辞書を持っていますか
12. 第6課: 電子辞書を持っていますか
13. 第7課: 京劇のチケットを買いました
14. 第7課: 京劇のチケットを買いました
15. 授業のまとめ・テスト

### 授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。毎回「発音の指導」、「語彙、文法と文型の説明」と「会話練習」を行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- 1、課題：小テストを3回実施する。講義の中でフィードバックを行う。
- 2、評価方法：平常点50%、定期試験50%。

### 欠席について

大学の規定に従う。

### テキスト

「1冊めの中国語（会話クラス）」 劉穎、喜多山幸子、松田かの子著 白水社

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 7			11689	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
坂口 文馨	選択	1				

### 授業の到達目標

自信を持ってもっと読める、書ける、聞ける、そして話せるようになることを目標とする。そのために、授業中により多くの中国語を使い聴いて分かるように、さらに答えられるように鍛える。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

内容に基づいてもっと多くの質問をし答えてもらうために、聴くことと話すことの練習をする。また、書いた作文を添削した後、丸暗記して発表してもらう。他に多くの練習問題をし習ったものを定着させ、翻訳の力を養う。

### 授業計画

1. 第八課 向过路人问路
2. 第八課 向过路人问路
3. 第九課 给游客当翻译
4. 第九課 给游客当翻译
5. 第十課 在医院看病
6. 第十課 在医院看病
7. 第十一課 喜欢看的比赛
8. 第十一課 喜欢看的比赛
9. 第十二課 请再来观光
10. 第十二課 请再来观光
11. 第十三課 北京再会
12. 第十三課 北京再会
13. 第十四課 在海关
14. 第十四課 在海关
15. 試験

### 授業の方法

新出単語の発音を確認し、その意味と使い方を説明する。文についての文法などを説明した後、正しく訳せるかどうかを確認し会話を繰り返し練習する。

### 準備学修

習った単元の単語と文を覚えることと、これから習う新しい単元の

単語の意味を辞書で調べ、全文を読んでみる。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

校則に従う。

### テキスト

オリンピックへようこそ 講読編

### 参考図書

必要な場合、授業時に指示する。

### 留意事項

いつも予習と復習をすること。  
積極的に授業に参加し、もっと聴ける話せるように努力すること。  
解らない所があれば、辞書で調べる習慣を身につけること。  
私語を慎むこと。

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
中国語 8			11693	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
王 媽	選択	1				

### 授業の到達目標

中国語の発音、単語と文法を学び、本文の内容を十分に理解する。単語と本文の読み話す練習を通して、中国語会話能力を身につける。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。この授業ではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）とA（自律）を身につける。

### 授業の概要

発音の練習を大事にする。大きな声を出して発音を練習すると同時に、聞く練習と書く練習も行う。単語の意味と使い方を説明し、読むと書くの練習を通して単語をしっかりと覚える。会話文を流暢に言えるように繰り返し練習して、中国語を使ってコミュニケーションが取れるようにする。

### 授業計画

1. 第8課:ファーストフード店がありますか
2. 第8課:ファーストフード店がありますか
3. 第9課:中国の歌が歌えますか
4. 第9課:中国の歌が歌えますか
5. 第10課:長城に行ったことがありますか
6. 第10課:長城に行ったことがありますか
7. 第11課:お腹をこわしました
8. 第11課:お腹をこわしました
9. 第12課:どのくらいの時間がかかりますか
10. 第12課:どのくらいの時間がかかりますか
11. 第13課:トイレが故障しました
12. 第13課:トイレが故障しました
13. 第14課:中国語が上手ですね
14. 第14課:中国語が上手ですね
15. 授業のまとめ・テスト

### 授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。毎回「発音の指導」、「語彙、文法と文型の説明」と「会話練習」を行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- 1、課題：小テストを3回実施する。講義の中でフィードバックを行う。
- 2、評価方法：平常点50％、定期試験50％。

### 欠席について

大学の規定に従う。

### テキスト

「1冊めの中国語（会話クラス）」 劉穎、喜多山幸子、松田かの子著 白水社

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 1			11697	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1				

### 授業の到達目標

本授業は、初めて韓国語を学習する学生を対象にハングルの読み書きと聞いて話す力を備えて基礎的な韓国語の文章の構造が理解でき、簡単な日常会話ができるような力を身につけることを目標とする。この授業では「KAISEIパーソナリティ」のA(自律)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

まず、ハングルの『文字と発音』を確実に覚えて固めた上で、『文法と表現』の順に仲間との実践的な会話中心の反復練習を行い、韓国語による『読む、書く、聞く、話す』力を身につけて行く。更に、数字の先行学習でより実用性を高めて行くことと、韓国文化の一端を知り理解できる手助けとなる授業を進める。

### 授業計画

1. 韓国語の概要
2. 文字と発音
3. 文字と発音
4. 文字と発音
5. 文字と発音
6. 文字と発音
7. 基礎のまとめ、中間テスト
8. 第1課:私は日本人です(1)
9. 第1課:私は日本人です(2)
10. 第2課:日本人ではありません(1)
11. 第2課:日本人ではありません(2)
12. 第3課:それは何ですか(1)
13. 第3課:それは何ですか(2)
14. 第4課:約束があります(1)
15. 第4課:約束があります(2)、まとめと期末テスト

### 授業の方法

講義とペアやグループ活動を中心とする。(短文作りと発表、実践会話、相手の話しを聞いてメモを取るなど) 更に、各単元の小テストや中間テストを通じて既習内容を自己確認させる。

### 準備学修

各単元の既習内容はしっかりと覚えること。(毎日30分程度)

### 課題・評価方法

平常点：70％（出席、課題、小テスト、中間テスト）、期末テスト：30％

### 欠席について

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

### テキスト

できる韓国語初級Ⅰ / 李志暎 著 / DEKIRU出版

### 留意事項

配布した補助プリントは各自でファイリングし、毎回の授業で持参するなど学習に役立てること。

### オフィスアワー

授業前後30分以内

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 2			11701	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1				

**授業の到達目標**

本授業は、初めて韓国語を学習する学生やすでに学習した経験はあるが確実に定着していない学生を対象にハングルの読み書きと聞いて話す力を備えて基礎的な韓国語の文章の構造が理解でき、簡単な日常会話ができるような力を身に付けることを目標とする。この授業では「KAISEIパーソナリティ」のA(自律)とIn(国際性)を養う。

**授業の概要**

まず、ハングルの『文字と発音』を確実に覚えて固めた上で、『文法と表現』の順に仲間との実践的な会話中心の反復練習を行い、韓国語による『読む、書く、聞く、話す』力を身につけて行く。更に、数字の先行学習でより実用性を高めて行くことと、韓国文化の一端を知り理解できる手助けとなる授業を進める。

**授業計画**

1. イントロダクション、ハングルで自分の名前を書く
2. 第1課:文字と発音(1)
3. 第1課:文字と発音(2)
4. 第2課:文字と発音(1)
5. 第2課:文字と発音(2)
6. 第3課:文字と発音(1)
7. 第3課:文字と発音(2)
8. 文字と発音のまとめと中間テスト
9. 第4課:～です/ですか(1)
10. 第4課:～です/ですか(2)
11. 第5課:～ではありません(1)
12. 第5課:～ではありません(2)
13. 第6課:～あります/ありません(1)
14. 第6課:～あります/ありません(2)
15. まとめと期末テスト

**授業の方法**

講義とペアやグループ活動を中心とする。(短文作りと発表、実践会話、相手の話しを聞いてメモを取るなど)更に、各単元の小テストや中間テストを通じて既習内容を自己確認させる。

**準備学修**

各単元の既習内容はしっかりと覚えること。(毎日30分程度)

**課題・評価方法**

平常点:70%(出席、課題、小テスト、中間テスト)、期末テスト:30%

**欠席について**

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

**テキスト**

三定版・韓国語の世界へ入門編/李潤玉他4名著/朝日出版社

**留意事項**

配布した補助プリントは各自でファイリングし、毎回の授業で持参するなど学習に役立てること。

**オフィスアワー**

授業前後30分以内

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 3			11705	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1				

**授業の到達目標**

韓国語3では、韓国語1で学習した内容を踏まえた上で、さらに多様な韓国語の表現を習得し、韓国語によるコミュニケーション力を高めることを授業の目標とする。この授業では「KAISEIパーソナリティ」のA(自律)とIn(国際性)を養う。

**授業の概要**

韓国語1を通じて学んだ基礎を確立した上、実践的な会話中心の反復練習でより多様な語彙や表現を拡張して韓国語による『読む、書く、聞く、話す』力を確実に高めて行く。更に、数字学習の続きで実際に活用して行くことと、韓国文化の一端を知り理解できる手助けとなる授業を進める。

**授業計画**

1. おさらい、第5課:会社はどこにありますか(1)
2. 第5課:会社はどこにありますか(2)
3. Review、第6課:週末は何をしますか(1)
4. 第6課:週末は何をしますか(2)
5. 第7課:そんなに遠くありません(1)
6. 第7課:そんなに遠くありません(2)
7. 第8課:いつ行きますか(1)
8. 第8課:いつ行きますか(2)
9. まとめと中間テスト
10. 第9課:釜山までどうやって行きますか(1)
11. 第9課:釜山までどうやって行きますか(2)
12. 第10課:何時からですか(1)
13. 第10課:何時からですか(2)
14. 数詞の応用練習とReview
15. まとめと期末テスト

**授業の方法**

講義とペアやグループ活動を中心とする。(短文作りと発表、実践会話、相手の話しを聞いてメモを取るなど)更に、各単元の小テストや中間テストを通じて既習内容を自己確認させる。

**準備学修**

各単元の既習内容はしっかりと覚えること。(毎日30分程度)

**課題・評価方法**

平常点:70%(出席、課題、小テスト、中間テスト)、期末テスト:30%

**欠席について**

平常点で欠席状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

**テキスト**

できる韓国語初級I/李志暎 著/ DEKIRU出版

**留意事項**

配布した補助プリントは各自でファイリングし、毎回の授業で持参するなど学習に役立てること。

**オフィスアワー**

授業前後30分以内

外国語〈外国語〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
韓国語 4			11709	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宋 京珠	選択	1				

### 授業の到達目標

韓国語 4 では、韓国語 2 で学習した内容を踏まえた上で、さらに多様な韓国語の表現を習得し、韓国語によるコミュニケーション力を高めることを授業の目標とする。この授業では「KAISEIパーソナリティ」のA(自律)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

韓国語 2 を通じて学んだ基礎を確立した上、実践的な会話中心の反復練習でより多様な語彙や表現を拡張して韓国語による『読む、書く、聞く、話す』力を確実に高めて行く。更に、数字学習の続きで実際に活用して行くことと、韓国文化の一端を知り理解できる手助けとなる授業を進める。

### 授業計画

1. おさらい、第7課:時間、大丈夫ですか(1)
2. 第7課:時間、大丈夫ですか(2)
3. 第8課:～に～をします(1)
4. 第8課:～に～をします(2)
5. 第9課:～に～します(1)
6. 第9課:～に～します(2)
7. 第10課:～が好きです(1)
8. 第10課:～が好きです(2)
9. まとめと中間テスト
- 10.丁寧な～です・ます形『ハムニダ体とヘヨ体』のまとめ
11. 第11課:～しました/～しなかったです(1)
12. 第11課:～しました/～しなかったです(2)
13. 第12課:～するつもりです(1)
14. 第12課:～するつもりです(2)
15. まとめ期末テスト

### 授業の方法

講義とペアやグループ活動を中心とする。(短文作りと発表、実践会話、相手の話しを聞いてメモを取るなど)更に、各単元の小テストや中間テストを通じて既習内容を自己確認させる。

### 準備学修

各単元の既習内容はしっかりと覚えること。(毎日30分程度)

### 課題・評価方法

平常点:70%(出席、課題、小テスト、中間テスト)、期末テスト:30%

### 欠席について

平常点で出欠状況を考慮するので、欠席回数が多い程最終成績が低減される。

### テキスト

三定版・韓国語の世界へ入門編/李潤玉他4名著/朝日出版社

### 留意事項

配布した補助プリントは各自でファイリングし、毎回の授業で持参するなど学習に役立てること。

### オフィスアワー

授業前後30分以内



現代人間学部 英語観光学科

専門科目



演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a	13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務		

### 授業の到達目標

演習のテーマは、ツーリズム&ホスピタリティ産業におけるマネジメントである。製品特性である無形性、変動性、不可分性、消滅性を克服するためにどのような経営戦略が必要かを考察する。ツーリズム&ホスピタリティ産業において課題を抽出し、解決の糸口を導き出す手法を身につける。さらに、労働生産性の向上とホスピタリティの関係や、各業界における市場特性を理解する。アクティブラーニングを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

### 授業の概要

ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。ホスピタリティの価値を落とさず、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習では、ツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問し、実務担当者との意見交換等から問題の核心に迫る。

### 授業計画

1. 演習の概要説明
2. 課題の発表 I
3. 課題の発表 II
4. ホスピタリティ産業の市場環境(マクロ環境)
5. 5Factor
6. SegmentationとTargetingの理解
7. 企業理念と価値観
8. ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性
9. フィールドワーク 1
10. フィールドワーク成果発表
11. フィールドワーク 2
12. フィールドワーク成果発表
13. フィールドワークから見るホスピタリティ産業の現状
14. 研究テーマの取り組み方
15. まとめ

### 授業の方法

授業はゼミ生主体に進行する。レポートやパワーポイントを使用しディスカッション形式でおこなう。

### 準備学修

観光業界紙での事前情報収集などで準備する。

### 課題・評価方法

事前学習課題50%

発表50%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

下記のいずれかを購入すること

浜田麻里他(2012)『論文ワークブック』くろしお出版

小笠原喜康(2002)『大学生のためのレポート・論文術』講談社

### 参考図書

内藤耕『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社

内藤耕『サービス産業 生産性向上入門』日刊工業新聞

Kotler『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション

M.E.Poter『競争の戦略』ダイヤモンド社

Jay B. Barney『企業戦略論』ダイヤモンド社

### 留意事項

事前学習の課題を第1回講義日に提出する。

演習は一人一人が積極的に参加が必要であり、学外でのフィールドワークも予定している。演習 I の受講には、必ず「観光概論」、「観光事業論」を履修していることが条件である。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b	13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石原 敬子	必修	2			

### 授業の到達目標

音声学の基礎を理解する／英語の音素体系について理解する／音声の面白さを発見する／テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する／このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。

### 授業の概要

声を出すしくみや発音をコントロールする調音器官など音声学の基本的な事項を理論的・実践的に学び、その知識を基に英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析する。あわせて、ことばに関連するテーマについて各自が調査した結果をまとめ、発表・ディスカッションをする。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 英語学習についてのブレインストーミング
3. 「かな」より小さい音の単位
4. ことば遊び
5. 音象徴(調音法と音の印象)
6. 発表とディスカッション1-1
7. 発表とディスカッション1-2
8. 調音器官
9. 発音チャート
10. 五十音図1
11. 五十音図2
12. 英語の子音の音声的特徴
13. 綴りと発音
14. 発表とディスカッション2-1  
日本語話者の英語観察と分析1
15. 発表とディスカッション2-2  
日本語話者の英語観察と分析2

### 授業の方法

講義とディスカッション形式で行う

### 準備学修

Webを参照すること

### 課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

### 欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること(ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

### テキスト

川原繁人、『「あ」は「い」より大きい!? 音象徴で学ぶ音声学入門』(ひつじ書房)

TEX加藤、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』(朝日新聞出版)

### 参考図書

必要に応じて指示する。

### 留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

### 教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	c		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

### 授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれている理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

### 授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

### 授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

出席状況（30%）、発表（30%）、レポート（40%）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

### 欠席について

規定に従う

### テキスト

必要に応じて配布する

### 参考図書

必要に応じて紹介する

### 教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	d		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

### 授業の到達目標

英米児童文学の原書を読解する英語力を養い、英米児童文学の鑑賞眼を養う。演習で学んだことをまとめて発表する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う。

### 授業の概要

英米児童文学の代表的な作品を読解する。まず比較的読みやすい"The Wonderful Wizard of Oz"を読解後、それぞれの考えをまとめて発表する。1作目以降については、学生の要望を取り入れながら関連する他の作品を読解し、それぞれのアダプテーション作品についても考察する。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 1 ~ Chapter 2
3. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 3 ~ Chapter 5
4. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 6 ~ Chapter 8
5. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 9 ~ Chapter 12
6. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 13 ~ Chapter 16
7. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 17 ~ Chapter 20
8. "The Wonderful Wizard of Oz" Chapter 21 ~ Chapter 24
9. "The Wonderful Wizard of Oz" の総まとめ
10. The Wonderful Wizard of Oz と Alice's Adventures in Wonderland を比較する。
11. The Wonderful Wizard of Oz と Alice's Adventures in Wonderland を比較する。
12. The Wonderful Wizard of Oz と Alice's Adventures in Wonderland を比較する。
13. The Wonderful Wizard of Oz と Alice's Adventures in Wonderland を比較する。
14. The Wonderful Wizard of Oz と Alice's Adventures in Wonderland を比較する。
15. 総まとめ

### 授業の方法

講義後、各自が内容について調べて、グループディスカッションの

後に発表をする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点(発表を含む) 50%、定期試験 50%

課題のフィードバックは授業中に行う。発表は、授業内で口頭、またはメモによりフィードバックする。

### 欠席について

規定に従う。

### テキスト

L. Frank Baum. "The Wonderful Wizard of Oz" Dover Children's Evergreen Classics  
ハンドアウトを使用する。

### 参考図書

必要に応じて指示する。

### 留意事項

授業は積極的に参加すること。授業には必ず辞書を持参すること。

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	e		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社勤務			

### 授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で、観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて学ぶ。地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表準備を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

観光による地域活性化についての事例研究を行う。また兵庫県神戸市観光協会との産学連携プログラムによる観光地プロモーションにて神戸市の観光資源調査（フィールドワーク）を実施し、観光プログラムの提言を行う。調査方法や観光地マーケティングやマネジメントを学び、観光による地域創生のあり方について考察する。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 観光と地方創生
3. 観光地のブランド化について
4. フィールドワーク準備（文化・歴史・観光資源）
5. フィールドワーク現地調査方法の研究
6. フィールドワークワーク①
7. フィールドワーク②
8. フィールドワークの調査結果のまとめ・発表
9. 調査結果の提案書作成①
10. 調査結果の提案書作成②
11. 提案書のプレゼンテーション
12. プレゼンテーションのフィードバック
13. 個人課題の研究発表と講評
14. 個人課題の発表と講評
15. まとめ

### 授業の方法

課題テーマについてリサーチとプレゼンテーション及びディスカッションを主体に行う。

準備学修

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、プレゼンテーション50%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

適時プリントを配布する。

### 参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋一夫著 学芸出版  
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイアモンド社  
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版  
『地域が稼ぐ観光』 大羽昭仁著 宣伝会議

### 留意事項

演習は自主性、積極性が求められる。フィールドワークへの参加は必須である。

### 教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	f		13101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

### 授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. New Yorkers
3. New Yorkers
4. New Yorkers
5. Frankenstein
6. Frankenstein
7. Frankenstein
8. Frankenstein
9. Frankenstein
10. The Picture of Dorian Grey
11. The Picture of Dorian Grey
12. The Picture of Dorian Grey
13. The Picture of Dorian Grey
14. The Picture of Dorian Grey
15. The Picture of Dorian Grey

### 授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点（発言）80%、レポート20%。

### 欠席について

規定に従う。

### テキスト

適時指示をする。

### 教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

ツーリズム&ホスピタリティ産業における課題を研究テーマに置く。中心となる分野はマネジメントとマーケティングである。特に、ツーリズム&ホスピタリティ産業における労働生産性とホスピタリティの関係や、市場特性の理解をすすめる。アクティブラーニングを通じて考える力、プレゼンテーション力を磨く。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

### 授業の概要

1. ツーリズム&ホスピタリティ産業でのおもてなしやホスピタリティ精神の価値を学ぶ。さらに、労働生産性に焦点を当て、どのように向上させ、成果のあるマネジメントが可能であるかを考える。ホスピタリティの価値を維持し、労働生産性を向上させる方法はあるのか。演習Ⅱでは、演習Ⅰでツーリズム&ホスピタリティ産業の現場を訪問した結果をパワーポイント等でまとめる。
2. 関空発「学生と旅行社が作る海外旅行」企画イベント等募集企画にもチャレンジする。

### 授業計画

1. 演習Ⅱの概要
2. フィールドワークのまとめと発表Ⅰ
3. フィールドワークのまとめと発表Ⅱ
4. フィールドワークのまとめと発表Ⅲ
5. フィールドワークのまとめと発表Ⅳ
6. フィールドワークPower PointによるプレゼンテーションⅠ
7. フィールドワークPower PointによるプレゼンテーションⅡ
8. 先行研究の調査Ⅰ
9. 先行研究の調査Ⅱ
10. 先行研究の調査Ⅲ
11. 先行研究の発表Ⅳ
12. 先行研究の発表Ⅴ
13. 先行研究の発表Ⅵ
14. 先行研究の発表Ⅶ
15. まとめ

### 授業の方法

演習を通してアクティブラーニングがおこなわれる。各個人の発表、意見交換を重視する。

### 準備学修

観光関連の新聞、雑誌を読み、ツーリズム&ホスピタリティ業界の事前学習をおこなう。

### 課題・評価方法

課題50%、発表50%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

特になし

### 参考図書

内藤耕 (2015) 『サービス産業 労働生産性の革新』 旅行新聞社  
 内藤耕 『サービス産業生産性向上入門』 日刊工業新聞  
 Kotler (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』  
 ビアソン・エデュケーション  
 M.E.Poter (2012) 『競争の戦略』 ダイヤモンド社  
 Jay B. Barney (2011) 『企業戦略論』 ダイヤモンド社  
 浜田麻里他 (2012) 『論文ワークブック』 くらしお出版  
 小笠原喜康 (2002) 『大学生のためのレポート・論文術』 講談社

### 留意事項

イベントへの参加やチーム課題が多くあり、個人的都合で欠席等は認めません。積極的な姿勢で臨む事。演習受講者は、必ず「観光概論」、「観光事業論」、「観光マーケティング論」を履修することが条件である。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

### 授業の到達目標

ネイティブの英語音声の特徴と日本語話者の英語音声の特徴について分析し理解する/英語の韻律(イントネーション)の基本的特徴を理解し実践する/テーマに基づいて調査したことをまとめて発表する/このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。

### 授業の概要

演習Ⅰに引き続き、英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析する。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をし、レポートにまとめる。さらに第二言語として英語を学習する際に、母語である日本語の音声体系がどのように弊害となり得るかを考察する。あわせて、ことばに関連するテーマについて各自が調査した結果をまとめ、発表・ディスカッションをする。

### 授業計画

1. 発表とディスカッション1-1
2. 発表とディスカッション1-2
3. 英語音声の特徴(母音の変化1)
4. 英語音声の特徴(母音の変化2)
5. 英語音声の特徴(母音の変化3)
6. 発表とディスカッション2-1
7. 発表とディスカッション2-2
8. 英語音声の特徴(子音1)
9. 英語音声の特徴(子音2)
10. 英語音声の特徴(音節主音の子音)
11. 英語音声の特徴(音の変化1)
12. 英語音声の特徴(音の変化2)
13. 発表とディスカッション3-1
14. 発表とディスカッション3-2
15. まとめ

### 授業の方法

講義とディスカッション形式で行う。

### 準備学修

Webを参照すること。

### 課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

### 欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

### テキスト

川原繁人、『「あ」は「い」より大きい!? 音象徴で学ぶ音声学入門』(ひつじ書房)  
 TEX加藤、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』(朝日新聞出版)

### 参考図書

必要に応じて指示する。

### 留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけてほしい。

### 教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

### 授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれている理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

### 授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

### 授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

### 授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

### 準備学修

Web参照すること。

### 課題・評価方法

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

### 欠席について

規定に従う

### テキスト

必要に応じて配布する

### 参考図書

必要に応じて紹介する

### 教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	必修	2				

### 授業の到達目標

前期に学んだ内容を基礎に、学生の関心の高い英米の児童文学作品の原書を読み、英文の読解力を向上させる。また、選んだ作品についてのテーマを考察し、まとめて発表する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、In(国際性)を養う。

### 授業の概要

前期に学んだ2作品に何らかの関連性を持つ作品を選び、原書を読解し、グループでテーマを設定して、そのテーマについて調べて考察する。その後、授業内で発表とディスカッションを行う。

### 授業計画

1. 前期に学んだ英米児童文学に何らかの関連性をもつ作品より、研究対象となる1作品とそのテーマの選定。
2. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
3. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
4. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
5. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
6. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
7. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
8. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
9. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
10. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
11. 研究対象の1作品の原書講読と担当グループの発表
12. 取り上げた英米児童文学小説のアダプテーション作品(映画、演劇、ミュージカルなど)の考察
13. 取り上げた英米児童文学小説のアダプテーション作品(映画、演劇、ミュージカルなど)の考察
14. 研究発表の準備
15. 研究成果の発表

### 授業の方法

講義後、各自が原書講読をし、グループで取り上げた作品について調べて考察後、まとめて発表する。

### 準備学修

Webを参照すること。

### 課題・評価方法

発表(レポート含む)30%、平常点20%、定期試験50%  
課題のフィードバックは授業中に行う。発表は、授業内で口頭、またはメモによりフィードバックする。

### 欠席について

規定に従う。

### テキスト

Lewis Carroll/丸橋良雄・伊藤佳代子 『不思議の国のアリス』英光社  
その他は授業中に指示する。  
ハンドアウトを使用する。

### 参考図書

必要に応じて指示する。

### 留意事項

授業は積極的に参加すること。授業には必ず辞書を持参すること。

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	e		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2	旅行会社			

### 授業の到達目標

研究テーマは「観光による地方創生」で、観光による地域経済の活性化を図るための仕組みについて学ぶ。  
地域社会との関りから地域住民にとっても有益である「持続可能な観光」のあり方を研究する。特に訪日観光客（インバウンド）を地方へ誘客するためのマーケティングやプロモーションについての理解を深め、地域の観光消費額を上げることを主眼とする。フィールドワークを通じて調査方法を学び、発表準備を通じてプレゼンテーション力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

観光事業による地域創生をテーマに、スポーツ・イベント（東京オリンピック・パラリンピックなど）やMICEなどを通じて、地域への観光消費額を増やす仕組みについて理解する。また各自が研究テーマを選択し、研究したことを発表し、討論を行うことでより深く研究テーマを考察することを旨とする。テーマは観光ビジネス（旅行業・航空業・宿泊業・DMO・インバウンド・MICE・スポーツ・ツーリズム・IR・地方創生など）を中心に研究を行う。  
課題として「学生と旅行会社でつくる」海外旅行企画に参加する。旅行の商品企画を行うことで企画に必要なマーケティングやコンセプト・メイキングなどを実践を通じて学ぶ。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 個人課題の研究発表と討論
3. 個人課題の研究発表と討論
4. 個人課題の研究発表と討論
5. 個人課題の研究発表と討論
6. 個人課題の研究発表と討論
7. 個人課題の研究発表と討論
8. 個人課題の研究発表と討論
9. 個人課題の研究発表と討論
10. 個人課題の研究発表と討論
11. 個人課題の研究発表と討論
12. 海外旅行企画作成
13. 海外旅行企画作成

14. 海外旅行企画作成
15. まとめ

### 授業の方法

発表とディスカッション形式で行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点30%、課題20%、発表50%

### 欠席について

大学規定通り。

### テキスト

随時プリントを配布する。

### 参考図書

『DMO観光地経営のイノベーション』 高橋一夫著 学芸出版  
『観光DMO設計・運営のポイント』 日本政策投資銀行 地域企画部著 ダイアモンド社  
『観光ブランドの教科書』 岩崎邦彦著 日本経済新聞出版  
『地域が稼ぐ観光』 大羽昭仁著 宣伝会議

### 留意事項

演習には自主性及び積極性が求められる。

### 教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	f		13105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

### 授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. Tales of Mystery and Imagination: The Fall of the House of Usher
3. Tales of Mystery and Imagination: The Black Cat
4. Tales of Mystery and Imagination: The Mask of Red Death
5. Tales of Mystery and Imagination: William Wilson
6. Tales of Mystery and Imagination: The Tell-tale Heart
7. A Tale of Two Cities: Chapters 1 to 3
8. A Tale of Two Cities: Chapters 4 and 5
9. A Tale of Two Cities: Chapters 6 and 7
10. A Tale of Two Cities: Chapters 8 and 9
11. A Tale of Two Cities: Chapters 10 and 11
12. A Tale of Two Cities: Chapters 12 and 13
13. 卒業研究の構想発表1
14. 卒業研究の構想発表2
15. 卒業研究の構想発表3

### 授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点（発言）70%、レポート・発表30%。

### 欠席について

規定に従う。

### テキスト

適時指示をする。

### 教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域でマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に概要がまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

### 授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、成果を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

### 授業計画

1. 研究の進め方
2. 研究テーマについて発表
3. 卒業研究の書き方(研究計画について)
4. 卒業研究の書き方(参考文献・引用文献)
5. 個人発表と質疑応答
6. 個人発表と質疑応答
7. 個人発表と質疑応答
8. 個人発表と質疑応答
9. 個人発表と質疑応答
10. 個人発表と質疑応答
11. 個人発表と質疑応答
12. 個人発表と質疑応答
13. 個人発表と質疑応答
14. 個人発表と質疑応答
15. まとめ

### 授業の方法

発表とディスカッションを中心に行う。

### 準備学修

テーマ毎に参考図書を紹介するので読んでレポートすること。

### 課題・評価方法

課題への取り組み、レポートの評価、発表内容などを総合的に成績評価する。

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

下記のいずれかを購入すること

浜田麻里他(2012)『論文ワークブック』くろしお出版  
小笠原喜康(2002)『大学生のためのレポート・論文術』講談社

### 参考図書

研究テーマ別に紹介する。

内藤耕(2015)『サービス産業 労働生産性の革新』旅行新聞社  
内藤耕『サービス産業生産性向上入門』日刊工業新聞  
Kotler(2003)『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション  
M.E.Poter(2012)『競争の戦略』ダイヤモンド社  
Jay B. Barney(2011)『企業戦略論』ダイヤモンド社

### 留意事項

個別の研究テーマに取り組めます。積極的に研究課題に取り組むこと。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

### 授業の到達目標

英語や日本語の音声の特徴、音象徴の傾向について分析し理解する／各自の卒業研究のテーマを絞り込み調査を進める／このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う

### 授業の概要

引き続き、英語及び日本語の音声について客観的に観察・分析し、考察をする。また自分たちが被験者となり、日本語話者が話す英語音声の特徴を分析し、テキスト、文献から得られた情報と実験から得られた結果を基に、日本語話者の英語の特徴について考察をする。さらに卒業研究のテーマを絞り込み、調査を進めるために、発表・ディスカッションや各自の文献調査を行う。

### 授業計画

1. 卒業研究の進め方
  - 第5章 学生たちが見つけた音象徴①
2. 第5章 学生たちが見つけた音象徴②
3. 第5章 学生たちが見つけた音象徴③
4. 第6章 ポケモンでする音象徴研究①
5. 第6章 ポケモンでする音象徴研究②
6. 発表とディスカッション1-1
7. 発表とディスカッション1-2
8. 第7章 音象徴・音声学を考える①
9. 第7章 音象徴・音声学を考える②
10. 第7章 音象徴・音声学を考える③
11. 論文研究①
12. 論文研究②
13. 発表とディスカッション2-1
14. 発表とディスカッション2-2
15. まとめ

### 授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

### 準備学修

Webを参照すること

### 課題・評価方法

平常点40%、定期試験60%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

### 欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること(ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

### テキスト

川原繁人、『「あ」は「い」より大きい!? 音象徴で学ぶ音声学入門』(ひつじ書房)  
TEX加藤、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のセンテンス』(朝日新聞出版)

### 参考図書

必要に応じて指示する。

### 留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

### 教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

### 授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれて理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

### 授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

### 授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

### 授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

### 準備学修

Web参照すること。

### 課題・評価方法

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

### 欠席について

規定に従う

### テキスト

必要に応じて配布する

### 参考図書

必要に応じて紹介する

### 教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2				

### 授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネージメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

### 授業計画

1. ガイダンスと個人研究の進め方
2. 個人研究テーマの発表
3. 個人研究発表とディスカッション
4. 個人研究発表とディスカッション
5. 個人研究発表とディスカッション
6. 個人研究発表とディスカッション
7. 個人研究発表とディスカッション
8. 個人研究発表とディスカッション
9. 個人研究発表とディスカッション
10. 個人研究発表とディスカッション
11. 個人研究発表とディスカッション
12. 個人研究発表とディスカッション
13. 個人研究発表とディスカッション
14. 個人研究発表とディスカッション
15. まとめ

### 授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

必要に応じて配布する。

### 参考図書

適宜紹介する。

### 留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

### 教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

### 授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 序章の構想を発表する。
3. 序章の構想を発表する。
4. 序章の構想を発表する。
5. 第1章の構想の発表を行う。
6. 第1章の構想の発表を行う。
7. 第1章の構想の発表を行う。
8. 第2章の構想の発表を行う。
9. 第2章の構想の発表を行う。
10. 第2章の構想の発表を行う。
11. 第3章の構想の発表を行う。
12. 第3章の構想の発表を行う。
13. 第3章の構想の発表を行う。
14. 第3章の構想の発表を行う。
15. 第3章の構想の発表を行う。

### 授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点（発言）70％、レポート30％。

### 欠席について

規定に従う。

### テキスト

適時指示をする。

### 教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	f		13109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

### 授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 序章の構想を発表する。
3. Dr Jekyll and Mr Hyde: Chapters 1 and 2
4. 第1章の構想の発表を行う。
5. Dr Jekyll and Mr Hyde: Chapters 3 and 4
6. 第2章の構想の発表を行う。
7. Dr Jekyll and Mr Hyde: Chapters 5 and 6
8. 第3章の構想の発表を行う。
9. Dr Jekyll and Mr Hyde: Chapter 7
10. Dr Jekyll and Mr Hyde: Chapter 8
11. Dr Jekyll and Mr Hyde: Chapter 9
12. A Christmas Carol: Chapters 1 and 2
13. A Christmas Carol: Chapter 3
14. A Christmas Carol: Chapter 4
15. A Christmas Carol: Chapter 5

### 授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点（発言）70％、レポート30％。

### 欠席について

規定に従う。

### テキスト

適時指示をする。

### 教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

観光関連科目のまとめとしていく。ホスピタリティ産業における戦略的マーケティングを理解し、ゼミ生個別のテーマに対してより深く研究を進めていく。個人テーマは、観光領域のマネジメントとマーケティングをキーワードとして設定する。テーマ毎に具体的にまとめられることを到達目標としていく。このクラスは、KAISEI パーソナリティのA(自律)とK(思いやり)を養う。

### 授業の概要

卒業研究を前提に個別のテーマに取り組む。個人研究が中心となり、各自の進捗状況を発表し、他のゼミ生とディスカッションをする。発表日を設定し、ゼミ長を中心に授業を進める。

### 授業計画

1. ガイダンスとスケジュールの決定
2. 卒業研究作成におけるwordでの文書作成
3. 研究計画書の作成
4. 研究計画書の発表
5. 個人研究発表
6. 個人研究発表
7. 個人研究発表
8. 個人研究発表
9. 個人研究発表
10. 個人研究発表
11. 個人研究発表
12. 個人研究発表
13. 個人研究発表
14. 個人研究発表
15. まとめ

### 授業の方法

個人発表とディカッションを中心におこなう。

### 準備学修

各自のテーマに合わせた参考図書を紹介する。読んでレポートすること。

### 課題・評価方法

個人研究の内容と発表を評価対象とする。

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

特になし

### 参考図書

研究テーマ別に紹介する。  
 内藤耕 (2015) 『サービス産業 労働生産性の革新』 旅行新聞社  
 内藤耕 『サービス産業生産性向上入門』 日刊工業新聞  
 Kotler (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』  
 ピアソン・エデュケーション  
 M.E.Poter (2012) 『競争の戦略』 ダイアモンド社  
 Jay B. Barney (2011) 『企業戦略論』 ダイアモンド社  
 浜田麻里他 (2012) 『論文ワークブック』 くらしお出版  
 小笠原喜康 (2002) 『大学生のためのレポート・論文術』 講談社

### 留意事項

発表者は欠席してはならない。病気等欠席の場合は他のゼミ生に発表をかわってもらうこと。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	必修	2				

### 授業の到達目標

音声の他、ことばの魅力について調査・分析・考察をする／各自の卒業研究のテーマに沿った調査を進め、まとめる／このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う

### 授業の概要

英語音声・日本語音声の他、卒業研究のテーマと関連する文献等を調査し、要約をしたり考察をしたりする練習を積む。さらに卒業研究執筆に向けて各自のテーマに沿った文献調査やデータ収集を進めながら、発表および討論を通して、自分で考え、それを自分のことばで表現する。

### 授業計画

1. イントロダクション  
卒業研究について
2. 文献調査と分析 1-1
3. 文献調査と分析 1-2
4. 文献調査と分析 2-1
5. 文献調査と分析 2-2
6. 文献調査と分析 3-1
7. 文献調査と分析 3-2
8. 文献調査と分析 4-1
9. 文献調査と分析 4-2
10. まとめ
11. 発表とディスカッション
12. 発表とディスカッション
13. 口頭試問について
14. まとめ
15. 卒業研究口頭試問

### 授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。

### 準備学修

Webを参照すること

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

課題のフィードバック：小テストは基本的に翌授業週に返却、発表時は時間内に口頭及び事後にメモでフィードバック、レポートは個別にフィードバックする。

### 欠席について

1) 欠席や遅刻は、必ずメールにて石原に連絡をすること (ishihara@kaisei.ac.jp)。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

### テキスト

川原繁人、『「あ」は「い」より大きい!? 音象徴で学ぶ音声学入門』 (ひつじ書房)  
 TEX加藤、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 金のセンテンス』 (朝日新聞出版)

### 参考図書

必要に応じて指示する。

### 留意事項

授業には積極的に参加するとともに、普段から身の回りの音に興味を持ち、耳を傾けるように心がけること。

### 教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

### 授業の到達目標

観光とは、ただ、視覚的に資源を披露することではない。訪れる側と迎える側とが、それぞれの地域や人を理解し合うことである。その理解の中心となる文化について研究し、観光が平和産業と呼ばれている理由を知る。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）とを養う。

### 授業の概要

日本の文化・文学が観光資源としてどのように受容され、また、再生・活用されているかを考える。文学・歴史・風俗習慣など、各自が興味あるテーマを選び研究することで、その文化を国外に、また、国内に紹介する意義を考察する。

### 授業計画

1. 個人課題の研究発表・討論・講評
2. 個人課題の研究発表・討論・講評
3. 個人課題の研究発表・討論・講評
4. 個人課題の研究発表・討論・講評
5. 個人課題の研究発表・討論・講評
6. 個人課題の研究発表・討論・講評
7. 個人課題の研究発表・討論・講評
8. 個人課題の研究発表・討論・講評
9. 個人課題の研究発表・討論・講評
10. 個人課題の研究発表・討論・講評
11. 個人課題の研究発表・討論・講評
12. 個人課題の研究発表・討論・講評
13. 個人課題の研究発表・討論・講評
14. 個人課題の研究発表・討論・講評
15. 個人課題の研究発表・討論・講評

### 授業の方法

各人が興味を持ったテーマで発表を行い、それをメンバー全員で討議する。

### 準備学修

Web参照すること。

### 課題・評価方法

出席状況（30％）、発表（30％）、レポート（40％）により評価する。提出されたレポートは、教員が指導してフィードバックする。

### 欠席について

規定に従う

### テキスト

必要に応じて配布する

### 参考図書

必要に応じて紹介する

### 教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	必修	2				

### 授業の到達目標

観光ビジネスによる地域創生及び観光地マネジメントを通じて観光の持つ力について理解を深め、個人研究のテーマについて研究を深めていく。個人研究のテーマは観光領域全般とし各個人のテーマを設定する。研究テーマのキーワードはインバウンド、MICE、旅行ビジネス、航空ビジネス、IR、地方創生、環境ツーリズム。各個人の研究テーマを深め、卒業研究作成を到達目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

観光ビジネスが地域創生にどのように活用され、また将来、観光ビジネスが期待されることについて考察を深める。各個人の研究テーマについて、個人の研究発表とディスカッションを中心に講義を進める。ゼミ生による積極的な討論により、各自の研究テーマの内容を深めていく。

### 授業計画

1. ガイダンスと卒業研究進行状況報告
2. 個人研究発表とディスカッション
3. 個人研究発表とディスカッション
4. 個人研究発表とディスカッション
5. 個人研究発表とディスカッション
6. 個人研究発表とディスカッション
7. 個人研究発表とディスカッション
8. 個人研究発表とディスカッション
9. 個人研究発表とディスカッション
10. 個人研究発表とディスカッション
11. 個人研究発表とディスカッション
12. 個人研究発表とディスカッション
13. 個人研究発表とディスカッション
14. 個人研究発表とディスカッション
15. まとめ

### 授業の方法

各自の研究テーマについて発表とディスカッションを行い、研究内容の課題について確認し考察を深める。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

授業出席、レポート、発表、ディスカッションなどの取り組み状況を総合的に判断し成績評価する。

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

必要に応じて配布する。

### 参考図書

適宜紹介する。

### 留意事項

発表者は欠席してはならない。各自個人研究テーマについて積極的に取り組むこと。またディスカッションにも積極的に参加すること。

### 教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	e		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

### 授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 序章を学生間で添削。
3. 序章を学生間で添削。
4. 教員からの添削をもとに序章を完成する。
5. 1章を学生間で添削。
6. 1章を学生間で添削。
7. 教員からの添削をもとに1章を完成する。
8. 2章を学生間で添削。
9. 2章を学生間で添削。
10. 教員からの添削をもとに2章を完成する。
11. 3章を学生間で添削。
12. 3章を学生間で添削。
13. 教員からの添削をもとに3章を完成する。
14. 終章を学生間で添削。
15. 教員からの添削をもとに終章を完成する。

### 授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点（発言）70％、レポート30％。

### 欠席について

規定に従う。

### テキスト

適時指示をする。

### 教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	f		13113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

### 授業の到達目標

英文学作品の多読等を行い、文学作品の理解を行うとともに、自ら作品を分析する、このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

英文学作品の多読図書を読み、筋を追うとともに、作品の分析を行う。授業では当該作品についての質疑応答を行うので、指定範囲の予習は必須になる。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 教員からの添削をもとに序章を完成する。
3. The Unquiet Graves: The Picture
4. 教員からの添削をもとに1章を完成する。
5. The Unquiet Graves: Rats
6. The Unquiet Graves: The Casting Runes
7. 教員からの添削をもとに1章を完成する。
8. The Unquiet Graves: The Experiment
9. The Unquiet Graves: "Oh, Whistle, Come to You, My Boy"
10. 教員からの添削をもとに2章を完成する。
11. I, Robot: Dr Susan Calvin, and Runaround
12. I, Robot: Reason
13. 教員からの添削をもとに3章を完成する。
14. I, Robot: Catch That Rabbit, and The Liar
15. 教員からの添削をもとに終章を完成する。

### 授業の方法

当該作品についての質疑応答とディスカッション形式で行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点（発言）70％、レポート30％。

### 欠席について

規定に従う。

### テキスト

適時指示をする。

### 教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 100	100-2/100-3/100-4	13901	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
James C. JENSEN / Cory McKENZIE	必修	1			

### 授業の到達目標

This course will develop a sense of intelligence, internationality, and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills, including intonation and stress, in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Nice to Meet You
3. Unit 1 Nice to Meet You
4. Unit 2 Around the World
5. Unit 2 Around the World
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 3 Going Places
10. Unit 3 Going Places
11. Unit 4 Around Town
12. Unit 4 Around Town
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

Be Familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 20%

Tests and Quizzes 10%  
Presentations 40%  
Class Participation 20%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Longman Cutting Edge Starter, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

### 参考図書

Will be assigned as required

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 100	100-5	13901	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Andy RUSHTON	必修	1			

### 授業の到達目標

This course will develop a sense of intelligence, internationality, and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills, including intonation and stress, in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Nice to Meet You
3. Unit 1 Nice to Meet You
4. Unit 1 Nice to Meet You
5. Unit 1 Nice to Meet You
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 2 Around the World
10. Unit 2 Around the World
11. Unit 2 Around the World
12. Unit 2 Around the World
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

Be Familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 20%

Tests and Quizzes 10%  
Presentations 40%  
Class Participation 20%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Longman Cutting Edge Starter, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

### 参考図書

Will be assigned as required

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 101	101-2/101-3/101-4	13903	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
佐伯 瑠璃子／宮副 紀子／和泉 有香	必修	1			

### 授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Popular Sports
3. Chapter 1 Popular Sports
4. Chapter 2 Healthy Eater
5. Chapter 2 Healthy Eater
6. Chapter 3 Dream Home
7. Chapter 3 Dream Home
8. Mid Term
9. Chapter 4 Greetings
10. Chapter 4 Greetings
11. Chapter 5 City Without Oil
12. Chapter 5 City Without Oil
13. Chapter 6 Can't Please Everyone
14. Chapter 6 Can't Please Everyone
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%  
Tests and Quizzes 30%  
Class Participation 20%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Oxford Select Readings Elementary, 2nd edition. Linda Lee  
Oxford Bookworms The Monkey's Paw by W.W. Jacobs

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 101	101-5	13903	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
吉野 美智子	必修	1			

### 授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect through extensive reading.

### 授業計画

1. Introduction
2. Instant Book Report
3. Where's the Drama?
4. Reading the Same Book with the Class
5. What Next?
6. Quick Book Report Forms
7. Reading the Same Book with the Class
8. Character by the Letter
9. Favorite Quotation
10. Reading the Same Book with the Class
11. Timed Repeated Readings
12. One a Day
13. Reading the Same Book with the Class
14. The 4/3/2 Technique
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Book Report 30%  
Tests and Quizzes 30%  
Class Participation 30%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Books for extensive reading of the college library.

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

### 教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 102	102-2/102-3/102-4	13905	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Andy RUSHTON/James C. JENSEN	必修	1			

### 授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Who am I?
3. Unit 1 Who am I?
4. Unit 2 An Important place
5. Unit 2 An Important place
6. Unit 3 An ideal partner
7. Unit 3 An ideal partner
8. Mid Term
9. Unit 4 My favorite photo
10. Unit 4 My favorite photo
11. Unit 5 My seal
12. Unit 5 My seal
13. Unit 6 Party time
14. Unit 6 Party time
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report 20%  
Tests and Quizzes 10%  
Class Participation 20%  
Homework 50%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Cambridge Writing from Within Level 1, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 102	102-5	13905	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
和泉 有香	必修	1			

### 授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Who am I?
3. Unit 1 Who am I?
4. Unit 1 Who am I?
5. Unit 1 Who am I?
6. Unit 2 An Important place
7. Unit 2 An Important place
8. Unit 2 An Important place
9. Unit 2 An Important place
10. Mid Term
11. Unit 3 An ideal partner
12. Unit 3 An ideal partner
13. Unit 3 An ideal partner
14. Unit 3 An ideal partner
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report 20%  
Tests and Quizzes 10%  
Class Participation 20%  
Homework 50%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Cambridge Writing from Within Level 1, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 103	103-2/103-3/103-4	13907	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
入江 和子／和泉 有香	必修	1			

### 授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: simple present and present progressive, simple past and past progressive

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 The Simple Tenses
3. Chapter 1 The Progressive Tenses, Spelling of -ing and -ed Form
4. Chapter 1 Simple Present
5. Chapter 1 Simple Present
6. Chapter 1 Simple Present
7. Chapter 1 Present Progressive
8. Chapter 1 Present Progressive
9. Mid Term
10. Chapter 1 Simple Past
11. Chapter 1 Simple Past
12. Chapter 1 Simple Past
13. Chapter 1 Past Progressive
14. Chapter 1 Past Progressive
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%

Tests and Quizzes 30%  
Class Participation 20%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Pearson Understanding and Using English Grammar, 5th edition.  
B.A. Azar & S.A. Hagen

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 103	103-5	13907	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
佐伯 瑠璃子	必修	1			

### 授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: be and have, simple present, and present progressive.

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Using Be
3. Chapter 1 Using Be
4. Chapter 1 Using Be
5. Chapter 2 Using Be and Have
6. Chapter 2 Using Be and Have
7. Chapter 2 Using Be and Have
8. Chapter 2 Using Be and Have
9. Review
10. Mid Term
11. Chapter 3 Using the Simple Present
12. Chapter 3 Using the Simple Present
13. Chapter 3 Using the Simple Present
14. Chapter 3 Using the Simple Present
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%  
Tests and Quizzes 30%  
Class Participation 20%

Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Pearson Basic English Grammar, 4th Edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation 104	①/②	13908	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石原 敬子	必修	2			

### 授業の到達目標

英語の音声的特徴、特に聞き手が理解する上で重要な英語特有のリズム（語強勢、文強勢、文のフォーカス）及び日本語に無い音素の特徴について理解し、中学校及び高等学校の生徒が理解しやすい英語の発音を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

英語の音声に関する理論的学習と実践的訓練を行う。「伝わる」英語の発話及び聴解力の向上を目指し、聞き手が理解しやすい発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦勞しがちな英語の音声的特徴を学ぶ。特に「内容を伝える」ために重要な役割を持つリズムを体得する訓練を重点的に行う。ペア・グループワークなどの練習、L.L.教室の個人ブースでの練習を通して、一人ひとりの苦手な部分を確認しながら、場面・状況等に応じて分かりやすい英語で発話できるようにする。

### 授業計画

1. 導入（英語学習における発音学習の位置づけ、事前診断テスト）
2. 事前診断テスト解答解説と練習
3. 音節（音節とリズム、カタカナ語と英語の音節数の違い）
4. 音節（語の音節数、現在形と過去形の音節数の違い）
5. 母音（アルファベット読みとフォニックス読み）
6. 英語特有の子音（アルファベット読みとフォニックス読み）
7. 語強勢（強勢と母音の長さ）
8. 語強勢（強勢と母音の音色、押韻）
9. 語強勢（語強勢の法則）
10. 文強勢（内容語と機能語、品詞）
11. 文強勢（文の内容に即した強勢）
12. 文強勢（強勢の付く機能語）
13. その他の子音（日本語との違い）
14. 文章の音読
15. 練習、復習、まとめ

### 授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と講義を合わせて行う

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%  
課題に対するフィードバック：小テストは翌週に返却、音読素材については講義内で口頭又は翌週以降に紙面にてフィードバックをする

### 欠席について

1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

### テキスト

Judy B. Gilbert, Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension, 4th ed. CUP.

### 留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

### 教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 200	200-1春/200-2/200-3/200-4	13909	I	春/秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Andy RUSHTON/James C. JENSEN	必修	1			

### 授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 7 Your Time
3. Unit 7 Your Time
4. Unit 8 You Can Do It!
5. Unit 8 You Can Do It!
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 9 Now and Then
10. Unit 9 Now and Then
11. Unit 10 Famous Lives
12. Unit 10 Famous Lives
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 20%  
Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%  
Class Participation 20%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Longman Cutting Edge Starter, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 200	200-5	13909	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Angus HALL	必修	1			

### 授業の到達目標

The course will develop a sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 3 Going Places
3. Unit 3 Going Places
4. Unit 3 Going Places
5. Unit 3 Going Places
6. Review
7. Presentations
8. Mid Terms
9. Unit 4 Around Town
10. Unit 4 Around Town
11. Unit 4 Around Town
12. Unit 4 Around Town
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 20%  
Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%  
Class Participation 20%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Longman Cutting Edge Starter, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 201	201-1春/201-2/201-3/201-4	13911	I	春/秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
惣谷 美智子/宮副 紀子/佐伯 瑠璃子/和泉 有香	必修	1			

### 授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and word forms.

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 8 Denmark Loves Bicycles
3. Chapter 8 Denmark Loves Bicycles
4. Chapter 9 A Passion for Cooking
5. Chapter 9 A Passion for Cooking
6. Chapter 10 Travel More, Spend Less
7. Chapter 10 Travel More, Spend Less
8. Mid Term
9. Chapter 11 A Very Able Man
10. Chapter 11 A Very Able Man
11. Chapter 12 Protecting Cultural Traditions
12. Chapter 12 Protecting Cultural Traditions
13. Chapter 13 Emergency in the Air
14. Chapter 13 Emergency in the Air
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%  
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Oxford Select Readings Elementary, 2nd edition. Linda Lee  
Oxford Bookworms A Little Princess by Hodgson Burnett retold by Jennifer Bassett

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 201	201-5	13911	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
吉野 美智子	必修	1			

### 授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, Show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect through extensive reading.

### 授業計画

1. Introduction
2. Book Review Round Robin
3. Dramatic Conversations
4. Reading the Same Book with the Class
5. Anybody You Know?
6. Book Report Checklist
7. Reading the Same Book with the Class
8. Gifts
9. What Kind of Book Are You Reading?
10. Reading the Same Book with the Class
11. Raced Reading
12. Vocabulary Journal
13. Reading the Same Book with the Class
14. Draw a Picture
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Book Report 30%  
Tests and Quizzes 30%  
Class Participation 30%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Books for extensive reading of the college library.

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

### 教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 202	202-1春/202-2/202-3/202-4	13913	I	春/秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Tim KERN/Andy RUSHTON/James C. JENSEN	必修	1			

### 授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 7 Thank you note
3. Unit 7 Thank you note
4. Unit 8 Movie review
5. Unit 8 Movie review
6. Unit 9 Friendship
7. Unit 9 Friendship
8. Mid Term
9. Unit 10 Superhero powers
10. Unit 10 Superhero powers
11. Unit 11 Advertisements
12. Unit 11 Advertisements
13. Unit 12 Lessons learned
14. Unit 12 Lessons learned
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Report 20%  
Tests and Quizzes 10%  
Class Participation 20%  
Homework 50%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Cambridge Writing from Within Level 1, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 202	202-5	13913	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
國本 恵理香	必修	1			

### 授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 4 My favorite photo
3. Unit 4 My favorite photo
4. Unit 4 My favorite photo
5. Unit 4 My favorite photo
6. Unit 5 My seal
7. Unit 5 My seal
8. Unit 5 My seal
9. Unit 5 My seal
10. Mid Term
11. Unit 6 Party time
12. Unit 6 Party time
13. Unit 6 Party time
14. Unit 6 Party time
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

### 準備学修

Be familiar with the contents of the textbooks

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report 20%  
Tests and Quizzes 10%  
Class Participation 20%  
Homework 50%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Cambridge Writing from Within Level 1, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 203	203-1春/203-2/203-3/203-4	13915	I	春/秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
小野 礼子/國本 恵理香/和泉 有香	必修	1			

### 授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: present perfect and present perfect progressive, past perfect and past perfect progressive, all future tenses, including "going to" future, simple future, future progressive, and future perfect.

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 3 Future
3. Chapter 3 Future Progressive
4. Chapter 3 Future in Time Clauses
5. Chapter 2 Present Perfect
6. Chapter 2 Present Perfect
7. Chapter 2 Present Perfect Progressive
8. Mid Term
9. Chapter 2 Past Perfect
10. Chapter 2 Past Perfect
11. Chapter 2 Past Perfect Progressive
12. Chapter 3 Future Perfect
13. Chapter 3 Future Perfect Progressive
14. Chapter 4 Review of Verb Tenses
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%

Tests and Quizzes 30%  
Class Participation 20%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Pearson Understanding and Using English Grammar, 5th edition. B.A. Azar & S.A. Hagen

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 203	203-5	13915	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
和泉 有香	必修	1			

### 授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: present progressive and past tense

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 4 Using Present Progressive
3. Chapter 4 Using Present Progressive
4. Chapter 4 Using Present Progressive
5. Chapter 4 Using Present Progressive
6. Chapter 4 Using Present Progressive
7. Review
8. Mid Term
9. Chapter 8 Past Time
10. Chapter 8 Past Time
11. Chapter 8 Past Time
12. Chapter 8 Past Time
13. Chapter 8 Past Time
14. Chapter 8 Past Time
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups.

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Exam 40%  
Tests and Quizzes 30%  
Class Participation 20%

Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Pearson Basic English Grammar, 4th edition. B.A. Azar & S.A. Hagen

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation 204	204	13916	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石原 敬子	選択	2			

### 授業の到達目標

聴いた短い英文を内容的・文法的に瞬時に理解し、反応できるようになること、及び英語の音声の特徴の基礎を理解し、相手に伝わりやすい発話ができるようになることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

英語の音声に関する理論的学習と実践的訓練を行う。リスニング力の向上と「伝わる」英語の発話を目指し、英語音声の超分節的特徴（特にリズム、文強勢、イントネーション）の基礎を学ぶ。各授業では、短文を用いた文法的な即答訓練、パッセージを用いた発話練習を行う。ペア・グループワークなどの練習、L.L.教室の個人ブースでの練習を通して、一人ひとりの苦手な部分を確認しながら、伝わりやすい英語で発話できるようにする。

### 授業計画

1. 導入(事前診断テスト)
2. 現在形:be動詞・一般動詞(肯定文・否定文)  
Passage 1
3. 過去形:be動詞・一般動詞(疑問文)  
Passage 2
4. 過去形:be動詞・一般動詞(否定文)  
Passage 3
5. 現在形:復習  
Passage 4
6. 進行形(肯定文・否定文・疑問文)  
Passage 5
7. 未来形:be動詞・一般動詞  
Passage 6
8. 依頼・提案文  
Passage 7
9. 受動態  
Passage 8
10. 現在完了形 1  
Passage 9
11. 現在完了形 2  
Passage 10
12. 付加疑問文

Passage 11

13. 名詞句・名詞節

Passage 12

14. 関係代名詞

Passage 13

15. 仮定法

まとめ

### 授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と講義を合わせて行う

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

課題に対するフィードバック：小テストは翌週に返却、音読素材については講義内で口頭又は翌週以降に紙面にてフィードバックをする

### 欠席について

1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

### テキスト

国弘正雄『英会話・ぜったい音読 [入門編]』

### 留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

### 教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 300	300-1秋/300-2/300-3/300-4	13917	I / II	秋 / 春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Andy RUSHTON / James C. JENSEN / Tim KERN / Angus HALL	必修	2			

**授業の到達目標**  
 Upon completion of this course, students will be able to :  
 ・ participate in group discussions and interviews  
 ・ identify main ideas and supporting details from listening materials and prepare spoken and written summaries  
 ・ give advice and recommendations  
 ・ ask for and give examples  
 ・ give instructions  
 ・ demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary  
 ・ prepare and deliver two 3-5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids  
 The course will develop a sense of internationality and autonomy.

**授業の概要**  
 The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include countries, nationalities, languages, family connections, and hobbies.

**授業計画**

1. Introduction
2. Unit 1 People and Places
3. Unit 1 People and Places
4. Unit 2 People and Things
5. Unit 2 People and Things
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 3 Your Life
10. Unit 3 Your Life
11. Unit 4 Likes and Dislikes
12. Unit 4 Likes and Dislikes
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

**授業の方法**  
 Students will work individually, in pairs, and in groups

**準備学修**  
 Be familiar with the content of the textbook: preview and review

**課題・評価方法**  
 Your final grade will be determined using the following scale:  
 Final Exam 20%  
 Tests and Quizzes 10%  
 Presentations 40%  
 Class Participation 20%  
 Homework 10%

**欠席について**  
 As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

**テキスト**  
 Longman Cutting Edge Elementary, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

**参考図書**  
 Will be assigned as needed

**留意事項**  
 Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 300	300-5	13917	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Andy RUSHTON	必修	2			

**授業の到達目標**  
 The course will develop a sense of internationality and autonomy.

**授業の概要**  
 The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

**授業計画**

1. Introduction
2. Unit 7 Your Time
3. Unit 7 Your Time
4. Unit 7 Your Time
5. Unit 7 Your Time
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 8 You Can Do It!
10. Unit 8 You Can Do It!
11. Unit 8 You Can Do It!
12. Unit 8 You Can Do It!
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

**授業の方法**  
 Students will work in groups and individually

**準備学修**  
 Be familiar with the textbook: preview and review

**課題・評価方法**  
 Your final grade will be determined using the following scale:  
 Final Exam 20%  
 Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%  
 Class Participation 20%  
 Homework 10%

**欠席について**  
 As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

**テキスト**  
 Longman Cutting Edge Starter, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

**参考図書**  
 Will be assigned as needed

**留意事項**  
 Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 301	301-1秋/301-2/301-3/301-4	13919	I / II	秋 / 春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
入江 和子 / 國本 恵理香 / 後藤 江里	必修	2			

### 授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep?
3. Chapter 1 Are You Getting Enough Sleep?
4. Chapter 2 Mika's Homestay in London
5. Chapter 2 Mika's Homestay in London
6. Chapter 3 It's Not Always Black and White
7. Chapter 3 It's Not Always Black and White
8. Mid Term
9. Chapter 4 Helping Others
10. Chapter 4 Helping Others
11. Chapter 5 Generation Z: Digital Natives
12. Chapter 5 Generation Z: Digital Natives
13. Chapter 6 How to Be Successful Businessperson
14. Chapter 6 How to Be Successful Businessperson
15. Review

### 授業の方法

Be Familiar with the textbooks before class

### 準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%  
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%

Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Oxford Select Readings Pre-Intermediate, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen  
Oxford Bookworms New Yorkers Short Stories by O Henry retold by Diane Mowat

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 301	301-5	13919	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
國本 恵理香	必修	2			

### 授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 8 Denmark Loves Bicycles
3. Chapter 8 Denmark Loves Bicycles
4. Chapter 8 Denmark Loves Bicycles
5. Chapter 8 Denmark Loves Bicycles
6. Chapter 9 A Passion for Cooking
7. Chapter 9 A Passion for Cooking
8. Chapter 9 A Passion for Cooking
9. Chapter 9 A Passion for Cooking
10. Mid Term
11. Chapter 10 Travel More, Spend Less
12. Chapter 10 Travel More, Spend Less
13. Chapter 10 Travel More, Spend Less
14. Chapter 10 Travel More, Spend Less
15. Review

### 授業の方法

Be Familiar with the textbooks before class

### 準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%  
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%

Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Oxford Select Readings Elementary 2nd edition, Linda Lee  
Oxford Bookworms A Little Princess by Hodgson Burnett retold by Jennifer Bassett

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 302	302-1秋/302-2/302-3/302-4	13921	I / II	秋 / 春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
James C. JENSEN / Andy RUSHTON / Cory McKENZIE	必修	2			

**授業の到達目標**  
In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

**授業の概要**  
Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

**授業計画**

1. Introduction
2. Unit 1 About me
3. Unit 1 About me
4. Unit 2 Career consultant
5. Unit 2 Career consultant
6. Unit 3 A dream come true
7. Unit 3 A dream come true
8. Mid Term
9. Unit 4 Invent
10. Unit 4 Invent
11. Unit 5 It changed my life!
12. Unit 5 It changed my life!
13. Unit 6 Exciting destinations
14. Unit 6 Exciting destinations
15. Review

**授業の方法**  
Students will work in groups and individually

**準備学修**  
Be familiar with the textbook: preview and review

**課題・評価方法**  
Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Report 20%  
Tests and Quizzes 10%  
Class Participation 20%  
Homework 50%

**欠席について**  
As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

**テキスト**  
Cambridge Writing from Within Level 2, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

**参考図書**  
Will be assigned as needed

**留意事項**  
Active Participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 302	302-5	13921	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Angus HALL	必修	2			

**授業の到達目標**  
In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

**授業の概要**  
Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

**授業計画**

1. Introduction
2. Unit 7 Thank you note
3. Unit 7 Thank you note
4. Unit 7 Thank you note
5. Unit 7 Thank you note
6. Unit 8 Movie review
7. Unit 8 Movie review
8. Unit 8 Movie review
9. Unit 8 Movie review
10. Mid Term
11. Unit 9 Friendship
12. Unit 9 Friendship
13. Unit 9 Friendship
14. Unit 9 Friendship
15. Review

**授業の方法**  
Students will work individually, in pairs, and in groups

**準備学修**  
Be familiar with the textbook: preview and review

**課題・評価方法**  
Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Report 20%  
Tests and Quizzes 10%  
Class Participation 20%  
Homework 50%

**欠席について**  
As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

**テキスト**  
Cambridge Writing from Within Level 1, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

**参考図書**  
Will be assign as needed

**留意事項**  
Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 303	303-1秋/303-2/303-3/303-4	13923	I/II	秋/春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子/木下 奈美/後藤 江里	必修	2			

### 授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use modals of certainty, necessity, polite requests, expectations and suggestions, and advisability.

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 9 (Modals, Part1) Basic Modal introduction
3. Chapter 9 Expressing Necessity
4. Chapter 9 Advisability
5. Chapter 9 Suggestions, Expectation
6. Chapter 9 Ability
7. Chapter 9 Possibility
8. Mid Term
9. Chapter 9 Requests and Responses with Modals, Polite Request
10. Chapter 9 Making Suggetions
11. Chapter 10 (Modals, Part2) Expressing the Past
12. Chapter 10 Modals of Certainty: Present Time
13. Chapter 10 Modals of Certainty: Past and Future
14. Chapter 10 Expressing Preference
15. Review

### 授業の方法

Students will work in groups and individually

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%

Tests and Quizzes 30%  
Class Participation 20%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Pearson Understanding and Using English Grammar, 5th edition.  
B.A. Azar & S.A. Hagen

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 303	303-5	13923	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
和泉 有香	必修	2			

### 授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use past progressive, comparatives, and superlatives

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 8 Past Time, Part 1
3. Chapter 8 Past Time, Part 1
4. Chapter 9 Past Time, Part 2
5. Chapter 9 Past Time, Part 2
6. Chapter 9 Past Time, Part 2
7. Review
8. Mid Term
9. Chapter 15 Comparatives and Superlatives
10. Chapter 15 Comparatives and Superlatives
11. Chapter 15 Comparatives and Superlatives
12. Chapter 15 Comparatives and Superlatives
13. Chapter 15 Comparatives and Superlatives
14. Chapter 15 Comparatives and Superlatives
15. Review

### 授業の方法

Students will work in groups and individually

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%  
Tests and Quizzes 30%  
Class Participation 20%

Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Pearson, Basic English Grammar, 4th edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 400	400-1春/400-2/400-3/400-4	13925	Ⅱ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Andy RUSHTON/James C. JENSEN	必修	2			

**授業の到達目標**  
 Upon completion of this course, students will be able to :  
 ・ participate in group discussions and interviews  
 ・ identify reasons and explanations  
 ・ express opinions and summarize  
 ・ ask for and give clarification  
 ・ demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary  
 ・ prepare and deliver two 3-5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids  
 The course will develop a sense of internationality and autonomy.

**授業の概要**  
 The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include shop and services, clothes, personality, and natural features.

**授業計画**

1. Introduction
2. Unit 8 Fact or Fiction?
3. Unit 8 Fact or Fiction?
4. Unit 9 Buy and Sell
5. Unit 9 Buy and Sell
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 10 Look Good
10. Unit 10 Look Good
11. Unit 11 Nature
12. Unit 11 Nature
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

**授業の方法**  
 Students will work individually and in groups

**準備学修**  
 Be familiar with the textbook: preview and review

**課題・評価方法**  
 Your final grade will be determined using the following scale:  
 Final Exam 20%  
 Tests and Quizzes 10%  
 Presentations 40%  
 Class Participation 20%  
 Homework 10%

**欠席について**  
 As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

**テキスト**  
 Longman Cutting Edge Elementary, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

**参考図書**  
 Will be assigned as needed

**留意事項**  
 Active participation is essential for success

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 400	400-5	13925	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Cory McKENZIE	必修	2			

**授業の到達目標**  
 The course will develop a sense of internationality and autonomy.

**授業の概要**  
 The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include jobs, cultures, vacations, comedy, sports, feelings, and weather.

**授業計画**

1. Introduction
2. Unit 9 Now and Then
3. Unit 9 Now and Then
4. Unit 9 Now and Then
5. Unit 9 Now and Then
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 10 Famous Lives
10. Unit 10 Famous Lives
11. Unit 10 Famous Lives
12. Unit 10 Famous Lives
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

**授業の方法**  
 Students will work in groups and individually

**準備学修**  
 Be familiar with the textbook: preview and review

**課題・評価方法**  
 Your final grade will be determined using the following scale:  
 Final Exam 20%  
 Tests and Quizzes 10%

Presentations 40%  
 Class Participation 20%  
 Homework 10%

**欠席について**  
 As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

**テキスト**  
 Longman Cutting Edge Starter, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

**参考図書**  
 Will be assigned as needed

**留意事項**  
 Active Participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 401	401-1春/401-2/401-3/401-4	13927	Ⅱ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
木下 奈美／石原 敬子／後藤 江里	必修	2			

### 授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including understanding meaning from context, compound words, prefixes, and collocations.

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 8 Can You Live Forever?
3. Chapter 8 Can You Live Forever?
4. Chapter 9 Baseball Fans Around the World
5. Chapter 9 Baseball Fans Around the World
6. Chapter 10 Mobile Phones: Hang up or Keep Talking?
7. Chapter 10 Mobile Phones: Hang up or Keep Talking?
8. Mid Term
9. Chapter 11 Vanessa-Mae: A 21st Century Musician
10. Chapter 11 Vanessa-Mae: A 21st Century Musician
11. Chapter 12 A Day in the Life of a Freshman
12. Chapter 12 A Day in the Life of a Freshman
13. Chapter 13 Love at First Sight
14. Chapter 13 Love at First Sight
15. Review

### 授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%

Tests and Quizzes 30%  
Class Participation 20%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Oxford Select Readings Pre-Intermediate, 2nd edition. Linda Lee & Erik Gundersen  
Oxford Bookworms Anne of Green Gables by L.M. Montgomery

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active Participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 401	401-5	13927	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
國本 恵理香	必修	2			

### 授業の到達目標

This class will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, locating supporting details, inferences, and word forms.

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 11 A Very Able Man
3. Chapter 11 A Very Able Man
4. Chapter 11 A Very Able Man
5. Chapter 11 A Very Able Man
6. Chapter 12 Protecting Cultural Traditions
7. Chapter 12 Protecting Cultural Traditions
8. Chapter 12 Protecting Cultural Traditions
9. Chapter 12 Protecting Cultural Traditions
10. Mid Term
11. Chapter 13 Emergency in the Air
12. Chapter 13 Emergency in the Air
13. Chapter 13 Emergency in the Air
14. Chapter 13 Emergency in the Air
15. Review

### 授業の方法

Students will work on activities from the textbook in pairs, groups and alone.

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%

Tests and Quizzes 30%  
Class Participation 20%  
Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Oxford Select Readings Elementary 2nd edition, Linda Lee  
Oxford Bookworms A Little Princess by Hodgson Burnett retold by Jennifer Bassett

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active Participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 402	402-1春/402-2/402-3/402-4	13929	Ⅱ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Andy RUSHTON/James C. JENSEN/Angus HALL	必修	2			

### 授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 7 Classifying classmates
3. Unit 7 Classifying classmates
4. Unit 8 The job interview
5. Unit 8 The job interview
6. Unit 9 Personal goals
7. Unit 9 Personal goals
8. Mid Term
9. Unit 10 Architect
10. Unit 10 Architect
11. Unit 11 My role models
12. Unit 11 My role models
13. Unit 12 Be a reporter
14. Unit 12 Be a reporter
15. Review

### 授業の方法

Students will work in groups and individually

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report 20%  
Tests and Quizzes 10%  
Class Participation 20%  
Homework 50%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Cambridge Writing from Within Level 2, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active Participation is essential

基礎科目 <コア・イングリッシュ>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 402	402-5	13929	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
James C. JENSEN	必修	2			

### 授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, and understand and utilize the writing process.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 10 Superhero powers
3. Unit 10 Superhero powers
4. Unit 10 Superhero powers
5. Unit 10 Superhero powers
6. Unit 11 Advertisements
7. Unit 11 Advertisements
8. Unit 11 Advertisements
9. Unit 11 Advertisements
10. Mid Term
11. Unit 12 Lessons learned
12. Unit 12 Lessons learned
13. Unit 12 Lessons learned
14. Unit 12 Lessons learned
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report 20%  
Tests and Quizzes 10%  
Class Participation 20%  
Homework 50%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Cambridge Writing from Within Level 1, 2nd edition. Curtis Kelly & Arlen Gargagliano

### 参考図書

Will be assign as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 403	403-1春/403-2/403-3/403-4	13931	Ⅱ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
和泉 有香／後藤 江里／佐伯 瑠璃子	必修	2			

### 授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality, intelligence and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: the passive, noun clauses, and adjective clauses

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 11 (THE PASSIVE): Active vs. passive
3. Chapter 11 Tense form of the passive, Using the passive
4. Chapter 11 The passive form of modals and phrasal modals
5. Chapter 12 (NOUN CLAUSES): Noun clauses with question words
6. Chapter 12 Question words followed by infinitive
7. Chapter 12 Noun clauses with that
8. Mid Term
9. Chapter 12 Quoted speech, Reported speech
10. Chapter 12 The subjunctive in noun clauses
11. Chapter 13 (ADJECTIVE CLAUSES): Used as the subject
12. Chapter 13 Used as the object of a verb
13. Chapter 13 Using whose/where/when
14. Chapter 13 Using whose/where/when
15. Review

### 授業の方法

Students will work in groups and individually

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%  
Tests and Quizzes 30%

Class Participation 20%

Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Pearson Understanding and Using English Grammar, 5th edition. B.A. Azar & S.A. Hagen

### 参考図書

Will be assigned as required

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈コア・イングリッシュ〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Grammar 403	403-5	13931	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
後藤 江里	必修	2			

### 授業の到達目標

In this class, students will strengthen their sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion, learners will be able to comprehend and use: count and non count nouns, the future tense,

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 10 Future Time, Part 1
3. Chapter 10 Future Time, Part 1
4. Chapter 10 Future Time, Part 1
5. Chapter 10 Future Time, Part 1
6. Chapter 11 Future Time, Part 2
7. Chapter 11 Future Time, Part 2
8. Review
9. Mid Term
10. Chapter 7 Count and Non-count Nouns
11. Chapter 7 Count and Non-count Nouns
12. Chapter 7 Count and Non-count Nouns
13. Chapter 7 Count and Non-count Nouns
14. Chapter 7 Count and Non-count Nouns
15. Review

### 授業の方法

Students will work in groups and individually

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Final Exam 40%  
Tests and Quizzes 30%  
Class Participation 20%

Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Pearson, Basic English Grammar, 4th edition. B.S. Azar & S.A. Hagen

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ精神論			13272	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
國本 恵理香	必修	2	ホテル勤務			

### 授業の到達目標

ホスピタリティという単語は、「もてなし」「思いやり」「気配り」「歓待」という言葉で説明されているが、この言葉はそのような表面的な説明では網羅しきれない深い意味を持っている。それは人間精神にかかわるもので、単なるマナーや知識、技能ではなく、人に幸せを与えるもので、その真髄は、自分と他者を尊重し、大切にするという人間愛が基本にある。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を目指す。

### 授業の概要

最初に「ホスピタリティ」という言葉の語源とその内容の起源について学んだ後、この概念の東西文化圏における考え方や実践について概観する。授業の中盤に入って、ホスピタリティを日常生活の中で生きている私たちに視点を移して考察し、日本におけるホスピタリティの伝統を、「もてなし」、慣習、食文化、茶道という局面から学ぶ。授業の後半は、現代のホスピタリティ産業の代表である飲食業、宿泊業及びディズニーランドにおけるホスピタリティのあり方を検討する。

### 授業計画

1. ホスピタリティの語源
2. ホスピタリティの起源
3. 古代西洋・キリスト教のホスピタリティ文化
4. イスラム教のホスピタリティ文化
5. 古代東洋のホスピタリティ文化—儒教及びヒンドゥー教
6. 日本のもてなし文化
7. 日本の慣習とホスピタリティ 慶事及び結婚におけるホスピタリティ
8. 日本の慣習とホスピタリティ 葬儀及び祭りにおけるホスピタリティ
9. 「おくりびと」に見るホスピタリティ
10. 日本の食文化とホスピタリティ
11. 日本のホスピタリティ文化—茶道の精神
12. レストランと食事の国際慣習におけるマナー
13. 宿泊業におけるホスピタリティ
14. ディズニーランドにおけるホスピタリティ
15. ホスピタリティ精神論のまとめ・定期試験

### 授業の方法

パワーポイントを使用した講義形式が中心となるが、授業中にグループで話し合うなど、ディスカッションも取り入れる。DVDを1回見る。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%（レポート含む）、定期試験50%

### 欠席について

欠席は1回につき、平常点と定期試験より算出した評価点から2点減点とする。

### テキスト

各回授業中にプリントを配布する。

### 参考図書

服部勝人「ホスピタリティ学のすすめ」〔ホスピタリティ・マネジメント学原論〕（丸善株式会社）  
 塹江隆「ホスピタリティと観光産業」（文理閣）  
 福島文二郎「ディズニーのホスピタリティ」（中経出版）  
 山上徹「ホスピタリティ精神の深化」（法律文化社）  
 高野 登「ホスピタリティノート」（かんき出版）

基礎科目〈異文化理解〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
異文化理解			13409	I/II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

### 授業の到達目標

世界の文化の多様性や異文化コミュニケーションの現状と課題を理解する。また、英語が使われている国・地域の歴史・社会・文化についての理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

多様な文化的背景を持つ複数のゲストスピーカーを講師に引き、習慣や行動、その背景にある価値観などを学ぶ。また、グループで様々な国・地域の歴史・社会・文化の特徴について発表し、全体で討議することを通して、国際理解を深める。

### 授業計画

1. 受講のガイダンス、文化摩擦を生む原因とカルチャーショック
2. 異文化理解の知識、文化とは何か
3. 異文化理解の知識、必要な文化情報
4. 多様な価値観の理解
5. 異文化間コミュニケーション
6. 衣食住の文化
7. 人間関係の文化
8. 遊びと仕事の文化
9. イスラム世界の文化と価値観
10. 世界史の中の英語と文化、アングロサクソン民族の形成
11. 世界史の中の英語と文化、イギリスとアメリカの違い
12. 国際理解: 国・地域別グループ課題の発表と討議(ヨーロッパ)
13. 国際理解: 国・地域別グループ課題の発表と討議(北アメリカ)
14. 国際理解: 国・地域別グループ課題の発表と討議(オセアニア)
15. 国際理解: 国・地域別グループ課題の発表と討議(アジア・アフリカ) 全体のまとめ

### 授業の方法

講義を中心とするが異文化理解の課題についてグループディスカッションを取り入れる。

### 準備学修

WEBで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点（70%）、定期試験（30%）

### 欠席について

特別の理由のない欠席は減点する。その他は学則に従う。

### テキスト

『異文化理解のストラテジー』（最新版） 佐野正之・水落一朗・鈴木龍一著 大修館書店

### 参考図書

必要に応じて授業前、または授業中に適宜紹介する。

### 留意事項

異文化理解のコミュニケーション能力として日本の文化を英語で伝えられる勉強も望まれる。

### 教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学入門			13413	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	必修	2				

### 授業の到達目標

長い歴史と伝統を持つイギリスと近代になってから成立したアメリカそれぞれの文学の世界に対する理解を深め、人間の生きる世界の多様性を学ぶとともに異文化理解の複合的視点を養うことを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

イギリス文学とアメリカ文学を中心に英語文学の歴史的、文化的、社会的背景を概観し、それぞれの時代と文化が反映された主要な文学作品を鑑賞する。同時に、詩や演劇、小説、随筆など多様な作品を鑑賞することにより、豊かな人間の想像力や内面の世界に触れ、英米文学作品の持つ面白さを味わう。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. イギリス: 古英語・中英語の文学、ルネサンスの散文と詩
3. ルネサンスの演劇、シェイクスピア(創作第一期から第二期)
4. シェイクスピア(創作第三期)、王政復古後の文学
5. 小説の誕生、ロマン主義時代の詩
6. ヴィクトリア朝の小説(大都市が舞台)
7. ヴィクトリア朝の小説(大都市、地方都市が舞台)
8. ヴィクトリア朝の小説(地方都市が舞台)と詩
9. 20世紀以降の詩と小説
10. アメリカ: ロマンティシズム時代の文学(独立革命前後)
11. ロマンティシズム時代の文学(アメリカン・ルネッサンス)
12. リアリズム時代の文学(辺境消滅から第一次大戦まで)
13. リアリズム時代の文学(第一次大戦から第二次大戦まで)
14. リアリズム時代の文学(第二次大戦以降)
15. 現代アメリカ文学、その他の英語文学

### 授業の方法

講義を中心に、レポート提出や発表を多く取り入れる。

### 準備学修

初回講義時に配布するスケジュール表・作品リストに沿って作品を

読み、期日までにレポートを二回提出すること。講義の中でフィードバックを行う。課題のレポート提出は期日厳守。遅れた場合には受け付け不可。また教科書は指示された範囲を必ず読んでおくこと。

### 課題・評価方法

平常点30%、レポート40%、定期試験30%

### 欠席について

出席点は平常点の10%とし、欠席は1回につき2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

### テキスト

川崎寿彦『イギリス文学史入門』研究社、1986。他にハンドアウトを配布する。

### 参考図書

大橋吉之輔『アメリカ文学史入門』研究社他、毎回のハンドアウトで紹介する。

### 留意事項

授業が始まるまでに下記の何れかに目を通しておくこと。河野哲也著『レポート・論文の書き方入門 第3版』慶応義塾大学出版会、2010年。小笠原喜康著『新版 大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2009年。澤田昭夫著『論文の書き方』講談社学術文庫、1991年。

### 教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばと社会			13405	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

### 授業の到達目標

ことばと社会の関係を学び、ことばの使われ方やことばを使う人々に対する関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

社会は多様なものであり、その多様な社会と接触する言語にはいったいどのようなものがあり、その言語社会に暮らす人々は、どのようにしてそれらの言語を使い分けるのか。共通の言語をもたない人同士、異なる地域・社会階級・性・年齢に属する人々は、どのようにコミュニケーションをし、影響し合っているのかを学ぶ。言語を中心に、身の回りの社会から世界まで、大きな視野を持つことを目指す。

### 授業計画

1. 社会言語学とは何か
2. 言語の選択(1): 多言語社会、ダイグロッシア
3. 言語の選択(2): ドメイン
4. 言語の選択(3): 二言語話者とコードスイッチング
5. 言語の選択(4): ビジンとクレオール
6. 言語のバリエーション(1): ウィリアム・ラボフの古典的研究
7. 言語のバリエーション(2): 方言
8. 言語のバリエーション(3): 地域方言とはなにか
9. 言語のバリエーション(4): 社会方言とはなにか
10. 振り返り
11. 言語のバリエーション(5): 黒人英語
12. 言語のバリエーション(6): 国家と言語
13. 言語のバリエーション(7): ジェンダーと言語
14. 言語のバリエーション(8): 年齢と言語
15. まとめ

### 授業の方法

講義を聞き、学生間のコミュニケーションなどを通してワークシートを完成させる。自身の考えや調べたことを発表する。

### 準備学修

授業前にはテキストの指定された箇所を読み予習を行う。また、授業後にはハンドアウトで授業内容を復習した上で再度テキストを読み返し理解を深める。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

### テキスト

東照二『社会言語学入門(改訂版) 一生涯の言葉のおもしろさに迫る』(研究社) 適宜ハンドアウトを配布する。

### 参考図書

授業中に随時紹介する。

### 留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

### 教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
日本文化論			13273	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	必修	2				

### 授業の到達目標

日本文化、特に古典芸能を理解し、その概要を語れるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI n(国際性)とI(知性)とを養う。

### 授業の概要

芸能は地域に根差し発展する。まずは、各芸能を、身近なものとして考察したい。そして、現代において、各芸能がどのような発展をしているかを、ときに映像資料を用いて確認する。随時関西で上演される芸能を紹介するので、受講中に実際に劇場に足を運んでもらいたい。

### 授業計画

1. 落語 その老 「寿限無」「芝浜」
2. 落語 その式 英語落語の可能性・「鷺取り」
3. 落語 その参 創作落語・グリム童話「死神の名づけ親」と落語「死神」
4. 落語 その四 女性落語家の活躍 落語「花嫁修業」
5. 歌舞伎 その老 日本作品を海外へ:和事歌舞伎の新演出 故中村勘三郎の「夏祭浪花鑑」ニューヨーク公演
6. 歌舞伎 その式 海外作品を日本へ:NINAGAWA歌舞伎シェークスピア「十二夜」
7. 歌舞伎 その参 現代歌舞伎:シネマ歌舞伎の可能性「阿弓流為」
8. 歌舞伎 その四 江戸荒事と上方和事:市川團十郎「勸進帳」と坂田藤十郎「藤十郎の恋」
9. 歌舞伎 その五 その他の古典芸能の影響 「鏡獅子」・「棒縛り」
10. 狂言 「附子」大蔵流茂山狂言と和泉流野村狂言
11. 能 その老 能「鉄輪」と野村萬斎主演映画「陰陽師」と丑の刻詣り
12. 能 その式 能「鉄輪」における、シテ方・ワキ方・狂言方
13. 文楽 その老 「曾根崎心中」
14. 文楽 その式 三谷幸喜による「其成礼心中」
15. 文楽 その参 「瓜子姫とあまんじゃく」

### 授業の方法

講義が中心となるが、その他に実際に古典芸能を鑑賞する。

### 準備学修

Web参照すること。

### 課題・評価方法

毎回、授業内小レポートを提出する。このレポートは、次の週に教員が評価して返却する。平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

毎回、授業内小レポートを提出するため、欠席の場合はこのレポート点も減点となる。

### テキスト

随時紹介する

### 参考図書

随時紹介する

### 留意事項

実際に古典芸能に触れる時間を持つ。

### 教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
コミュニケーションと文化			13419	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

### 授業の到達目標

ことばの意味と文化の関係、様々なかたちで伝えられることばから読み取ることができるその意味や文化を学び、ことばの意味と文化の関係についての関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

私たち人間はこれまでことばと共に進化し、文化を形成してきた。つまり私たちの生活や文化からことばを切り離すことは出来ない。私たちが普段当たり前に目にし、耳にしていることばの意味を探りそこにある文化について共に考えたい。また、同時に異文化理解へのアプローチの一端として、日英の比較を元に文化の類似点や相違点をことばの側面から探り、他文化への関心を深めたい。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. ことばと文化(1):意味とは何か
3. ことばと文化(2):文化とは何か
4. ことばと文化(3):言語とは何か
5. コミュニケーション(1):ことばとコミュニケーション
6. コミュニケーション(2):コミュニケーションの性質と要素
7. コミュニケーション(3):言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
8. 振り返り
9. 異文化コミュニケーション(1):異文化をどう捉えるか
10. 異文化コミュニケーション(2):異文化適応のプロセス
11. 異文化コミュニケーション(3):文化とコミュニケーション
12. 言語運用と意味(1):発話の意味
13. 言語運用と意味(2):会話の含意
14. 言語運用と意味(3):ポライトネス
15. まとめ

### 授業の方法

講義形式をとる。また、毎回テーマにあわせた質問事項を提示し、それに対する回答を必須とする。それを元に共に考え、意見交換をする。積極的な授業への参加が求められる。

### 準備学修

事前学習では、授業の最後に出題される課題について考えてくること。また事後学習では、授業で配布した資料を元に、授業内容を必ず復習すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

### テキスト

使用しない。毎回資料配布を行う。

### 参考図書

授業内で適宜紹介する

### 留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

### 教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈基幹基礎〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ことばの意味・文化			13417	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	必修	2				

### 授業の到達目標

ことばの意味と文化の関係、様々なかたちで伝えられることばから読み取ることができるその意味や文化を学び、ことばの意味と文化の関係についての関心を高める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

私たち人間はこれまでことばと共に進化し、文化を形成してきた。つまり私たちの生活や文化からことばを切り離すことは出来ない。私たちが普段当たり前目にし、耳にしていることばの意味を探りそこにある文化について共に考えたい。また、同時に異文化理解へのアプローチの一端として、日英の比較を元に文化の類似点や相違点をことばの側面から探り、他文化への関心を深めたい。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. ことばと文化(1): 意味とは何か
3. ことばと文化(2): 文化とは何か
4. ことばと文化(3): 言語とは何か
5. コミュニケーション(1): ことばとコミュニケーション
6. コミュニケーション(2): コミュニケーションの性質と要素
7. コミュニケーション(3): 言語コミュニケーション・非言語コミュニケーション
8. 振り返り
9. 異文化コミュニケーション(1): 異文化をどう捉えるか
10. 異文化コミュニケーション(2): 異文化適応のプロセス
11. 異文化コミュニケーション(3): 文化とコミュニケーション
12. 言語運用と意味(1): 発話の意味
13. 言語運用と意味(2): 会話の含意
14. 言語運用と意味(3): ポライトネス
15. まとめ

### 授業の方法

講義形式をとる。また、毎回テーマにあわせた質問事項を提示し、それに対する回答を必須とする。それを元に共に考え、意見交換をする。積極的な授業への参加が求められる。

### 準備学修

事前学習では、授業の最後に出題される課題について考えてくると。また事後学習では、授業で配布した資料を元に、授業内容を必ず復習すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

### テキスト

使用しない。毎回資料配布を行う。

### 参考図書

授業内で適宜紹介する

### 留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

### 教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
翻訳・通訳論入門			13301	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	劇団通訳、全国通訳案内士(英語)			

### 授業の到達目標

英語と日本語という構造の全く異なった2言語の中に共通点を見出し、特に英語知識の深化を図ることにより、文字と音声において2言語を自由に行き来する能力を身につける。また日本と日本文化への理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)の涵養を目指す。

### 授業の概要

単なる「英文和訳」・「和文英訳」ではない翻訳技術・通訳技術の基本を身につける。

### 授業計画

1. Introduction, Unit 1 家族
2. Unit 2 大学生活
3. Unit 3 趣味(スポーツ、音楽、読書)
4. Unit 4 海外文化
5. Unit 5 国際交流(1) 実践演習1
6. Unit 6 国際交流(2) 実践演習2
7. 復習
8. Unit 7 日本の文化(和食、温泉、回転寿司)
9. Unit 8 数字で説明する私たちの世界
10. Unit 9 観光
11. Unit 10 社会事情1 少子高齢化
12. Unit 11 社会事情2 都市化と過疎化
13. Unit 12 コミュニケーション
14. 実践演習3
15. 総復習、通訳・翻訳発表、期末考査

### 授業の方法

大量の演習が中心となる。なお授業計画については柔軟に対応する。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

### テキスト

Developing Interpreting Skills for Communication Revised Edition (南雲堂)、必要に応じてオリジナルプリント

### 参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

### 留意事項

英和辞書(紙版、電子辞書いずれでも可)を必ず持参すること。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語学概論			13713	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

### 授業の到達目標

本講義は英語の成り立ちや英語の仕組みを幅広く理解することを目的とし、英語を科学的にひもといていく。KAISEIパーソナリティーのIn(国際性)を養うと同時に、より理解を深めるためのグループワークを通してK(思いやり)を学ぶ。

### 授業の概要

英語学の分野で取り扱われている研究領域全体を次の授業計画に従って概観する。英語が人と歩んできた歴史とその今、語や文の構造や仕組み、英語が伝える意味について講義をする。基本的に講義形式をとるが、より深い理解のため、様々な理論を踏まえながらグループワークやディスカッションを通して考える。

### 授業計画

- 1.オリエンテーション 授業の進め方や履修条件、言語学研究の概説を行います。
- 2.英語史(1) 英語の成り立ちから現在までの歴史を概観、古期英語
- 3.英語史(2) 中期英語・近代英語
- 4.世界の中の英語 世界で使用される英語、現在の国際共通語として使用されている英語
- 5.音韻論(1) 発音する際の身体の器官、英語の音の構造
- 6.音韻論(2) 英語の音の構造
- 7.形態論(1) 分野の概観
- 8.形態論(2) 語の内部構造、語形成のパターン
- 9.統語論(1) 分野の概観
- 10.統語論(2) 文構造とそのパターン
- 11.意味論(1) 分野の概観
- 12.意味論(2) 語の意味と文の意味の関連
- 13.語用論(1) 分野の概観
- 14.語用論(2) 言葉の意味と話し手の意図
- 15.振り返り

### 授業の方法

講義を聞き、学生間のコミュニケーションなどを通してワークシートを完成させる。自身の考えや調べたことを発表する。

### 準備学修

授業前にはテキストの指定された箇所を読み予習を行う。また、授業後にはハンドアウトで授業内容を復習した上で再度テキストを読み返し理解を深める。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき出席点より4点減点する。遅刻・早退も減点対象。

### テキスト

稲木昭子、堀田知子、沖田知子『新・えいご・エイゴ・英語学』(松柏社)  
その他適宜プリントを配布

### 参考図書

影山太郎、日比谷潤子、プレント デ・シェン 著『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』(くろしお出版)

### 留意事項

クラスへの積極的参加、予習・復習が求められる。

### 教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	ET		13501	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子／箕野 聡子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「社会」)(箕野) 私立中学高等学校教員(科目「英語」)(宮副)			

### 授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけることも観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI(知性)を養う。(箕野)

すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティーのA(自律)とI(知性)、In(国際性)を養う。(宮副)

### 授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。(箕野)

児童文学の歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外では、フランスの1作品を鑑賞する。(宮副)

### 授業計画

- 1.巖谷小波「日本昔噺其一桃太郎」
- 2.浜田広介「泣いた赤鬼」
- 3.宮沢賢治「注文の多い料理店」
- 4.坪田譲治「河童のはなし」
- 5.有島武郎「一房の葡萄」
- 6.与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
- 7.松谷みよ子「貝になった子供の話」
- 8.まとめと試験
- 9.ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』
- 10.ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』とナーサリーライム
- 11.R.L.スティーブenson『宝島』
- 12.L.F.ボーム『オズの魔法使い』
- 13.L.M.オルコット『若草物語』
- 14.ベアトリクス・ポター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本

- 15.アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

### 授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像作品の鑑賞も行う。

### 準備学修

Web参照すること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。

### 欠席について

規定に従う。

### テキスト

随時、プリントを配布する。(箕野)  
『たのしく読める英米児童文学』本多英明/桂宥子/小峰和子編著 ミネルヴァ書房(宮副)

### 参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

### 教員連絡先

mino@kasei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ (海外)			13967	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐伯 瑠璃子	選択	2				

### 授業の到達目標

海外で就業体験をすることで、自国の文化のみならず他国の文化をも理解し、異文化との交流を通してグローバルな精神を培い、相手の考えに耳を傾け、自分の意見を発信しながらコミュニケーション能力を高める。実践的な活動を通し、将来の職業選択に備え自らの適性・能力を知る機会とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)、In(国際性)とS(奉仕)を養う。

### 授業の概要

興味のある学生は各担当教員に問い合わせてください。  
【アシスタント・ティーチャープログラム】  
カリフォルニア州トランス市にある公立小学校で、専任教員のアシスタントとして子どもたちの指導に携わる。  
・対象学科・学年：ET学科、PC学科2年次生以上  
・期間：春季休暇中10日間以上  
・委託機関：ライトハウス  
・担当：酒井  
【イベントコース：まつりインハワイ】  
「まつりインハワイ」の運営業務、「旅行管理主責任・取得研修」プログラム。  
・対象学科・学年：ET学科2年次生以上  
・期間：6月中旬の1週間と国内における3回の事前研修  
・委託機関：近畿日本ツーリスト  
・担当：石原  
【観光ビジネスコース】  
ハワイ州の観光業、ウェディング業、教育業などで、インターンシップを体験する。  
・対象学科・学年：ET学科2年次生以上  
・期間：夏季休暇もしくは春季休暇を利用して3～4週間  
・委託機関：一般社団法人日本国際人材育成協会、他米国NPO法人  
・担当：佐伯

### 授業計画

1. 事前学習
2. 事前学習
3. 現地実習
4. 現地実習

5. 現地実習
6. 現地実習
7. 現地実習
8. 現地実習
9. 現地実習
10. 現地実習
11. 現地実習
12. 現地実習
13. 現地実習
14. 現地実習
15. ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)及び発表

### 授業の方法

各自に設定されたプログラムに従うインターンシップ

### 準備学修

原則としてTOEIC400点以上を取得し、プログラム参加に必要な最低限の英語力をつけておくこと。

### 課題・評価方法

課題は委託機関の基本方針に基づいて実施され、詳細は委託機関及び本学による。  
各々のインターンシップは以下のプログラムによって構成される。  
①2～3回の事前学習(英語研修や実習準備など)  
②現地実習  
③ポートフォリオの提出(日報、レポートなど)と発表

### 教員連絡先

saeki@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光概論			13426	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	必修	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

そもそも観光とは何か。観光の始まりと現代社会での観光の役割を学ぶ。従来の観光を単なる物見遊山と見るのではなく、学問的視点から捉えていく。観光学の入門講座である。観光概論において履修者の到達目標は、①観光「Tourism」を理解する②観光の歴史を理解する③観光の背景と文化を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養う。

### 授業の概要

観光とは何か。観光の成り立ちから現代までの観光に関する基礎的な知識を学ぶ。特に、地域観光における歴史、文化の変遷を基本として講義は進められる。その上で、観光が果たす役割や、地域への影響を考え、観光の重要性を理解する。観光概論は歴史、経済、法律、心理、産業等幅広い内容で講義される。

### 授業計画

1. ガイダンス
  2. 観光の意味と語源
  3. 観光史:ヨーロッパにおける旅と観光
  4. 観光史:日本の旅と文化
  5. 観光史:昭和から平成、その社会と観光
  6. 観光と行政:日本の観光の仕組みと観光行政
  7. 観光と地域文化:観光資源と地域文化
  8. 観光経済:観光における経済的役割
  9. 観光心理:観光の心理学的考察
  10. 観光と交通:鉄道事業と国内観光
  11. 国際観光の役割:航空業とグローバル社会
  12. 観光と宿泊業:宿の歴史と世界のホテル業
  13. 交流型観光:旅行業の歴史と仕組み、モノからコトへ
  14. 観光とテーマパーク:余暇の過ごし方とテーマパーク
  15. 地域社会とITC
- 総括試験

### 授業の方法

テキストとパワーポイントを併用して講義する。講義だけでなくグループディスカッションも取り入れていく。

### 準備学修

図書館に定期購読されている「観光経済新聞」や旅関連の雑誌等を読んでおくこと。

### 課題・評価方法

課題30% 統括試験70%

### 欠席について

本学の規定通り。

### テキスト

白土健他『新観光を学ぶ』八千代出版 2017

### 参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社  
岡本伸之『観光学入門』有斐閣  
北川宗忠『現代の観光事業』ミネルヴァ書房  
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社

### 留意事項

観光領域の基礎科目である。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
国際観光交流論			13427	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
青木 幹生	選択	2	旅行会社、ホテル、海外添乗、海外駐在、通訳ガイド			

### 授業の到達目標

観光先進国フランスの現状を学び、フランスと比較しながら日本の観光行政、観光資源・宿泊・交通・見本市・国際会議場・エンターテインメントなどの各インフラの問題点を探る。  
このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。  
世界観光機関(UNWTO)や国土交通省、観光庁のデータをもとにフランス、イタリア、スペイン、アメリカなどの先進事例を参照し日本の現状と今後の歩むべき方向を考える。

### 授業の概要

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を養う。視座を観光先進国フランスおよびヨーロッパの観光先進国に定め日本の観光資源・観光行政・観光産業を俯瞰する。世界観光機構(UNWTO)、OECD、日本の観光庁などのデータを基に日本の観光政策、国際観光、Two-way Tourismの意味、Outbound、Inboundの健全なバランス、Tourism Exchangeの実例、国際交流の意義を理解する。

### 授業計画

1. 国際観光交流論概要、フランスはどのような国か？観光立国とは何か、シラバス概要、教科書、評価方法、講師プロフィール
2. 観光大国を支える組織ー観光行政の組織
3. 観光大国フランスから学ぶこと。観光産業の地位、産業としての国際観光
4. フランスの魅力、日本の魅力、外国人からみた日本の魅力と問題点。クールジャパン
5. 国際観光客到着数ランキング、外客誘致法、ウエルカムプラン21、新ウエルカムプラン、ビジットジャパンキャンペーン
6. フランス人のバカンス実態、バカンスを支える制度、OECD先進国のバカンスと労働時間
7. 日本の余暇事情、休暇に対する日本人の考え方、労働時間の国際比較、日本の労働問題、観光大国の条件
8. ヨーロッパの出国率、日本の出国率、低迷する日本のアウトバウンド
9. 国際観光交流と観光産業、MICE、おもてなし、国際会議場、Two-way tourism 21
10. フランスの観光関連インフラ(宿泊、交通、見本市・国際会議場)
11. 国際観光交流とはなにか。姉妹都市、音楽祭、映画祭、フェスティバル、スポーツイベント

12. 観光産業とIT革命、マルチメディアとツーリズム
13. 持続可能な開発、環境とツーリズム、オーバーツーリズム問題
14. フランスの問題点、まとめ(結論)
15. 総まとめの後定期試験60分

### 授業の方法

教科書を必ず一読しておくこと。煩雑なデータは無視して最後まで読み通しアウトラインを理解しておくことが重要。国際性を養うため海外からの目線で日本を客観視する習慣を身につける。

### 準備学修

各種メディアを通じて日ごろから世界や日本の観光業界の動きなど情報収集すると楽しく学ぶことができる。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

止むを得ない欠席以外は認めない。授業中の活動に重点を置いてるので、遅刻、欠席は減点の対象になる。

### テキスト

観光大国フランスーゆとりとバカンスの仕組みー(現代図書) 青木幹生著 教室で直接販売する。割引価格2000円

### 参考図書

『平成24、25、26年度版観光白書』国土交通省編  
『やさしい国際観光』財団法人国際観光サービスセンター、岐部武、原 祥隆著

### 留意事項

与えられた課題に取り組み結果を教室でグループ発表してもらう。双方向の裏りある授業を目指したい。

### 教員連絡先

aokimikio@aol.comまたはaokimikio0915@gmail.com

### オフィスアワー

出講日の講義前後の時間

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光文化地理論			13838	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	必修	2	旅行会社勤務			

### 授業の到達目標

海外旅行地理の基礎と海外の国々の観光・歴史・宗教・文化に関する知識を学び、このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

海外の国々を、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ、オセアニア、中東、アフリカ等に分けて、世界の国、都市、地域、島、観光ポイントなどの必修知識を学習する。また同時に地図、写真、動画などのビジュアル資料から現地情報を学習する。

### 授業計画

1. [アジア] 韓国・台湾・中国
2. [アジア] 香港・マカオ・モンゴル・フィリピン
3. [アジア] ベトナム・ミャンマー・カンボジア・タイ
4. [アジア] マレーシア・シンガポール・インドネシア・インド・ネパール
5. [アジア] スリランカ・モルディブ・パキスタンアフガニスタン・カザフスタン・ウズベキスタン・その他の国々
6. [ヨーロッパ] 英国・アイルランド・ベルギー・オランダ
7. [ヨーロッパ] アイスランド・ノルウェー・スウェーデン・フィンランド・デンマーク・ドイツ
8. [ヨーロッパ] スイス・オーストリア・リヒテンシュタイン・フランス・モナコ
9. [ヨーロッパ] イタリア・バチカン市国・マルタ・スペイン・ポルトガル・ギリシャ
10. [ヨーロッパ] ポーランド・チェコ・ハンガリー・ブルガリア・ルーマニア・ロシア・その他の国々
11. [南北アメリカ] 米国・カナダ
12. [南北アメリカ] メキシコ・キューバ・ベルー・ブラジル・アルゼンチン・その他の国々
13. [オセアニア] オーストラリア・ニュージーランド・グアム・フィジー・その他の国々
14. [中東・アフリカ] トルコ・イスラエル・アラブ首長国連邦・エジプト・南アフリカ・その他の国々
15. 「総括」と試験

### 授業の方法

学習内容とリンクして、問題集や地図・写真・動画などのビジュアル資料を通して現地情報を学習する。

### 準備学修

事前に指示された箇所を予習、復習してくること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

### テキスト

『海外旅行実務 海外観光資源』JTB総合研究所  
『海外観光地理 サブノート』JTB総合研究所

### 留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

### 教員連絡先

sam@alohawalker.net

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ハワイ文化研究			13965	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	選択	2	旅行会社勤務			

### 授業の到達目標

ハワイの文化を研究する上で、文化を育んだハワイの歴史とその背景を学び、文化が伝わるプロセスと様々なハワイ特有の文化を学び理解をより深める。またハワイの精神である「アロハスピリット」を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

授業のテーマに関連した講義の他に、ビジュアルやビデオなどを用いてハワイ文化を視覚的に学習する。また小テストや問題集などを取り入れて、ポイントとなる箇所を復習する。

### 授業計画

1. ハワイの歴史(1) ポリネシア文化圏とハワイ諸島の誕生
2. ハワイの歴史(2) ハワイの信仰と神話
3. ハワイの歴史(3) ハワイ王国の歴史
4. ハワイの歴史(4) ハワイのフラの歴史 古典フラと現代フラ
5. ハワイの歴史(5) 日本人移民の歴史
6. ハワイの歴史(6) 戦時下の日系人
7. ハワイの歴史(7) 戦後のハワイと観光王国ハワイ
8. ハワイの言語(1) ハワイ語の基礎知識
9. ハワイの言語(2) ハワイ語の会話
10. ハワイの言語(3) ハワイアンソングに使われる単語
11. ハワイの文化(1) ハワイの食文化と暮らしの習慣
12. ハワイの文化(2) ハワイの伝統工芸
13. ハワイの文化(3) ハワイのミュージックとフェスティバル
14. ハワイの文化(4) ハワイの伝統文化継承と自然保護
15. 総括 & 試験

### 授業の方法

講義とビジュアルプレゼンテーションや小テストを中心とする。

### 準備学修

事前に指示されたテーマについて、予習、復習してくること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

### テキスト

なし

### 留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

### 教員連絡先

sam@alohawalker.net

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーション I			13428	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
若生 茂嗣／大川 能子	選択	1				

### 授業の到達目標

- ・ 外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
  - ・ 聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
  - ・ 手話で自己紹介が出来るようにする。
  - ・ 簡単な会話が出来るようにする。
- このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

### 授業の概要

- ・ 音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・ 手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・ 聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・ 聴覚障害者の聞こえのしくみと制度を学ぶ。
- ・ 手話で自己紹介する。
- ・ 基本的な会話手話を習得する。
- ・ レクリエーション

### 授業計画

1. オリエンテーション「聞こえないこととは」「コミュニケーションとは」/手話表現/指文字
2. 実技（伝え合ってみよう）
3. DVD映画「ゆずり葉」鑑賞
4. 実技（名前）
5. 聴覚障害者の課題1
6. 実技（趣味）
7. 実技（仕事）
8. 聴覚障害者の課題2
9. 実技（家族）
10. 実技（地図1）
11. 聴覚障害者の課題3
12. 実技（地図2）
13. 実技（自己紹介しましょう）
14. 実技試験
15. まとめ

### 授業の方法

DVDを使って進める。  
視覚的ゲーム  
手話実技・講義

### 準備学修

単語学習

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

校規に従う。

### テキスト

手話奉仕員養成テキスト 手話を学ぼう 手話で話そう（全国手話研修センター）

### 参考図書

日本語・手話辞典

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
手話コミュニケーションⅡ			13429	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
若生 茂嗣／大川 能子	選択	1				

### 授業の到達目標

- ・ 外見から分かりにくい聴覚障害者の暮らし、歴史などを学ぶ事によって同じ社会に生きる事を学ぶ。
  - ・ 聞こえないという事を理解し、接し方やコミュニケーション方法を習得する。
  - ・ 手話で会話ができるようにする。
  - ・ 講師の手話が理解でき、聴覚障害者と交流ができるようにする。
  - ・ 全国手話検定5級取得
- このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）を養う。

### 授業の概要

- ・ 音声言語と視覚言語の違いを理解する。
- ・ 手話を言語とする聴覚障害者の歴史・文化などの問題を学ぶ。
- ・ 聴覚障害者の暮らしを知り、情報バリアフリーについて考える。
- ・ 手話の基本的な会話を習得する。
- ・ 障害者福祉の基礎を学ぶ。
- ・ レクリエーション

### 授業計画

1. 春学期の復習(夏休みの報告)
2. 実技(1日のこと)
3. 実技(1ヶ月のこと)
4. 聴覚障害者の課題4
5. 実技(1年のこと)
6. 実技(行事のお知らせ)
7. 聴覚障害者の課題5
8. 実技(会話してみよう1)
9. 実技(会話してみよう2)
10. 聴覚障害者の課題
11. 実技(会話してみよう3)
12. 実技(応用編1)
13. 実技(応用編2)
14. 実技試験
15. まとめ

### 授業の方法

※

### 準備学修

※

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

校規に従う。

### テキスト

手話奉仕員養成テキスト 手話を学ぼう 手話で話そう（全国手話研修センター）

### 参考図書

日本語・手話辞典

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
環境ツーリズム論			13430	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

### 授業の到達目標

国連は2017年「開発のための持続可能な観光の国際年」と定めた。「持続可能な観光」について学び、グローバル社会における観光と環境に関わる課題について考える。また世界的な認証である「サステイナブルツーリズム国際認証」について学び、自然環境と観光を融合した「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」などについての理解を深めることを目的とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

### 授業の概要

国連の「持続可能な開発目標（SDG'S）」は2016年から2030年までの世界全体の開発目標（持続可能な開発のための2030アジェンダ）であり、この目標は観光においても例外ではない。2017年国連が「開発のための持続可能な観光の国際年」に指定するなど、現在「サステイナビリティ（持続可能性）」が世界共通のキーワードとなっている。世界の観光旅行人口は約13億人を超え、多くの人々が世界各地の観光地を訪れている。その中でいかに自然環境を守りつつ、観光を持続的に発展させていくのかを学ぶ。講義では主に「サステイナブルツーリズム」、「エコツーリズム」、「グリーンツーリズム」について学び、自然環境と共存し持続可能なツーリズムの仕組みを事例を通して理解を深める。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. SDG'sと「持続可能な開発のための2030年アジェンダ」について
3. サステイナブルツーリズムと国際認証について
4. サステイナブルツーリズムの事例と課題
5. エコツーリズムについて(エコツーリズム推進法)
6. エコツーリズムの事例と課題①(国内)
7. エコツーリズムの事例と課題②(海外)
8. グリーンツーリズムについて
9. グリーンツーリズムの事例と課題①(国内)
10. グリーンツーリズムの事例と課題②(海外)
11. 国立公園の「ナショナルパーク」としてのブランド化
12. ジオツーリズム
13. 観光におけるシェアリングエコノミーについて
14. オーバーツーリズムについて
15. まとめ

### 授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点40%、定期試験60%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

随時プリントを配布する。

### 参考図書

『サステナブルツーリズム』 藤稿亜矢子著 晃洋書房  
『SDG'sの実践』自治体・地域活性化編 村上周三他著 宣伝会議  
『外国人が熱狂するクールな田舎の作り方』 山田拓 新潮新書  
『楽しもう！エコツーリズム』 風見信昭著 秀明出版会  
『MaaS モビリティ改革の先にある全産業のゲームチェンジ』 日高洋祐編著 日経BP社

### 留意事項

アクティブラーニングを中心とするので積極的な講義への取り組みを求める。

### 教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光事業総論			13431	I/II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

観光は、観光行政と観光産業で構成される。これらを合わせて観光事業と理解されている。観光を推進し、地域を活性化させる政策とはどのようなものかを把握する。観光政策の歴史や観光立国への取り組みを理解する。また、産業としての観光事業を各業界別に理解する。観光関連産業に興味を持つ学生にとっては履修が不可欠である。この講義は観光概論を発展させ、より深く探求する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

観光概論に続く講義である。観光とは何か。その成り立ちと観光について具体的に解説する。特に観光行政における政策、観光産業の2本の分野を中心に学修する。具体的には、国家戦略としての観光事業を法整備の観点から理解し、観光を支える宿泊業、旅行業、航空業、鉄道・運輸業等の役割と戦略を理解し、グローバル社会での観光の問題を全体のテーマとする。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 観光と観光事業
3. 観光立国と観光政策
4. 国内観光振興事業
5. 国際観光事業
6. イベントコンベンション事業
7. イベントコンベンション事業
8. テーマパーク事業
9. 旅行事業
10. ホテル・旅館事業
11. 航空輸送事業
12. 鉄道事業
13. 地域観光: 地域と観光
14. 地域観光: 地域と観光
15. まとめと総括試験

### 授業の方法

授業はパワーポイントを用いて進められる。また、クラスをグループに分け課題に対し意見交換し、まとめをプレゼンテーションする。

る。

### 準備学修

講義毎に図書館で購読されている旅行関連の雑誌等を紹介する。受講生は事前学習として読むこと。

### 課題・評価方法

課題30%、統括試験70%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

特になし

### 参考図書

デービット・アトキンソン『新・観光立国論』東洋経済新報社  
岡本伸之『観光学入門』有斐閣  
北川宗忠(2009)『現代の観光事業』ミネルヴァ書房  
イザベラバード『日本奥地紀行』平凡社

### 留意事項

観光概論を発展した内容である。  
\*注(重要) 観光領域を学ぶ学生(観光領域ゼミ)は必ず履修すること。  
ゼミ選考の要件になる。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光と世界遺産			13432	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

### 授業の到達目標

ユネスコ世界遺産の理念と登録制度について学ぶ。また観光地として人気の高い国内及び海外の世界遺産を取り上げて、世界遺産の歴史や観光地としての価値について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とB(倫理)を養う。

### 授業の概要

世界遺産がもたらす経済効果と遺産保護との課題について考察を行う。1972年のユネスコ総会で採択された世界遺産条約の中で定義された世界遺産について、その条約の理念と登録制度について学ぶ。また、国内及び海外の主な世界遺産に関して、「文化遺産」と「自然遺産」に分けて、その歴史や登録後の保存に関する課題や観光地としての価値と課題についてグループワークを通して理解を深める。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 世界遺産条約と登録制度
3. 文化的景観について
4. 日本の文化遺産①
5. 日本の文化遺産②
6. 日本の文化遺産③
7. 海外の文化遺産①
8. 海外の文化遺産②
9. 海外の文化遺産③
10. 無形文化遺産
11. 自然遺産①(国内)
12. 自然遺産②(海外)
13. 危機遺産・負の遺産
14. トランスバウンダリー・サイトとシリアル・ノミネーションについて
15. まとめ

### 授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点30%、レポート20%、定期試験50%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

『くわしく学ぶ世界遺産300』世界遺産検定事務局著 マイナビ出版

### 参考図書

『世界文化遺産の思想』西村幸夫著 東京大学出版会  
『世界遺産ビジネス』木曾功著 小学館新書

### 教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光ビジネス実務論			13434	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

### 授業の到達目標

観光ビジネスの最前線を体系的に学び、観光産業の基礎と実務を学ぶ。2019年に3,300万人を超えた訪日外国人観光旅行(インバウンド)ビジネスや2020年東京オリンピック・パラリンピック、2025年大阪万博などのメガイベントでの観光業の実務について理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

観光ビジネスの変遷について解説し、最前線の観光ビジネスについて事例を取り上げて理解を深める。観光分野の主要産業である旅行・宿泊・航空(交通)についての実務を学ぶ。また観光ビジネスで注目分野であるインバウンド・ビジネス(訪日外国人旅行)について、地域との連携や課題について学ぶ。また、東京オリンピック、ワールドマスターズゲームなどスポーツイベントにおけるMICEビジネスについて観光産業が携わる実務について解説し、グループワークを通して理解を深める。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 観光ビジネスの変遷について(マストゥリズムからの脱却)
3. 旅行業ビジネス①
4. 旅行業ビジネス②
5. 旅行業法・約款、景品表示法等
6. 宿泊業ビジネス
7. 航空業ビジネス
8. 交通事業ビジネス
9. MICEビジネス①
10. MICEビジネス②
11. スポーツツーリズム
12. インバウンドビジネス①
13. インバウンドビジネス②
14. 地域創生と観光ビジネス
15. まとめ

### 授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。

### 準備学修

WEBで参照すること。

### 課題・評価方法

課題はレポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。評価は平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

随時プリントを配布する。

### 参考図書

『世界一訪れたい日本のつくりかた』デービッド・アトキンソン著  
東洋経済新報社  
『CSV観光ビジネス』藤野公孝編著 学芸出版社  
『スポーツマーケティング』原田宗彦編著 大修館書店

### 留意事項

観光ビジネス実務士の認定資格を取得するための必修科目の一つである。

### 教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認すること。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
企業研究			13440	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

戦後、日本は高度成長を続けた。社会はますますグローバル化が加速している。いつの時代も企業が生まれ、成長し、衰退する。企業は何のために存在し、誰のために活動するのか。社会に貢献するのはどのような企業なのか。今、企業が問われる社会的責任や社会貢献とは何か。営利目的以外にも焦点をあて、現代社会における企業を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティの(A)自律と(In)国際性を養う。

### 授業の概要

企業の仕組みを深く知ることから始まる。企業は誰の持ち物か。株主と何か、どのような力を行行使できるのか。さらに、各業界における市場環境はどのようになっているのか。企業のリスクとは何か。受講者自ら対象企業を選び調査し分析する。講義は前半と後半に分け業種と企業を比較しながら理解を深める。特に、有価証券の見方を中心に対象企業をレポートにまとめ発表する。

### 授業計画

1. ガイダンス
  2. 個別企業研究
  3. 個別企業研究
  4. 個別企業研究
  5. 個別企業研究
  6. 個別企業研究
  7. 個別企業研究
  8. 企業研究の発表1
  9. 企業研究の発表1
  10. 個別企業研究
  11. 個別企業研究
  12. 個別企業研究
  13. 個別企業研究
  14. 企業研究の発表2
  15. 企業研究の発表2
- まとめ

### 授業の方法

講義と学生の発表とで構成される。自ら調べ、まとめ、発表する。

発表はパワーポイントを使い行う。

### 準備学修

授業前の1週間の日経新聞の企業活動をよく読み、社会に関心を持つこと。  
授業で注目した企業を紹介する。

### 課題・評価方法

学生が注目した企業について教員がコメント・フィードバックを行う。

評価基準は2回の発表で評価する。

第1回50%

第2回50%

### 欠席について

規定通り

### テキスト

日経業界地図(日経出版社)

### 参考図書

会社四季報

### 留意事項

適宜アドバイスする。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
海外ツーリズム研修			13445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎／一尾 敏正	選択	2	旅行会社勤務／ホテル勤務			

### 授業の到達目標

海外ツーリズム研修では以下の4点を現地体験することを目標とする。

1. 訪問地での観光資源（特に世界遺産）と宿泊施設の視察、環境保全型のツーリズムを体験する。
  2. JTB支店での海外支店業務を現地支店訪問で把握し、現地ツーリズムの概要を学ぶ。
  3. グループワーク課題を実践する。
  4. 実際の海外旅行行程で添乗員業務、グループの行程管理などの実務を体験する。（総合旅程管理主任者資格の取得）
- このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）、S（奉仕）、In（国際性）を養う

### 授業の概要

春休みの1週間を利用して海外の観光地を訪問し、現地のツーリズムについて実体験する。合わせてそれぞれの現地文化を学び異文化理解を促進することを目的とする。現地ではJTB支店の協力を得ながらホテル視察、インバウンド観光の観光資源の体験、現地企業の実情視察などを行う。また研修参加者はグループワークを実践し役割分担によって空港視察、添乗員業務、行程管理、現地観光資源などを現地体験する。

### 授業計画

1. オリエンテーション・事前準備の確認
2. 事前研修・訪問地の世界遺産などの地域観光資源研究
3. 事前研修・JTB支店の海外組織と現地支店の役割
4. 事前研修・グループワークの課題準備 その1
5. 事前研修・グループワークの課題準備 その2
6. 実地研修1日目：関空出発～目的地
7. 実地研修2日目：ホテル研修・JTB支店訪問他
8. 実地研修3日目：研修地でのエコツーリズム・世界遺産訪問・異文化体験他
9. 実地研修4日目：研修地の移動
10. 実地研修5日目：ホテル研修・JTB支店訪問他
11. 実地研修6日目：日系企業訪問
12. 実地研修7日目：帰路の空港見学・帰国
13. 現地でのグループワークの事後発表の準備
14. 現地でのグループワークの事後発表

15. 全体の研修での課題点の洗い出し・まとめ

### 授業の方法

研修前に訪問地の歴史・自然・文化・観光資源などを事前研究する。また研修中は行程管理・空港見学・機内サービスの実地体験を含めグループワーク課題を実践する。

### 準備学修

事前研修で訪問地の歴史・自然・文化・観光資源を地域研究として政府・州観光局の情報と観光資料、インターネットを利用し調査し準備する。

### 課題・評価方法

事前研修、海外研修の総合評価。

### 欠席について

事前研修は参加登録者全員が受講すること。参加登録者は研修旅行当日の病気などによる正当な事由がない限り不参加はできない。

### テキスト

総合旅程管理主任者テキスト（受講者に事前説明有り）

### 参考図書

事前研修時に適宜指示する。

### 留意事項

受講生に対して、事前説明会を実施する。資格講座（ツアーコンダクター）と海外実習を受講する必要がある。本講座は費用が発生するので途中での辞退はできない。尚、研修旅費の高騰、安全面など諸般の事情で研修先が変更になる事がある。また研修実施には最低催行人員（10名）の規定が適用される。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ツーリズム実務特論			13450	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	1	旅行会社勤務			

### 授業の到達目標

観光業界は大きな転換期を迎えており、新しいビジネスモデルが日々創出されている。また大型イベント（東京オリンピック・パラリンピック、大阪万博など）を控えて、観光産業は大きなビジネスチャンスが到来している。各分野の第一線で活躍しているビジネスパーソンの講師から事業現場の話聞き、課題を発見し、解決策を見出すことを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際）を養う。

### 授業の概要

本講義は、観光分野のプロフェッショナルの外部講師による講演を中心に行う。各分野で活躍する講師には旅行、ホテル、航空会社、自治体などから招き、現場の最前線での仕事内容や課題などについて学ぶ。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 講義①
3. 講義②
4. 講義③
5. 講義④
6. 講義⑤
7. 講義⑥
8. まとめと試験

### 授業の方法

外部講師による講義を中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題はレポートの提出を求める。  
評価は平常点70％・定期試験30％

### 欠席について

学則の通り。

### テキスト

なし。随時プリントを配布する。

### 参考図書

必要に応じて指示する。

### 留意事項

外部講師による講義であるので講義中の態度・服装には留意すること。

### 教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Business English			13935	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	選択	2	旅行会社勤務			

### 授業の到達目標

このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を学ぶ。CDを聴きネイティブスピーカーの英語に慣れるようにする。ビジネスで実際に使われる慣用的な表現を学ぶ。TOEIC受検対策を兼ねている。また就活の社会常識として、実社会の現状について具体的に解説する。

### 授業の概要

仕事の仕組みや、標準的なビジネス・コミュニケーションを学ぶ。Fax,e-mail,ビジネスレター、封筒書き、ファイリング、などのオフィスワークの常識的な事務についても学ぶ。

### 授業計画

1. 講義概要、教科書、評価方法、シラバス（講義計画）
2. Unit 1. Job Hunting(1), Writing a resume
3. Unit 2. Job Hunting(2), Writing an application letter
4. Unit 3. Job Hunting(3), Arranging an interview
5. Unit 4. Job Hunting(4), A job interview
6. Unit 5. Job offer
7. Unit 6. The first day at work
8. Unit 7. Preparing to work
9. Unit 8. Telephoning (1) Answering
10. Unit 9. Telephoning (2) Taking a message
11. Unit 10. Telephoning (3) Making an appointment
12. Unit 11. Visiting a client
13. Unit 12. Receiving a visitor(1) Preparation
14. Unit 13. Receiving a visitor(2) Meeting at Narita Airport

15. 総括 & 試験

### 授業の方法

シラバス通りに進むので予習、復習を励行すること。

### 準備学修

予習、復習の励行

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

教室での学習に50%の評価をしているので欠席は減点の対象になる。

### テキスト

「Business Talkやさしいオフィス英語」城由紀子、島田拓司、Edward J. Schaefer著、成美社

### 参考図書

「国際秘書英語」亀山和夫、成美社  
「国際ビジネスコミュニケーション入門」亀山和夫、八尾 晃共著、成美社

### 留意事項

毎回予習、復習を励行すること。単語テストを随時行うので普段から正確に単語を書けるようにしておくこと。

### 教員連絡先

sam@alohawalker.net

基幹科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English for Tourism			13937	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
青木 幹生	選択	2	旅行会社、ホテル、海外駐在、海外添乗、通訳ガイド			

### 授業の到達目標

観光産業に必要な基本的英語を修得する。  
観光英検3、2級レベル  
KAISEIパーソナリティのIn国際性を学ぶ

### 授業の概要

駅、空港、ホテル、レストランなど各場面で必要な基本的な英語を学ぶ

### 授業計画

1. 講義概要（講師プロフィール紹介、観光英語とは、シラバス、教科書、参考書、授業の進め方、予習・復習、授業の規律）
2. Lesson 1: Tokyo Station
3. Lesson 2: Exploring Metropolitan Tokyo
4. Lesson 3: Restaurant at Ginza
5. Lesson 4: Kakunodate, a town of Samurai and Cherry blossoms
6. Lesson 5: Old Private Houses in Takayama
7. Lesson 6: Hatcho Miso in Okazaki
8. Lesson 7: Toyota Automobile Museum
9. Lesson 8: Cormorant Fishing
10. Lesson 9: Uji Byodoin
11. Lesson 10: Kyoto Studio Park
12. Lesson 11: International Phone Calls
13. Lesson 12: Bakery Shops in Kobe
14. Lesson 13: White Heron Castle
15. 総まとめのあと定期試験60分

### 授業の方法

教科書付属のCDを活用して授業を行う。

### 準備学修

教科書及び付属のCDを活用して予習・復習をすること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

減点対象になる。

### テキスト

Discovering Japan through Tourism English「観光英語で日本発見！」英宝社  
著者：河原俊昭、榎木蘭鉄也、岡戸浩子、小宮富子、吉川 寛、石川有香、徳地慎二、ジェームス・ドレイトン

### 参考図書

観光英語検定試験全国語学ビジネス観光教育協会が実施している民間資格の観光英語検定試験2級、3級問題集  
旅行会社、ホテル、観光案内書などにあるインバウンド用の英語観光パンフレットは参考になるので各自入手して活用すること。

### 留意事項

予習・復習の励行。欠席、遅刻、授業中の怠慢は減点対象になる。随時単語テストを実施するので英単語の綴りを正確に覚えること。

### 教員連絡先

aokimikio0915@gmail.comまたはaokimikio@aol.com

### オフィスアワー

出講日講義の前後の時間

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 500	秋/a/b	13939	Ⅱ/Ⅲ	秋／春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Andy RUSHTON/James C. JENSEN/Cory McKENZIE	選択	2			

### 授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to :

- participate in group discussions and interviews
- identify main ideas and supporting details from listening materials and prepare spoken and written summaries
- make inferences and give advice
- ask for and give reasons and supporting opinions
- identify facts and opinions
- demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
- prepare and deliver two 3-5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include leisure activities, jobs, daily routines, and special days.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Leisure and Sport
3. Unit 1 Leisure and Sport
4. Unit 2 Firsts and Lasts
5. Unit 2 Firsts and Lasts
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 3 Work and Rest
10. Unit 3 Work and Rest
11. Unit 4 Special Days
12. Unit 4 Special Days
13. Review
14. Presentations

### 15. Presentations

### 授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

- Final Exam 20%
- Tests and Quizzes 10%
- Presentations 40%
- Class Participation 20%
- Homework 10%

### 欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Longman Cutting Edge Pre-Intermediate, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation in class is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 501	秋/春	13941	Ⅱ/Ⅲ	秋／春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
宮副 紀子	選択	2			

### 授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 1 Answering 6 Common Interview Questions
3. Chapter 1 Answering 6 Common Interview Questions
4. Chapter 2 Young Women Changing the World
5. Chapter 2 Young Women Changing the World
6. Chapter 3 Student Learning Teams
7. Chapter 3 Student Learning Teams
8. Mid Term
9. Chapter 4 Learning to Speak
10. Chapter 4 Learning to Speak
11. Chapter 5 The Man in the Moon Has Company
12. Chapter 5 The Man in the Moon Has Company
13. Chapter 6 Culture Shock
14. Chapter 6 Culture Shock
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

- Final Exam 40%
- Tests and Quizzes 30%
- Class Participation 20%
- Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Oxford Select Readings Intermediate, 2nd.edition. Linda Lee & Erik Gundersen  
Oxford Bookworms A Tale of Two Cities by Charles Dickens retold by Ralph Mowat

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 502	秋/春	13943	Ⅱ/Ⅲ	秋/春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Andy RUSHTON/Cory McKENZIE	選択	2			

**授業の到達目標**  
 In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

**授業の概要**  
 Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance

**授業計画**

1. Introduction
2. Unit 4 Descriptive Paragraph
3. Unit 4 Descriptive Paragraph
4. Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph
5. Unit 5 Comparison and Contrast Paragraph
6. Unit 6 Process Paragraph
7. Unit 6 Process Paragraph
8. Mid Term
9. Unit 7 Narrative Paragraph
10. Unit 7 Narrative Paragraph
11. Unit 8 Summary Paragraph
12. Unit 8 Summary Paragraph
13. Unit 9 Analysis Paragraph
14. Unit 9 Analysis Paragraph
15. Review

**授業の方法**  
 Students will work in groups and individually

**準備学修**  
 Be familiar with the textbook: preview and review

**課題・評価方法**  
 Your final grade will be determined using the following scale:  
 Final Report 20%  
 Tests and Quizzes 10%  
 Class Participation 20%  
 Homework 50%

**欠席について**  
 As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

**テキスト**  
 Cengage Learning Basic Steps to Academic Writing--From Paragraph to Essay, Matthew Taylor & David Kluge

**参考図書**  
 Will be assigned as needed

**留意事項**  
 Active Participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation 504	春	13945	Ⅱ/Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
石原 敬子	選択	2			

**授業の到達目標**  
 英語の音声的特徴、特に聞き手が理解する上で重要な英語特有のリズム（語強勢、文強勢、文のフォーカス）及び日本語に無い音素の特徴について理解し、中学校及び高等学校の生徒が理解しやすい英語の発音を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

**授業の概要**  
 英語の音声に関する理論的学習と実践的訓練を行う。「伝わる」英語の発話及び聴解力の向上を目指し、聞き手が理解しやすい発話の鍵となるポイントや、英語学習者が苦勞しがちな英語の音声的特徴を学ぶ。特に「内容を伝える」ために重要な役割を持つリズムを体得する訓練を重点的に行う。ペア・グループワークなどの練習、L.L.教室の個人ブースでの練習を通して、一人ひとりの苦手な部分を確認しながら、場面・状況等に応じて分かりやすい英語で発話できるようにする。

**授業計画**

1. 導入（英語学習における発音学習の位置づけ、事前診断テスト）
2. 事前診断テスト解答解説と練習
3. 音節（音節とリズム、カタカナ語と英語の音節数の違い）
4. 音節（語の音節数、現在形と過去形の音節数の違い）
5. 母音（アルファベット読みとフォニックス読み）
6. 英語特有の子音（アルファベット読みとフォニックス読み）
7. 語強勢（強勢と母音の長さ）
8. 語強勢（強勢と母音の音色、抑韻）
9. 語強勢（語強勢の法則）
10. 文強勢（内容語と機能語、品詞）
11. 文強勢（文の内容に即した強勢）
12. 文強勢（強勢の付く機能語）
13. その他の子音（日本語との違い）
14. 文章の音読
15. 練習、復習、まとめ

**授業の方法**  
 実践的な発音・聴き取り訓練と講義を合わせて行う

**準備学修**  
 Webで参照すること

**課題・評価方法**  
 平常点50%、定期試験50%  
 課題に対するフィードバック：小テストは翌週に返却、音読素材については講義内で口頭又は翌週以降に紙面にてフィードバックをする

**欠席について**  
 1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

**テキスト**  
 Judy B. Gilbert, Clear Speech: Basic Pronunciation and Listening Comprehension, 4th ed. CUP.

**留意事項**  
 クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

**教員連絡先**  
 ishihara@kaisei.ac.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 600	a/b	13947	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
Cory McKENZIE／Andy RUSHTON	選択	2			

### 授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to :

- participate in group discussions and interviews
- lead a group discussions
- agree and disagree with opinions
- ask for and give clarification
- use a variety of intonation and word stress for key words
- demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
- prepare and deliver two 3-5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include city life, equipment, accidents and injuries, and survival items.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 8 Places to Live
3. Unit 8 Places to Live
4. Unit 9 Old and New
5. Unit 9 Old and New
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 10 Take Care
10. Unit 10 Take Care
11. Unit 11 The Best Things
12. Unit 11 The Best Things
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

### 授業の方法

Students will work together in pairs and groups.

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

- Final Exam 20%
- Tests and Quizzes 10%
- Presentations 40%
- Class Participation 20%
- Homework 10%

### 欠席について

100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Longman Cutting Edge Pre-Intermediate, 3rd ed. Sarah Cunningham, Chris Redston with Peter Moor

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation in class is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Reading 601	a/b	13949	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
後藤 江里／宮副 紀子	選択	2			

### 授業の到達目標

Locate and understand main ideas and details, show increasing ability to understand readings using skills such as skimming, scanning, and pronoun reference. Write main idea sentences. Express opinions about readings. Develop intelligence and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop vocabulary skills and reading, including skimming and scanning, taking notes, predicting, and cause and effect.

### 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 8 A Young Blind Whiz
3. Chapter 8 A Young Blind Whiz
4. Chapter 9 How to Make a Speech
5. Chapter 9 How to Make a Speech
6. Chapter 10 Conversational Ball Games
7. Chapter 10 Conversational Ball Games
8. Mid Term
9. Chapter 11 Letters of Application
10. Chapter 11 Letters of Application
11. Chapter 12 Out to Lunch
12. Chapter 12 Out to Lunch
13. Chapter 13 Public Attitudes Toward Science
14. Chapter 13 Public Attitudes Toward Science
15. Review

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

Be familiar with the textbooks: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

- Final Exam 40%
- Tests and Quizzes 30%
- Class Participation 20%
- Homework 10%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Oxford Select Readings Intermediate, 2nd.edition. Linda Lee & Erik Gundersen  
Oxford Bookworms Treasure Island by Louis Stevenson retold by John Escott

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Writing 602	秋		13951	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Andy RUSHTON	選択	2				

### 授業の到達目標

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

Upon completion of this course, students will be able to: demonstrate increasing control of grammar, vocabulary, punctuation, and spelling skills, write a paragraph with adequate support, demonstrate increasing ability to recognize and write introductory, body, and concluding sentences, understand and utilize the writing process, explain a process, and write about spatial order, time order, and order of importance.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 10 Cause and Effect Paragraph
3. Unit 10 Cause and Effect Paragraph
4. Unit 11 Persuasive Paragraph
5. Unit 11 Persuasive Paragraph
6. Unit 12 Problem-Solution Paragraph
7. Unit 12 Problem-Solution Paragraph
8. Mid Term
9. Unit 13 About the Essay
10. Unit 13 About the Essay
11. Unit 14 Changing a Paragraph into an Essay
12. Unit 14 Changing a Paragraph into an Essay
13. Unit 15 Writing an Essay from the Beginning
14. Unit 15 Writing an Essay from the Beginning
15. Review

### 授業の方法

Students will work in groups and individually

### 準備学修

Be familiar with the textbook: preview and review

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

Final Report 20%  
Tests and Quizzes 10%  
Class Participation 20%  
Homework 50%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Cengage Learning Basic Steps to Academic Writing--From Paragraph to Essay, Matthew Taylor & David Kluge

### 参考図書

Will be assigned as needed

### 留意事項

Active Participation is essential

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation 604	秋		13953	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	選択	2				

### 授業の到達目標

聴いた短い英文を内容的・文法的に瞬時に理解し、反応できるようになること、及び英語の音声の特徴の基礎を理解し、相手に伝わりやすい発話ができるようになることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

英語の音声に関する理論的学習と実践的訓練を行う。リスニング力の向上と「伝わる」英語の発話を目指し、英語音声の超分節的特徴（特にリズム、文強勢、イントネーション）の基礎を学ぶ。各授業では、短文を用いた文法的な即答訓練、パッセージを用いた発話練習を行う。ペア・グループワークなどの練習、L.L.教室の個人ブースでの練習を通して、一人ひとりの苦手な部分を確認しながら、伝わりやすい英語で発話できるようにする。

### 授業計画

1. 導入(事前診断テスト)
2. 現在形:be動詞・一般動詞(肯定文・否定文)  
Passage 1
3. 過去形:be動詞・一般動詞(疑問文)  
Passage 2
4. 過去形:be動詞・一般動詞(否定文)  
Passage 3
5. 現在形:復習  
Passage 4
6. 進行形(肯定文・否定文・疑問文)  
Passage 5
7. 未来形:be動詞・一般動詞  
Passage 6
8. 依頼・提案文  
Passage 7
9. 受動態  
Passage 8
10. 現在完了形 1  
Passage 9
11. 現在完了形 2  
Passage 10
12. 付加疑問文

Passage 11

13. 名詞句・名詞節

Passage 12

14. 関係代名詞

Passage 13

15. 仮定法

まとめ

### 授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と講義を合わせて行う

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

課題に対するフィードバック：小テストは翌週に返却、音読素材については講義内で口頭又は翌週以降に紙面にてフィードバックをする

### 欠席について

1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

### テキスト

逐次プリントを配布する

### 留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

### 教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 700			13955	Ⅲ/Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Cory McKENZIE	選択	2				

### 授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to :

- participate in group discussions and interviews
- identify main ideas and supporting details from listening materials and prepare spoken and written summaries
- check for and confirming understanding
- avoid answering questions
- demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
- prepare and deliver two 3-5 minute classroom presentations focusing on preparation, organization, and use of PowerPoint and other visual aids

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include people around you, secrets of memory, features and sights, and life events.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Your World
3. Unit 1 Your World
4. Unit 2 Memory
5. Unit 2 Memory
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 3 Across the Globe
10. Unit 3 Across the Globe
11. Unit 4 Real Lives
12. Unit 4 Real Lives
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

See webpage for further details

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

- Final Exam 20%
- Tests and Quizzes 10%
- Presentations 40%
- Class participation 20%
- Homework 10%

### 欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend class then a "Notification of Exceptional Absence" must be submitted. More than a third absence without the above notification will result in no credit being given.

### テキスト

Longman Cutting Edge, Intermediate, 3rd ed. Sarah Cunningham, Peter Moor, and Jonathan Bygrave

### 参考図書

Additional materials will be assigned as needed

### 留意事項

Active and full participation is essential and expected

### オフィスアワー

Student queries answered in teacher's office hour (check board in front of Academic Affairs office)

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English for Academic Purposes 701			13957	Ⅲ/Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Cory McKENZIE	選択	2				

### 授業の到達目標

学部生・大学院のレベルで留学し、自信を持ち授業を受ける能力の獲得を目指す。英文資料の読解、講義と演習の戦略、論文と脚注の書き方を学ぶ。このクラスではKAISEI/パーソナリティのA(自律)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

In this course, students will gain experience with authentic English academic texts, lectures, and essays. In class, we will practice seminar and group discussions; preparing simple presentations; improving study skills such as note-taking, critical thinking, and working independently; and, recognizing and using academic grammar and vocabulary.

### 授業計画

1. 1. Introduction
2. Reading Comprehension ①
3. Writing Reports ① (Citations and Five-Paragraph Essays)
4. Writing Reports ② (Academic Vocabulary)
5. Listening to Lectures ① (Note Taking)
6. Listening to Lectures ② (Asking questions)
7. Making Presentation Materials
8. Midterm Presentation
9. Reading Comprehension ②
10. Writing Reports ③ (Developing a thesis and conclusion)
11. Writing Reports ④ (Sentence Openers and Transitions)
12. Listening to Lectures ③ (Follow-up Questions)
13. Listening to Lectures ④ (Debate)
14. Final Presentations ①
15. Final Presentations ②

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups. We will follow the syllabus closely.

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

We will follow the syllabus closely.

### 欠席について

- Class participation: 50%
- Papers: 25%
- Presentations: 25%

### テキスト

None. The instructor will create materials for this class.

### 留意事項

The best way to improve your English level is to use English. Don't worry about making mistakes. Welcome every mistake as a learning opportunity. Only by making a mistake can you become aware of it!

### 教員連絡先

cory.kaisei@gmail.com

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Pronunciation 704			13959	Ⅲ/Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石原 敬子	選択	2				

### 授業の到達目標

実際に耳にする英語音声に見られる特徴・綴りとの違いを観察し、理解する。また、相手に伝わりやすい英語の発話を実践することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

英語の子音・母音、強勢、リズム、イントネーションなどの音声的特徴をより具体的・専門的に扱う。自然な英語が実際にはどのように聞こえるのかを観察し、頭で理解している音声と実際に聞こえる音声とが異なることを確認する。あわせて、日本語の音声との共通点にも着目する。英語の発音を自分で分析できるようになること、また相手に伝わりやすい英語の発話ができるようになることを目標とする。毎回の授業では、担当の学生が課題文を読み、その内容を理解した上でクラス全体で音読練習をし、取り上げる音声的特徴を理論的・実践的に確認する。

### 授業計画

1. イントロダクション
2. 文の区切り
3. 文のリズム
4. 文中の語の連結
5. イントネーション 1) 基本的な核の位置
6. イントネーション 2) 訂正・比較の核
7. イントネーション 3) 話し手の意図を表す核
8. 音の脱落 1) 英語の場合
9. 音の脱落 2) 日本語の場合
10. 音の変化 1) 同化
11. 音の変化 2) 母音の変化
12. 音の変化 3) /r/の弾音化
13. フォニックス 1) 基本
14. フォニックス 2) 母音の読み方
15. まとめ

### 授業の方法

実践的な発音・聴き取り訓練と講義を合わせて行う

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

課題に対するフィードバック：小テストは翌週に返却、音読素材については講義内で口頭又は翌週以降に紙面にてフィードバックをする

### 欠席について

1) 普段の練習の積み重ねを重視するため、欠席1回につき、出席点より4点減点をする（遅刻も適宜減点する）。2) 欠席をした場合、当該授業の内容・課題の有無を自分の責任で確認をすること。3) 欠席日の提出物や小テストは、翌週授業日までの間に限り受け取り・対応する。

### テキスト

国弘正雄、『英会話・ぜったい音読【標準編】』

### 留意事項

クラスへの積極的参加はもちろん、復習が求められる。また発音の習得は、各自の耳と口を駆使しなければ不可能であるため、授業をただ聞くだけでなく、普段から人の発音を意識して聴き、大きな声で積極的に発話をするよう心がけてほしい。

### 教員連絡先

ishihara@kaisei.ac.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
Oral Communication 800			13961	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Andy RUSHTON	選択	2				

### 授業の到達目標

Upon completion of this course, students will be able to :

- participate in group discussions and interviews
- identify main ideas and supporting details from listening materials and prepare spoken and written summaries
- change topics in a conversation and express interest in topics
- use questions to maintain listener interest and add another speaker's comments to a topic
- listen for contrasting ideas
- demonstrate increasing conversation skills in common real-life situations, using appropriate vocabulary
- participate in debates during class time

In this class, students will develop a sense of internationality and autonomy.

### 授業の概要

The purpose of this class is to develop both listening and speaking skills in a variety of situations. Some specific topics of discussion may include entertainment, social behaviour, gadget, and predictions.

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 7 Must See!
3. Unit 7 Must See!
4. Unit 8 Social Life
5. Unit 8 Social Life
6. Review
7. Presentations
8. Mid Term
9. Unit 9 Stuff!
10. Unit 9 Stuff!
11. Unit 10 Society and Change
12. Unit 10 Society and Change
13. Review
14. Presentations
15. Presentations

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs and in groups

### 準備学修

See webpage for further details

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:

- Final Exam 20%
- Tests and Quizzes 10%
- Presentations 40%
- Class participation 20%
- Homework 10%

### 欠席について

As stated in the university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend class then a "Notification of Exceptional Absence" must be submitted. More than a third absence without the above notification will result in no credit being given.

### テキスト

Longman Cutting Edge, Intermediate, 3rd ed. Sarah Cunningham, Peter Moor, and Jonathan Bygrave

### 参考図書

Additional materials will be assigned as needed

### 留意事項

Active and full participation is essential and expected

### 教員連絡先

rushton@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

Student queries answered in teacher's office hour (check board in front of Academic Affairs office)

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
English for Academic Purposes 801			13963	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
Tim KERN	選択	2				

### 授業の到達目標

The course will develop the ability to study effectively in English on an undergraduate or postgraduate program abroad.

### 授業の概要

The course aims to develop skills for university study abroad in the following areas: reading authentic academic texts; listening to lectures and presentations; writing paragraphs, and different essay types; seminar and group discussions; preparing and giving simple presentations; improving study skills, such as note-taking, critical thinking and working independently; and, recognizing and using academic grammar and vocabulary.

### 授業計画

1. Introduction / Unit 4a Lectures (2)
2. Unit 4b Textbooks (4)
3. Unit 4c Writing (connected sentences)
4. Unit 4d Vocabulary (prepositions)
5. Unit 4e Academic Language check
6. Unit 5a Lectures (3)
7. Unit 5b Journals
8. Unit 5c Writing (expressing stance)
9. Unit 5d Vocabulary (noun suffixes)
10. Unit 5e Academic Language check
11. Unit 6a Lectures (4)
12. Unit 6b Textbooks (5)
13. Unit 6c Writing (Topic sentences)
14. Unit 5d Vocabulary Adjectives, Adverbs and multi-part verbs.
15. Unit 5e Academic Language check

### 授業の方法

Students will work individually, in pairs, and in groups

### 準備学修

See webpage for further details.

### 課題・評価方法

Your final grade will be determined using the following scale:  
Class Participation 40%  
Tests 30%  
Homework 30%

### 欠席について

As stated in university guidelines, 100% attendance is expected for this course. If a student is unable to attend a class then the student must submit a "Notification of Exceptional Absence". If a student is absent for more than 1/3 of the course without the above notification then no credit will be given.

### テキスト

Oxford EAP. Pre-intermediate. Paul Dummett and John Hird.

### 参考図書

Additional materials will be assigned as needed.

### 留意事項

Active and full participation is essential and expected.

### 教員連絡先

To contact the instructor, please ask for help to do so at the Kyomuka office.

### オフィスアワー

No office hours are set. Please, talk to the instructor in class or arrange an appointment with him.

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス翻訳			13621	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
榎本 雄三	選択	2	テクニカルライター、実務翻訳者			

### 授業の到達目標

文芸翻訳とは違う実務翻訳の特徴を理解し、ビジネス文書、業務資料、観光パンフレットなどの英文和訳および和文英訳ができるようになるための、訳文作成技術と背景知識を取得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を目指す。

### 授業の概要

和文英訳および英文和訳の技術を説明し、新聞や雑誌などの記事や実際のビジネス文書を使って演習を行う。毎回授業内容に基づいた宿題を課し、翌週の授業でその説明を行う。翻訳に必要な背景知識の調査方法の習得も行う。

### 授業計画

1. 実務翻訳の特徴/自動翻訳時代の翻訳者の仕事
2. 英文和訳の基本技術/自然な文章表現/適語を探す
3. 品詞の転換/無生物主語の処理
4. 訳出の順序/不定冠詞の条件的意味
5. 分詞構文、関係詞構文、挿入構文
6. 長文の攻略
7. 和文英訳の基本技術/ライティングの3C
8. 可算名詞、不可算名詞/不定冠詞、不定冠詞/前置詞
9. 主語の選択/強い動詞
10. 冗長な英文、簡潔な英文
11. 無生物主語/分詞構文
12. 長い修飾語の処理/コロケーション
13. 英文マニュアルの表現/制限言語
14. 翻訳支援ツール(翻訳メモリなど)
15. ニューラル機械翻訳とポストエディット

### 授業の方法

訳文作成実習と翻訳内容の検討を中心とする。翻訳に必要な背景知識の説明も行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題の提出を求め、授業中にフィードバックを行う。定期試験を行わず、最終レポートおよび平常点により評価を行う。

### 欠席について

欠席した回も、その回の課題を提出すれば考慮する。

### テキスト

特定のテキストを使用せず、英字新聞、英文雑誌、インターネットニュースなどの記事や各種パンフレットなどを教材にする。

### 参考図書

翻訳スキルハンドブック、駒宮俊友、アルク  
プロが教える基礎からの翻訳スキル、田辺希久子・光藤京子、三修社  
技術系英文ライティング教本、中山裕木子、日本工業英語協会

### 留意事項

ほぼ毎回課題を宿題として出すので、自分の訳文を作成して授業に臨むこと。授業計画の内容や順序は状況により変わることがある。

### 教員連絡先

yzkashimoto@hop.ocn.ne.jp

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英米文学研究			13521	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
惣谷 美智子	選択	2				

### 授業の到達目標

英語文学を通して英語のさまざまな表現法を学び、また日本文化と比較しながら多文化を理解する。講義においては、「小説」というもっともポピュラーな読み物を楽しむとともに、そこに込められた作家の読者に対する真摯なメッセージを読み解く。このクラスでは、K A I S E I パーソナリティの I (知性)、I n (国際性) と E (倫理) を考える。

### 授業の概要

授業では、英文学を代表するジェイン・オースティンのシンデレラ・アーキタイプの小説『高慢と偏見』を取り上げて研究する。この小説は、風習喜劇(the Comedy of Manners)に属し、主に社交界の軽薄・因習・愚行などを諷刺した機知に富んだ喜劇であり、ラブ・ロマンスが主筋であるが、その意味するところは深く、作家の鋭い洞察力が根幹を貫いている。授業では文学を通して古くて新しいテーマである人生について、そして、自己に誠実に真摯に生きるとはどのようなことなのか等についても考えてみる。この講義に併行してRapid Readingの訓練も行う。またこの小説のCD,DVDといった視覚教材も用いて「読み、聴き、話す、書く」の英語の4分野のスキルを養成する。

### 授業計画

- 1.Introduction
- 2.The Language of Jane Austen's time
- 3.18-19世紀のイギリスの時代的・文化的背景
- 4.18-19世紀のイギリス女性の社会的地位と人生
- 5.Pride and Prejudiceを読む Ch.1-3/研究発表
- 6.Pride and Prejudiceを読む Ch.4-6/研究発表
- 7.Pride and Prejudiceを読む Ch.7-10/研究発表
- 8.Discussion
- 9.Pride and Prejudiceを読む Ch.11-14/研究発表
- 10.Pride and Prejudiceを読む Ch.15-18/研究発表
- 11.Pride and Prejudiceを読む Ch.19-20/研究発表
- 12.Fact Files "Socializing in Regency England"
- 13.Presentation/レポート提出
- 14.Discussion
- 15.Conclusion

### 授業の方法

講義のほかに、文学、あるいはそこに内在する文化の諸要素について

て学生同士でも自由に発言し、問題提起や議論の発展が可能なように、教師・学生の双方向性の授業形態を予定している。

### 準備学修

講義前に、テキストの各章を各自で予め読み、英語表現のみならず異文化を理解し、また作家のメッセージ等も考えて授業中の自由闊達な議論に備える。(毎回30-60分)

講義後は、興味ある課題に各自で取り組み、課題のレポート作成の準備をする。(毎回30-60分)

### 課題・評価方法

課題：発表、質疑応答、ディスカッション、レポート作成(随時レポート作成を課し、授業中、あるいは個人指導においてフィードバックを行う。)

評価方法：平常点30%、定期試験70%  
授業中の積極的な意見交換を高く評価する。

### 欠席について

出席重視。一貫性を持った授業であるので、毎回、必ず出席すること。出席は平常点として評価する。

### テキスト

Jane Austen,"Pride and Prejudice"CD付.London:Mary Glasgow Magazines (Scholastic Ltd.)

### 参考図書

翻訳書："Pride and Prejudice"(『高慢と偏見』あるいは『自負と偏見』)の翻訳書は、岩波、新潮、ちくま各文庫本でも入手可能である。参考図書：授業で随時、指示する。

参考資料：配布。

### 留意事項

授業で取り上げる『高慢と偏見』は多数の翻訳書があるので、可能なかぎり予め読んでおくこと。

### 教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
比較文化論			13830	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

### 授業の到達目標

世界情勢を的確に把握し、広い視野、幅広い知識と洞察力を持って積極的に行動できる人材が求められている。異文化を理解し、自文化が発信できる人材の育成を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn(国際性)を身につける。

### 授業の概要

本授業では、日本と日本を取り巻くグローバル社会の文化を比較し、歴史的、風土的、地政学的観点から、自文化と異文化に対する幅広い知識と洞察力を養う。同時にそれを活用して、自身が企画した文化比較についてプレゼンテーションを行い、自己発信力を育成する。

### 授業計画

- 1.身近にある異文化理解 その1  
〈人魚〉をテーマに、アンデルセン(ヨーロッパ)・ディズニー(アメリカ)・小川未明(日本)の表現の違いを考察する。
- 2.身近にある異文化理解 その2  
〈MANGA〉をテーマに、日本の漫画の発展と世界進出について考察する。
- 3.身近にある異文化理解 その3  
〈宝塚歌劇〉をテーマに、宝塚歌劇におけるフランスのレビューの影響を考察する。
- 4.身近にある異文化理解 その4  
〈映画「ムーラン」〉を題材に、アメリカから見た中国の女性の描き方について考察する。
- 5.プレゼンテーション(1)「身近にある異文化理解」
- 6.プレゼンテーション(2)「身近にある異文化理解」
- 7.プレゼンテーション(3)「身近にある異文化理解」
- 8.歴史的・風土的・地政学的比較文化 その1  
ブラジル移民。政府の政策と神戸港の対応。
- 9.歴史的・風土的・地政学的比較文化 その2  
ベラルーシ。原子力発電所事故影響からの立ち直り。日本との繋がり。
- 10.歴史的・風土的・地政学的比較文化 その3  
パラオ。南洋諸島と戦前の日本委任統治
- 11.歴史的・風土的・地政学的比較文化 その4

- 小泉八雲(ラフカディオ・ハーン)がみた日本・神戸  
12.プレゼンテーション(4)「歴史的・風土的・地政学的比較文化」  
13.プレゼンテーション(5)「歴史的・風土的・地政学的比較文化」  
14.プレゼンテーション(6)「歴史的・風土的・地政学的比較文化」  
15.まとめと質疑応答

### 授業の方法

教員の講義と学生のプレゼンテーションとによる参加型授業

### 準備学修

Web参照すること。

### 課題・評価方法

毎回ノートの提出を義務づける。提出されたノートは、教員が指導してフィードバックする。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)により評価する。

### 欠席について

規定に従う

### テキスト

必要に応じて紹介する

### 教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈英語・言語・文化〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
女性と社会			13525	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

### 授業の到達目標

ジェンダーの視点から現代社会の問題を読み解くことができる。国内外の社会事象とそこに生きる女性について、総合的にとらえ、自分の意見をもつことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養い、A（自律）やIn（国際性）を考える。

### 授業の概要

日本だけでなく海外も含めた女性に関する諸問題について、様々な研究分野の蓄積を学ぶ。社会的文化的性差・性別（ジェンダー）のもたらす現実や課題は、どのようにとらえられ解決されているか、解説する。そして、男女共同参画社会、少子高齢社会、国際化・情報化社会と女性の生き方について考える。

### 授業計画

1. 文化と歴史の中の女性
2. 女性のライフコース
3. 女性と教育
4. 女性と労働・女性のキャリア形成
5. 女性と結婚・離婚
6. 女性と出産・子育て
7. ワークライフバランス
8. 女性と暴力
9. 女性とメディア・表現
10. 女性と階層
11. 女性と加齢
12. 女性と病
13. 女性とケア
14. 女性と社会参画・社会政策
15. 女性と国際社会

### 授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。  
平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席1回につき2点減点する。

### 参考図書

内閣府男女共同参画局『男女共同参画白書』  
授業中に必要に応じて指示する。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
インターンシップ（国内）			13969	Ⅲ	春	30
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
酒井 新一郎	選択	2	旅行会社勤務			

### 授業の到達目標

将来、観光関連企業（旅行会社・ホテル・観光局など）に従事することを考えている者が就業体験により、自己の適正を知り、働くことの本質を学ぶ。インターンシップ参加に際してのエントリーシート作成や業界研究や企業コンプライアンスについて理解することを目標とする。このクラスはKAISEIパーソナリティのS（奉仕）とA（自立）を養う。

### 授業の概要

インターンシップは、事前研修と就業体験（インターンシップ）及び体験発表からなる。事前研修では業界研究や企業コンプライアンスなどについての講義を行い、グループワークでその理解を深めていく。またインターンシップ参加へおエントリーシート作成を行う。就業体験は夏休みに実施され、インターンシップ期間は受け入れ先により5日～2週間となる。尚、体験発表準備と体験発表は9月中旬（夏休み期間）に実施する。（2日間）。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. インターンシップとは
3. 企業コンプライアンスについて
4. 業界研究①
5. 業界研究②
6. インターンシップ先へのエントリーシート作成
7. 受け入れ企業へのエントリーシート作成②
8. 就業体験①
9. 就業体験②
10. 就業体験③
11. 就業体験④
12. 就業体験⑤
13. 就業体験についてグループシェア
14. 就業体験発表準備
15. 就業体験発表

### 授業の方法

講義と就業体験及びプレゼンテーションを中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題は就業体験レポートとプレゼンテーション  
評価は平常点20%、就業体験50%、プレゼンテーション30%  
就業体験は5回で30時間とする。

### 欠席について

事前研修の欠席が多い場合は、インターンシップ参加を取り消す場合がある。  
就業体験欠席者は単位認定されない。

### テキスト

随時プリントを配布する。

### 留意事項

インターンシップ受入先は、主に観光・ホスピタリティ産業が対象である。それ以外にキャリアセンター扱いの企業も認める。また学生自身が就業体験先を選定した場合は事前審査を経て認める。尚、一部の受入先で選考がなされる場合がある。  
履修者が多い場合は選考を行う場合がある。

### 教員連絡先

sakai@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ホスピタリティ・マネジメント			13831	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

企業環境を取り巻く環境は厳しい。特にホスピタリティ産業は製品・サービスが製造業などに比べ差別化が難しい。顧客に真の価値を理解してもらうためには組織が重要になる。魅力ある構成員と製品が一体となる必要がある。本講義は、ホスピタリティ産業におけるマネジメントをテーマに、組織管理と従業員のモチベーション向上に何が必要かを理解し学修する。企業経営の中心に必要な戦略を理解し学修する。ホスピタリティ産業の基礎的なマネジメント能力を身に付ける。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

講義は、理論と事例研究に分けて構成されている。前半は、ホスピタリティとサービスの違い、マネジメントの理論とマーケティングの基本を中心に講義される。市場における競争優位は、製品の差別化で達成できるのか、模倣されない差別化とは何かを学ぶ。後半は、ホスピタリティ産業の事例 (DVD)に取り上げ、その本質を解説する。特に、理念と組織行動に焦点をあて、おもてなしとは何か、収益とはどこからくるのかを学ぶ。市場における外部環境を理解しながら競争力について理解する。特に、コア・コンピタンス経営に焦点を当て、成長する企業 (ホテル・旅館・テーマパーク等) から (DVD)学修する。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. ホスピタリティの歴史と文化
3. ホスピタリティ・サービスの語源
4. ホスピタリティ産業の製品特性
5. マーケティング戦略・マーケティングミックス
6. マーケティング戦略・インターナルマーケティング
7. マーケティング戦略・労働生産性
8. 旅行業のプロが選ぶホテル・旅館NO1の戦略
9. 事業の破綻と再生から学ぶ
10. 高級ホテルのサービス手法を探る (ワオとは何か)
11. ニッチ市場を狙う旅行代理店 (高額所得者を顧客に持つ旅行代理店のマネジメント)
12. ホスピタリティ産業における企業戦略・大阪のビジネスホテルの事例から
13. ホスピタリティ産業における企業戦略のまとめ

14. ホスピタリティ産業における企業戦略のまとめ

15. まとめと総括試験

### 授業の方法

パワーポイントを使い講義を進める。テキストは使用しないのでノートをとること。また、DVDを利用して事例研究をおこなう。

### 準備学修

ホスピタリティ関連の書籍を読むこと。日刊紙、経済新聞等を読むこと。

### 課題・評価方法

課題30%

総括試験70%

### 欠席について

大学の規定通りとする。

### テキスト

特に予定していない。

### 参考図書

服部勝人 (2004) 『ホスピタリティマネジメント入門』丸善  
 Jay B. Barney (岡田正大訳) (2011) 『企業戦略論』ダイヤモンド社  
 P.F. Drucker (上田惇生訳) 『マネジメント』  
 Kotler (平井祥訳) (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズム・マーケティング』ピアソン・エデュケーション

### 留意事項

講義だけでなく、講義で得た知識で社会を観る事で講義の内容が活かされる。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光マーケティング論			13833	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

観光はディスティネーションと輸送機関、そして宿泊業の連携が重要である。一つの企業だけが独り勝ちができない。市場環境や地域性の影響を受ける。観光マーケティング論では観光事業の市場での行動を理解し、顧客が求める製品・サービスは何か、顧客価値を高めるにはどのようにすればよいかを理解する。ビジネスにはWin-Winの関係が必要不可欠である。観光マーケティングは観光産業全般に関する製品・サービスとリレーションを学修しマーケティング全般の理解を深める。このクラスは、KAISEIパーソナリティのS(奉仕)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

講義はコトラー「ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング」を参考文献とし、マーケティングの基礎的内容から学修する。産業の特性やマーケティング戦略、ブランドポジショニングなど幅広く学修する。講義においては理論と事例を挙げて解説される。事例として、観光地・ホテル業・旅行業・レストラン業・ファストフード業・航空業などを取り上げる。事例を通してマーケティング理解する。

### 授業計画

1. ガイダンス:観光マーケティング論概要
2. 観光とマーケティング
3. ホスピタリティ&ツーリズムマーケティングの商品特性
4. 戦略計画におけるマーケティングの役割
5. マーケティング環境
6. マーケティング情報システム
7. 消費者の心理と購買行動
8. 競争市場の原理
9. 市場細分化における戦略
10. マーケティングミックス (製品)
11. マーケティングミックス (価格)
12. マーケティングミックス (流通)
13. マーケティングミックス (プロモーション)
14. ディズニールランド運営から考えるマネジメント手法
15. まとめ

### 授業の方法

パワーポイントでの講義とグループでのディスカッションから構成される。

### 準備学修

新聞の経済欄や観光経済新聞を読むこと。

### 課題・評価方法

課題30%総括試験70%

### 欠席について

大学の規定通り。

### テキスト

なし。資料配布する。

### 参考図書

Kotler (2003) 『ホスピタリティ&ツーリズムマーケティング』ピアソン・エデュケーション  
 M.E. Poter (2012) 『競争の戦略』ダイヤモンド社  
 Jay B. Barney (2011) 『企業戦略論』上・中・下ダイヤモンド社

### 留意事項

基礎科目 (観光概論、観光事業論) の発展科目である。本学唯一のマーケティング講座である。観光領域を学ぶ学生は履修する事。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
航空ツーリズム論			13836	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石井 由美子	選択	2	航空会社勤務			

### 授業の到達目標

アメリカから始まった空の規制緩和により我が国もオープンスカイを押し進め、2010年に羽田空港も国際化した。近年は長距離路線も拡充し一層便利になっている。また2012年から運航を開始した国内LCCも定着し、航空ツーリズムとして国内旅客だけではなく訪日観光客の利用も急増している。この授業ではグローバル化を進める3大アライアンスや国際ハブ空港の競争も注目しながら、観光立国を目指す我が国にとって航空業界の全体の動きと今後のツーリズムに果たす役割を理解することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

まず社会基盤としての航空事業の特性と日本と世界の航空業界の主要な歴史を解説し、ツーリズム産業での重要な役割を理解していく。次に航空ツーリズムのキーワードになる「オープンスカイ政策」についてアメリカの事例を考察しいかにして巨大航空会社が誕生し、それが世界の航空業界に波及していく状況をヨーロッパ、アジア、日本と順次考察する。その上で世界の3大グローバルアライアンスやLCC、国際ハブ空港の競争を含めた航空業界全体の動向を把握する。2020年は日本でオリンピックが開催され、世界から注目される我が国に於いて航空ツーリズムがどのように発展し訪日観光客4000万人達成を目標としているのかを考える。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 航空事業の特性
3. アメリカの規制緩和とオープンスカイ政策
4. ヨーロッパの規制緩和とEU
5. アジアの規制緩和とASEAN
6. 日本の規制緩和と新規航空会社
7. アメリカのLCC
8. 欧州とアジアのLCC
9. 日本のLCC
10. アジア・ゲートウェイ構想と羽田の国際化
11. 世界の国際ハブ空港の競争
12. グローバルアライアンス
13. JALとANA
14. 航空機の進化とツーリズム

### 15. 航空業界の地球環境対策・まとめ

### 授業の方法

講義を中心とするが学生への課題ではグループディスカッションを取り入れる。

### 準備学修

WEBで参照すること。

### 課題・評価方法

グループでのディスカッションと発表では教員によるフィードバックを行う。

評価は出席状況を含む平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

特別の理由のない欠席は減点する。

### テキスト

特に指定しない。適宜プリントや資料を配布する。授業内容によりDVDなどの映像でも紹介する。

### 参考図書

『航空産業入門 第2版』（2017）ANA総合研究所  
『日本の空を問う』（2007）伊藤元重・下井直毅 日本経済新聞出版  
『最新航空事業論・第2版』（2016）井上泰日子 日本評論社  
『航空産業とライフライン』（2011）戸崎 肇 学分社

### 留意事項

世界の航空業界の動きや日本の観光立国に向けた航空政策、訪日観光客や観光業界に関するニュースなどは常に注目しておくこと。

### 教員連絡先

arimura@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
宿泊事業論			13835	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
一尾 敏正	選択	2	宿泊業実務			

### 授業の到達目標

観光立国を目指し訪日客誘致は宿泊業に多大な影響を与えた。宿泊業はホテル、旅館の枠を超え民泊という新たなジャンルに発展している。本講座は特に旅館、ホテルの歴史や経営に関して学修する。グローバル時代における宿泊業の基礎を理解し、宿泊マネジメント基礎的知識やグローバル化する宿泊業の収益構造や組織運営を理解する。このクラスは、KAISEIパーソナリティのIn(国際性)とE(倫理)を養う。

### 授業の概要

宿の歴史から始まる本講座は、日本の宿泊と欧米におけるホテル業の歴史を学ぶ。次に、産業としてのホテル業を学び、特に現代ホテル産業の組織及び経営方式などを理解する。理解を助ける補助教材として日本ホテル協会監修の研修DVDを参考に理解を深める。宿泊産業の基礎講座である。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. ホテル産業史Ⅰ
3. ホテル産業史Ⅱ
4. ホテル産業史Ⅲ
5. 宿泊業の市場特性
6. ホテルの組織と役割
7. 宿泊事業1
8. 宿泊事業2
9. 宿泊事業3
10. 料飲事業
11. バンケット事業
12. プライダル事業
13. ケータリング事業
14. 購買とFBCC
15. まとめ

### 授業の方法

テキストとパワーポイントを使い講義をする。受講生はノートを取ること。また、ディスカッション等のグループワークも取り入れる。

### 準備学修

図書館で購読されている「ホテルレストラン」「月刊ホテル旅館」を読むこと。事前にテキストを一読すること。

### 課題・評価方法

課題30%、総括試験70%

### 欠席について

大学の規定通りとする。

### テキスト

鈴木博、大庭祺一郎（2007）『基本ホテル経営教本』柴田書店

### 参考図書

適宜紹介  
オータパブリケーション『ホテルレストラン』  
柴田書店『ホテル旅館』

### 留意事項

観光における中心的な産業は、宿泊業である。ツーリズムを学ぶ上で必要不可欠である。合わせて、観光マーケティング論を履修すること。

### 教員連絡先

ichio@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
WEBトラベルプレゼンテーション			13839	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
釜須 久夫	選択	2	旅行会社勤務			

### 授業の到達目標

国内外のトラベルやサービス業関連のWEBページの分析を通して、WEBプレゼンテーションの役割とポイントを学習し、基本条件や専門知識を習得する。また実習では理想的なWEBプレゼンテーションと役に立つプレゼンテーションのテクニックを養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

### 授業の概要

WEBプレゼンテーションに必要な基本条件と専門知識を学び、実習でテーマに基づいた企画書、日程表、パンフレットなどの作成作業や発表等のプレゼンテーションを通して、効果的な作成方法や発表のテクニックを学ぶ。

### 授業計画

1. WEBトラベル・プレゼンテーション概要(テーマの説明と内容の紹介)
2. トラベルやサービス業関連のWEBページの分析
3. WEBプレゼンテーションの基本条件(テーマ・イメージ・キーワード)
4. WEBプレゼンテーションの基本条件(ページレイアウトとデザイン制作フロー)
5. プレゼン資料の作成方法と発表のポイント
6. WEBプレゼンテーション実習(1)
7. WEBプレゼンテーション実習(2)
8. WEBプレゼンテーション実習(3)
9. WEBプレゼンテーション実習(4)
10. WEBプレゼンテーション実習(5)
11. WEBプレゼンテーション実習(6)
12. WEBプレゼンテーション実習(7)
13. WEBプレゼンテーション実習(8)
14. WEBプレゼンテーション実習(9)
15. 総括&試験

### 授業の方法

講義と小テスト、プレゼンテーションの資料作成と発表等の実習を中心とする。

### 準備学修

事前に指示された個所を予習、復習してくること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

欠席は原則として認めない。欠席の場合は原点の対象とする。

### テキスト

なし

### 留意事項

必要に応じて、授業中に指示を行う。

### 教員連絡先

sam@alohawalker.net

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神戸学			13841	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
箕野 聡子	選択	2				

### 授業の到達目標

地元神戸の成り立ちを知り、その特徴がどのように文化的資源として活用されているかを考える。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

### 授業の概要

神戸を舞台とした文学作品に触れながら、神戸文化の特徴を学ぶ。観光資源としての価値に注目するため、各自神戸の町に出てレポートし、発表を行う。

### 授業計画

1. 神戸海岸通りと旧居留地  
陳舜臣「枯草の根」を読み、神戸居留地の歴史を振り返る。
2. 神戸の海岸線  
村上春樹「ノルウェイの森」・「5月の海岸線」を読み、神戸の海岸線埋め立てによる開発を考察する
3. 雑居地文化と異人館通り  
宮本輝「花の降る午後」を読む。雑居地に暮らし、戦争を乗り越えた外国人たちの文化を考察する。神戸のスイーツやパン、洋食文化にも触れる。
4. 神戸モダニズム  
稲垣足徳「星を造る人」を読み、トーアロード周辺から発信された、神戸モダニズムについて考察する。
5. 他地域からの視点  
堀辰雄「旅の絵」を読み、東京からのお客様である堀辰雄を案内した竹中郁のエッセイにも触れる。外から見た神戸文化について考察する
6. ミステリー発祥の地としての神戸  
横溝正史「虹のある風景」を読み、新開地出身のミステリー作家が描く労働者の町神戸の文化発展を考察する。
7. 川崎造船所と神戸の町  
久坂葉子「ドミノのお告げ」を読む。カワサキワールド・神戸海洋博物館にも触れ、神戸の経済を支えて来た川崎造船所の神戸経済への影響力を考察する。
8. 鈴木商店を支えた女性  
玉岡かおる「お家さん」を読む。かつて世界を掴んだ神戸の個人商店鈴木商店。その歩みと、鈴木商店を支えた神戸の女性の生き方を考察する。
9. プレゼンテーション発表

10. プレゼンテーション発表

11. プレゼンテーション発表

12. プレゼンテーション発表

13. 映画に登場する神戸の風景

有川浩「阪急電車」における神戸ロケの意義について考察する。

14. 神戸モダニズムの転換期

昭和40年代の神戸と阪神間文化について考察する。かつてモダンと呼ばれた文化がレトロと呼ばれるようになった時、神戸では何が起ったのか。文学作品を参考資料として考察していく。

15. 神戸と坂の物語

神戸には、坂があるからこそ生まれた物語がある。それらを、考察していくことでまとめとする。

### 授業の方法

前半は講義形式となるが、後半は、各自が取材した神戸についての発表を行い、それについてのディスカッションを行う。

### 準備学修

Web参照すること。

### 課題・評価方法

毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。出席状況(30%)、ノート評価(30%)、発表(20%)、レポート(20%)

### 欠席について

規定に従う

### テキスト

必要に応じて随時紹介し、プリントを配布する。

### 参考図書

必要に応じて随時紹介する。

### 教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ビジネス中国語			13832	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
王 嫣	選択	2				

### 授業の到達目標

中国語の発音、基礎単語と基礎文法を学び、練習問題を通して、中国語の基本表現を身につける。中国人の生活習慣を紹介し、中国文化への理解を広げる。自己紹介が流暢にできるように繰り返し練習する。中国語会話を楽しく勉強して、コミュニケーション能力を養う。この授業では、KAISEIパーソナリティのIn（国際性）とA（自律）を身につける。

### 授業の概要

中国語学習の中に一番大事な部分は発音である、正確な発音を覚えるために、発音練習以外に聞くの練習もたくさんする。中国語の基礎単語と基礎文法をいろんな形で練習して覚える。異文化を理解するために、中国の文学作品及び唐詩を紹介する。中国の歌も一曲歌えるように挑戦する。中国語検定試験問題の指導を行う。

### 授業計画

1. 第1課、あいさつする
2. 第2課、名前を尋ねる
3. 第3課、食べたいものを尋ねる
4. 第4課、近況を尋ねる
5. 第5課、予定を尋ねる
6. 第6課、場所を尋ねる
7. 第7課、注文する
8. 第8課、値段の交渉をする
9. 第9課、出来事を尋ねる①
10. 第10課、出来事を尋ねる②
11. 第11課、希望を尋ねる
12. 第12課、行き方を尋ねる
13. 第13課、経験を尋ねる
14. 「自己紹介」を練習する
15. 授業のまとめ・テスト

### 授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。毎回「発音の指導」、「語彙、文法と文型の説明」と会話練習を行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

1、課題：小テストを3回実施する。講義の中でフィードバックを行う。

2、評価方法：平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

大学の規定に従う。

### テキスト

「できる・つたわる コミュニケーション中国語」 岩井伸子、胡興智著 白水社

展開科目〈観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光フランス語			13837	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
平田 淳子	選択	2				

### 授業の到達目標

〈観光客としてフランスを旅行する〉またく日本を訪れたフランス語話者とコミュニケーションをとる〉ために最低限必要な知識と会話を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

フランス（首都、地方）、衣食住を含むフランス人の日常生活、社会の動向、文化などフランス諸事情全般について、関連項目の映像資料を参考にしながらテキストを講読し、フランスに関する理解を深める。

### 授業計画

1. Orientation, "La France"
2. La France Pairs
3. Paris
4. Les cafés
5. La vie des étudiants
6. Le pain, le vin et le fromage
7. La Bretagne
8. La Bretagne
9. La Provence
10. La Provence
11. L'Alsace
12. L'Alsace, 映画鑑賞(フランス語)
13. Trois grands personnages de l'histoire française
14. Le français dans le monde
15. まとめと試験

### 授業の方法

多彩なテーマについて書かれた関連資料の講読と学生の発表（テーマについて観察、調査、考察をしたもの）による。

### 準備学修

web参照のこと

### 課題・評価方法

出席点10%、平常点20%、研究発表30%、学期末試験40%

### 欠席について

授業出席は必要不可欠。やむを得ない場合、授業で進んだところまでの内容について自らの補習が必要である。

### テキスト

Amicalement plus (2018 駿河台出版社)  
テキスト講読に関しては予めプリントを準備する。

### 参考図書

必要があれば授業で紹介する。その他、観光案内資料や映像資料を準備する。

### 教員連絡先

hirataj@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

予め直接に、またはメールで予約すれば時間調整は可能。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童英語教育概論			13701	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2				

### 授業の到達目標

小学校外国語活動・外国語科の学習指導の知識、第2言語習得の基礎的な知識、授業に必要な英語コミュニケーション能力、教材や評価の基礎知識を、小・中・高等学校の連携も視野に入れて身に付ける。  
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法、小学校の外国語教育に必要な基礎的な知識を、以下の「授業計画」の具体的な項目に従って身に付ける。毎回「10分間 Classroom English」を行う。

### 授業計画

1. 小学校英語教育の目的(1) 小学校学習指導要領の理解
2. 小学校英語教育の目的(2) 世界の言語政策事情
3. 小学校英語教育の目的(3) 異文化理解
4. 小学校英語教育の目的(4) 児童文学
5. 第2言語習得研究(1) 年齢と言語習得
6. 第2言語習得研究(2) 学習と環境
7. 第2言語習得研究(3) 学習者要因、指導者要因
8. 第2言語習得研究(4) 児童期の第2言語習得における語彙習得
9. 第2言語習得研究(5) 児童期の第2言語習得における文法習得
10. 第2言語習得研究(6) 児童期の第2言語習得における音声習得
11. 技能の育成(1) リスニング
12. 技能の育成(2) スピーキング
13. 技能の育成(3) リーディング
14. 技能の育成(4) ライティング
15. まとめ、小学校英語指導に求められる資質と能力

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点30%、プレゼンテーション30%、定期試験40%

### テキスト

英語科教育のフロンティアー充実した実践を目指してー（青木昭六編著、保育出版社）  
小学校英語の教育法 理論と実践（アレン玉井光江、大修館書店）

### 参考図書

小学校学習指導要領解説 外国語編【最新版】（文部科学省）  
その他、必要に応じて、随時紹介する。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法 I			13705	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	2	インターナショナルスクール幼稚園教諭・保育士			

### 授業の到達目標

小学校・中学校・高等学校における英語学習・指導の知識、授業指導、学習評価の基礎を、次に続く英語科教育法Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの授業との連携も視野に入れて身に付ける。  
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導についての基礎的な知識及び複数の領域を統合した指導法を、以下の「授業計画」の具体的な項目に従って身に付ける。

### 授業計画

1. 英語教育の目的(1) 小・中・高等学校学習指導要領の理解
2. 英語教育の目的(2) 小・中・高等学校を通じた英語教育の在り方
3. 第2言語習得研究(1) 学習者の特質: 認知的要因
4. 第2言語習得研究(2) 学習者の特質: 情意的要因
5. 第2言語習得研究(3) 学習者の特質: 動機付け
6. 英語教材研究(1) 音声とつづり字
7. 英語教材研究(2) 語彙と表現
8. 英語教材研究(3) 文法と情報構造
9. 英語教材研究(4) Eラーニング、ICT教育
10. 音声言語指導 リスニング・スピーキング(やり取り・発表)の指導
11. 音声言語指導 リスニング・スピーキングの授業展開、チームティーチング
12. 書記言語指導 リーディング・ライティングの指導
13. 言語能力の測定と評価(1) パフォーマンス評価等評価方法と評価基準
14. 言語能力の測定と評価(2) テストの意義と作成上の留意点
15. 総括 英語教師の資質と能力

### 授業の方法

講義のほかに発表を多く取り入れる。

### 準備学修

必ず、あらかじめテキストを読み、予習して授業に臨むこと。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

### テキスト

英語科教育のフロンティアー充実した実践を目指してー（青木昭六編著、保育出版社）

### 参考図書

外国語学習の科学（白井恭弘著、岩波書店）  
中学校学習指導要領解説 外国語編【最新版】（文部科学省）  
高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編【最新版】（文部科学省）  
その他、必要に応じて、随時紹介する。

### 留意事項

授業中の意欲、積極的学習態度を評価する。課題発表にさいしては、発表者と聞く側の学生が質疑応答を通して議論を深めること。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅱ			13709	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
宮副 紀子	選択	2	私立中学高等学校教員（科目「英語」）			

### 授業の到達目標

中学校・高等学校における英語学習・指導の知識、授業指導の基礎及び異文化理解を、次に続く英語科教育法Ⅲ・Ⅳの授業との連携も視野に入れて徹底する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)、I(知性)、In(国際性)、E(倫理)を学ぶ。

### 授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」の養成を重要な柱と位置づけ、以下(授業計画)の具体的項目に関して教育法の鳥瞰図的全体像を示し、学生の自覚・理解を促す。

### 授業計画

1. はじめに: 授業の概要について
2. 学習指導要領の理解
3. 英語の指導目標と内容
4. 学習者の要因
5. 言語習得の理論と諸問題
6. 発音の指導
7. 文字と綴りの指導
8. 語彙表現、文法の指導
9. リスニングの指導
10. スピーキングの指導
11. リーディングの指導
12. ライティングの指導
13. 言語技術を統合した指導
14. 異文化理解
15. 総括(複数領域を統合した言語活動の指導を中心に)

### 授業の方法

講義のほかに各自の発表を多く取り入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題：講義のテーマによってはレポート作成を課し、講義中、ある

いは個人指導においてフィードバックを行う。

評価方法：平常点30%、定期試験70%

授業中の積極的な質疑応答を高く評価する。

### 欠席について

欠席・遅刻については一定の比率で減点する。

### テキスト

土屋澄男・広野威志『最新英語科教育法入門』研究社

### 参考図書

白井恭弘『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』(岩波書店)

中学校学習指導要領解説 外国語編 [最新版] (文部科学省)

高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編 [最新版] (文部科学省)

その他、必要に応じて、随時紹介する。

### 留意事項

課題担当者は、発表の内容のみならず、プレゼンテーションの方法も工夫すること。

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅠ	ET		13725	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2				

### 授業の到達目標

小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて身に付ける。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)の育成を目指す。

### 授業の概要

小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業の在り方を踏まえた知識と技術を以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。

### 授業計画

1. 小学校外国語教育の目標・内容(1)年間指導計画と小中高連携
2. 小学校外国語教育の目標・内容(2)教材研究と学習指導案作成法
3. 小学校外国語教育の目標・内容(3)ICTの効果的な活用法
4. コミュニケーション能力を育成する指導法 ティームティーチング
5. コミュニケーション能力を育成する指導法 発話を促す活動
6. 小学校英語教材研究(1)音声習得中心の活動
7. 小学校英語指導法(ワークショップ)(1)音声習得中心の活動
8. 小学校英語教材研究(2)文字習得中心の活動
9. 小学校英語指導法(ワークショップ)(2)文字習得中心の活動
10. 小学校英語教材研究(3)表現形式に焦点を当てた活動
11. 小学校英語指導法(ワークショップ)(3)表現形式に焦点を当てた活動
12. 小学校英語教材研究(4)言語使用の場面・背景(物語)に焦点を当てた活動
13. 小学校英語指導法(ワークショップ)(4)物語の場面・背景に焦点を当てた活動
14. 小学校英語 模擬授業
15. Can-Doによる英語能力の測定とパフォーマンス評価、模擬授業の振り返り

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点30%、プレゼンテーション30%、定期試験40%

### テキスト

英語科教育のフロンティア—充実した実践を目指して—(青木昭六編著、保育出版社)

小学校英語の教育法 理論と実践(アレン玉井光江、大修館書店)

### 参考図書

小学校学習指導要領解説 外国語編 [最新版] (文部科学省)

その他、必要に応じて、随時紹介する。

資格科目 <キッズ・イングリッシュ・教職>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュII	ET	13729	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
後藤 江里	選択	2	インターナショナルスクール幼稚園教諭・保育士		

### 授業の到達目標

キッズ・イングリッシュIで体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小・中学校、高校、英会話学校等での指導に役立つ授業創りを考え、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

### 授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた音声、文字、語彙・表現、文法指導についての知識と技術を活用し、授業案作成、教材教具作成、模擬授業を行う。その上で、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

### 授業計画

1. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1) [活動案作成のポイント]
2. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2) [絵カード・教具・ワークシート作成法]
3. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3) [活動案草案発表]
4. 実習授業活動案作成(1)『教材研究』
5. 実習授業活動案作成(2)『教具作成』
6. 実習授業活動案作成(3)『評価の観点と振り返りカード作成』
7. 実習授業活動案発表と模擬授業
8. 第1回 小学校英語活動 実習授業
9. 実習リフレクション
10. 実習授業活動案作成(4)『教材研究・教案発表』
11. 実習授業活動案作成(5)『教具作成』
12. 実習授業活動案作成(6)『評価の観点と振り返りカード作成』
13. 実習授業活動案発表と模擬授業
14. 第2回小学校英語活動 実習体験
15. まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成

### 授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学

校英語活動の支援を実際に現場で体験する。

### 準備学修

教材を作成し、模擬授業の練習をしておくこと

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

### テキスト

授業時にハンドアウト、及び、PCで教材配布

### 参考図書

『小学校英語教育の進め方』岡秀夫、金森強 成美堂  
『小学校英語の教育法 理論と実践』アレン玉井光江 大修館書店

### 留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

資格科目 <キッズ・イングリッシュ・教職>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅲ		13737	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
吉野 美智子	選択	2			

### 授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する理論と教授法の基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

### 授業の概要

英語教育の第一目標である英語のコミュニケーション能力を、ほぼ日本語だけで日常生活を送る生徒たちに身につけさせるには、授業において、どのような創意工夫が必要であるかを、第1・第2言語習得や言語教育に関する様々な理論を踏まえながら、模擬授業やディスカッション等を通して考える。

### 授業計画

1. 英語教育の目標と学習指導要領
2. 第1言語習得と第2言語習得
3. 主な外国語教授法の流れ(1) 文法・翻訳法~ダイレクト・メソッド
4. 主な外国語教授法の流れ(2) オーディオ・リンガル・メソッド
5. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(Dell Hymes)
6. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(Canale and Swaine, Henry Widdowson)
7. コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチング(CLT)の言語理論と指導原理(Keith Johnson)
8. 授業の準備、学習指導案の作成
9. 授業の工夫(1): Warm-upとreview、文法・文型の導入
10. 授業の工夫(2): 文法・文型の練習と発展活動
11. 授業の工夫(3): 語彙の導入と指導、本文の読解指導
12. 模擬授業(Grammarを中心に)
13. 模擬授業(Readingを中心に)
14. 模擬授業(Communicationを中心に)
15. まとめ

### 授業の方法

講義、ワークショップ、DVD視聴、模擬授業、ディスカッションによって授業を進める。

### 準備学修

・ 次回のテーマについて、テキストの該当箇所を読んでおくこと。  
・ Grammar I-IIIを徹底的に復習するなどして、常に文法力の向上に努めること。  
・ 中学校及び高等学校の学習指導要領を読んでおくこと。Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点30%、レポート30%、模擬授業40%

### 欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

### テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂 『新版』英語科教育実習ハンドブック (大修館)  
土屋澄男(編著) 他 『新編 英語科教育法入門』(研究社)  
文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』(開隆堂)  
文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』(開隆堂)  
必要に応じてハンドアウトを配布する。

### 参考図書

授業中に随時紹介する。

### 留意事項

・ 平常点には、模擬授業、出席状況、授業への参加・貢献度の評価が含まれる。  
・ 毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

### 教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英語科教育法Ⅳ			13741	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
吉野 美智子	選択	2				

## 授業の到達目標

中学校・高等学校の英語教師として学習指導を行うために必要な、外国語教育に関する基礎知識及び教室での基礎的な指導技術を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

## 授業の概要

英語科教育法Ⅰ～Ⅲで修得した英語教育に関する知識や指導技術を各々の模擬授業において実践する。そして、模擬授業における改善すべき点や指導上の困難点及びその解決方法等についてディスカッションを行い、教育実習での授業に備える。また、学習指導上の評価と及び評価方法の一つであるテストについても学ぶ。

## 授業計画

1. 学習指導要領における各科目の目標と内容
2. 模擬授業の準備(1):1時間の授業の流れ(中学校)
3. 模擬授業の準備(2):1時間の授業の流れ(高等学校)
4. 模擬授業の準備(3):教科書全体の構成、扱う単元の教材研究
5. 模擬授業の準備(4):授業の構成と学習指導案の作成
6. 模擬授業の準備(5):ALT等とのチーム・ティーチング
7. 模擬授業の準備(6):英語でのインタラクション
8. 模擬授業の準備(7):授業における各活動の目的と工夫1
9. 模擬授業の準備(8):授業における各活動の目的と工夫2
10. 評価とテスト(Evaluation and Testing)
11. 模擬授業と授業観察(Grammarを中心に)
12. 模擬授業と授業観察(Readingを中心に)
13. 模擬授業と授業観察(Communicationを中心に)
14. 模擬授業と授業観察(Writingを中心に)
15. 模擬授業の総括、教育実習に向けて

## 授業の方法

DVDの視聴、ワークショップ、模擬授業を中心とする。各活動の後にはディスカッションを行う。

## 準備学修

1単元の学習指導案を作成し、それに基づいた模擬授業（各自2回程

度)を行うための準備(教材研究、教具の作成、授業の練習等)をすること。Webで参照すること。

## 課題・評価方法

平常点(模擬授業観察を含む)30%、模擬授業70%

## 欠席について

出席点(100点満点)は全体の15%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

## テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『[新版]英語科教育実習ハンドブック』(大修館)  
土屋澄男(編著)他『新編 英語科教育入門』(研究社)  
文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』(開隆堂)  
文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』(開隆堂)  
必要に応じてハンドアウトを配布する。

## 参考図書

授業中に随時紹介する。

## 留意事項

・評価は、学習指導案の作成、模擬授業、模擬授業の観察・参加の記録、出席状況、日頃の学習態度を基準にして行う。  
・毎授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって授業に参加・貢献する態度が必要である。

## 教員連絡先

yoshino@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅢ(実習)			13733	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	1	インターナショナルスクール幼稚園教諭・保育士			

## 授業の到達目標

グローバル化に対応した英語教育改革が実施され、2020年度小学校英語は教科化される。小学校英語指導者養成のキッズ・イングリッシュ・プログラムの最終段階として、学生自身が、英語活動・英語教育を、活動内容の企画、活動案・教具作成、模擬授業で練習した後、幼稚園や小学校現場で指導者として、実習体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

## 授業の概要

本授業では、キッズ・イングリッシュⅠ、Ⅱで学習した小学校英語教育を、幼稚園・小学校現場で出前授業の形で授業体験する。この体験から、理論を踏まえた実践、かつ、実践から理論の再構築へと、理論と実践の融合を計り、児童英語学とは何かを体系的に考える。

### 実習計画

- ①実習する授業案・教材教具を作成し、授業準備を行う。
- ②作成した授業案で自身が小学校現場で授業できるように、模擬授業で練習する。
- ③実習園・実習校の通常授業で、実習授業を行う。
- ④実習授業の結果を評価し、次の段階を目指す。

## 授業計画

1. 小学校英語教育実習授業
2. 第1回 小学校英語教育実習授業
3. 第1回 小学校英語教育実習授業
4. 第1回 小学校英語教育実習授業
5. 第1回 小学校英語教育実習授業
6. 第2回 小学校英語教育実習授業
7. 第2回 小学校英語教育実習授業
8. 第2回 小学校英語教育実習授業体験
9. 第3回 小学校英語教育実習授業
10. 第3回 小学校英語教育実習授業
11. 第3回 小学校英語教育実習授業
12. 第4回 小学校英語教育実習授業
13. 第4回 小学校英語教育実習授業
14. 第4回 小学校英語教育実習授業体験
15. 総括

「指導目標・授業・評価の一体化」

## 授業の方法

理論、ワークショップでの授業法体験を活かし、自らが活動案を作成、実際小学校現場での英語活動を支援する

## 準備学修

教材研究、教材製作、模擬授業練習などを行って置く。

## 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

## 欠席について

参加・発表型授業であり、小学校英語活動実習を行うので必ず出席すること。

## テキスト

授業時にハンドアウト、及び、PCで教材配布

## 参考図書

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂  
「小学校英語の教育法 理論と実践」アレン玉井光江 大修館書店

## 留意事項

実習に出かけるときは、指導者としてふさわしい服装・態度で臨むこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
外国語教授法			13745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	2	インターナショナルスクール幼稚園教諭・保育士			

### 授業の到達目標

本講義では、グローバル化に対応した英語教育改革のゴールを考え、小学校から中学校・高校への英語学習・指導の知識、授業指導、学習評価の連携が図れる「外国語教授法」のあり方を考える。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

日本では、英語学習に相当な時間と労力を費やしている。英語がペラペラに使える人は多くはないが、日本語がペラペラに使えない日本人はいない。外国語教育を成功させるための秘訣とは何か？ 本授業では、小学校英語教科化を見据えた外国語教育のあり方そのものを考える。外国語教授法の理論と指導法の実践を学習し、指導者側における効果的な外国語教授法、そして、学習者側においては効果的な外国語学習法の理論と実践状況を学ぶ。

### 授業計画

1. 外国語授業法の歴史
2. 教授法の理論的背景(1)
3. 教授法の理論的背景(2)
4. 発表(1)「授業法」
5. 教授法の理論的背景(3)
6. 教授法の理論的背景(4)
7. 教授法の理論的背景(5)
8. 教授法の理論的背景(6)
9. 発表(2)「指導法」
10. 英語教師の資質と能力
11. 学習者の特質
12. 小中連携英語教育
13. プレゼンテーション
14. 評価
15. 発表(3)

### 授業の方法

教授法の理論と実際の授業での応用から、理論と実践の融合を体験する

### 準備学修

項目・内容について下調べをしておくこと。テキストの該当章を読んでおくこと。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

授業時に、講義内容に関するレポートを提出、プレゼンテーションを行う。評価の対象とするので、公欠などの連絡を必ずすること。

### テキスト

英語科教育のフロンティア ―充実した実践を目指して― 青木昭六 ISBN978-4-905493-03-7

### 参考図書

現代英語教授法総覧 田崎清忠編集責任者 大修館書店

### 留意事項

参考図書、参考文献をあらかじめ読んでおくこと

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論（中高）			13809	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	中学校教員、中学校長、神戸市教育委員会指導主事			

### 授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を学ぶ。教員の資質能力と職務内容について身に付けることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

### 授業の概要

学校教育や教職の在り方について理解し、教員の資質や能力の向上、研修方法について学ぶ。さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の公教育の意図を考察する。

### 授業計画

1. 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義
2. 教員の服務と義務
3. 学校制度の変遷と教員養成
4. 公教育の目的と教員の役割
5. 学校の組織と運営における教員の役割
6. 教員の研修の意義と制度
7. 教員に求められる資質能力
8. 教科と教科外の指導
9. 教師力と教員の評価
10. 学校種間の連携、部活動指導での教員の役割について
11. 地域社会との連携における教員の役割
12. 教員の人権感覚
13. チーム学校の在り方と危機管理
14. 教職とボランティア活動の関係
15. 職業としての教職の在り方

### 授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートやレポートにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

### 準備学修

指示された資料を事前に読んで理解したり、中等教育関連の情報を積極的に収集すること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

### テキスト

なし

### 参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

### 留意事項

毎回、授業のレジメや資料を整理保存し、最後に講義メモを添えて提出してもらいます。

### 教員連絡先

mhorri@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (キッズ)		13809	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士		

### 授業の到達目標

教職の意義や教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例などから学校教育に期待される役割や、今後の教員に求められる資質・能力について学び自らの適性を見出す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

### 授業の概要

社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し、調査・発表の機会をもつ。チームとして諸課題に対応する学校の在り方や教員の職務内容、服務上や身分上の義務について理解し、自ら目指す教師像を明確にもつようにする。

### 授業計画

1. 「教職概論」科目の特性と概要
2. 教職の意義
3. 幼稚園教育と小学校教育
4. 教員の歴史、女性と教職
5. 学校の組織と運営
6. 教員の職務内容
7. 教員に課せられる服務上・身分上の義務と身分保障
8. 学び続ける教員へ(教員のライフステージと研修制度)
9. 国際化・情報化と教員の役割
10. 学校における社会体験とキャリア教育
11. 様々な問題行動とカウンセリングマインド
12. 特別な支援を要する幼児・児童への対応
13. 学校(園)・地域・家庭の連携と役割
14. チーム学校の意義と実際について
15. 今後の教員に求められる資質・能力(専門職としての教員)まとめを行ってから試験をする

### 授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。またリフレクションシートや自修シート他の作成により、自己の考えを深め、知識の定着を図る。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①リフレクションシートや課題レポートの提出を2回求め、講義中にフィードバックを行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき、3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

### テキスト

古橋和夫(編)『新訂 教職入門 未来の教師に向けて』2018年(株)萌文書林

### 参考図書

秋田喜代美、佐藤学編著『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣アルマ  
文部科学省『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』  
内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

### 留意事項

保育士資格と幼稚園教員免許の併有による「保育教諭」としての要請も高まりつつある。教員を目指す学生としての意識を高くもって授業に臨んでもらいたい。

### 教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	ET	13815	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員		

### 授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI(知性)とE(倫理)の育成を目指す。

### 授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

### 授業計画

1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
2. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
4. 幼児期から青年期において、社会性の発達
5. 幼児期から青年期における現代の発達課題
6. 認知発達、認知機構の変遷
7. 主体的な学びの開発と体系化
8. 主体的、対話的で深い学びの実践例
9. 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
10. 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
11. 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
12. 学習成果の可視化
13. 主体的な学習、思考力を育む学習集団
14. 発達障害の理解と支援
15. まとめと振り返り

### 授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

### 準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

学内規定に準ずる

### テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』株式会社E R P

### 参考図書

授業中に紹介する

### 留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法（中高）		13854	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
都賀 純／堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会指導課指導主事		

### 授業の到達目標

教育課程の意義や編成の方法を学び、カリキュラムマネジメントの重要性を理解する。また、教育課程における総合的な学習の時間の位置づけや意義を理解し、指導計画の作成の仕方を修得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とK（思いやり）の育成を目指す。

### 授業の概要

教育課程の果たす役割や機能、意義を理解し、公的な性格を有する学習指導要領を学ぶ。さらに、学習指導要領の歴史的な変遷や諸外国との教育制度の比較から、現在の教育課程の意図を考察する。そして、教育課程における「総合的な学習の時間」の模擬編成に取り組む。

### 授業計画

1. はじめに、教育課程とは
2. 教育課程に関する法律
3. 教育課程の歴史（学習指導要領の変遷）
4. 教育課程の歴史（総合的な学習の時間の誕生）
5. 各学校種における教育課程（中・高）
6. 総合的な学習の時間の指導①
7. 総合的な学習の時間の指導②
8. 総合的な学習の時間とカリキュラムマネジメント
9. 教育課程の編成と評価
10. 学校種間の連携における教育課程の工夫
11. 地域社会の連携と総合的な学習の時間
12. 今日的な課題とカリキュラムマネジメント
13. 諸外国の教育課程（米・欧）、教育課程の模擬編成演習①
14. 諸外国の教育課程（中・韓）、教育課程の模擬編成演習②
15. 模擬編成した教育課程のプレゼンテーション、まとめ

### 授業の方法

毎回レジメを配布し、授業を行う。

### 準備学修

図書館等で、日本や諸外国の教育制度等の参考文献を調べておく

### 課題・評価方法

平常点（30％）、定期試験（70％）

### 欠席について

事前、事後に届け出る

### テキスト

中学校学習指導要領解説（総則編）最新版  
中学校学習指導要領解説（総合的な学習の時間編）最新版

### 参考図書

今、求められる力を高める総合的な学習の時間（小）文部科学省編 教育出版  
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（中）文部科学省編 教育出版  
今、求められる力を高める総合的な学習の時間（高）文部科学省編 教育出版

### 留意事項

配布したレジメや資料をファイルしておくこと

### 教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	ET	13851	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会指導課指導主事		

### 授業の到達目標

子どもたちに求められる資質・能力を育成するための教育の方法、子ども理解、教育評価等について学修し、授業の設計技術を修得する。さらに、情報機器や教材の活用を通じて授業展開の方法を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティーのA（自立）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

学校教育の理念に基づいた教育を実践するための方法や知識を身に付け、基礎的な学習理論と指導技術を学ぶ。

### 授業計画

1. 教育方法学の歴史
2. カリキュラム論
3. 学習指導要領について
4. 教育課程と教科外（総合的な学習の時間、特別活動）の授業の役割
5. 教科書と学校教育の関係
6. 授業の構造論
7. 学校における集団学習の意義と方法（組織、計画、指導体制）
8. 教育技術論
9. 情報教育の内容と構成について
10. 授業の方法と実践について
11. 学力と教育評価について
12. 特別支援教育・人権教育
13. 模擬授業実践と考察（特別の教科・道徳）
14. 模擬授業実践と考察（特別活動）
15. 模擬授業による実践と考察・まとめ

### 授業の方法

毎回レジメを配布し授業を進め、レポート作成やロールプレイに取り組む。

### 準備学修

中学校学習指導要領（総則編）を読んでおくこと

### 課題・評価方法

平常点30％、定期試験70％

### 欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること

### テキスト

文部科学省編 「中学校学習指導要領解説（総則編）」最新版

### 留意事項

授業中に配布した資料をもとに毎回レポートを作成する

### 教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論 (中高)			13853	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	中学校教育研究会研究部会長 中学校長 神戸市教育委員会指導主事			

### 授業の到達目標

社会の状況の変化が学校教育にもたらす影響とそこから生じる課題、それに対応する教育施策の動向を理解する。また、公教育が果たしている社会制度的な意義について考察し、学校教育の基本的な知識を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

### 授業の概要

公教育の意義、原理、構造について法的な仕組みや基礎的な知識を学ぶ。さらに、学校と地域との連携の取り組みの中から学校安全の在り方や危機管理について考察する。

### 授業計画

1. 学校教育と公教育について
2. 教育行政の仕組みについて
3. 教育改革の歴史概要
4. 学校教育における法制度について
5. 学校の組織と運営について
6. 学校における教員の在り方について
7. 学校経営と教師力
8. 学校と地域の連携について
9. 学校教育の評価について
10. 変容する子どもの生活と教育的な課題
11. 安全教育・安全管理の取り組み
12. 学級経営の効果的な指導法について
13. 災害時に学校が果たす役割について
14. 学校における危機管理のあり方
15. 開かれた学校づくりについて・まとめ

### 授業の方法

レポートを書くこと、グループディスカッション等を多く取り入れる。

### 準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べたり、レポートを作成したりすること。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること。

### テキスト

テキストなし

### 参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

### 留意事項

出席と授業態度、レポートを重視する。

### 教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職中等		13852	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士S V、公立小教員			

### 授業の到達目標

中高の児童・生徒が自己理解を深め、さらに他者受容へとつなぐ受講生に子どもの心理的特徴や課題を引き出し支援する基礎的な知識と技術を身につけるようになることをめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、I（知性）、S（奉仕）をめざす。

### 授業の概要

日本には数多くのカウンセラーの資格があるが、来談者が望んでいることは、心の叫びやつぶやきをきちんと受け止めてくれることであろう。対人専門職をめざす者は、現在の主たるカウンセリング理論を概観した上で、自分に合ったスタイルの技法を学び続けてほしい。授業では、事例を多く採り入れて、実践に生かせるよう学習する。

### 授業計画

1. 学校での教育相談を学ぶにあたってその意義を理解する。
2. 学校独自の課題の把握の必要性を学ぶ。
3. 傾聴、共感など学校におけるカウンセリングマインドキーワードについて知る。
4. カウンセリングマインド等教育相談に必要な基本を体験する。
5. 学校でのいじめで、児童・生徒のシグナルや早期発見方法を理解する。
6. 個々の問題行動の本質理解に必要なカウンセリングマインドを生かしたコミュニケーションを体験する。
7. カウンセリングを通じて自己理解、他者受容する技術について知る。
8. 気持ちの良いクラスづくりに欠かせない相互受容の大切さを理解する。
9. 学級内を明るく気持ちの良い雰囲気にするための心理教育を体験する。
10. 非行・問題行動の善後策としての保護者への対応の仕方を理解する。
11. 学級崩壊が生じたときの教育相談としての役割を理解してその教育技術について学ぶ。
12. 学校で虐待を発見する手立て、確認した後の動きや支援の在り方を学ぶ。
13. 児童・生徒の発達課題を学び、保護者相談に生かせるように事例

から学ぶ。

14. 不登校などの問題を一人が抱え込むことがないように校内体制の整備計画について学ぶ。
15. 学校だけでは支援しきれない事案に備えて地域の医療、福祉等専門職との連携の必要性を理解する。

講義後に試験を実施

### 授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議もとり入れて受講者が主体的に参加できる授業形式もとり入れる。

### 準備学修

子どもに関する社会問題等、自分の生活経験から判断するだけでなく、複数の視点で考える習慣を身につける。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

学内規定に準ずる

### テキスト

必要な場合授業時に指示する

### 参考図書

授業時に紹介する

### 留意事項

本授業は、教育現場では誰もが直面する課題を数多く取り上げるので、授業後に自分の考えを持つことが大切である。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

資格科目〈キッズ・イングリッシュ・教職〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職中等	13829	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会指導課指導主事		

**授業の到達目標**  
 道徳教育の基本的な概念を学習し、道徳的な実践力を養う。さらに学校での道徳教育の指導法を考察し、道徳教育指導案の作成と授業を経験する。このクラスではKAISEIパーソナリティー I（知性）を養う。

**授業の概要**  
 道徳の意義や原理を踏まえ、学校における道徳教育の目標や内容を理解する。また、多様な道徳教育の指導法を学修し、実際の教科書を使用して模擬授業を行う。さらに、今後の道徳教育の在り方について考察し、実際の取り組みについて学ぶ。

**授業計画**

- 1.はじめに・道徳教育の基礎理論
- 2.道徳教育の歴史(江戸～明治～戦前)
- 3.道徳教育の歴史(戦後～現代)  
なぜ「特別の教科」なのか
- 4.「特別の教科」道徳の目標について
- 5.道徳教育と教育課程の関連について
- 6.生徒の心理と道徳教育の関わり
- 7.学校における道徳教育指導体制
- 8.道徳教育の指導計画について
- 9.道徳教育指導法(内容項目の詳細)
- 10.道徳教育指導法(指導案の書き方)
- 11.道徳教育指導法(ロールプレイ)
- 12.保育所・幼稚園・小学校における道徳教育
- 13.中学校・高等学校における道徳教育
- 14.諸外国の道徳教育事情
- 15.道徳教育の今日的な課題、まとめ

**授業の方法**  
 レジメや資料を中心に授業を進める。発表、模擬授業、ロールプレイも取り入れる。

**準備学修**  
 過去に学校で学習した道徳の時間や道徳的な行事を思い返しておく

こと。  
 幼いころの作文や文集があれば見ておくこと

**課題・評価方法**  
 平常点30%、定期試験70%

**欠席について**  
 やむをえず欠席する時は事前事後に届けること

**テキスト**  
 文部科学省編「中学校学習指導要領解説(特別の教科道徳編)」最新版

**参考図書**  
 私たちの道徳：中学校「特別の教科道徳」教科書1・2・3・年用

**留意事項**  
 授業中に配布した資料をもとに、毎回レポートを作成します

**教員連絡先**  
 mhori@kaisei.ac.jp

資格科目〈英語・観光〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 1	a	13806	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
和泉 有香	選択	1	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師		

**授業の到達目標**  
 TOEIC(R) Listening & Reading Testスコア500点到達を目指す。そのために必要な英語力(特にTOEIC必須英単語と読解力)の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティー I（知性）を養う。

**授業の概要**  
 到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出の場面設定や文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。単語テストは基本的に毎回実施する。

**授業計画**

1. Unit 01 人物の動作と状態/表・用紙
2. Unit 02 疑問詞を使った疑問文/広告
3. Unit 03 日常場面での会話/品詞
4. Unit 04 アナウンス・ツアー/動詞
5. Unit 05 物の状態と位置/チャット
6. Unit 06 基本構文と応答の決まり文句/手紙・Eメール
7. Unit 07 電話での会話/代名詞・関係代名詞
8. Unit 08 ラジオ放送・宣伝/接続詞・前置詞
9. Unit 09 Yes/NO疑問文/ダブルパッセージ(2つの文書)
10. Unit 10 オフィスでの会話1/Part 5の復習
11. Unit 11 留守番電話/トリプルパッセージ(3つの文書)
12. Unit 12 オフィスでの会話2/Part 7の復習
13. Unit 13 Part 1とPart 2の復習/時制・代名詞・語彙問題
14. Unit 14 トーク・スピーチ・会議の一部/つなぎ言葉・文の挿入
15. 復習、期末試験

**授業の方法**  
 問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

**準備学修**  
 Webで参照すること。

**課題・評価方法**  
 平常点50%、定期試験50%

**欠席について**  
 欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

**テキスト**  
 Mastery Drills for the TOEIC L&R Test (桐原書店)、TOEIC L&R TEST出る単特急 銀のフレーズ (朝日新聞出版)

**参考図書**  
 授業時に必要に応じて紹介する。

**留意事項**  
 ダウンロード音声を用いて確実に復習すること。毎回、英和辞書(紙版、電子辞書)を必ず持参すること。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL入門 1	b		13806	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
入江 和子	選択	1				

### 授業の到達目標

TOEIC(R)Listening & Reading Testにおいて、スコア470点を取ること为目标とする。そのために語彙力、リスニング力、文法力、読解力を向上させるとともに、英文を「聞く、読む、解答する」量と速さに慣れて実践力を養う。またTOEFL受験の基礎英語力強化も目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を養う。

### 授業の概要

映画のストーリーを楽しみながら、英語力をさまざまな角度から身につけていく。各ユニットにおいて音声変化の現象を段階的に学んで理解していくとともに、Dictationコーナーで正しく聞き取れなかった箇所を把握してリスニング能力のアップにつなげる。またテーマとなる基本的な重要語句を習得して語彙力を鍛え、文法の基本的事項を網羅的に確認して理解の定着を図る。さらにPart 6 や Part 7 においては原作と映画の違いを考察したり、映画が制作された時代背景や映画に関するエッセイを読んで読解力を向上させ、この映画に対する理解を深めていく。

### 授業計画

1. Introduction
2. Act 1 On the Kansas Prairies
3. Act 2 Running Away
4. Act 3 Over the Rainbow
5. Act 4 Start at the Beginning
6. Act 5 If I Had a Brain
7. Act 6 If I Had a Heart
8. Review, Mid Term
9. Act 7 If I Had a Nerve
10. Act 8 Knock, and It Shall Be ...
11. Act 9 You Must Prove Yourself
12. Act 10 The Witch's Castle
13. Act 11 Go in There for Dorothy
14. Act 12 Lost and Found
15. Review, Final Exam

### 授業の方法

リスニングとリーディングの問題演習や、音読・ディクテーションなどの作業が中心となる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%  
Quizや試験のフィードバックを講義中に行う。

### 欠席について

欠席1回につき、平常点から2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

### テキスト

Kay Nakago et al. 「名作映画でTOEIC (4)めざせ! 470」— 『オズの魔法使』 [Boost your skills for the TOEIC Test with The Wizard of Oz] EIHOSHA

### 参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

### 留意事項

授業には辞書（紙版/電子辞書）を必ず持参すること

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL 1	ET		13822	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師			

### 授業の到達目標

TOEIC(R) Listening & Reading Test スコア500点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須表現）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティーのI（知性）を養う。

### 授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

### 授業計画

1. ガイダンス、[TEST1使用]Part1対策、Part7(1つの文書)対策
2. Part2対策、Part7(1つの文書)対策/単語テスト1
3. Part2対策、Part5対策/単語テスト2
4. Part3対策、Part5対策/単語テスト3
5. Part3対策、Part7(2つの文書)対策/単語テスト4
6. Part4対策、Part6対策/単語テスト5
7. Part4対策、Part6対策/単語テスト6
8. [TEST2使用]Part1対策、Part7(1つの文書)対策/単語テスト7
9. Part2対策、Part7(1つの文書)対策/単語テスト8
10. Part2対策、Part5対策/単語テスト9
11. Part3対策、Part5対策/単語テスト10
12. Part3対策、Part7(2つの文書)対策/単語テスト11
13. Part4対策、Part6対策/単語テスト12
14. Part4対策、Part6対策/単語テスト13
15. Part7(2つの文書)対策/単語テスト14、期末試験

### 授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

### テキスト

公式TOEIC(R) Listening & Reading問題集4 (IBC)、TOEIC L&R TEST出る単特急金のフレーズ（朝日新聞出版）

### 参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

### 留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
TOEIC/TOEFL 2	ET		13823	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	2	著書執筆、専門学校講師、企業派遣講師			

### 授業の到達目標

TOEIC(R) Listening & Reading Testスコア600点到達を目指す。そのために必要な英語力（特にTOEIC必須英単語）の習得と問題への取り組み方、学習のコツを身につける。またTOEFL受験のための基礎英語力強化を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

到達目標を目指し、必須語彙や文法事項を身につけていく。頻出文書ごとの語彙、言い回しに習熟し、TOEICテスト形式の問題演習を組み入れていく。また知識固定の一助とするため音読にも力を入れる。単語テストは基本的に毎回実施する。

### 授業計画

1. ガイダンス、【TEST1使用】Part1対策、Part7(1つの文書)対策
2. Part2対策、Part7(1つの文書)対策/単語テスト1
3. Part2対策、Part5対策/単語テスト2
4. Part3対策、Part5対策/単語テスト3
5. Part3対策、Part7(複数文書)対策/単語テスト4
6. Part4対策、Part6対策/単語テスト5
7. Part4対策、Part6対策/単語テスト6
8. 【TEST2使用】Part1対策、Part7(1つの文書)対策/単語テスト7
9. Part2対策、Part7(1つの文書)対策/単語テスト8
10. Part2対策、Part5対策/単語テスト9
11. Part3対策、Part5対策/単語テスト10
12. Part3対策、Part7(複数文書)対策/単語テスト11
13. Part4対策、Part6対策/単語テスト12
14. Part4対策、Part6対策/単語テスト13
15. Part7(複数文書)対策/単語テスト14、期末考査

### 授業の方法

問題演習や音読、その場での暗記などの「作業」が中心となる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

### テキスト

公式TOEIC(R) Listening & Reading問題集5 (IIBC)、TOEIC L&R TEST出る単特急金のフレーズ (朝日新聞出版)

### 参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

### 留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
英検 2級			13848	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
和泉 有香	選択	1	著書執筆、専門学校講師			

### 授業の到達目標

英検2級2020年度第2回検定で合格することを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

英検2級過去問を授業内で解きながら傾向に応じた対策をしつつ、英語力を身につける。

### 授業計画

1. ガイダンス、2018年第3回大問2、Listening Part 1
2. 2018年第3回大問3、Listening Part 2
3. 2018年第3回大問1、4、Listening Part 1
4. 2019年第1回大問2、Listening Part 1
5. 2019年第1回大問3、Listening Part 2
6. 2019年第1回大問1、4、Listening Part 2
7. 2019年第2回大問2、Listening Part 1
8. 2019年第2回大問3、Listening Part 1
9. 2019年第2回大問1、4、Listening Part 2
10. 2018年第2回大問2、Listening Part 1
11. 2018年第2回大問2、Listening Part 2
12. 2018年第2回大問2、Listening Part 2
13. 2018年第1回大問1～3、2次試験対策
14. 2018年第1回Listening Part 1～2、2次試験対策
15. 総まとめ、復習

### 授業の方法

英検2級1次試験で問われる語彙・読解・リスニング・ライティングの各分野に必要な力と、2次試験で問われるスピーキング力を身につけるため、過去に出題された問題を大量演習する。また正解の導き方や得点につながる書き方・答え方を身につける。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき、平常点と定期試験点より算出した評価点から2点減点する。

### テキスト

英検2級過去問レビュー (河合出版) 購入に関しては初回授業で案内する。

### 参考図書

授業時に必要に応じて紹介する。

### 留意事項

・テキスト付属CDも用いて確実に復習すること。・英和辞書（紙版、電子辞書いずれでも可）を必ず持参すること。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英検 3 級	ET		13845	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
國本 恵理香	選択	1	ホテル勤務			

### 授業の到達目標

観光英語検定試験 3 級を受験する際に必要となる語彙・文法を確認しながら、読解・リスニング力を深めるために資格取得に向けた演習を行う。このクラスでは K A I S E I パーソナリティーの I (知性) と In (国際性) を養う。

### 授業の概要

毎回、基本的に観光に特化したテキストの一つのユニットを行い、様々な場面での専門用語の習得を目指す。試験に合格するための対策として過去の観光英検 3 級の問題演習も随時採り入れながら、観光・旅行に必要な英語表現と語彙を半期でマスターすることを目標とする。

### 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1 Travel
3. Unit 2 Jobs and People
4. Unit 3 Getting on the Plane
5. Unit 4 At the Immigration and Customs
6. Unit 5 At the Airport
7. Unit 6 Hotel(Accommodations)
8. Unit 7 Restaurant(Breakfast and Fast Food)
9. Unit 8 Sightseeing
10. Unit 9 Shopping
11. 観光英検 3 級過去問題
12. 観光英検 3 級過去問題
13. Unit 10 Transportation
14. Unit 11 Problems and Complaints
15. まとめ、定期試験

### 授業の方法

毎回、1 ユニットの演習問題と過去の試験問題を行う。

### 準備学修

Web で参照すること。

### 課題・評価方法

平常点 30%、模擬試験 20%、定期試験 50%

### 欠席について

欠席 1 回につき、平常点と定期試験より算出した評価点から 2 点減点する。

### テキスト

English for Tourism Basic, Sanshusha, 他にハンドアウトを配布する。

### 参考図書

山口百々男著 全国語学ビジネス観光教育協会編『観光英検 3 級の過去問題 解答と解説』三修社  
『観光のための初級英単語と用例-観光英検 3 級～2 級対応』三修社

### 留意事項

英和辞書(紙版/電子辞書)必携

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英検 2 級	ET		13846	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
入江 和子	選択	1	観光案内通訳・ガイド			

### 授業の到達目標

英語の一般的な能力だけでなく、観光・旅行分野の英語力を身につけ、観光英語検定試験 2 級の取得を目指す。このクラスでは KAISEI パーソナリティーの I (知性) と In (国際性) を養う。

### 授業の概要

日本の国際化が進行する中、国内外の旅行者に対応する職業では国際人としての高い英語力が求められている。授業では、その基本ともいべき旅行や観光に関連する専門用語や独特の表現などを習得する。また語学面だけでなく、世界の国々の文化や習慣、国際儀礼、および観光に必須の地理や歴史も学びながら筆記とリスニング両面から観光英検 2 級対策を行う。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 観光英語キーワード演習 1、観光英検 2 級(観光用語)
3. 観光英語キーワード演習 2、観光英検 2 級(写真説明)
4. 観光英語キーワード演習 3、観光英検 2 級(英語コミュニケーション)
5. 観光英語キーワード演習 4、観光英検 2 級(イラスト説明)
6. 観光英語キーワード演習 5、観光英検 2 級(英文構成)
7. 観光英語キーワード演習 6、観光英検 2 級(英語コミュニケーション)
8. 観光英語キーワード演習 7、観光英検 2 級(英文読解)
9. 観光英語キーワード演習 8、観光英検 2 級(状況把握)
10. 観光英語キーワード演習 9、観光英検 2 級(海外・国内の観光と文化)
11. 観光英語キーワード 10、観光英検 2 級(観光・旅行事情)
12. 観光英検過去問 2 級
13. 観光英検過去問 2 級
14. 観光英検過去問 2 級
15. 観光英語キーワード総復習と期末試験

### 授業の方法

実践演習、解説を中心に行う。

### 準備学修

Web で参照すること。

### 課題・評価方法

平常点 50%、定期試験 50%  
模擬試験、試験のフィードバックは講義中に行う。

### 欠席について

欠席 1 回につき、平常点から 2 点減点する。その他は学内の規定に準じる。

### テキスト

全国語学ビジネス観光教育協会編『観光英語検定試験 問題と解説 2 級』研究社。他にハンドアウトを配布する。

### 参考図書

全国語学ビジネス観光教育協会観光英検センター編『観光のための初級英単語と用例-観光英検 3 級～2 級対応』三修社。

資格科目〈英語・観光〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
観光英検 1 級	ET		13847	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
入江 和子	選択	2	観光案内通訳・ガイド			

### 授業の到達目標

観光・旅行業に必要な実務英語力とコミュニケーション能力を身につけ、観光英語検定試験1級の取得を目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とIn（国際性）を養う。

### 授業の概要

日本の国際化が進行する中、国内外の旅行者に対応する職業に必要な不可欠な国際人としての英語力全般を高め、専門用語・表現に習熟して具体的かつ実践的な対応力を養っていく。また語学面だけでなく、世界の国々の文化や習慣、国際儀礼、および観光に必須の地理や歴史も学びながら観光英検 1 級対策を行う。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 日本地理基礎知識&観光英語キーワード1、観光英検過去問1級
3. 日本地理基礎知識&観光英語キーワード2、観光英検過去問1級
4. 日本地理基礎知識&観光英語キーワード3、観光英検過去問1級
5. 日本地理基礎知識&観光英語キーワード4、観光英検過去問1級
6. 日本地理基礎知識&観光英語キーワード5、観光英検過去問1級
7. 日本地理基礎知識&観光英語キーワード6、観光英検過去問1級
8. 観光英検過去問1級、Mid Term
9. 世界地理基礎知識&観光英語キーワード7、観光英検過去問1級
10. 世界地理基礎知識&観光英語キーワード8、観光英検過去問1級
11. 世界地理基礎知識&観光英語キーワード9、観光英検過去問1級
12. 世界地理基礎知識&観光英語キーワード10、観光英検過去問1級
13. 世界地理基礎知識&観光英語キーワード11、観光英検過去問1級
14. 世界地理基礎知識&観光英語キーワード12、観光英検過去問1級
15. 観光英検過去問1級、期末試験

### 授業の方法

実践演習問題、解説を中心に行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%  
過去問・模擬試験のフィードバックは講義中に行う。

### 欠席について

欠席1回につき、平常点から2点減点する。その他は学内の規定に準じる。

### テキスト

全国語学ビジネス観光教育協会編『第39回観光英語検定試験1級筆記・リスニング試験問題』。他にハンドアウトを配布する。

### 参考図書

山口百々男著 全国語学ビジネス観光教育協会編『観光のための中英英単語と用例—観光英検2級～1級対応—』三修社

現代人間学部 心理こども学科

専 門 科 目



演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	a		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

### 授業の到達目標

家族やその生活の研究に必要な基礎知識を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

### 授業の概要

家族への科学的接近は、様々な専門分野から可能である。この演習では、女性の晩婚化、少子化、仕事と家族的責任（育児や介護等）の調和、親子関係、きょうだい関係、離婚、再婚など、家族をめぐる様々なテーマに、学際的に接近したい。まず演習Iでは、家族社会学を中心とした家族研究の基礎知識を身に付ける。歴史学、人口学、心理学、人類学、法学などの隣接科学における家族研究の蓄積にも学ぶ。

### 授業計画

1. 家族とは
2. 家族研究の方法 1
3. 家族研究の方法 2
4. 研究テーマの設定
5. 文献・資料の収集と整理
6. 家族の研究論文を読む 1
7. 家族の研究論文を読む 2
8. 家族の研究論文を読む 3
9. 家族の研究論文を読む 4
10. 個人研究の発表 1
11. 個人研究の発表 2
12. 個人研究の発表 3
13. 個人研究の発表 4
14. 現代の家族問題
15. まとめ

### 授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。  
平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき2点減点する。

### テキスト

なし。

### 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

### 留意事項

「現代家族関係論」を履修しておくことが望ましい。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	b		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	臨床心理士、学校心理士S V、公立小教員			

### 授業の到達目標

人は互いに影響しあって暮らしている。そこで、対人関係（家族、仲間、教師、保護者、組織）における自他の行動を、科学的に考え分析する。さらに、心理的援助者として必要な自己理解、カウンセリング技法、SST、ストレスマネージメント、アンガーマネージメント等、子ども(人)を理解、支援するために役立つであろう技法の基本を習得する。この授業では、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)を養う。

### 授業の概要

益々価値観が複雑、多様化する現代社会において、保育・幼稚園・学校で課題となっている実際のケースを取り上げて、学校・園現場を含め、社会に出た時に即戦力となるテーマを見つけられるように支援する。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. ケーススタディーその1 子ども
3. ケーススタディーその2 子ども
4. ケーススタディーその3 保護者等
5. ケーススタディーその4 保護者等
6. 共有するテーマの絞り込みその1
7. 共有するテーマの絞り込みその2
8. 各自が研究の方向性について報告・意見交換その1
9. 各自が研究の方向性について報告・意見交換その2
10. kj法によるテーマ分類1 小表札討議
11. kj法によるテーマ分類2 中表札討議
12. グループ発表準備1
13. グループ発表準備2
14. 発表会
15. 総括

### 授業の方法

講義中心ではなく、学生同士が双方向の討議することもとり入れて、主体的に参加できるようにする。自分の意見を話し、相手の考えを聞くことから、自己受容、他者理解を深め、コミュニケーション能力を培う。

### 準備学修

日常生活で見聞きしたことに、自分なりの考えを持つ習慣を意識すること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

学内規定に準ずる

### テキスト

必要に応じて紹介する

### 参考図書

必要に応じて紹介する

### 留意事項

自分の考えを整理する目的で、レポートの提出を求められることがある。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	c		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

### 授業の到達目標

乳幼児教育に関する様々な理論の学習や教育実習他の経験を活かし、自分が興味関心をもったことについて、新たな知識と確かな情報を得る。適切な先行文献を選定することを通して、要約し考察する力と、記録する力、伝える力などの表現力を高める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

課題文献・資料を講読し、発表する。ディスカッションを経て新たな課題を見出す。考察力や伝える力、記録する力を高める一つの方法として、栽培活動や教材制作を行い、ドキュメンテーションを作成する。そして、自分の研究したい内容や方向性に見通しをもつようにする。

### 授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.自然体験に関する課題文献・資料の講読
- 3.文化体験に関する課題文献・資料の講読
- 4.ドキュメンテーションとポートフォリオ、ラーニング・ストーリーについて
- 5.特別支援教育に関する課題文献・資料の講読
- 6.防災教育に関する課題文献・資料の講読
- 7.認定こども園、小規模保育所に関する課題文献・資料の講読
- 8.食育に関する課題文献・資料の講読
- 9.乳幼児教育におけるESD
- 10.課題の調査と発表①
- 11.課題の調査と発表②
- 12.課題の調査と発表③
- 13.課題の調査と発表④
- 14.文献検索の方法と実際について
- 15.まとめを行ってから試験をする

### 授業の方法

講義とディスカッションを中心とする。学生が作成した資料にもとづく発表、ディスカッションを通して、多面的な理解や気づき、新たな課題を得られるようにする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①課題レポートやリフレクションシート他の提出を毎回求め、授業内にフィードバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

### テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

### 参考図書

必要に応じて提示、紹介する。

### 留意事項

自ら進んで課題研究に取り組み、提出物の期限を守ること。

### 教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習 I	d		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

### 授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、問題意識を持って具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

### 授業の概要

様々な心理臨床領域における心理学論文の研究論文を文献講読する。学生が各自、関連する文献を収集・要約・発表し、その研究方法や課題について話し合う中で、各自の卒業研究のテーマを見出す機会を設ける。要約文は各自毎回提出とする。

### 授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.全員で共通の文献講読1
- 3.全員で共通の文献講読2
- 4.全員で共通の文献講読3
- 5.共同研究のためのリサーチの準備
- 6.リサーチ・結果の処理・データ入力
- 7.リサーチ・結果の処理・データ入力
- 8.リサーチ・結果の処理・データ入力
- 9.リサーチ・結果の処理・データ入力
- 10.リサーチ・結果の処理・データ入力
- 11.リサーチ・結果をまとめて各自で発表原稿を作成
- 12.共同研究の発表の準備
- 13.共同研究の発表の準備
- 14.共同研究の発表の準備
- 15.全体の振り返りと、個人のテーマの評価

### 授業の方法

教材とする研究論文を熟読することで、研究論文のスタイルについて学ぶ。また、自分の関心のあるテーマや研究法を探しながら、要約文を作成し、発表することで、論文作成に必要な姿勢を身に付ける。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

共同研究への取り組みと課題の提出状況を評価する。

### 欠席について

一回の欠席につき5点、遅刻は2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

### テキスト

適宜紹介する。

### 参考図書

適宜紹介する。

### 留意事項

課題は毎回の授業で提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

### 教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅰ	e		17101	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

### 授業の到達目標

教育・保育について、文献を読んで協議したり、実技研修や領域に関わる研修をしたりする中で、幼児期の教育・保育の重要性を認識するとともに、研究の方法と方向性を見出していく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

### 授業の概要

幼児期にふさわしい園生活の展開等について学びながら、各自が関心のある事柄を模索していく。また、図書の読後感想発表などを通して、卒業研究への具体的な方向性を定めていく。

### 授業計画

1. オリエンテーション  
演習の取組について
2. 幼児期の教育についての資料を読み、協議する
3. 「幼稚園の生活・四季を感じて」①グループで教材作成
4. 「幼稚園の生活・四季を感じて」②グループで教材作成
5. 「幼稚園の生活・四季を感じて」③グループで発表し協議
6. 「幼稚園の生活・四季を感じて」④グループで発表し協議
7. 図書館の利用と情報検索について
8. 幼児教育に関する文献を読んで協議①
9. 幼児教育に関する文献を読んで協議②
10. 幼児教育に関する文献を読んで協議③
11. 研究の意義と方法について①
12. 研究の意義と方法について②
13. 研究の意義と方法について③
14. 研究の意義と方法について④
15. まとめ・演習Ⅱに向けて

### 授業の方法

収集した資料や文献をもとに、書いてまとめる・協議する・発表するといった方法を取り入れ、特に文章表現力の向上をめざす授業とする。

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

- ①提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で評価・助言を行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

1回の欠席につき5点減点し、遅刻は2点減点する。

### テキスト

必要に応じて提示、紹介する

### 参考図書

授業内で随時紹介する。

### 留意事項

主体的に授業に臨み、自分から進んで研究に取り組む気持ちを培うこと。学外ボランティアや幼稚園行事等に積極的に参加すること。

### 教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	a		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

### 授業の到達目標

家族研究の基礎を学び、卒業研究のテーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

### 授業の概要

演習Ⅰに引き続き、家族研究のための基礎知識を学ぶ。調査、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成などを通して、家族やその生活についての理解を深める。

### 授業計画

1. 現代家族の問題
2. 先行研究を学ぶ 1
3. 先行研究を学ぶ 2
4. 先行研究を学ぶ 3
5. 先行研究を学ぶ 4
6. 先行研究を学ぶ 5
7. 先行研究を学ぶ 6
8. 調査・研究の報告 1
9. 調査・研究の報告 2
10. 調査・研究の報告 3
11. 調査・研究の報告 4
12. 調査・研究の報告 5
13. 調査・研究の報告 6
14. 調査・研究の報告 7
15. まとめ

### 授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。  
平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき2点減点する。

### テキスト

なし。

### 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

### 留意事項

「現代家族関係論」を履修しておくことが望ましい。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	b		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	公立学校教員、学校心理士S V、臨床心理士			

### 授業の到達目標

科学的かつ客観的な視点で事象を判断できる能力を培う。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

### 授業の概要

共同研究として、一つのテーマを多様な視点で見つめ、検証する。その中で、クリティカルシンキングの基本を習得することで、次年度の卒業研究において、客観的な根拠を示して他者に説明できるような能力を養う。

### 授業計画

1. 演習Ⅱにおけるオリエンテーション
2. 各自の興味関心を聞き合う。
3. 各自の興味関心の集団討議
4. 各自のテーマを分類し、共同研究テーマを設定する。
5. 研究計画・文献・資料に関する指導1
6. 研究計画・文献・資料に関する指導2
7. 研究計画・文献・資料に関する指導3
8. 研究テーマの検討と討議1
9. 研究テーマの検討と討議2
10. 研究テーマの検討と討議3
11. 各自の研究進捗報告会1
12. 各自の研究進捗報告会2
13. 各自の研究進捗報告会3
14. 卒業研究に向けての質問会
15. まとめ

### 授業の方法

グループ討議により自分のテーマを複数の視点から見つめなおしながら進める。

### 準備学修

先行研究のリサーチを行ったうえで研究テーマを絞り込む。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

学内規定に準ずる

### テキスト

必要に応じて紹介する。

### 参考図書

必要に応じて紹介する。

### 留意事項

ボランティア活動等でネットワークを広げ、さまざまな分野で生の声を調査できるようになることを期待する。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	c		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

### 授業の到達目標

演習Ⅰを通して、ドキュメンテーション作成の基本技術を習得する。また、各自の研究したい内容や方向性に基づいて、関連する文献や資料を収集し研究テーマを設定する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

各自が研究したい内容について、文献や資料を検索したり実習の記録をもとに調査を進めたりする。さらに、発表・討議を通して研究テーマを設定し、具体的な研究計画を立てるようにし、演習Ⅲへの見直しをもつ。

### 授業計画

1. 演習Ⅱの進め方について
2. 質問紙法について
3. 非構造的面接法について
4. 概念抽出までの手続き
5. 研究活動における倫理
6. 実地研修①
7. 実地研修②
8. 実地研修のまとめ③
9. ドキュメンテーションを使ったプレゼンテーション
10. 研究マップ発表
11. 仮研究テーマでのミニ論文発表①
12. 仮研究テーマでのミニ論文発表②
13. 仮研究テーマでのミニ論文発表③
14. 研究計画、研究方法の検討
15. まとめを行ってから試験をする

### 授業の方法

伝えやすく、分かりやすい資料作成をもとに、毎回発表し合う。ディスカッションにより、根拠や理由、原因や課題などを見出すようにし、互いの発表内容を高めていくようにする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

②平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

欠席1回につき5点の減点、遅刻1回につき2点の減点とする。

### テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

### 参考図書

『保育学研究倫理ガイドブック』（株/フレーベル館）『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』

### 留意事項

提出物は設定された期限までに提出すること。

### 教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	d		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

### 授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

### 授業の概要

卒業研究の作成に向けての文献の収集・要約・調査などを行う。自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、共同研究を通じて必要な研究法・手続きについて学び、最後に自分の研究テーマと研究計画の設定を試みる。要約文は毎回提出とする。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 共同研究発表の準備
3. 共同研究発表の準備
4. 共同研究発表の準備・反省会
5. 各自の研究発表1
6. 各自の研究発表2
7. 各自の研究発表3
8. 研究法・手続きについての話し合い1
9. 研究法・手続きについての話し合い2
10. 各自の研究発表4
11. 各自の研究発表5
12. 各自の研究計画の立案と発表4
13. 各自の研究計画の立案と発表5
14. 卒業研究発表・質疑応答の練習
15. まとめ

### 授業の方法

共同研究の発表後、各自で論文の研究・要約・発表を実施し、論文作成に必要な研究法や手続き、調査を実際に体験する。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

共同研究への取り組みの状況と、毎回の提出課題を評価の対象とする。

### 欠席について

欠席は1回につき5点、遅刻は2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

### テキスト

受講生の提出する論文の要約文を元に文献講読を実施するため、テキストはその都度適宜紹介することとする。

### 参考図書

適宜紹介する。

### 留意事項

課題は毎週提出とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

### 教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅱ	e		17105	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

### 授業の到達目標

討議を重ねて互いに学び合いながら、各自が研究したい内容について熟考する。そして、研究テーマの方向性を確かなものにしていく。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

幼児教育における環境構成や教材研究について学びながら、幼児教育の重要性を認識する。あわせて、各自の興味・関心に応じたテーマを見出せるように、段階を追って授業を行う。

### 授業計画

1. 演習Ⅱの進め方について共通理解する
2. 課題レポートの推敲をし、考察を深めて再作成する①
3. 課題レポートの推敲をし、考察を深めて再作成する②
4. 秋をテーマに保育を考えてみよう①
5. 秋をテーマに保育を考えてみよう②
6. 秋をテーマに保育を考えてみよう③
7. 秋をテーマに保育を考えてみよう④
8. 文献をもとにレポートを作成・発表して協議する①
9. 文献をもとにレポートを作成・発表して協議する②
10. 教育実習での学びを研究テーマに活かす①
11. 教育実習での学びを研究テーマに活かす②
12. 卒業研究に向けて見通しを立てる①
13. 卒業研究に向けて見通しを立てる②
14. 卒業研究に向けて見通しを立てる③
15. 演習Ⅱを振り返り、学びの確認をする

### 授業の方法

文献熟読後のレポート作成を中心しつつ、教材研究・教材作成・模擬保育なども取り入れて、主体的に取り組みをめざす授業をする。

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

- ① 提出を求めるレポート等について、授業内で評価と助言を行う。
- ② 平常点50% 定期試験50%

### 欠席について

1回の欠席につき5点の減点とし、遅刻は2点減点とする。

### テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

### 参考図書

授業中に随時紹介する。

### 留意事項

研究を進めるために、主体的に文献等の収集などに努めること。

### 教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	a		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

### 授業の到達目標

卒業研究計画書を作成する。卒業研究全体の3分の1を完成させる。研究する視点や態度、論理的に考え書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

### 授業の概要

自分の研究テーマに基づいて研究を進める。調査、プレゼンテーション、ディスカッション、レポート作成などを通して、研究を深める。

### 授業計画

1. 卒業研究テーマの確認
2. 卒業研究の方法等の確認
3. 卒業研究の執筆手順
4. 卒業研究中間報告 1
5. 卒業研究中間報告 2
6. 卒業研究中間報告 3
7. 卒業研究中間報告 4
8. 卒業研究中間報告 5
9. 卒業研究中間報告 6
10. 卒業研究中間報告 7
11. 卒業研究中間報告 8
12. 卒業研究中間報告 9
13. 卒業研究中間報告 10
14. 今後の研究の進め方
15. まとめ

### 授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。  
平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき2点減点する。

### テキスト

なし。

### 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	b		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	公立学校教員 教育委員会 学校心理士SV 臨床心理士			

### 授業の到達目標

演習Ⅱで見出した研究テーマと研究計画に基づき、具体的な調査を通して、研究テーマに迫るための必要なデータの収集と分析を行い考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、E(倫理)を養う。

### 授業の概要

研究計画に沿って、先行文献調査と実地調査の両方を実施する。また、現場での適切な調査方法や分析方法について解説し、各自の調査を指導・支援する。調査結果についての発表や討議を踏まえ、今後の研究の見直しをもつようにする。

### 授業計画

1. 演習Ⅲの進め方について
2. 卒業研究・論文のまとめ方について
3. 研究対象と調査期間について
4. 研究方法と分析方法について
5. 調査の進捗報告と討議①
6. 調査の進捗報告と討議②
7. 各自の先行文献調査のまとめ①
8. 各自の先行文献調査のまとめ②
9. 「問題と目的」の発表・討議①
10. 「問題と目的」の発表・討議②
11. 「研究方法」の発表・討議①
12. 「研究方法」の発表・討議②
13. 仮説と今後の見通しについて発表・調整①
14. 仮説と今後の見通しについて発表・調整②
15. まとめを行ってから試験をする

### 授業の方法

各自の報告内容が授業の根幹となる。全体討議では積極的に自己の発表や他者への発言を行い学び合う姿勢を重視する。互いに研究推進へのよい刺激を受け、研究意欲と研究内容を高め合うようにする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。②平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

### テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

### 参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

### 留意事項

各自で研究推進への確かな目標をもち、質的・量的調査について計画的に進めること。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	c		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

### 授業の到達目標

演習Ⅱで見出した研究テーマと研究計画に基づき、具体的な調査を通して研究テーマに迫るため、的確なデータの収集と分析を行い考察を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)、I(知性)、E(倫理)を養う。

### 授業の概要

研究計画に沿って、先行文献調査と実地調査の両方を実施する。また、現場での適切な調査方法や分析方法について解説し、各自の調査を指導・支援する。調査結果についての発表や討議を踏まえ、今後の研究の見直しをもつようにする。

### 授業計画

1. 演習Ⅲの進め方について
2. 卒業研究・論文のまとめ方について
3. 研究対象と調査期間について
4. 研究方法と分析方法について
5. 調査の進捗報告と討議①
6. 調査の進捗報告と討議②
7. 各自の先行文献調査のまとめ①
8. 各自の先行文献調査のまとめ②
9. 「問題と目的」の発表・討議①
10. 「問題と目的」の発表・討議②
11. 「研究方法」の発表・討議①
12. 「研究方法」の発表・討議②
13. 仮説と今後の見直しについて発表・調整①
14. 仮説と今後の見直しについて発表・調整②
15. まとめを行ってから試験をする

### 授業の方法

各自の報告内容が授業の根幹となる。全体討議では積極的に自己の発表や他者への助言を行い学び合う姿勢を重視する。互いに研究推進へのよい刺激を受け、研究意欲と研究内容を高め合うようにする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

①作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。②平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

### テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

### 参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

### 留意事項

各自で研究推進への確かな目標をもち、質的・量的調査について計画的に進めること。

### 教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	d		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

### 授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）とI（知性）とE（倫理）とを養う。

### 授業の概要

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究方法や分析の方法についても復習する。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. リサーチ1・発表・ディスカッション1
3. リサーチ2
4. リサーチ3
5. リサーチ4
6. 各自の研究の問題と目的について設定・発表
7. 各自の研究の研究方法、調査、手続きについて進行報告、ディスカッション1
8. 進行報告2
9. 進行報告3
10. 調査報告1
11. 調査報告2
12. 調査報告3
13. 結果のまとめ方について1
14. 結果のまとめ方について2
15. 結果のまとめ方について3

### 授業の方法

卒業研究の作成に向けて文献の収集、講読、要約、発表、討議を行う。各自が自分の研究テーマに関する先行研究を読解し、紹介する機会を通じて、自分の研究テーマと研究計画を作成する。心理学研究方法や分析の方法についても復習する。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

毎週の課題の提出状況と演習への参加状況を評価の対象とする。

### 欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

### テキスト

各受講生の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

### 参考図書

適宜紹介する。

### 留意事項

課題の提出は毎週とする。心理統計法を受講していることが望ましい。

### 教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	e		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2				

### 授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱで取り組んだ内容からテーマを決定し、卒業研究を作成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

### 授業の概要

研究テーマに沿って提出までの計画を立て、必要な文献や資料の収集に自主的に取り組み、卒業研究を進めていく。

### 授業計画

1. 演習の進め方
2. 卒業研究のテーマ
3. 研究発表と討議①
4. 研究発表と討議②
5. 研究発表と討議③
6. 研究発表と討議④
7. 研究発表と討議⑤
8. 研究発表と討議⑥
9. 研究発表と討議⑦
10. 研究発表と討議⑧
11. 研究の進め方①
12. 研究の進め方②
13. 研究の進め方③
14. 研究の進め方④
15. まとめと今後の取組

### 授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①レポートは、担当教員による批評とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

### 欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

### 参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

### 留意事項

研究テーマを念頭に置いて、文献・資料を自主的に収集すること。

### 教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅲ	f		17109	Ⅳ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

### 授業の到達目標

演習Ⅰ・Ⅱの成果を踏まえてテーマを確定し、研究計画を立案して卒業研究を進めていく。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を育成する。

### 授業の概要

研究計画をもとに、文献や資料等の収集と読書に努め、研究テーマに沿って、主体的に研究を進めていく。また互いの研究文をもとに協議し、考察を深められるようにする。

### 授業計画

1. 研究テーマと研究方法の確認(1)
2. 研究テーマと研究方法の確認(2)
3. 研究計画の立案(1)
4. 研究計画の立案(2)
5. 各自の研究内容について発表とディスカッション(1)
6. 各自の研究内容について発表とディスカッション(2)
7. 各自の研究内容について発表とディスカッション(3)
8. 各自の研究内容について発表とディスカッション(4)
9. 各自の研究内容について発表とディスカッション(5)
10. 研究の進捗状況について報告(1)
11. 研究の進捗状況について報告(2)
12. 研究の進捗状況について報告(3)
13. 研究の進捗状況について報告(4)
14. まとめと今後の展望(1)
15. まとめと今後の展望(2)

### 授業の方法

研究内容や取組み状況の報告・発表を通して、討議しあうことを中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

- ①提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で

- ①評価・助言を行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき5点減点とし、遅刻は2点減点とする。

### テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

### 参考図書

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館

### 留意事項

研究テーマに関する文献や資料を主体的に収集すること。発表当日は必ず資料を持参すること。

### 教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	a		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	必修	2				

### 授業の到達目標

卒業研究を完成させる。研究する視点や態度と論理的に書く力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

### 授業の概要

プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、研究内容を深める。全体指導と個別指導を重ねて、卒業研究を完成させる。

### 授業計画

1. 演習と卒業研究の進め方
2. 研究発表と質疑応答 1
3. 研究発表と質疑応答 2
4. 研究発表と質疑応答 3
5. 研究発表と質疑応答 4
6. 研究発表と質疑応答 5
7. 研究発表と質疑応答 6
8. 研究発表と質疑応答 7
9. 研究発表と質疑応答 8
10. 研究発表と質疑応答 9
11. 研究発表と質疑応答 10
12. 卒業研究の要約
13. 卒業研究の修正
14. 卒業研究の発表
15. まとめ

### 授業の方法

プレゼンテーションやディスカッションを多くとり入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。  
平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき2点減点する。

### テキスト

なし。

### 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	b		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	臨床心理士、学校心理士S V、公立小教員			

### 授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力するなど自己の研究内容を高めるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)A(自律)I(知性)E(倫理)を養う。

### 授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで、客観性をもたせ、各考察をより深めるようにする。

### 授業計画

1. 分析結果報告・仮説の検証①
2. 分析結果報告・仮説の検証②
3. 分析結果と考察①
4. 分析結果と考察②
5. 分析結果と考察③
6. 分析結果と考察④
7. 分析結果と考察⑤
8. 研究のまとめと総合考察①
9. 研究のまとめと総合考察②
10. 今後の課題について
11. 分析結果一覧表の作成
12. 卒業研究の校正①
13. 卒業研究の校正②
14. 最終報告とまとめ①
15. まとめ②を行ってから試験をする。

### 授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%。作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

### 欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

### テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

### 参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

### 留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意識と責任感を持ち続けるようにすること。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	c		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	必修	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

### 授業の到達目標

演習Ⅲに引き続き、具体的な調査結果に基づき考察を繰り返し、卒業研究としてまとめる。様々な視点から研究を見直すことや見解の違いを受け入れ、改善に向けて努力するなど自己の研究内容を高めるようにする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)A(自律)I(知性)E(倫理)を養う。

### 授業の概要

各自の調査における分析結果を発表・討議する。他者の考え方や見方、分析結果の読み取り方に触れることで、客観性をもたせ、各考察をより深めるようにする。

### 授業計画

1. 分析結果報告・仮説の検証①
2. 分析結果報告・仮説の検証②
3. 分析結果と考察①
4. 分析結果と考察②
5. 分析結果と考察③
6. 分析結果と考察④
7. 分析結果と考察⑤
8. 研究のまとめと総合考察①
9. 研究のまとめと総合考察②
10. 今後の課題について
11. 分析結果一覧表の作成
12. 卒業研究の校正①
13. 卒業研究の校正②
14. 最終報告と討議
15. まとめを行ってから試験をする。

### 授業の方法

各自の調査結果報告とその読み取りに関して、個人やグループでの発表・討議を通して考察を深める。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%。作成した資料の提出と発表を毎回実施し、そのフィードバックは授業内に行う。

### 欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点する。

### テキスト

必要に応じて適宜紹介する。

### 参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

### 留意事項

口頭試問まで主体的に取り組み、研究に対する意欲と責任感を持ち続けるようにすること。

### 教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	d		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	必修	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

### 授業の到達目標

心の理解者として、また、心の研究者として心がけるべき見方や考え方を身につけ、具体的なデータに基づきながら分析、考察の方法を学ぶ。他者と考えや疑問を共有できるような姿勢を習得する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)とI(知性)とE(倫理)とを養う。

### 授業の概要

卒業研究作成のために、全体指導と個別指導を実施する。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成させる。

### 授業計画

1. 調査結果のまとめ1
2. 調査結果のまとめ2
3. 調査結果のまとめ3
4. 結果報告1
5. 結果報告2
6. 結果報告3
7. 結果報告4
8. まとめと考察1
9. まとめと考察2
10. まとめと考察3
11. 要約作成・発表1
12. 要約作成・発表2
13. 要約作成・発表3
14. 研究発表1
15. 研究発表2

### 授業の方法

卒業研究の進捗状況の報告、プレゼンテーションと質疑応答が中心となる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題の提出状況、演習への参加状況を評価の対象とする。

### 欠席について

1回の欠席につき5点、遅刻につき2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

### テキスト

受講生の研究テーマに応じて適宜紹介する。

### 参考図書

適宜紹介する

### 留意事項

心理統計法を受講していることが望ましい。

### 教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	e		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	必修	2				

### 授業の到達目標

各自の研究テーマに沿って文章を作成・推敲し、卒業研究を完成する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とIn（国際性）の育成を目指す。

### 授業の概要

卒業研究を進めるために、全体指導や個別指導を行う。研究経過の発表や討議を重ねながら、卒業研究を完成していく。

### 授業計画

1. 今後の卒業研究の進め方
2. 卒業研究の発表と討議①
3. 卒業研究の発表と討議②
4. 卒業研究の発表と討議③
5. 卒業研究の発表と討議④
6. 卒業研究の発表と討議⑤
7. 卒業研究の発表と討議⑥
8. 卒業研究の発表と討議⑦
9. 卒業研究の発表と討議⑧
10. 卒業研究の発表と討議⑨
11. 卒業研究の推敲①
12. 卒業研究の推敲②
13. 卒業研究の内容報告と討議①
14. 卒業研究の内容報告と討議②
15. まとめ

### 授業の方法

自分と他者の考えを比較・検討し、討議することを重視する。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ① 各回提出のレポートは、担当教員による批評とアドバイスを行う。
- ② 評価方法は平常点50%、定期試験50%とする。

### 欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

### 参考図書

研究テーマに沿った文献を適宜紹介する。

### 留意事項

自主的に卒業研究に取り組むこと。

### 教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

演習科目〈演習科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
演習Ⅳ	f		17113	Ⅳ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

### 授業の到達目標

テーマを深く掘り下げて研究を進め、その成果を卒業研究としてまとめる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)とA(自律)とI(知性)を養う。

### 授業の概要

研究テーマに沿って文献や資料の分析を行い、それをもとに報告と考察を繰り返しながら、研究を進め、完成していく。

### 授業計画

1. 研究の進捗状況の確認(1)
2. 研究の進捗状況の確認(2)
3. 研究の進捗状況の確認(3)
4. 研究の報告と討議(1)
5. 研究の報告と討議(2)
6. 研究の報告と討議(3)
7. 研究の報告と討議(4)
8. 研究の報告と討議(5)
9. 研究の報告と討議(6)
10. 研究の報告と討議(7)
11. 研究の修正とまとめ(1)
12. 研究の修正とまとめ(2)
13. 研究の修正とまとめ(3)
14. 最終報告とまとめ
15. 最終報告とまとめ

### 授業の方法

各自の報告や全体討議とともに、個別指導を取り入れて授業を進める。

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

- ① 提出を求めるワークシートや感想レポート等について、授業内で評価・助言を行う。

② 平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

1回の欠席につき5点減点とし、遅刻は2点の減点とする。

### テキスト

必要に応じて提示、紹介する。

### 参考図書

「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説」フレーバル館

### 留意事項

自ら責任をもって計画的に取り組むこと。

### 教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
発達心理学			17201	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	必修	2	学校心理士SV、臨床心理士、公立小教員、上級教育カウンセラー			

## 授業の到達目標

人間の心身の発達と行動を、完成されたものとして丹念に記述するだけでなく、それが現状に至る経緯を跡付けるとともに、現在も変化あるものとして捉え、その形成を実践の中で支援することができる視点を育成する。  
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)、I(知性)、E(倫理)を養う。

## 授業の概要

人間の心身は、他者を含む環境との相互的関わりを通して発達していくことを、代表的な発達・学習理論を通じて紹介していく。また、精神活動の成立と展開にとっての初期経験の重要性、生涯発達という視点の大切さに触れながら、特に乳幼児期から青年期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達等についての具体的な保育・教育実践の課題を考察する

## 授業計画

1. 精神機能を発生的に把握するという事 生物としての発生
2. 精神機能を発生的に把握するという事 遺伝と環境
3. 発達段階論とPiagetの発達理論の成立
4. 知的精神機能の発達:感覚運動期1(新生児期)
5. 知的精神機能の発達:感覚運動期2(乳幼児期)・運動の発達
6. 知的精神機能の発達:前操作期1(幼児期)・言語の発達
7. 知的精神機能の発達:前操作期2(幼児期)・認知の発達
8. 知的精神機能の発達:具体的操作期(学童期)・動機づけ・集団づくり
9. 知的精神機能の発達:形式的操作期(学童期・青年期以降) 学習活動の在り方
10. 初期経験と発達:野生児の例から
11. 対人関係と発達:愛着、社会性、遊びの発達
12. 対人関係の発達:コミュニケーション能力の発達
13. 発達研究における生態学的視点
14. 発達における障害の位置づけと診断・療育
15. 人格としての生涯発達およびまとめ

## 授業の方法

講義と単元内容に相応した発達に関連する課題に毎時間回答しながら学習を進める。

ら学習を進める。

## 準備学修

講義は各回が前回を前提として進められるので、毎回の講義内容をよく復習して授業に臨むようにしてください。

## 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

## 欠席について

学内規則に準ずる

## テキスト

必要な場合授業時に指示する

## 参考図書

佐藤眞子編 『人間関係の発達心理学 2 乳幼児期の人間関係』 培風館  
川島一夫、渡辺弥生編著 『図で理解する発達—新しい発達心理学への招待—』 福村出版 2010

## 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門基礎科目〈専門基礎科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容総論			17205	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	必修	2	公立幼稚園教員			

## 授業の到達目標

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示されている内容について十分に理解するとともに、教育・保育の歴史の変遷や現在の取り巻く状況を理解する。また、基礎的・総合的に乳幼児期の教育・保育及び保育者の役割などについて理解する。この科目ではKAISEIパーソナリティのI(知性)を養う。

## 授業の概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」を読み解きながら、保育内容・子ども理解・教師の役割・保護者との連携などについて、段階を追って学修を進める。情報機器及び教材の活用を図りながら、具体的場面を想定した指導実践力の基礎作りをしていく。

## 授業計画

1. 保育の基本(1)幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等について
2. 保育の基本(2)「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の重要性について
3. 保育内容の歴史の変遷
4. 子どもの発達の特性
5. 環境を通して行う教育、遊びを通しての総合的な指導(情報機器及び教材の活用を含む)
6. 養護と教育、乳児保育、長時間保育
7. 保育内容 5領域、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
8. 遊んでみよう(1)歌って手遊び(教材収集)
9. 遊んでみよう(2)歌って手遊び(教材研究)
10. 遊んでみよう(3)歌って手遊び(グループ発表)
11. 保育の展開(1)発達や学びの連続性、小学校教育との円滑な接続
12. 保育の展開(2)保護者との連携、家庭生活との連続性
13. 保育の展開(3)子育ての支援、多文化共生の保育
14. 保育の展開(4)特別な支援を必要とする子どもの保育
15. 乳幼児期の保育・教育を取り巻く現状と課題、定期試験

## 授業の方法

講義を中心とするが、情報機器や教材を活用するとともに、ワーク

やグループディスカッションなどを多く取り入れる。

## 準備学修

Webで参照すること。

## 課題・評価方法

- ①授業内で小テスト等を5回程度実施し、フィードバックを行う。
- ②ワークシート25% 授業に臨む姿勢25% 定期試験50%

## 欠席について

欠席1回につき3点減点

## テキスト

「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)「保育所保育指針解説」(厚生労働省)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)「あそびうた大全集200」(永岡書店)「実践!造形あそび」(ナツメ社)

## 参考図書

幼稚園教育指導資料 第5集「指導と評価に生かす記録」(チャイルド社)

「ようちえんあしたもいきたいな」(全国公立幼稚園長会)

## 教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
感情・人格心理学			17311	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅谷 豊	選択	2	公立高校教諭（過去）、大手前大学学習支援センター（現在）勤務、臨床心理士、公認心理師			

### 授業の到達目標

心理学の様々な理論、人格の形成要因や発達過程、感情が行動におよぼす影響、心の病などの視点から人格とは何かを学び、人間の個別性を理解することで人間の心に関する理解を深める。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を学ぶ。

### 授業の概要

人間の行動の仕方には個人差があることから人格という言葉が生まれた。その複雑な個人差を測定する方法を知るとともに、人格の形成過程や人格理論、さらには不適応の問題についても学び、自己と他者のより深い理解をめざす。

### 授業計画

- 1.はじめに:人格の定義と歴史
- 2.人格を理解する観点と理論Ⅰ:理論
- 3.人格を理解する観点と理論Ⅱ:類型論
- 4.人格を理解する観点を理論Ⅲ:特性論
- 5.人格の発達Ⅰ:人格形成の要因
- 6.人格の発達Ⅱ:ライフサイクル
- 7.人格と関係性
- 8.人間関係と性格(適性)
- 9.適性とやる気
- 10.適応と不適応
- 11.パーソナリティと不適応
- 12.交流分析とTEGⅡ他心理査定
- 13.感情とは何かⅠ-感情に関する理論および感情喚起の機序
- 14.感情とは何かⅡ-感情の進化と行動に及ぼす影響
- 15.総括

### 授業の方法

講義とグループワークを中心とする。また、適宜心理検査を紹介する。

### 準備学修

授業後の復習が必要である。

### 課題・評価方法

定期試験(50%)、小レポート(20%)、出席状況(15%)、授業後の感想レポート(15%)

### 欠席について

欠席が5回以上で不合格とする。

### テキスト

適宜プリント資料として配布する。

### 参考図書

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊『性格心理学への招待 自分を知り他者を理解するために』サイエンス社

### 留意事項

「授業」は授業者と学生の相互の協力のもとに成立するものであるから、学生諸君は要望、意見を忌憚なく述べて欲しい。

### 教員連絡先

yasatani@otemae.ac.jp

### オフィスアワー

非常勤のため、特に設けられない。質問等は授業の前後に受け付ける。特に対面を希望する場合は、上記アドレスまでメールにて申し込んで欲しい。できうる限り学生の要望に応えたい。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学概論			17327	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
津田 明子	選択	2	大学病院心療内科講座研究員、中高スクールカウンセラー、大学相談室、一般病院心療内科勤務			

### 授業の到達目標

臨床心理学の誕生から現在までの歴史の変遷を概観し、臨床心理学の代表的な理論について学習する。その上で、臨床心理学の実際としての心理アセスメントと基本的な心理療法について学ぶ。そして最終的に、臨床心理学における基礎知識とさらに、臨床心理学的に人間を理解するという視点を獲得する事を目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）について考える。

### 授業の概要

本講義では、臨床心理学の成り立ちを歴史の変遷を通して概観し、その発展を支え、臨床心理学の基礎となった代表的な学者の理論（人格理論・精神発達理論）を中心に解説していく。また、実際の臨床場面において使われている心理アセスメントや代表的な心理療法についても紹介していく。そして、最終的に臨床心理学的観点から人間を理解することについて考えてもらう。

### 授業計画

- 1.臨床心理学とは
- 2.臨床心理学の成り立ち
- 3.こころのしくみとパーソナリティ①フロイトの考え方
- 4.こころのしくみとパーソナリティ②ユングの考え方
- 5.こころの発達理論①エリクソンの考え方
- 6.こころの発達理論②クラインの考え方
- 7.こころの発達理論③マラーの考え方
- 8.こころの発達理論④ウイニコットの考え方
- 9.臨床心理学の実際-心理アセスメントについて
- 10.臨床心理学の実際-心理療法とは
- 11.心理療法①精神分析療法・分析心理学派
- 12.心理療法②クライエント中心療法
- 13.心理療法③森田療法・内観療法・遊戯療法
- 14.心理療法④芸術療法・認知行動療法・家族療法
- 15.総括・テスト

### 授業の方法

講義を中心に進めていくが、授業時間中にわからなかったところなどを確認するために、感想レポートなどの提出も適宜課していく。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

実習などの特別な欠席を除き、1回の欠席につき、2点を減点する。

### テキスト

特に決まったテキストは用いない。

### 参考図書

授業の中でその都度紹介する。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
知覚・認知心理学			17331	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

### 授業の到達目標

人間が身体と心を動員して環境に臨むなかで、それを知覚し、判断し、行動するシステムが機能することを、その成り立ちとともに解説し、人間が「環境内存在」であることの理解を深める。人の感覚・知覚等の機序及びその障害、また、人の認知・思考等の機序及びその障害についても理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

### 授業の概要

見る、聞く、触れる、思考する、記憶するという人間の基本的な精神機能は、常に主体と環境との連続した循環的な反応の環のなかで実現している。人間が能動的かつ協同的な存在であるがゆえに、これらの基本的な機能は実現されているということ、心理学的システムとして理解し、その成り立ちについて、進化心理学的あるいは発生心理学的な視点から考察してゆく。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 人間の知覚的特性: 視覚
3. 人間の知覚的特性: 聴覚
4. 人間の知覚的特性: 運動感覚と認知
5. 人間の知覚的特性: 空間知覚
6. 注意と記憶1
7. 注意と記憶2
8. イメージ処理
9. 言語と談話理解1
10. 言語と談話理解2
11. 推論と問題解決
12. 思考と言語1
13. 思考と言語2
14. 社会的認知
15. まとめと期末テスト

### 授業の方法

講義と単元内容に相当した、感覚、知覚、文章記憶、意味表象、物語認知、出来事認知、日常の問題解決などについての課題に実験などの活動を通じて毎時間回答しながら学習をすすめる。レポート作

成が課題となる。また小テストも実施する。

### 準備学修

心理学概論で学んだ感覚、知覚、記憶、思考などの基本的な概念をよく理解しておくこと。Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

### テキスト

『心理学の最先端』末田啓二編著 あいり出版 2013

### 留意事項

毎週実験を実施するため、欠席した場合は必ず補習を受け、実験レポートを提出すること。

### 教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学統計学			17339	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
安岡 勇輝	選択	2				

### 授業の到達目標

心理学で用いられる統計手法の基本的な技法とその考え方を、心理学的な領域のデータを扱いながら、自ら活用できるような力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

心理学研究の解析手法を支える統計学について、その理論的な意味と、統計に関する基礎的な知識について解説する。講義は、できる限り具体的なデータを学生が扱い、実際の統計の手法について触れ、記述統計から推測統計まで、処理プロセスと統計手法、個々の概念について学んでゆく。

### 授業計画

1. データの性質について①
2. データの性質について②
3. データの表現
4. 代表値(平均値など)と散布度
5. 標準化とは何か
6. 相関係数とは何か①
7. 相関係数とは何か②
8. 標本と母集団①
9. 標本と母集団②
10. 統計的仮説検定の考え方①
11. 統計的仮説検定の考え方②
12. ノンパラメトリックな検定
13. 平均値の差の検定
14. データの分散と条件の比較
15. 試験

### 授業の方法

講義と単元内容と相応した、確率、変数の性質、データ分布、代表値、散布度、標準化、相関係数、カイ二乗検定、t検定など具体的な計算や検定作業を行いながら、レジュメと教科書を用いて学習を進める。

### 準備学修

事前に記述統計の基本について、復習しておくこと。授業ごとに、教科書とレジュメを読み込み、毎日20分程度、予習・復習すること。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特例欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出る事。

### テキスト

山田剛史・村井潤一郎 2004 よくわかる心理統計 ミネルヴァ書房

### 参考図書

石村貞夫 1993 すぐわかる統計解析 東京図書  
吉村寿夫 1998 本当にわかりやすいごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本 北大路書房  
田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版  
南原風朝和 2002 心理統計学の基礎 有斐閣

### 留意事項

本講義では「統計学入門」を履修しておくことを前提として進める。講義では電卓を使用することがあるので準備しておくこと。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学実験			17342	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

### 授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。実験実習を通して「実験の計画立案」と「統計に関する基礎的な知識」について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

### 授業の概要

知覚から記憶までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方、説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

### 授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.心理学実験と統計の基礎知識
- 3.知覚1ーミューラー・リヤー錯覚
- 4.知覚2ーミューラー・リヤー錯覚
- 5.認知・学習1ー鏡映描写
- 6.認知・学習2ー鏡映描写
- 7.記憶と忘却1
- 8.記憶と忘却2
- 9.要求水準1
- 10.要求水準2
- 11.イメージの測定(SD法)1
- 12.イメージの測定(SD法)2
- 13.社会的促進1
- 14.社会的促進2
- 15.まとめ

### 授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

### 準備学修

平均値の求め方を復習しておく。各実験レポートを作成する。（10

時間)

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。  
平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

学内の規定に従う。

### テキスト

適宜配布する。

### 留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

### 教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理的アセスメント			17344	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、公認心理師、教育相談員（神戸市教育委員会）、スクールカウンセラー（神戸市）、施設心理士			

### 授業の到達目標

心理的アセスメントの目的及び倫理、そして心理的アセスメントの観点及び展開について学ぶ。心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を実際に体験し、その分析結果を適切な記録及び報告としてまとめることが出来るようになる。基本的な心理検査を通じて自己分析し、自己理解につなげる。また、子ども理解を深めるために、子どもの発達状況を捉える発達検査や知能検査について知り、実施方法を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

### 授業の概要

基本的な心理検査・発達検査・知能検査等を、検査者・被験者の両方の立場で体験し、検査の背景・実施方法・検査結果のまとめ方を学び、身に付ける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

### 授業計画

- 1.はじめに：心理検査法概論
- 2.東大式エゴグラム
- 3.矢田部・ギルフォード性格検査
- 4.コーネルメディカルインデックス
- 5.BIG FIVE尺度
- 6.津守・稲毛式乳幼児発達診断1
- 7.津守・稲毛式乳幼児発達診断2
- 8.遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査
- 9.新版K式発達検査①
- 10.新版K式発達検査②
- 11.新版K式発達検査③
- 12.WISC知能検査①
- 13.WISC知能検査②
- 14.WISC知能検査③
- 15.総括・期末試験

### 授業の方法

毎回テーマとなる検査を実施し、検査結果の所見をレポートで提出させる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

全てのレポート作成と提出で合格となるため、欠席は認められない。やむを得ず欠席した場合は必ず教員指定の日時に補習を受けること。

### テキスト

資料を毎回の授業中に配布予定。

### 参考図書

適宜紹介する。

### 留意事項

検査についての事前学習・事後学習を行い、理解を深めること。

### 教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理調査・データ処理法			17345	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
新美 裕之	選択	2				

### 授業の到達目標

心理学における調査法の基本的な考え方を理解するとともに、それを実際にも実施し、得られたデータを統計的な解析に持ち込み、評価できるまでの心理統計的な技法と理論を活用する力を養う。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

心理学研究のとりわけ調査法について、統計的な手法を用いたデータ解析を取り入れた研究方法について学ぶ。論文などの具体的な調査を参考にしつつ、調査の実施法を、問題の設定、質問紙等の作成から、データの収集、統計解析手法、結果の解釈、結果の表現にいたるまでのプロセスを実践的に学んでゆく。また、その際に必要な研究倫理についても学ぶ。

### 授業計画

1. 調査研究の方法①
2. 調査研究の方法②
3. 調査研究の方法③
4. 質問紙作成の基礎
5. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査の実施法1
6. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査の実施法2
7. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:調査結果の集計とデータ表現
8. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成1
9. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成2
10. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:心理尺度の作成3
11. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用1
12. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用2
13. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用3
14. 質問紙の作成と調査およびデータ処理:応用4
15. 試験

### 授業の方法

講義と単元内容に相応した、質問紙の作成、調査の実施、統計などの具体的な手順を教科書を中心に、レジュメ等の資料を基に学びながら、学習を進める。

### 準備学修

事前に心理統計学の基本的な用語や計算手法を復習しておくこと。授業ごとに、教科書とレジュメを読み込み、毎日20分程度、予習・復習すること。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

通常欠席は5回を超えると不合格とする。遅刻・早退は減点する。特別欠席において、補填を希望する場合には、必ずその旨を申し出る事。

### テキスト

鎌原雅彦・宮下一博・大野木裕明・中澤潤 1998 心理学マニュアル 質問紙法 北大路書房

### 参考図書

田中敏・山際勇一郎 1992 ユーザーのための教育心理統計と実験計画法 教育出版  
宮本聡介・宇井美代子編 2014 質問紙調査と心理測定尺度一計画から実施・解析まで一 株式会社サイエンス社

### 留意事項

この講義を受講する学生は「情報リテラシーⅡ」「統計学入門」および「心理統計学」についても受講すること。授業は教科書にそって進めるため、教科書を購入すること。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
臨床心理学実習（心理テスト法）			17375	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	1	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

### 授業の到達目標

心理臨床現場（保健所、児童相談所、病院など）における幼児期の発達状況を捉え発達検査や心理判定の際に役立つ基本的な心理検査について知り、身につけることを目標とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

### 授業の概要

各心理検査の意図を理解し、各心理検査において検査場面を想定したロールプレイを行い、検査者と被検査者のそれぞれを体験し、検査の実施方法や検査結果のまとめ方を学び、身につける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

### 授業計画

1. はじめに 心理テスト概論
2. 心理検査法実習の復習
3. P-Fスタディ①
4. P-Fスタディ②
5. 文章完成法 SCT
6. 内田クレベリン作業検査
7. 新規検査発達検査④
8. 新規検査発達検査⑤
9. WISE知能検査④
10. WISC知能検査⑤
11. パウムテスト
12. 風景構成法
13. スカイグル法
14. 箱庭療法①
15. 箱庭療法②・統括・期末テスト

### 授業の方法

実習形式で行い、検査結果を分析し、所見をレポートで提出させる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

実習なので、基本欠席は認めない。

### テキスト

授業中に資料配布する。

### 参考図書

適宜紹介する。

### 留意事項

定員20名までとし、超過する場合は資格取得予定者を優先する。レポート課題の提出は、実習の翌週とする。

### 教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学的支援法			17383	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
津田 明子	選択	1	大学病院心療内科講座研究員、一般病院心療内科勤務、 中高スクールカウンセラー、大学相談室カウンセラー			

### 授業の到達目標

本授業では、心理学的支援とは何かについて学ぶ。代表的な心理療法並びに、カウンセリングの歴史、概念、意義、について学び、さらにそれらの適応及び限界についても触れる。また、今後ますます必要になってくるとされる訪問による支援や地域支援の意義、心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援の重要性についても学ぶ。そして、心理学的支援を行う上で必要な、良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法について、プライバシーへの配慮に触れながら実習などを通して学ぶ。心の健康教育の重要性についても考える。このクラスでは、海星パーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を養う。

### 授業の概要

心理学的支援について、①代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応、及び限界、②訪問による支援や地域支援の意義、③良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法、④プライバシーへの配慮、⑤心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援、⑥心の健康教育、を中心に講義と実習を通して学ぶ。

### 授業計画

- 1.心理療法とカウンセリング①
- 2.心理療法とカウンセリング②
- 3.心理療法とカウンセリング③
- 4.心理療法とカウンセリング④
- 5.信頼実習
- 6.助言の実習
- 7.心理学的支援におけるプライバシーへの配慮
- 8.地域支援と訪問支援
- 9.「宝探しの地図」実習
- 10.心理学的支援を要する人の関係者に対する支援
- 11.良好な人間関係を築くためのコミュニケーション
- 12.コンセンサスの実習
- 13.「共感」実習
- 14.「純粋性」実習
- 15.心の健康教育

### 授業の方法

講義と実習（グループ、ペア）を中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

①グループ実習やペア実習の後には、講義の中でフィードバックを行い、レポートの提出を求める。

②平常点70%、定期試験30%にて評価を行う。

### 欠席について

連絡なしの欠席は大幅な減点の対象とする。

### テキスト

特に用いない。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学研究法			17387	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

### 授業の到達目標

心理学における基礎的な研究方法には様々な方法がある。本講義は「心理学における実証的研究法（量的研究及び質的研究）」、「データをを用いた実証的な思考方法」、「研究における倫理」について学ぶ。実証的な研究方法、データの分析、研究倫理の基礎を学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

主に心理学における研究方法の基礎知識について学ぶ。研究計画を立て、データを分析し、考察を加えるという基本的な研究の流れと各研究方法について学び、研究する力を養う。

### 授業計画

- 1.心理学における研究
- 2.心理学研究の基礎知識
- 3.先行研究の調査
- 4.研究法の概説 量的研究
- 5.研究法の概説 質的研究
- 6.心理統計法1
- 7.心理統計法2
- 8.実験法
- 9.調査法
- 10.観察法
- 11.面接法
- 12.研究倫理1
- 13.研究倫理2
- 14.研究のまとめ方
- 15.まとめ

### 授業の方法

講義形式を中心に基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

学内の規定に従う。

### テキスト

三浦麻子 著『心理学ベーシック第1巻 なるほど！心理学研究法』北大路書房

### 教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会・集団・家族心理学			17399	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

### 授業の到達目標

人は社会の中で生き、他者から影響を受ける存在である。本講義は「対人関係並びに集団における人の意識及び行動についての心の過程」、「人の態度及び行動」、「家族、集団及び文化が個人に及ぼす影響」について学ぶ。対人関係や集団、人の態度に関わる心の働き、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

主に社会心理学と家族心理学の基礎知識を身につける。集団や対人関係、人の態度に関わる心理学的な知識を学ぶ。また、文化や社会から人が受ける影響について学ぶ。最も身近な集団である家族と家族に関わる心理についても学ぶ。

### 授業計画

1. 社会心理学とは
2. 認知と感情
3. 自己概念と自己評価
4. ステレオタイプ
5. 態度と態度変化
6. 対人関係
7. 集団と個人1
8. 集団と個人2
9. 組織と個人
10. 集団行動
11. 心と文化1
12. 心と文化2
13. 家族という集団
14. 家族の心理
15. まとめ

### 授業の方法

講義形式を中心に基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。  
平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

学内の規定に従う。

### テキスト

池田謙一・唐沢 穰・工藤恵理子・村本由紀子 著『社会心理学補訂版』 有斐閣

### 教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生活文化概論			17405	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

### 授業の到達目標

子どもの生活は、遊びそのものであり、子どもの人格は遊びを通して形成されるものであるとも言える。日本は四季に富み、四季にまつわる様々な子どもを取り巻く記念日・行事がある。この素晴らしい日本の文化を後世に伝えていくことの重要性を理解し、子どもの生活文化の様々な側面を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を考える。

### 授業の概要

現代社会に生きる子どもたちの生活や文化に焦点をあて、そこに生きる子どもたちの諸相を見ていく。体験的学習を織り交ぜ、学生が自らの体験を通して、子ども文化のイメージがもてるようにする。

### 授業計画

1. 授業の目的 生活科を踏まえて考える生活文化概論
2. 子ども文化の意義、定義とその構造
3. 子どもを取り巻く生活環境の変化
4. 子どもを取り巻く生活環境について
5. 現代の子どもたちの遊びと生活
6. 集団遊びの重要性
7. 集団遊びの重要性  
地域・公共物とのかかわりについて
8. 自然とのかかわりについて(教室を出ての実際体験)
9. 自然の中での遊びの重要性
10. 伝承遊びについて
11. 児童文化財について
12. 1年を通して、季節の子どもの文化と遊び
13. 季節の遊びについて(お正月)
14. 子どもを取り巻く「ひと」・「もの」・「こと」
15. まとめ・定期試験

### 授業の方法

講義・演習・実践により進める。

### 準備学修

webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。  
平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

### テキスト

必要書類については、随時プリントを配布する。

### 参考図書

子どもとあそび 仙田満著 岩波新書  
児童文化 皆川美恵子、武田京子著 ななみ書房  
子どもに伝えたい年中行事・記念日 萌文書林

### 留意事項

実践を多く取り入れるため、授業計画についてはかなり変更があるので、教務課前掲示板を確認しておくこと。

### 教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育・学校心理学	PC	17411	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員		

### 授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

### 授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

### 授業計画

1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
2. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
4. 幼児期から青年期において、社会性の発達
5. 幼児期から青年期における現代の発達課題
6. 認知発達、認知機構の変遷
7. 主体的な学びの開発と体系化
8. 主体的、対話的で深い学びの実践例
9. 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
10. 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
11. 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
12. 学習成果の可視化
13. 主体的な学習、思考力を育む学習集団
14. 発達障害の理解と支援
15. まとめと振り返り

### 授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

### 準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

学内規定に準ずる

### テキスト

濱田誠二郎著『心理学を生かしたクラスづくり』 株式会社ERP

### 参考図書

授業中に紹介する

### 留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽1	①/②/③/④	17417	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
南 夏世/由井 敦子	選択	2			

### 授業の到達目標

幼児・児童の豊かな感性と表現を育むために、実践に必要な音楽の基礎的能力を修得することがねらいである。子どもの発達や現代の環境等を踏まえ、幅広い表現活動が展開できる保育者・指導者を目指し、「楽典」「歌唱・弾き歌い」「ピアノ演奏」を軸に、個人の音楽技能を伸ばす。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

### 授業の概要

「楽典」については、コード習得のための音楽理論を中心に、読譜に必要な音楽記号の基礎知識を学習する。「歌唱・弾き歌い」については、こどもの歌・小学校歌唱教材の楽曲研究を行いながら、明瞭な日本語で表情豊かに歌えるようにするとともに、学習したコードによるコード伴奏での弾き歌いの演習をする。「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を個人レッスンし、読譜力とピアノ技術の向上を目指す。その際、各自の進度に応じて定められている曲数を合格しなければならない。

### 授業計画

1. 楽典。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 楽典。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 音楽表現活動について。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. コードの学習。こどもの歌と進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. コード演奏演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
10. コード演奏演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
11. 発声と子どもの歌の歌唱法。進度に応じたピアノ個人レッスン。
12. 発声と子どもの歌の歌唱法。進度に応じたピアノ個人レッスン。
13. コード伴奏での弾き歌い。進度に応じたピアノ個人レッスン。
14. コード伴奏での弾き歌い。進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. まとめと試験。

### 授業の方法

前半は音楽の基礎学習と歌唱・弾き歌い等の演習をクラス全体で行

い、後半はピアノの個人レッスンを行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ① 毎時間ピアノレッスンを行い、フィールドバックを行う。
- ② 平常点70% 定期試験30%  
定期テストは、ピアノ演奏、弾き歌い、筆記の3項目を実施する。授業内で行われる歌唱・コード等の小テストは平常点に反映する。

### 欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

### テキスト

「マイレパートリー」(YAMAHA MUSIC MEDIA)  
ピアノテキスト「大学ピアノ教本」「ブルグミュラー2.5の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

### 参考図書

授業内で随時提示する。

### 留意事項

入学時にピアノ経験を参考にクラス編成を行う。鍵盤楽器初心者の場合、次年度も受講が必要となる場合もある。配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。授業時には、必ず爪を切っておくこと。

### 教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワー、またはピアノ補講時間を活用すること。日時については、教務課前掲示板を確認すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽2	①/②/③/④	17421	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
由井 敦子／南 夏世	選択	2			

### 授業の到達目標

幼児・児童の豊かな感性と表現を育むために、実践に必要な音楽の基礎的能力を高めることがねらいである。子どもの発達や現代の環境をふまえ、幅広い表現活動が展開できる保育者・指導者を目指し、「楽典」「歌唱・弾き歌い」「ピアノ演奏」を軸に、個人の音楽技能を伸ばす。  
このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を身につける。

### 授業の概要

「楽典」については、コード学習に加え、調性やカデンツの学習と演習を重ねる。「歌唱・弾き歌い」については、弾き歌いのレパートリーを増やすとともに、楽曲にふさわしい伴奏型でコード奏ができるように演習する。さらに、「ピアノ演奏」については、各自の進度に応じたピアノ曲を、表情豊かに演奏できるようにピアノ技能を高めていく。その際、各自の目標として定められている曲数を合格しなければならない。

### 授業計画

1. コード復習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
2. 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
3. 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
4. 調性とカデンツ。弾き歌いと進度に応じたピアノ個人レッスン。
5. 調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
6. 調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
7. 調性とカデンツ。進度に応じたピアノ個人レッスン。
8. コード伴奏と実演。進度に応じたピアノ個人レッスン。
9. 弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
10. 弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
11. 弾き歌い演習。進度に応じたピアノ個人レッスン。
12. こどもの発達と歌唱教材。連弾。
13. こどもの発達と歌唱教材。連弾。
14. 様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。
15. 様々な表現活動について。進度に応じたピアノ個人レッスン。

### 授業の方法

前半は音楽の基礎学習と歌唱・弾き歌い等の演習をクラス全体で行い、後半はピアノの個人レッスンを行う。

### 準備学修

Webを参照すること

### 課題・評価方法

- ①毎時間ピアノレッスンを行い、フィールドバックを行う。
- ②平常点70% 定期試験30%  
定期テストは、ピアノ演奏、弾き歌い、筆記の3項目を実施する。授業内で行われる連弾・コード等の小テストは平常点に反映する。
- ③個人の進度に応じて与えられた課題を終えなければ定期試験を受けることはできない。

### 欠席について

欠席回数が評価に大きく関与する。5回を越えると単位修得できない。

### テキスト

「マイレパートリー」(YAMAHA MUSIC MEDIA)  
ピアノテキスト「大学ピアノ教本」「ブルグミュラー25の練習曲」「ソナチネアルバム1」等は各自の進度に応じて使用する。

### 参考図書

授業内で随時提示する。

### 留意事項

必要に応じてクラス再編成を行う。  
配布する「個人カード」に各自の進度を記入し、毎回持参すること。これがなければテストを受けられない。  
授業の前には、必ず爪を切っておくこと。

### 教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワー、またはピアノ補講時間を活用すること。  
日時については、教務課前掲示板を確認すること。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
児童文学	PC	17437	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
箕野 聡子／宮副 紀子	選択	2	私立中学高等学校教員(科目「社会」)(箕野) 私立中学高等学校教員(科目「英語」)(宮副)		

### 授業の到達目標

初等国語の一貫として、児童文学を学ぶことにより、文化におけるこども観を理解するとともに、文学作品の読解力を養うことを目的とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。（箕野）

すぐれた児童文学は普遍的テーマを有しており、子どもだけでなく大人にも深い感動を与えてくれる。海外の代表的な児童文学を鑑賞することにより、様々な視点から文学を読解する力を養うことを目的とする。KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、In（国際性）を養う。（宮副）

### 授業の概要

日本の近現代児童文学を取り上げる。日本の児童文学は、初めは大人の側に立ったものであった。そこには、発表当時の日本文化が反映され、大人が子どもに求めた理想がわかりやすい言葉で表現されている。児童文学がそのような観念から脱し、子どもの世界を獲得していく様子を考察する。（箕野）  
児童文学の歴史を学びながら英米の代表的な児童文学作品について考察する。また英米以外では、フランスの1作品を鑑賞する。（宮副）

### 授業計画

1. 巖谷小波「日本昔噺其一 桃太郎」
2. 浜田広介「泣いた赤鬼」
3. 宮沢賢治「注文の多い料理店」
4. 坪田譲治「河童のはなし」
5. 有島武郎「一房の葡萄」
6. 与謝野晶子「きんぎょのおつかい」
7. 松谷みよ子「貝になった子供の話」
8. まとめと試験
9. ジョナサン・スウィフト『ガリバー旅行記』
10. ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』とナーサリーライム
11. R.L. スティーブソン『宝島』
12. L.F. ボーム『オズの魔法使い』
13. L.M. オルコット『若草物語』
14. ペアトリクス・ボター『ピーターラビットのおはなし』と代表的な絵本

15. アントワーン・ド・サン＝テグジュペリ『星の王子様』

### 授業の方法

講義中心の授業である。必要に応じて映像作品の鑑賞も行う。

### 準備学修

Web参照すること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%で評価する。また、毎回ノートの提出を求める。ノートは、次の週に教員が評価して返却する。

### 欠席について

規定に従う。

### テキスト

随時、プリントを配布する。（箕野）  
『たのしく読める英米児童文学』本多英明/桂宥子/小峰和子編著 ミネルヴァ書房（宮副）

### 参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

### 教員連絡先

mino@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳幼児心理学			17445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
長谷川 貴子	選択	2				

### 授業の到達目標

乳幼児期の運動・知覚・認知・知性・言葉・社会性・遊びの発達について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

新生児や乳幼児が獲得する能力の豊かさや多様性についての知識を深めるとともに、保育場面においてそれらを育み、促進する大人の関わりについて検討する。

### 授業計画

- 1.はじめに:乳幼児心理学とは
- 2.胎児の発達
- 3.身体・運動機能の発達
- 4.知覚の発達
- 5.認知・思考の発達
- 6.情緒の発達
- 7.ことばの発達
- 8.自己の発達
- 9.親子関係の形成と発達Ⅰ:錯覚から脱錯覚へ
- 10.親子関係の形成と発達Ⅱ:愛着
- 11.社会性・道徳性の発達
- 12.子育て・親としての成長と支援
- 13.乳幼児虐待
- 14.発達の偏りと支援
- 15.まとめ

### 授業の方法

講義とグループワークを中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

定期試験（50％）、小レポート（20％）、出席（30％）

### 欠席について

学内の規定に従う。

### テキスト

適宜配布する

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
学習・言語心理学			17447	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

### 授業の到達目標

人は言語を獲得することを通して、思考や行動の統制、気持ちを表現する力を身に付ける。本講義は「人の行動が変化する過程」と「言語の習得における機序」について学ぶ。人が新たに行動を獲得する心理学的な理論及び、言語を獲得する発達過程、言語の持つ力、心理学のナラティブ理論について学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

子どもの行動の学習とことばの発達過程について学ぶ。前半は、人が新しい行動を身に付ける過程を示した学習理論や、動機づけ、認知について学ぶ。後半は、言葉の発達過程を中心に、言葉と自己、思考、行動のコントロールについて学ぶ。また、言葉に関わる心理学の分野であるナラティブについても学ぶ。

### 授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.学習理論1
- 3.学習理論2
- 4.学習理論と動機づけ
- 5.自己とことば1
- 6.自己とことば2
- 7.ことばの発達1
- 8.ことばの発達2
- 9.ことばの発達3
- 10.ことばの発達4
- 11.思考とことば
- 12.行動のコントロール
- 13.ことばを育むために
- 14.ことばにおけるナラティブ理論
- 15.まとめ

### 授業の方法

講義形式を中心に、具体例を紹介しつつ、基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。

### 準備学修

毎日30分程度、予習・復習を行う。

### 課題・評価方法

振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。  
平常点30％、定期試験70％

### 欠席について

学内の規定に従う。

### テキスト

松川利広監修 横山真貴子編著 『子どもの育ちとことば』保育出版社

### 教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等英語科指導法			17467	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2				

### 授業の到達目標

小学校外国語教育における背景知識や教材、多様な指導技術、評価などを、小学校の役割及び中・高等学校の外国語教育との連携を視野に入れて身に付ける。  
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)の育成を目指す。

### 授業の概要

小学校学習指導要領における「5つの領域」の指導及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法指導について、児童期の学習者の特性と英語授業の在り方を踏まえた知識と技術を以下の「授業計画」の具体的項目に従って身に付ける。

### 授業計画

1. 小学校外国語教育の目標・内容(1)年間指導計画と小中高連携
2. 小学校外国語教育の目標・内容(2)教材研究と学習指導案作成法
3. 小学校外国語教育の目標・内容(3)ICTの効果的な活用法
4. コミュニケーション能力を育成する指導法 ティームティーチング
5. コミュニケーション能力を育成する指導法 発話を促す活動
6. 小学校英語教材研究(1)音声習得中心の活動
7. 小学校英語指導法(ワークショップ)(1)音声習得中心の活動
8. 小学校英語教材研究(2)文字習得中心の活動
9. 小学校英語指導法(ワークショップ)(2)文字習得中心の活動
10. 小学校英語教材研究(3)表現形式に焦点を当てた活動
11. 小学校英語指導法(ワークショップ)(3)表現形式に焦点を当てた活動
12. 小学校英語教材研究(4)言語使用の場面・背景(物語)に焦点を当てた活動
13. 小学校英語指導法(ワークショップ)(4)物語の場面・背景に焦点を当てた活動
14. 小学校英語 模擬授業
15. Can-Doによる英語能力の測定とパフォーマンス評価、模擬授業の振り返り

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点30%、プレゼンテーション30%、定期試験40%

### テキスト

英語科教育のフロンティア-充実した実践を目指して- (青木昭六 編著、保育出版社)  
小学校英語の教育法 理論と実践 (アレン玉井光江、大修館書店)

### 参考図書

小学校学習指導要領解説 外国語編〔最新版〕(文部科学省)  
その他、必要に応じて、随時紹介する。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
キッズ・イングリッシュⅡ	PC		17469	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
後藤 江里	選択	2	インターナショナルスクール幼稚園教諭・保育士			

### 授業の到達目標

キッズ・イングリッシュⅠで体験した授業法を活用し、年齢・発達過程にあった授業案を作成する。学生自身が、将来、幼稚園、小・中学校、高校、英会話学校等での指導に役立つ授業創りを考え、幼稚園、小学校などで、実際に授業を体験する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

### 授業の概要

春学期で体験した授業法とその意義を理解し、児童期の学習者の特性と英語授業のあり方を踏まえた音声、文字、語彙・表現、文法指導についての知識と技術を活用し、授業案作成、教材教具作成、模擬授業を行う。その上で、実際に小学校現場などでの授業体験を通じて、学生自身が将来の児童英語指導者としての実践力を身につける。

### 授業計画

1. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(1)  
[活動案作成のポイント]
2. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(2)  
[絵カード・教具・ワークシート作成法]
3. 児童の発達段階にあった英語活動を創る(3)  
[活動案草案発表]
4. 実習授業活動案作成(1)『教材研究』
5. 実習授業活動案作成(2)『教具作成』
6. 実習授業活動案作成(3)『評価の観点と振り返りカード作成』
7. 実習授業活動案発表と模擬授業
8. 第1回 小学校英語活動 実習授業
9. 実習リフレクション
10. 実習授業活動案作成(4)『教材研究・教案発表』
11. 実習授業活動案作成(5)『教具作成』
12. 実習授業活動案作成(6)『評価の観点と振り返りカード作成』
13. 実習授業活動案発表と模擬授業
14. 第2回小学校英語活動 実習体験
15. まとめ 授業評価、ポートフォリオ作成

### 授業の方法

活動案作成、教材・ワークシート作成、模擬授業をした上で、小学

校英語活動の支援を実際に現場で体験する。

### 準備学修

教材を作成し、模擬授業の練習をしておくこと

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

参加・発表型授業であるので必ず出席すること

### テキスト

授業時にハンドアウト、及び、PCで教材配布

### 参考図書

「小学校英語教育の進め方」岡秀夫、金森強 成美堂  
「小学校英語の教育法 理論と実践」アレン玉井光江 大修館書店

### 留意事項

子供に英語を教える授業を、自らが積極的に創る。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽3	①/②	17473	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
南 夏世	選択	2			

### 授業の到達目標

子どもの発達や現代の環境等を踏まえた幅広い表現活動が展開できるよう音楽技能を磨き高めるとともに、教材を研究し、実践する方法を修得する。  
この授業ではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とK（思いやり）を身につける。

### 授業の概要

子どもの歌、生活の歌、季節の歌等を、明瞭な日本語で、コード奏による弾き歌いができるように演習する。また、表現活動のために、音楽の基本となるリズムについての理解を深め、ピアノ演奏や身体表現の音楽が表情豊かに演奏できるよう実践を重ねる。さらに、ピアノのできる音楽効果や変奏の技術を学び、場面に応じた音楽が提供できるよう演習する。

### 授業計画

1. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
2. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
3. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
4. 生活の歌、コード奏による弾き歌い。
5. 季節の歌、遊びの歌、教材研究と実践。
6. 表現活動のためのピアノの演習。楽典。
7. 場面に応じた音楽の研究。
8. ピアノの特殊効果と変奏。
9. 身体表現のための変奏の習得。
10. 身体表現のための変奏の習得と発表。
11. 表現活動のためのピアノの演習。楽典。
12. 和太鼓の打法と演奏。
13. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
14. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。
15. 音楽会プロデュース、計画、指導、演奏の総合演習。

### 授業の方法

実技が中心である。個人であるいはグループで発表や実演を行う。個人レッスンをを行う回もある。

### 準備学修

Webを参照すること

### 課題・評価方法

- ①項目ごとにテストや発表を実施し、フィールドバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30% また、レポート提出も求める。

### 欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

### テキスト

『マイレパートリー』（YAMAHA MUSIC MEDIA）  
『リズム曲集』（サーベル社）

### 参考図書

授業時に指示する。

### 留意事項

初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。  
音楽に合わせた身体表現発表が適宜あるので、動きやすい服装で受講すること。

### 教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽4	①/②	17477	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
南 夏世	選択	2			

### 授業の到達目標

豊かな感性と表現を育てることができる指導者を目指すために、領域「表現」についてのねらい・内容を理解し、子どもの発達や現代の環境等を踏まえた幅広い表現活動が展開できるよう教材を研究し、実践する方法を修得する。  
この授業ではKAISEIパーソナリティーのI（知性）とA（自律）とS（奉仕）を身につける。

### 授業の概要

領域「表現」の目標・内容を学び、子どもの成長に合わせた活動内容や指導法を修得する。まず合奏の演習を通して、手拍子・リズム奏・リズム遊び等からリズムについての理解を深め、合わせて楽譜の書き方を学習し、楽典の基礎を固める。そして、日々の活動に必要な弾き歌いの演習を通して、実習に向けて模擬授業の実践を行う。さらに、実習や表現活動に必要なピアノ演習やグループのテーマによる活動の練習から、総括として現場で実践するための指導力を身につけていく。

### 授業計画

1. 領域「表現」の概説。子どもの成長と音楽の関わりについて。
2. 歌唱教材研究。子どもの歌とわらべうた。
3. 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
4. リズムについて。（リズム遊び、リズム奏、手拍子など）
5. 打楽器の奏法とリズム合奏。
6. 合奏演奏と編曲法。
7. 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
8. 合奏演奏と編曲法。楽譜の書き方。
9. 表現活動のためのピアノ個人レッスン。楽典。
10. 歌唱指導の実践。
11. 歌唱指導の実践。
12. さまざまな表現活動とそのまとめ。
13. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
14. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。
15. グループが定めたテーマによる表現活動の総合演習。

### 授業の方法

実技が中心である。個人であるいはグループで発表や実演を行う。

### 準備学修

Webを参照すること。

### 課題・評価方法

- ①項目ごとにテスト、発表を実施し、フィールドバックを行う。
- ②平常点70%、定期試験30% レポート提出も求める。

### 欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

### テキスト

『弾こう♪歌おう♪子どもとともに』（YAMAHA MUSIC MEDIA）  
『リズム曲集』（サーベル社）

### 参考図書

授業時に指示する。

### 留意事項

初回に配る個人カードに毎回の学習や演習を必ず記録し、定期試験の際に提出すること。  
音楽に合わせた身体表現発表が適宜あるので、動きやすい服装で受講すること。

### 教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育相談(カウンセリングを含む)	教職小		17497	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	学校心理士、公立小教員			

### 授業の到達目標

幼児、児童及び生徒の心身の発達や学習の過程について、基礎的な知識を身に付ける。代表的な研究者の理論に基づく日常的な具体例を取り上げ、発達を踏まえた主体的な学習活動を支える指導の基本的な考え方を理解する。  
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

### 授業の概要

教育課程上の様々な場面に現れる課題、主に幼児期・児童期における乗り越えるべき課題を心理学的な切り口で捉える。子どもの健やかな成長のために、発達・学習・人格・適応・保育者との関係性・特別支援教育等の現状と課題などを体系的に学ぶ。

### 授業計画

1. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するエリクソンの理論と方法
2. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関するピアジェの理論と方法
3. 幼児、児童及び生徒の心身の発達に関する道徳的なコールバーグの理論と方法
4. 幼児期から青年期において、社会性の発達
5. 幼児期から青年期における現代の発達課題
6. 認知発達、認知機構の変遷
7. 主体的な学びの開発と体系化
8. 主体的、対話的で深い学びの実践例
9. 学習内容、発達に応じた適切な学習形態
10. 動機づけ、意欲を引き出す学習形態の在り方に関する事例研究
11. 主体的な学習の成果を的確に捉えた評価
12. 学習成果の可視化
13. 主体的な学習、思考力を育む学習集団
14. 発達障害の理解と支援
15. まとめと振り返り

### 授業の方法

講義が中心ではあるが、時には双方向のコミュニケーションを採り入れて、各自の考えを交流しながら進める。

### 準備学修

各自の幼児期・学童期を振り返り、良かった支援や今でも疑問に思えることを整理しておくこと。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

学内規定に準ずる

### テキスト

必要な場合、授業時に指示する。

### 参考図書

授業中に紹介する

### 留意事項

マスコミでとり上げられる子どもに関する記事に興味・関心を持っておく。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子育て支援と地域社会			17501	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石島 多恵	選択	2	公立保育所保育士			

### 授業の到達目標

子育て支援とは何か。子育て支援に対する保育者の役割がこれまでになく明確化される中で、幼稚園や保育所はどのような子育て支援ができるのか、保育所や地域社会での子育て支援に積極的に取り組んでいける実践力のある教諭、保育士を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）を考え、I（知性）を養います。

### 授業の概要

子育てを社会全体で支える「子ども・子育て支援新制度」がスタートし、幼稚園・保育所・地域で子育て支援が盛んに行われている状況の中、子育て支援とは何かを考え、保育者を目ざしている学生が、地域社会で取り組まれている様々な子育て支援の実状を知り、なぜ子育て支援が必要なのか、親子が求めている支援とは何かを考え、親子が育ちあうような子育て支援のあり方を学習する。また、子育て支援の実践の場にも積極的に参加し体験する。

### 授業計画

1. 子育て支援とは何か。(DVD視聴「子育て支援とは」)
2. 子育て支援の意義(1)
3. 子育て支援の意義(2)
4. 地域子育て支援センターの役割
5. 子育て支援の基本的姿勢と基本的技術
6. 地域子育て支援事業拠点における支援
7. 地域社会での子育て支援の取り組みへの見学と参加(1)
8. 地域社会での子育て支援の取り組みへの見学と参加(2)
9. 地域社会での子育て支援の取り組みへの見学と参加(3)
10. 幼稚園での子育て支援の取り組み
11. 保育所での子育て支援の取り組み 保育所の子育て支援の実際
12. 家庭の役割、親子が求めている支援とは
13. 子育ての変化と子育て支援の必要性
14. 園内、園外との連携と社会資源 まとめ
15. 振り返り 試験

### 授業の方法

講義と演習を中心とし、実際体験によって理解を深める。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。  
平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

### テキスト

必要資料については、随時プリントを配布する。

### 参考図書

子育ての変貌と次世代育成支援 原田正文著  
世界に学ぼう！子育て支援 汐見稔幸著  
地域で子育て 渡辺頭一郎編著  
あそびうた大全集 永岡書店

### 留意事項

実際の支援の様子を見学・参加するフィールドワークを多く取り入れ、子育て支援の理解を深める。フィールドワークが多いので、授業計画についてはかなり変更がある為、日程については教務課の前に掲示するので、常に見ておく。受講者は子育て支援に関心のある者。また、子育て支援事業への参加については土曜日の実施もある。

### 教員連絡先

ishihata@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
ボランティア論			17505	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
西橋 隆三	選択	2	市職員(福祉職・障がい児療育センターの運営)、社会福祉士			

### 授業の到達目標

わが国のボランティア活動は、幅広い分野において多様な形態で展開されている。授業では、ボランティアの理念・原則・各分野の基本を学習しながら、「興味」「関心のあるテーマ」などから主体的に体験活動に参加することを目標とする。また体験活動を振り返ることを通じて、福祉の対象者への関心を高め、将来の社会参加や社会貢献に繋げることを目指す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK(思いやり)A(自律)S(奉仕)を養う。

### 授業の概要

授業では、講義、討議、実践、プレゼンテーションを織り込みながら、参加のモチベーションを主体的に高めることを促す。「自分にとってのボランティアは何か」「どんな活動ができるか」「ボランティアのあり方は」など、グループを基本にして全員で考える。次に、基本理念、歴史、組織や活動の実際について事前学習を行い、体験活動に参加する。体験活動後の討議、交流、プレゼンテーションなど事後学習を通じて、それぞれにとってのボランティアの意義や、参加意識を深めていく。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. ボランティアとは(グループ討議)
3. グループ発表とキーワードを見つける
4. ボランティアの基本理念と歴史
5. 地域でのボランティア活動の実際
6. 社会福祉施設等でのボランティア活動の実際
7. 災害とボランティア(阪神淡路大震災と東日本大震災など)
8. 国際社会とボランティア(子どもの貧困を中心に)
9. 体験活動のための知識と準備
10. ボランティア活動の体験(1)
11. ボランティア活動の体験(2)
12. 体験活動の記録化と振り返り
13. グループ討議と発表
14. プレゼンテーション(体験活動の成果)
15. まとめとしての講義の後、ボランティア体験活動のレポート提出を求める

### 授業の方法

講義に加えて、グループ討議とプレゼンテーションを取り入れていく。ボランティア活動を体験することが重要であり事前学習や事後学習を通じて準備していく。

### 準備学修

Webで確認すること。

### 課題・評価方法

3日間のボランティア活動記録とボランティア体験活動のレポート及びプレゼンテーションによる。

### 欠席について

グループ討議や作業もあり原則は認めない。1回の欠席につき3点、遅刻は2点の減点とし、5回以上の欠席は不合格とする。

### テキスト

特に指定はしない。必要な資料を配布する。

### 参考図書

必要な参考図書については授業の中で提示する。

### 留意事項

3日間の体験活動への参加をはじめ、集団学習に取り組むことが必要である。体験の実践にあたり個別相談や個別指導を第9回～第11回の講義内で行う。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
図画工作	①/②		17509	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

### 授業の到達目標

改訂の趣旨を踏まえ、図画工作科の目標と内容を演習・実習を通して理解する。また、造形表現の発達の過程や特徴について知る。そして、自己表現の喜びや達成感を得られ、豊かな情操をはぐくむ指導の在り方を理解することを旨とする。表現意欲や鑑賞活動を重視することで、個々の表現の多面的理解に努める。実習を通して児童の思いを推測し、適切な評価ができる力を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)とIn(国際性)を養う。

### 授業の概要

子どもの発達に即した表現方法や、材料・用具の基本的な扱い方について、講義と実習を行う。また、鑑賞の機会を重視し、各自の表現のよさや工夫等を見出すため評価シートやポートフォリオを作成する。情報機器を活用して発表の機会をもつ。そして、感性を高め合い、実践力を養うようにする。作品の一部は地域の子育て支援活動にいかす。

### 授業計画

1. 図画工作科の改訂のポイントと資質能力
2. 図画工作科の内容と幼稚園からの接続、中学校への接続
3. 造形的な視点 色と形の出会い
4. 造形遊びをする活動 並べたり積んだりして
5. 絵に表す活動 パスを使って
6. 絵に表す活動 筆やペンを使って
7. 立体に表す活動 土粘土を使って
8. 立体に表す活動 教材用粘土を使って
9. 工作に表す活動 伝統文化と関連して
10. 工作に表す活動 様々な用具を扱いながら
11. 身近な材料を使った表現 リサイクルの視点で
12. 生活に役立つものを作る 防災の視点で
13. 生活を楽しく豊かにする鑑賞の活動
14. 情報機器を活用した活動
15. 外部資源の活用と連携 まとめを行ってから試験をする

### 授業の方法

講義と実習・演習を主とする。制作した作品をもとに鑑賞活動を深め、学び合いの機会をもつ。

### 準備学修

Webを参照すること。

### 課題・評価方法

①実習課題の構想シート、制作物、ポートフォリオの提出を求める。講義においてフィードバックを行う。  
②平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とする。

### テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』

### 参考図書

文部科学省『幼稚園教育要領解説』

### 留意事項

実習・演習は、学習課題により個人もしくは小グループで行う。

### 教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等英語			17511	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
高田 悦子	選択	2				

### 授業の到達目標

小学校外国語活動・外国語科の学習指導の知識、第2言語習得の基礎的な知識、授業に必要な英語コミュニケーション能力、教材や評価の基礎知識を、小・中・高等学校の連携も視野に入れて身に付ける。  
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

学習指導要領における「3つの資質・能力」を踏まえた「5つの領域」及び各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法、小学校の外国語教育に必要な基礎的な知識を、以下の「授業計画」の具体的な項目に従って身に付ける。毎回「10分間 Classroom English」を行う。

### 授業計画

1. 小学校英語教育の目的(1) 小学校学習指導要領の理解
2. 小学校英語教育の目的(2) 世界の言語政策事情
3. 小学校英語教育の目的(3) 異文化理解
4. 小学校英語教育の目的(4) 児童文学
5. 第2言語習得研究(1) 年齢と言語習得
6. 第2言語習得研究(2) 学習と環境
7. 第2言語習得研究(3) 学習者要因、指導者要因
8. 第2言語習得研究(4) 児童期の第2言語習得における語彙習得
9. 第2言語習得研究(5) 児童期の第2言語習得における文法習得
10. 第2言語習得研究(6) 児童期の第2言語習得における音声習得
11. 技能の育成(1) リスニング
12. 技能の育成(2) スピーキング
13. 技能の育成(3) リーディング
14. 技能の育成(4) ライティング
15. まとめ、小学校英語指導に求められる資質と能力

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点30%、プレゼンテーション30%、定期試験40%

### テキスト

英語科教育のフロンティア―充実した実践を目指して―（青木昭六 編著、保育出版社）  
小学校英語の教育法 理論と実践（アレン玉井光江、大修館書店）

### 参考図書

小学校学習指導要領解説 外国語編〔最新版〕（文部科学省）  
その他、必要に応じて、随時紹介する。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育	①/②		17513	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木岡 正雄	選択	2	公立小学校教員			

### 授業の到達目標

小学校学習指導要領、及び幼稚園要領に基づき、教材の実技を体験する。教材の概略を知って、運動学習の工夫を学ぶ。グループワークを通してKAISEIパーソナリティK（思いやり）とA（知性）、S（奉仕）の育成を目指す。

### 授業の概要

小学校体育の教材内容を実技を通して、運動の楽しさを感じ取る。またグループ活動を通じて、他への思いやりや仲間とのつながりの大切さを学ぶ予定である。

### 授業計画

1. オリエンテーション。自己紹介。運動学習について概略を講義する。
2. 体づくり運動 体ほぐしの運動の実技をする。
3. 体づくり運動 体力を高める運動の実技をする。
4. 陸上運動系 かけっこの実技をする。
5. 陸上運動系 障害走の実技をする。
6. 陸上運動系 リレーの実技をする。
7. 器械運動系 マット運動の実技をする。
8. 器械運動系 跳び箱の実技をする。
9. 器械運動系 鉄棒の実技をする。
10. ゲーム 鬼遊びのゲームをする。
11. ボール運動 ベースボール型のゲームをする。
12. ボール運動 ネット型のゲームをする。
13. ボール運動 ゴール型のゲームをする
14. ボール運動 ゴール型のゲームをする。
15. 学習のまとめ。体育学習の工夫等について講義する。

### 授業の方法

体育の実技を行う。グループ活動を主として、自ら運動の工夫を話し合い、ともに楽しく運動する予定である。

### 準備学修

文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育篇」を読み、体育指導について、事前学習及び、復習等を60時間行

う。

### 課題・評価方法

平常点30点、毎時の小テスト（学習カード等）70点

### 欠席について

欠席はなるべくしない。実技なので参加することに意義がある。

### 参考図書

文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育篇  
平成23年版神戸市小学校学習指導のてびき

### 留意事項

登校できるなら欠席をしない。見学も学習であることを学ぶ予定である。

### 教員連絡先

〒651-2277 神戸市西区美賀多台4-7-20  
自宅電話&Fax 078-962

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理	教職小	17521	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務		

### 授業の到達目標

1. 教育の理念と目的について理解する。
  2. 教育に関する歴史及び思想について理解する。
  3. 日本と諸外国の学校制度について理解する。
  4. 現代社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではK A I S E I パーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

教育学上の重要な理念について理解した上で、教育思想及び学校制度の歴史の変遷について理解を深める。このことを踏まえ現在の社会における教育課題や学校教育の在り方について考察する。

### 授業計画

1. 講義の進め方と講義概要について説明する。
2. 人とは？教育とは？
3. 学校の歴史 その1 諸外国の教育の思想と歴史
4. 学校の歴史 その2 日本における学校制度の成立と展開
5. 教育に関する法規
6. 現行法における日本の学校教育の目的
7. 教育課程と教育内容
8. 学習指導要領の変遷
9. 教師の仕事と専門性
10. よい授業とは
11. 現代社会と教育問題—いじめ・不登校問題など
12. 教育改革の新しい動きと方向について
13. 日本と諸外国の教育制度
14. 生涯学習の意義と生涯学習の機会
15. まとめとテスト

### 授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

### 準備学修

本講義は、「教育とは何か」「学校制度」などを歴史的な視点や諸外国との比較で研究し考察する。教育に関する思想家や法規など耳慣れない事項がでてくるため、関連する事柄について予習と復習

を必ず行うこと。Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

学内の規定に準ずる。

### テキスト

- ・「問いからはじめる教育学」 勝野 正章・庄井 良信著 出版社：有斐閣
- ・取得を希望する校種の学習指導要領総則解説（幼稚園教育要領解説）  
その他 必要に応じて資料を配付

### 参考図書

- ・「はじめての子どもの教育原理」 福元真由美著 出版社：有斐閣
- ・「やさしい教育原理」 田嶋 一他著 出版社：有斐閣
- ・「教育の原理を学ぶ」 遠藤 克弥・山崎 真之著 出版社：川島書店

### 留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、自ら問題意識を持って主体的に研究し学ぶこと。

関連科目〈こども関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子ども家庭福祉		17523	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
久松 睦典	選択	2	公立中学校スクールカウンセラー		

### 授業の到達目標

現代を生きる子ども達の状況は、厳しい社会状況を反映し、大きく変化しつつある。社会の歪から子どもの発達を守り、健やかな成長を促すためには、社会、学校、家庭の三者教育のバランスのとれた教育と、それを積極的にバックアップする行政の取り組みの必要性が求められている。そうした状況下では、子育て支援や健全育成のためのより高度な専門的な知識を要求する「児童家庭福祉」の指導者としての資質が一層問われることになる。KAISEIパーソナリティのK（思いやり）をベースにしてコミュニケーション能力を養う。

### 授業の概要

最近の児童を取り巻く社会環境も変容し、価値観も大幅に多様化するとともに、様々な問題群も続出してきた。児童が社会構成の一員として、大人社会にあっても常に暖かく迎えられるよう児童家庭の問題と児童福祉に対する正しい概念を身につけなければならない。どのようにして地域社会の保障と支援が行えるか、児童福祉の今日的課題を考察し、その実態とその基本的な知識の習得、目的と方策を学ぶ。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 子ども家庭福祉とは
3. 子ども家庭福祉のあゆみ
4. 子どもと家庭の支援活動指針としての子どもの権利条約
5. 子どもと家庭を支援する法律の体系
6. 子どもと家庭を支援する制度の体系
7. 子どもと家庭を支援する施設の体系
8. 子どもと家庭を支援する専門職
9. 子どもと家庭を支援する活動方法
10. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—虐待について
11. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—親子関係
12. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—非行
13. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—保育
14. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—一人親家庭
15. 子どもと家庭に関する問題と社会福祉の対応—貧困

### 授業の方法

講義のテーマや単元に応じて作業課題を実施する。テーマについて、グループ討議し、発表する。またミニテストも実施する。

### 準備学修

できるだけ日常の新聞報道などで児童福祉に関する記事に目を通す。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

一回の欠席で3点、遅刻で2点減点し、欠席が5回以上で不合格とする。

### テキスト

吉田眞理編『児童の福祉を支える子ども家庭福祉』 萌文書林

### 参考図書

適時紹介する。

### オフィスアワー

講義の前夜

関連科目〈こども関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
情緒・学習障害の心理			17537	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

### 授業の到達目標

社会の縮図と言われる学校・園で、子どもたちが生きづらさを感じる様々な要因について指導者の理解を深める。絡み合った要因を学校・園、家庭、関係諸機関とどのように連携してきたか、また、さらに将来的な支援のベクトルについて自分の考えを持つ。このクラスはKAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の観点から、インクルーシブ教育を理解し、実践する意欲を養う。

### 授業の概要

情緒・自閉症特別支援学級の教育課程上の課題を知り、試みられてきた問題解決策を検証する。学校・園に在籍する発達に課題がある子どもへの対応は、決してセオリー通りにはいかない。事例をできるだけ多く採り入れて、対応の共通点を見出して理解することが基礎・基本である。それらをベースにして支援の方法、留意点を解説する。

### 授業計画

1. 発達に課題がある子の「困り感」への気づき
2. 保育士・教師としてできる個別配慮
3. 介助者が加わったときの役割
4. 室内トラブルへの対応その1解決のポイント
5. 室内トラブルへの対応その2たち歩きやエスケープ
6. 室内トラブルへの対応その3人間関係のトラブル
7. 室内トラブルへの対応その4パニックを起こしたときの対処
8. 保護者とともに子どもを育てるその1保護者面談の進め方
9. 保護者とともに子どもを育てるその2親から学ぶ支援のあり方
10. 周りの子どもやその保護者への対応その1周辺の子ども
11. 周りの子どもやその保護者への対応その2保護者に対して
12. チーム支援その1確かな情報を共有する
13. チーム支援その2実態の把握方法
14. チーム支援その3組織的支援の進め方
15. 学校・園に合ったチェックリストを作成

### 授業の方法

講義が中心となるがペアトーク、グループトークを採り入れて各自の考えが発信できるよう工夫する。

### 準備学修

マスコミ等でとり上げられる子どもに関する記事について、複数の視点で考える習慣を期待する。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

学内規定に準ずる

### テキスト

杉山 登志郎 『子どもの発達障害と情緒障害』（健康ライブラリーイラスト版）

### 参考図書

必要に応じて紹介する。

### 留意事項

ユニバーサルデザイン、インクルーシブシステム等特別支援教育に係るマスコミ報道に興味・関心を持つ。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育原理			17607	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 民間保育士			

### 授業の到達目標

1. 保育の意義について理解する。
2. 保育所保育指針について基本的知識を得る。
3. 保育内容と方法についての基本的知識を得る。
4. 保育の制度・思想についての基本的知識を得る。
5. 保育の現状と未来について、自分なりに考えをまとめ、発言できる。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

1. 保育・幼児教育に携わる者に求められる基本的知識を得ていながら、保育・幼児教育の根幹をなす原理を理解する。
2. 現代における保育・幼児教育の社会的役割を理解する。
3. 現代における子育て支援について理解を深める。

### 授業計画

1. 保育原理を学ぶ意義について
2. 保育の方向性と保育実践の基礎になる発達観
3. 保育に関する諸法令からみる保育の原理
4. 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理(1)
5. 保育所保育指針と幼稚園教育要領にみる保育の原理(2)
6. 養護と教育の一体化について
7. 保育実践の基本的構造について
8. 多様な保育内容とその方法
9. 子育て支援について
10. 西洋と日本の保育の創成期
11. 西洋の保育実践の発展過程
12. 日本の保育実践の発展過程
13. 児童中心主義の保育を探る
14. 保育者の在り方を考える
15. これからの保育にむけて  
まとめを行ってから試験を行う。

### 授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。毎回、前週の講義の振り返りを行い、確認テストを適宜行うことで知識の定着を図る。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点30%確認小テスト20%定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点減点とする。5回を超える欠席は不合格とする。

### テキスト

佐伯一弥・金瑛珠「Workで学ぶ保育原理」株式会社わかば社

### 参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説書」  
内閣府・文部科学省・構成労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (小)			17613	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
堀 正人	選択	2	神戸市教育委員会指導主事 中学校長			

### 授業の到達目標

教職の意義、教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題を学ぶ。教員の資質能力と職務内容について身に付けることを目標にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

### 授業の概要

学校教育や教職の在り方について理解し、教員の資質や能力の向上、研修方法について学ぶ。さらに、学校制度の歴史的な変遷や諸外国の制度との比較から、現在の公教育の意図を考察する。

### 授業計画

1. 授業内容のガイダンス、教職の社会的な意義
2. 教員の服務と義務
3. 学校制度の変遷と教員養成
4. 公教育の目的と教員の役割
5. 学校の組織と運営における教員の役割
6. 教員の研修の意義と制度
7. 教員に求められる資質能力
8. 教科と教科外の指導
9. 教師力と教員の評価
10. 学校種間の連携、部活動指導での教員の役割について
11. 地域社会との連携における教員の役割
12. 教員の人権感覚
13. チーム学校の在り方と危機管理
14. 教職とボランティア活動の関係
15. 職業としての教職の在り方

### 授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。また考察シートやレポートにより自己の考えを深めたり、知識の定着を図ったりする。

### 準備学修

指示された資料を事前に読んで理解したり、教育関連の情報を積極的に収集したりすること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

やむを得ず欠席する場合は事前事後に届け出ること

### テキスト

なし

### 参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

### 教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職概論 (幼保)			17613	I	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
森 晴美	選択	2	公立幼稚園教員、私立保育所保育士			

### 授業の到達目標

教職の意義や教員の役割を理解する。学校教育や教員をめぐる今日的な課題と対応の事例などから学校教育に期待される役割や、今後の教員に求められる資質・能力について学び自らの適性を見出す。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

### 授業の概要

社会の急激な変化に伴い様々な課題に直面している学校教育の現状について詳述し、調査、発表の機会をもつ。チームとして諸課題に対応する学校の在り方や教員の職務内容、服務上や身分上の義務について理解し、自ら目指す教師像を明確にもつようにする。

### 授業計画

1. 「教職概論」科目の特性と概要
2. 教職の意義
3. 幼稚園教育と小学校教育
4. 教員の歴史、女性と教職
5. 学校の組織と運営
6. 教員の職務内容
7. 教員に課せられる服務上・身分上の義務と身分保障
8. 学び続ける教員へ(教員のライフステージと研修制度)
9. 国際化・情報化と教員の役割
10. 学校における社会体験とキャリア教育
11. 様々な問題行動とカウンセリングマインド
12. 特別な支援を要する幼児・児童への対応
13. 学校(園)・地域・家庭の連携と役割
14. チーム学校の意義と実際について
15. 今後の教員に求められる資質・能力(専門職としての教員)まとめを行ってから試験をする

### 授業の方法

講義を主とするが、ディスカッションと発表を取り入れる。またリフレクションシートや自修シート他の作成により自己の考えを深め、知識の定着を図る。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①リフレクションシートや課題レポートの提出を2回求め、講義中にフィードバックを行う。
- ②平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点の減点とする。

### テキスト

古橋和夫(編)『新訂 教職入門 未来の教師に向けて』2018年(株)萌文書林

### 参考図書

秋田喜代美、佐藤学編著 『新しい時代の教職入門』改訂版 有斐閣アルマ 文部科学省『小学校学習指導要領』『幼稚園教育要領』内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

### 留意事項

保育士資格と幼稚園教員免許の併有による「保育教諭」としての要請も高まりつつある。教員を目指す学生としての意識を高くもって授業に臨んでもらいたい。

### 教員連絡先

mori@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育学原理			17617	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
須河内 優子	選択	2	幼稚園教諭			

### 授業の到達目標

幼児教育の意義や目的、歴史、さらに今日の幼児教育の課題について学び、幼児教育の原理について理解する。また、幼児教育における「環境」「あそび」や、幼稚園教育要領についての理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を目指す。

### 授業の概要

幼児教育の意義や目的、歴史を学び、そのことを踏まえた上で、幼稚園教育要領を、具体的な園での子どもの姿と照らし合わせながら学んでいく。また、幼児教育におけるさまざまな問題について、ディスカッションや発表を通して、関心を深めていく。

### 授業計画

1. オリエンテーション 幼児教育の意義
2. 幼児教育を取り巻く環境
3. 幼児教育の歴史
4. 幼稚園教育要領の歴史
5. 幼児教育の課題
6. 教育観と子ども観の変遷 ①
7. 教育観と子ども観の変遷 ②
8. 幼児教育に影響を与えた人物 ①日本
9. 幼児教育に影響を与えた人物 ②諸外国
10. 幼稚園教育要領 ①幼稚園教育の基本
11. 幼稚園教育要領 ②幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」
12. 幼児教育における「環境」
13. 幼児教育における「あそび」 ①子どもにとっての「あそび」
14. 幼児教育における「あそび」 ②保育者の「あそび」へのかかわり
15. まとめ

### 授業の方法

参考資料を配布し、それに沿って講義する。また、DVD視聴やディスカッション、発表も取り入れる。

### 準備学修

「Webで参照すること。」

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席1回につき2点減点。

### テキスト

幼稚園教育要領

### 参考図書

必要に応じて適宜紹介する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育課程論			17623	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	2	公立幼稚園教員			

### 授業の到達目標

教育課程を編成する重要性の理解と指導計画作成の具体的な方法の習得をめざす。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)を養う。

### 授業の概要

幼児が日々充実した園生活を送り、健やかに成長していくためには、しっかりとした教育課程・全体的な計画編成のもと指導計画が作成され、それに基づいた環境構成や援助による教育実践が必要であることを理解する。それとともに、教育現場での実践事例や情報機器の有効な活用等を通して、幼児の主体性と指導者の教育的意図のバランスを理解するとともに、指導計画の作成とその評価と改善の方法についての習得をめざす。

### 授業計画

1. 幼児期の教育・保育の基本
2. 幼児期の特性と幼稚園教育の役割重要性
3. 教育課程(全体的な計画)編成の意義と目的
4. 教育課程(全体的な計画)の編成から指導計画の作成と実践。
5. 指導計画(長期・短期)作成の際の留意事項
6. 園生活や遊びを通した幼児期の発達と学びの過程 3歳児の生活 ①
7. 園生活や遊びを通した幼児期の発達と学びの過程 4歳児の生活 ②
8. 園生活や遊びを通した幼児期の発達と学びの過程 5歳児の生活 ③
9. ねらい及び内容・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿の考え方と指導計画の関係
10. 月の指導計画(月案)作成の実際 ① 長期的な視野で教育内容をとらえ月案を作成する
11. 月の指導計画(月案)作成の実際 ② グループ単位で作成した月案を発表し合う
12. 週の指導計画(週案)作成の実際 ① 領域を総合的にとらえ豊かな体験がえられる週案を作成する
13. 週の指導計画(週案)作成の実際 ② グループ単位で作成した週案を発表し合う
14. 日の指導計画(日案)作成の実際 ① 幼児期にふさわしい生活の展開を考慮した日案を作成する
15. 教育課程及び指導計画の実践から評価と改善の重要性とカリ

キュラムマネジメントの意義について理解する

定期試験

### 授業の方法

資料を配付し、それに沿って授業を進める。DVD視聴や指導計画の作成をもとにして、グループで話し合い意見発表をして、互いに学びあえるようにする。

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

①ワークシートとレポートについては、授業内で評価・助言をする。

②ワークシート等の提出30% 授業に臨む姿勢20% 定期試験50%

### 欠席について

1回の欠席につき、3点の減点とする。

### テキスト

「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)

### 参考図書

幼稚園教育指導資料集 第1集「指導計画の作成と保育の展開」(フレーベル館) 第3集「幼児理解と評価」(ぎょうせい)「保育とカリキュラム」(ひかりのくに)

### 留意事項

図書館にある「保育とカリキュラム」や各領域の指導書を読んだり、様々な絵本や歌曲に親しんだりして、保育の視野を広げること。

### 教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・人間関係			17629	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 民間保育士			

### 授業の到達目標

乳幼児期における子どもの人間関係づくりの基礎を学ぶ。幼稚園教育要領と保育所保育指針に基づき、戦後から現代までの保育に係る「人間関係」の変化とその捉え方を理解する。さらに、今回の改訂で重視されている地域子育て支援センターの役割や保育者の使命について理解を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を目指す。

### 授業の概要

乳幼児期は心身ともに触れ合う社会的、情動的コミュニケーションが重要な時期である。生まれた直後から養育者に抱かれ、体の温もりを感じながら、コミュニケーションし、人間関係の最所の発達課題である愛着や信頼を獲得していく。発達するにつれて、生活空間を広げ、幼稚園等施設に入園し、保育者や仲間と出会い、関わりを通して、自立心や他者への愛情や信頼、生活習慣や態度を身に付けていく。このように人格の基礎を培う乳幼児期に関わる保育者及び教師の役割と責任は大きい。子どもたちが友だちと楽しく活動する中で共通の目的を見出して自然な形で協力することの良さを理解できるように役立つ技法、遊び、観察法等を学ぶ。

### 授業計画

1. 幼児教育の目的と領域・領域「人間関係」
2. 幼児教育の基本と保育者のさまざまな役割
3. 乳幼児期の発達と領域「人間関係」
  - ①親や保育者との出会いと関わり
4. 乳幼児期の発達と領域「人間関係」
  - ②友だちとの出会いと関わり
5. 子どもと保育者の関わり
  - ①子どもとの信頼関係
6. 子どもと保育者の関わり
  - ②子ども同士の関係をつなぐ
7. 遊びのなかのひととの関わり
  - ①遊びと子どもの育ち
  - 課題レポートを提出
8. 遊びのなかのひととの関わり
  - ②遊びのなかの友だちとの関わり
9. 生活を通して育つひととの関わり
  - ①親や家族との関わり

10. 生活を通して育つひととの関わり
  - ②園生活とひととの関わり
11. 個と集団の育ち
  - ①一人一人の理解と個と集団の関係
12. 個と集団の育ち
  - ②クラス集団の育ちと個の育ち
13. ひととの関わりを見る視点
  - 自己の発達とひととの関わり
14. 現代の保育の課題と領域「人間関係」
15. 子ども同士の人間関係の形成を効果的に援助し促進するための知識を習得する。
  - まとめを行ってから試験をする。

### 授業の方法

講義とグループディスカッションを中心とする。グループディスカッション後は担当教員がフィードバックを行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②グループディスカッション後は、担当教員によるフィードバックを行う。

平常点30%、課題レポート20%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点の減点とし、5回を超える欠席で不合格とする。

### テキスト

岩立京子（編者代表）、無藤隆（監修）「新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 人間関係」萌文書林

### 参考図書

文部科学省「幼稚園教育要領解説」、厚生労働省「保育所保育指針解説」  
内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護 I			17639	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	2	重症心身障害児施設職員			

### 授業の到達目標

社会的養護の理念、歴史、制度と実施体系等について理解する。社会的養護の背景にある社会や家庭における児童問題を学ぶとともに、社会的養護における児童の人権擁護と支援の実践について理解を深めることを目標とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

### 授業の概要

児童養護とは何か、なぜ児童問題が起きるのか、社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割等について学ぶとともに、子どもたちを積極的に護るための実践を裏づける原理原則について学習する。特に、社会的に子どもを保護する施設では、子どもの人権擁護を基本として、子どもと家族の育成に積極的にかかわっていくための知見や技術が必要となっている。このため、(1)社会的養護が必要となる養護問題の現状や背景、(2)社会的養護の体系や児童福祉施設などの役割、(3)児童福祉施設などにおける養護の実際を理解し、児童観や施設養護観を養うことを目標とする。

### 授業計画

1. 子どもの社会的養護
2. 日本における社会的養護のしくみ
3. 社会的養護に携わる専門職
4. 家庭支援の理論と実践
5. 児童虐待の現状と対応
6. 家庭的養護の理念と里親制度
7. 乳幼児の生命と健やかな育ちの保障
8. 児童養護施設の歴史と自立支援
9. 非行のある子どもの自立支援
10. 情緒障がいのある子どもの社会的養護
11. 知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護
12. 児童養護施設における子どもの権利擁護
13. 当事者から見た日本の社会的養護
14. 児童福祉施設職員に求められるもの
15. まとめ、質問タイム

### 授業の方法

講義を主とするが、必要に応じてVTR、DVD等で児童養護の現状に

ついて理解を深める。また、双方向の授業であるから積極的に参加をすること。

### 準備学修

日ごろから、現代の子どもを取り巻く環境に対して関心を深めておくこと。

### 課題・評価方法

その他

### 欠席について

公欠以外の欠席は認めない。

### テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

### 留意事項

児童福祉分野に関心がある、また、就職を希望する人はぜひ履修をすること。また、「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関連しているので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健 I A			17642	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
外村 晴美	選択	2				

### 授業の到達目標

保育現場では疾病や障害を抱えた多様な子どもも入所しており、子どもの保健・安全の領域が重視されている。心身の健やかな成長を見守り援助していくために、子どもの特性を把握し、発育・発達についての知識を習得することが大切である。さらに、子どもを取り巻く家庭や社会環境などにも目を向け総合的に判断し、対応できる力量を形成する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)を考える。

### 授業の概要

命の誕生から身体の発育・生理機能・運動機能・精神機能についての知識を習得し、子どもの心身の健康増進を図るための保健活動の意義や、子どもの身体発育や生理機能及び運動機能並びに精神機能の発達と保健について学ぶ。また、子どもの疾病の特徴を知り、その予防とその対応について学ぶ。さらに子どもの心の健康とその課題について家庭・専門機関・地域との連携についても学ぶ。

### 授業計画

- 1.子どもの健康と保育の意義①生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
- 2.こどもの健康と保育の意義②子どもの健康概念と健康指標
- 3.こどもの健康と保育の意義③地域における保健活動と児童虐待
- 4.子どもの発育・発達①生物としてのヒトの成り立ち
- 5.子どもの発育・発達②身体発育
- 6.子どもの発育・発達③生理機能の発達
- 7.子どもの発育・発達④生理機能の発達
- 8.子どもの発育・発達⑤運動機能の発達
- 9.子どもの発育・発達⑥運動機能の発達
- 10.子どもの発育・発達⑦精神機能の発達
- 11.子どもの発育・発達⑧精神機能の発達
- 12.子どもの精神保健①子どもの生活環境と精神保健
- 13.子どもの精神保健②子どもの心の健康とその課題
- 14.環境および衛生管理並びに安全管理①保育環境整備と保健
- 15.環境および衛生管理並びに安全管理②保育現場における衛生管理  
まとめ  
終講試験

### 授業の方法

主に講義形式で進める。ディスカッションやグループワークや発表も取り入れる。視聴覚教材等も使用する。

### 準備学修

日頃から子どもの発育・発達に関心をもつ。感染症の発症や流行に関する情報を身近なこととして捉える。事前に必ずテキストは熟読しておくこと。また、事前課題を提示するため、当日までに完成させておくこと。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%  
レポート等の提出期限を守らない場合は減点対象とする。また、講義中の居眠り、雑談、不必要なスマホ操作なども減点対象とする。

### 欠席について

欠席は減点対象とする。1回欠席につき2点減点とする。

### テキスト

子どもの保健 I 佐藤益子編著ななみ書房

### 参考図書

国民衛生の動向(財)厚生統計編

### 留意事項

レポートの提出について未提出の場合は加点0点。  
グループワークや発表への取り組み姿勢も評価対象とする。  
欠席は1回につき2点減点とする。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健			17643	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
狐塚 善樹	選択	2	小児科医(日本小児科学会小児科専門医)			

### 授業の到達目標

小児科医は「子どもの総合診療医」、「育児・健康支援者」、「子どもの代弁者」などとされており、子どもの疾病だけでなく、子どもの健全な発育を総合的に支援することが必要とされている。これらのことは小児科医に限られたことではなく、子どもに専門的に関わる者に置き換えても共通する部分が多い。子どもの特徴、成長発達、病気の経過、子どもを取り巻く環境の理解などを深める必要がある。そのため以下の項目を理解する。

- 1.子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
- 2.子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
- 3.子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
- 4.子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI(知性)を目指す。

### 授業の概要

子どもは大人のミニチュアではないと言われる。子どもを理解する上で総論的な観点から、共通認識としての用語の定義、生物としてのヒト及びその生理、現在の社会環境及び社会制度(統計、各種子育て支援など)、体・情緒のwell-being、それらへの関わり方や役割などを理解する。それらを基礎として各論に進む。子どもの発達は発育段階で異なりと共に、身体発育と生理機能発達、運動機能発達、心の発達が互いに関係し合っている。これらの発達は理論的に説明できることもあり、丸暗記ではない実際に役立つしっかりとした責任ある知識を身につける必要がある。このいわゆる正常発達知識に基づいて現在の子どもの健康状態を把握する。子どもの疾患の病態生理、特徴を理解して、その予防(予防接種、感染対策など)、対応(初期対応、事後対応など)を理解する。以上の知識に基づいて、ある時にある子どもをみて、今の状態がどうか、何が必要かを適切に対応でき、また保護者に説明できることを学ぶ。

### 授業計画

- 1.子どもの健康と保健の意義(1)生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
- 2.子どもの健康と保健の意義(2)健康の概念と健康指標
- 3.子どもの健康と保健の意義(3)現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
- 4.子どもの健康と保健の意義(4)地域における保健活動と児童虐待防止

- 5.子どもの身体発育と生理機能の発達(1)身体発育と保健
- 6.子どもの身体発育と生理機能の発達(2)生理機能の発達と保健
- 7.子どもの健康状態の把握(1)健康状態の観察
- 8.子どもの健康状態の把握(2)体調不良等の早期発見
- 9.子どもの健康状態の把握(3)発育・発達の把握と健康診断(I)
- 10.子どもの健康状態の把握(3)発育・発達の把握と健康診断(II)
- 11.子どもの健康状態の把握(4)保護者との情報共有
- 12.子どもの疾病の予防及び適切な対応(1)主な疾病の特徴(I)
- 13.子どもの疾病の予防及び適切な対応(1)主な疾病の特徴(II)
- 14.子どもの疾病の予防及び適切な対応(2)子どもの疾病の予防と適切な対応(I)
- 15.子どもの疾病の予防及び適切な対応(2)子どもの疾病の予防と適切な対応(II)

### 授業の方法

スライド講義を中心とする。配布資料、参考資料を用い、症例検討も行う。新聞、ネットなどの子どもに関する情報(感染、制度、社会問題など)は常にチェックしておく。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①課題  
講義内容のまとめ、提示課題、症例検討のレポートの提出(全3回以上)を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②評価方法について、  
平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

講義は前回の内容を理解している事を前提に進めて行くので、連続性が必要で、欠席は減点対象とする。但し、一般的に出席停止(インフルエンザなど)となるものは欠席としない。欠席は3点減点、遅刻は1点減点。

### テキスト

テキストは特定の本は指定しない。基本的には講義内容と配布資料とする。  
参考図書としては、子どもの保健 I 佐藤益子/中根淳子編著 ななみ書房、子どもの健康と安全 「最新 保育士養成講座」 総括編集委員会/編 全国社会福祉協議会

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健Ⅱ		17646	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
藪内 順子	選択	1	看護師、看護教員		

### 授業の到達目標

乳幼児期の基本的な生活への援助の仕方、保育現場で起こりうる子どもの疾病とその予防、救急時の対応や事故防止、安全管理に関する知識や技術を習得し実践力を身につける。保育における保健活動を理解し子どもの個別対応と集団全体の健康と安全・衛生管理について理解する。このクラスではK A I S E IパーソナリティーのK（思いやり）を考える。

### 授業の概要

子どもの安全で衛生的な生活を保障し、日々快適に過ごせるための健康・安全に係る保健活動の計画や実践について学ぶ。また、子どもの基本的な生活への関わりや援助の仕方、子どもの疾病とその予防および事故防止や応急処置、救急救命法など演習や実習をととして実践力を身につける。

### 授業計画

1. 保育における保健活動①保健計画の作成と活用
  2. 保育における保健活動②健康の取り組みの実際。成長・発達の観察と測定
  3. 子どもの保健と環境①子どもの健康増進と望ましい保育環境
  4. 子どもの保健と環境②子どもの生活習慣と心身の健康
  5. 子どもの保健と環境③子どもの発達援助と保健活動
  6. 子どもの疾病と適切な対応①感染症の予防と対策
  7. 子どもの疾病と適切な対応②個別的な配慮を必要とする子どもへの対応
  8. 事故防止および健康管理・安全管理①けがや急な病気への対応の基本と救急法
  9. 事故防止および健康管理・安全管理②子どもに起きやすい事故の応急処置
  10. 事故防止および健康管理・安全管理③子どもの救急蘇生法
  11. 事故防止および健康管理・安全管理④子どもの救急蘇生法
  12. 事故防止および健康管理・安全管理⑤保育における看護
  13. 事故防止および健康管理・安全管理⑥災害への備えと危機管理
  14. 心とからだの健康問題と地域保健活動①子どもの養育環境と心の健康問題
  15. 心とからだの健康問題と地域保健活動②心とからだの健康づくりと地域保健活動
- まとめ  
終講試験

### 授業の方法

講義および演習と実習。視聴覚教材、グループワークも取り入れる。グループでのポスター作製およびポスター発表も行う。

### 準備学修

日頃より衛生管理や安全管理を認識し、自己の健康管理にも注意を払う。

事前に必ずテキストは熟読しておくこと。また、事前課題を提示するため、当日までに完成させておくこと。

### 課題・評価方法

平常点40% 定期試験60%  
平常点は授業態度および出席状況、レポートの評価による。実習にふさわしくない服装や髪型、レポート等の提出期限を守らないの場合等は減点対象とする。  
また、講義中の居眠り、雑談、不必要なスマホ操作なども減点対象とする。

### 欠席について

原則として欠席は認めないが、感染症による出席停止および急病などの公欠となった場合は認める。欠席した場合、1回につき2点減点とする。

### テキスト

- ①子どもの保健Ⅱ 佐藤益子 編著 ななみ書房 必要時プリント配布
- ②子どもの保健Ⅱ演習 白野幸子 著

### 参考図書

授業時に適時紹介する。

### 留意事項

演習には身なりを整え、動きやすい服装で出席すること（スカート、踵の高い靴は不可。顔にかかる髪はゴムで束ねる。）  
予定として、AED講習を受講する。日程は後日連絡する。この講習は講義2回分とする。

### 教員連絡先

juno73@yahoo.co.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（身体表現）	①/②	17653	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
成木 智子	選択	1	公立保育所保育士 民間保育士		

### 授業の到達目標

乳幼児が心をはずませ、のびのびと身体を動かし、表現の喜びを十分に味わえるための指導法を理解する。また、様々な表現方法を学習し、感性を磨き創造的な発想で身体を動かす力を身につける。さらに、情報機器や身体表現を促す教材の活用、環境構成の在り方は、表現活動に関する取り組みなどを学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティーのA（自律）とK（思いやり）を養う。

### 授業の概要

身体表現は、心と体を解放し創造性を引き出す意義ある活動である。乳幼児の素朴な表現を受け止め、内容や活動を広めたり深めたりする指導法や発達の過程、豊かな感性などについて情報機器も活用して詳説する。これらの学習を踏まえ、指導案を作成し、教材を活用した保育展開や環境を構成する力を身につける。まとめとして物語を通してイメージをふくらませ、グループで表現活動として発表する機会を持つ。

### 授業計画

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の領域「表現」のねらいと内容の理解、身体表現の意義の理解、表現と表出について
2. 子どもの表現行動と精神発達（表出することを楽しむ、模倣性を経験する）
3. 子どものからだと表現（発達段階に即した動き、基本リズム、模範表現）
4. 身体の諸感覚を通し、身近な材料を用いた楽しい表現活動の発表と振り返り・課題レポート提出
5. 季節や行事、伝統芸能、伝承あそびなどの体験と表現活動
6. 創造性を豊かにする身体表現の体験
7. 子どもの想像力を養う表現活動と指導案の作成（情報機器や教材の活用を行う）
8. 物語を題材にした創作表現のグループ発表と振り返りとまとめ

### 授業の方法

講義と演習を中心とする。学修のまとめとしてグループで表現活動の発表を行い、学び合いの機会をもつ。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
  - ②グループ発表後は、担当教員によるフィードバックを行う。
- 平常点60% 課題レポート30% 指導案10%

### 欠席について

欠席1回につき5点減点、遅刻1回につき2点減点とし、2.5回を超える欠席で不合格とする。

### テキスト

- 池田裕恵・猪崎弥生編著 「保育内容「表現」－からだで感じる・表す・伝える－」改訂第2版  
株式会社杏林書院

### 参考図書

授業時に紹介する。

### 留意事項

第1講義より2号館体育室で行う。動きやすい服装、体育館シューズ着用で出席すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・表現（音楽表現）			17655	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	1				

### 授業の到達目標

子どもたちの表現する喜びや意欲を育てることができる指導者を目指し、発達や現代の環境等を踏まえて様々な表現活動が展開できるよう教材を研究し、演習する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

1. 領域「表現」の目標・内容を学び、活動内容や保育者としての配慮を理解する。
2. 音楽の基本となるリズムについて学習し、手拍子やリズム合奏および身体表現活動などの演習を通して、リズムの意義や活動方法を理解する。
3. 日々の活動に必要な歌唱教材を研究し、子どもの成長に合わせた活動内容や指導法を習得する。

### 授業計画

1. 領域「表現」について・子どもの成長と音楽的発達
2. リズム・リズム遊び
3. 器楽合奏
4. 器楽合奏
5. 子どもの歌について（わらべうたと童謡）
6. 子どもの歌の教材研究と指導法
7. 指導案作成と実践
8. 授業の振り返りとまとめ

### 授業の方法

講義と演習を中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ① 授業の課題ごとの発表や演奏に対し、フィールドバックを行う。
- ② 平常点70%、レポート30%

### 欠席について

授業毎の発表や演習が評価対象になるので、できるだけ欠席しないこと。

### テキスト

「あそびうた大全集200」細田淳子著 永岡書店発行

### 参考図書

授業時に指示する。

### 留意事項

爪は必ず切ること。動きやすい服装で受講すること。

### 教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育方法論	教職幼小		17657	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、 上級教育カウンセラー、教育委員会			

### 授業の到達目標

激変する社会に対応できる子どもたちの育成に必要な資質や能力を高めるために、教育技術について理解を深めるとともに情報機器や教材作りへの関心を高める。また、アクティブラーニングの意味を理解するとともに、参加体験・ディスカッションを通して使える技術を習得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）I（知性）の育成をめざす。

### 授業の概要

教育方法の概要、教育方法学の歴史、日本の授業と授業研究、教室の日常会話から学ぶこと、コンピューターと教育。などを軸として『学び』について深く考える。さらに、激変する社会に対応できる教育の方法や技術について学ぶとともにそれを生かした情報機器の活用能力を高める。今日の教育課題にも対応できるように、新学習指導要領からキーワードを解説する。

### 授業計画

1. 教育方法と授業について基礎的な理論を理解する。
2. 教育方法をより深く理解するために日本と諸外国とを比較して学ぶ。
3. 授業と教育方法の基本原則の一つとして系統学習と問題解決学習を理解する。
4. 個々の考え、意見を授業で分かち合い高めあう授業の創造。
5. 自分の考えと他者の意見を議論しながら、主体的・対話的な深い学びについて体験する。
6. 系統的な学び、単元を貫いた授業づくりのための教材選定、教室環境を理解する。
7. 育みたい資質・能力を育む教材研究と授業のありかたを理解する。
8. 聞き手によくわかる話し方（話法）について基礎的な技術を身につける。
9. めあてを共有できるような板書の工夫を考える力を育てる。
10. 学習指導案での子どもの実態を把握する技術を理解する。
11. 学習指導案での教材の持っている価値を見抜く技術を理解する。
12. 学習指導案での指導観の意義と書き方を理解する。
13. 学習指導案での展開部について、時間配分や軽重を考えながら書けるようにする。

14. 幼児の興味関心を高める情報機器、ソフトウェアを選定し活用することができる。
15. 子どもたちの実態や効果的な時期にあった情報機器を活用しその能力を高めかつ、情報モラルも理解する。  
講義後、試験を実施

### 授業の方法

講義、発表とワークショップ

### 準備学修

参考図書からレポートを指示することがある

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

学内の規定に準ずる

### テキスト

必要な場合授業時に指示する。

### 参考図書

必要に応じて指示する

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等国語科指導法			17661	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	2	公立小学校教員			

### 授業の到達目標

小学校「国語科」の教育目標、育成を目指す資質・能力を理解し、学習指導要領に示された学習内容について背景となる学問領域と関連させて理解を深めるとともに、様々な学習指導理論を踏まえて具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

### 授業の概要

国語科の目標と内容、授業方法、授業の構造、指導計画等、小学校における国語科学習指導法を把握するための講義を行う。また、教科の特性に応じた情報機器及び教材の効果的な活用法を理解し、授業の指導力を身に付ける。

### 授業計画

1. 受講の心構え・授業規律・授業内容についてのガイダンス、国語と国語科
2. 国語科教育の意義と役割
3. 国語科の目標と内容
4. 学習指導要領に基づいた学習指導計画
5. 国語科の指導法と評価
6. 話すこと・聞くことの指導
7. 書くことの指導
8. 説明的な文章の指導（情報機器及び教材の活用を含む）
9. 文学的な文章の指導（情報機器及び教材の活用を含む）
10. 音読・朗読の指導
11. 伝統的な言語文化の指導（情報機器及び教材の活用を含む）
12. 国語の特質に関する指導
13. 模擬授業（低学年）
14. 模擬授業（高学年）
15. これからの国語科教育の課題

### 授業の方法

発表やディスカッションを多く取り入れる。

### 準備学修

テキストの指定ページを読んだり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、批評とアドバイスを行う。
- ②評価方法は平常点30%、定期試験70%とする。

### 欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

### テキスト

吉田武男 監修『初等国語科教育』ミネルヴァ書房  
文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版

### 参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

### 留意事項

出席と授業態度（模擬授業の準備やレポート等を含む）を重視する。小学校国語科の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

### 教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等社会科指導法			17665	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 博	選択	2	1973年～2011年神戸市立小学校に38年間勤務			

### 授業の到達目標

小学校における社会科教育に必要な実践的指導力を身に付ける。  
（1）小学校学習指導要領（社会）の目指す理念や目標を理解することができる。（2）小学校学習指導要領（社会）の変遷と今求められている社会科の学力について理解することができる。（3）具体的な資料を用いた学習指導案を作成し、模擬授業を展開することができる。（4）社会の出来事について関心を持つことができる。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自立）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

小学校学習指導要領（社会）の変遷を概観し、現行の小学校学習指導要領（社会）に基づき、教育内容と指導法を考察する。教科の特性に応じた情報機器の有効な活用方法や教材研究の方法や学習指導法、評価方法の修得を目指す。グループワークとして、事例研究や模擬授業、教材研究の発表の場を設定する。さらに、学習者の視点に立った実践的な学びを展開することで、教師としての授業力、実践力を高める。

### 授業計画

1. 社会科とは何か、小学校社会科の成立と変遷
2. 小学校学習指導要領社会の構成
3. 小学校学習指導要領社会の内容
4. 社会科教育の今日的課題
5. 社会科の教材研究と授業の構想：資料の活用と教材化
6. 社会科の教材研究と授業の構想：授業の仕組みと展開
7. 社会科の教材研究と授業の構想：学習指導案の書き方と授業の見方、評価
8. 地域学習の教材研究と授業の構想：教材研究と学習指導案の作成（情報機器及び教材の活用を含む）（3、4年 身近な地域や市の様子、県の様子、生産や販売の仕事、安全を守る働き）
9. 地域学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（身近な地域や市の様子、地域に見られる生産や販売の仕事、地域の安全を守る働き）
10. 地域学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（市の様子の移り変わり、県の様子、県内の特色ある地域の様子）
11. 地域学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（人々の健康

- や生活環境を支える事業、自然災害から人々を守る活動、県内の伝統や文化、先人の働き）
12. 地理的、現代社会の仕組みや働き、歴史的学習の教材研究と授業の構想：教材研究と学習指導案の作成（5、6年 国土の様子と国民生活、政治の働き、歴史的な事象、自然環境と国民生活との関連、世界と日本の役割）
  13. 地理的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや人々の生活、歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（国土の様子と国民生活、国土の自然環境と国民生活との関連、農業や水産業における食料生産）
  14. 地理的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや人々の生活、歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（工業生産、情報と産業との関わり、国土の自然環境と国民生活との関連）
  15. 地理的環境と人々の生活、現代社会の仕組みや人々の生活、歴史と人々の生活学習の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価（政治の働き、グローバル化する世界と日本の役割、歴史上の主な事象）

### 授業の方法

講義にディスカッションと発表を多く取り入れる。

### 準備学修

「Webで参照すること。」

### 課題・評価方法

レポート提出（全3回）を求め、講義の中でフィードバックを行う。  
『平常点50%、定期試験50%』

### 欠席について

大学の規定通り

### テキスト

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編（文部科学省）

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等算数科指導法			17669	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校で38年教員をする。 (算数を専門的に研究し、神戸市算数研究会部長を務める)			

### 授業の到達目標

算数科の教育内容と目標、及び指導法を習得する。教材研究、模擬授業を通して、子どもの主体的・対話的で深い学びを進めるための授業づくりの工夫や留意点を理解する。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

### 授業の概要

算数科の目標、内容、系統性、各領域の特徴を学ぶ。子供のつまづきやすい教材を取り上げ、具体的な指導法を現場での実践成果と絡めながらプレゼン、討議する。学校現場での45分授業の構成、指導案の書き方を学び、模擬授業も行う。

### 授業計画

1. オリエンテーション ・ 算数科の目標(その趣旨及び要点)
2. 算数科の内容と構成(領域と概観)
3. 授業45分間の構成上の留意点
4. 第1学年の目標及び内容
5. 第2学年の目標及び内容
6. 第3学年の目標及び内容
7. 学習指導案の書き方(1) 指導案を学ぶ
8. 学習指導案(2) 指導案を書く
9. 第4学年の目標及び内容
10. 第5学年の目標及び内容
11. 第6学年の目標及び内容
12. 低学年 模擬授業とふりかえり
13. 中学年 模擬授業とふりかえり
14. 高学年 模擬授業とふりかえり
15. 算数科内容の取扱いまとめと考査

### 授業の方法

講義と指導法についてのディスカッション、さらに模擬授業、事後の討議などの活動を大切にしていく。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題 レポートの提出、学習指導案の提出、模擬授業を求め、講義の中でフィードバックを行う。

評価方法 平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき4点減点する。

### テキスト

「小学校学習指導要領解説 算数編」 文部科学省 (H29.6)

### 参考図書

必要に応じて随時紹介する。

### 留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等理科指導法			17673	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
山本 博	選択	2	1973年～2011年神戸市立小学校に38年間勤務			

### 授業の到達目標

小学校理科の教育目標と指導方法を修得する。また、自然科学の知識を習得し、指導計画の作成や学習指導のあり方について実践を通して学び、理科の授業作りの基礎を培うことを目的とする。

このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自立）の育成を目指す。

### 授業の概要

小学校学習指導要領（理科）の教科目標及び学年目標、指導のあり方を把握する。エネルギー、粒子、生命、地球を中心に具体的な内容を取り上げ、指導力、応用力を養う。さらに、情報機器及び教材の効果的な活用を理解した上で、指導案作成や模擬授業を通して、実践力を育成する。

### 授業計画

1. 理科とは何か、小学校学習指導要領 理科の変遷
2. 小学校学習指導要領 理科の構成
3. 小学校学習指導要領 理科の内容
4. 理科教育の今日的課題
5. 理科の教材研究と授業の構想：授業の仕組みと展開
6. 理科の教材研究と授業の構想：学習指導案の書き方と授業の見方
7. 理科の教材研究と授業の構想：評価規準の考え方と実際の評価
8. 教材研究と授業化に向けて：教材研究と学習指導案の作成(情報機器及び教材の活用を含む)(3、4年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容から)
9. 3、4年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価(風とゴムの力の働き、光と音の性質、電流の働き、身の回りの生物、人の体のつくりと運動)
10. 3、4年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価(磁石の性質、空気と水の性質、太陽と地面の様子、季節と生物)
11. 3、4年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価(物の重さ、金属、水、空気と温度、雨水の行方と地面の様子、天気の様子、月と星)
12. 教材研究と授業化に向けて：教材研究と学習指導案の作成(情報

機器及び教材の活用を含む)(5、6年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容から)

13. 5、6年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価(振り子の運動、てこの規則性、植物の発芽、成長、結実、動物の誕生、人の体のつくりと働き)
14. 5、6年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価(電流がつくる磁力、電気の利用、流れる水の働きと土地の変化、植物の養分と水の通り道、生物と環境)
15. 5、6年 エネルギー、粒子を柱とした内容、生命、地球を柱とした内容の教材研究と授業化：模擬授業と相互評価(物の溶け方、燃焼の仕組み、水溶液の性質、天気の変化、土地のつくりと変化、月と太陽)

### 授業の方法

講義にディスカッションと発表を多く取り入れる。

### 準備学修

「Webで参照すること。」

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め(全3回)、講義の中でフィードバックを行う。

『平常点50%、定期試験50%』

### 欠席について

大学の規定通り

### テキスト

小学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 理科編(文部科学省)

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等生活科指導法			17677	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
東内 則子	選択	2	公立小学校教員			

### 授業の到達目標

- ・生活科誕生の背景や経緯について理解する。
  - ・生活科の目標を知り、他教科と違う特質について理解する。
  - ・学習展開の基礎となる内容構成やそれぞれの内容の持つ役割について理解する。
  - ・内容の組み合わせによる有効な単元活動や指導計画を探る。
  - ・各内容を通して他教科や道徳との関連的な指導方法を理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

低学年の子どもにとって極めて重要な役割を果たす生活科。その、誕生の経緯や特質を理解するとともに学習を展開するうえでの基礎となる内容構成や指導計画の工夫について理解を深める。

### 授業計画

1. オリエンテーション 「私が学んだ生活科」レポート
2. 各自の生活科へのイメージの違いと学びの格差
3. 生活科誕生の背景・生活科とはどんな教科か
4. 生活科の目標（生活科の抱える課題と新指導要領のねらい）
5. 生活科の内容（内容構成と階層性）
6. 生活科の内容1 「学校と生活」
7. 内容2 「家庭と生活」内容3「地域と生活」
8. 内容4 「公共物や公共施設の利用」道徳との関連を考える
9. 内容5 「季節の変化と生活」・内容の関連付けの意義を知り年間計画を考える
10. 内容6 「自然や物を使った遊び」身近な物での物作り体験
11. 内容7 「動植物の飼育・栽培」内容8「生活や出来事との交流」
12. 内容9 「自分の成長」生活科の評価方法
13. 学習指導案づくり  
内容6 物づくりの場面の展開を考える
14. 模擬授業
15. テスト

### 授業の方法

テキストによる講義を行うとともに、ワークショップやディスカッションを織りまぜながら理解を深める。

授業の初めは、身近な植物の観察「知っておきたい身近な植物」を行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席は2点減点し、遅刻は1点減点とする。

### テキスト

文部科学省「小学校学習指導要領解説 生活編」

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職小		17681	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務。特別活動について授業発表・研究発表あり。 特別活動担当指導主事経験あり。			

### 授業の到達目標

特別活動の意義、役割、今日的課題について学ぶ。子供の自己実現、人間関係づくり、望ましい集団活動のあり方について専門的な知識や指導力を身につける。  
KAISEIパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

### 授業の概要

教育課程における特別活動の理念を把握し、目標と内容を理解する。学級活動の模擬体験や模擬授業を行う。さらに学校現場での実践、学級会活動等での映像を通して子供の姿を捉え、特別活動の理解を深めていく。

### 授業計画

1. オリエンテーション、改訂の趣旨と目標
2. 基本的な性格と意義
3. 学級活動の目標と内容
4. 学級活動の指導計画  
「学級や学校における生活づくりへの参画」の模擬授業
5. 学級活動の指導計画  
「日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」の模擬授業
6. 学級活動の内容の取扱い  
「一人一人のキャリア形成と自己実現」の模擬授業
7. 児童会活動の目標と内容
8. 児童会活動の指導計画と内容の取扱い
9. クラブ活動の目標と内容、指導計画と内容の取扱い
10. 学校行事の目標と内容
11. 学校行事の指導計画と内容の取扱い
12. 指導計画の作成に当たったの配慮事項 特別活動における主体的・対話的で深い学び
13. 指導計画の作成に当たったの配慮事項 全体計画・年間計画の作成とその留意点
14. 内容の取扱いについての配慮事項
15. まとめと、定期試験

### 授業の方法

講義と演習（模擬授業、ディスカッション、プレゼンテーション

等）を合わせて、創造的思考力を養う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題：与えられたテーマについて自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。また模擬授業を行い批評会を行う。

評価方法：平常点50% 定期試験50%

### 欠席について

欠席は1回につき4点減点。

### テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「特別活動」 文部科学省

### 参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

### 留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育（幼小）			17683	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、 上級教育カウンセラー、教育委員会			

### 授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）の育成を目指す。

### 授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

### 授業計画

1. 特別支援教育（インクルーシブ教育含む）の理念や制度
2. 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の困り感
3. 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の心の発達
4. 障害のある幼児・児童・生徒の困り感
5. 障害のある幼児・児童・生徒の家族、特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
6. 障害のある幼児・児童・生徒の保護者・兄弟姉妹・祖父母等の障害受容
7. 合理的配慮の必要性と生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
8. 障害のある幼児・児童・生徒の教材選定
9. 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
10. 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
11. 様々な障害種、重複障害と個別の教育支援
12. 特別支援教育コーディネーター等との連携
13. 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
14. 障害のある幼児・児童・生徒以外の個別の教育支援
15. 外国から移住してきた幼児・児童・生徒の学習、生活面での支援

### 授業の方法

講義、発表とワークショップ

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

定期試験80%、授業最後に提出するレポートと振り返り20%

### 欠席について

学内の規定に準ずる

### テキスト

必要に応じて指示する

### 参考図書

子どもの発達障害と情緒障害（杉山登志郎、講談社）。

### 留意事項

必要な場合授業時に指示する。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法			17684	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
都賀 純	選択	2	公立小学校勤務。指導主事経験あり。 総合的な学習の時間では、国際理解のテーマで研究発表会も行う。			

### 授業の到達目標

教育課程の意義、法的根拠、外観を理解する。現行の教育課程編成の要点、配慮事項について、発表・討議を通して深めていく。また、総合的な学習の時間の意義や目標、各小学校の目標に沿った指導計画の作成、授業づくり・指導法についてのポイントを明確にしていく。

KAISEIパーソナリティのI（知性）の育成を目指す。

### 授業の概要

学校現場での具体的な教育課程、カリキュラム・マネジメントの進め方を伝えていく。法令や学習指導要領解説と学校現場の実践と成果（そこにある課題や悩み、子供たちの姿、地域の教育力）とをつないで学生の理解を図っていく。また、総合的な学習の時間の指導法においては、目標に基づいた指導計画、単元計画の作り方、事例研究、指導案作りを進めていく。

### 授業計画

1. 教育課程の基準（改定の経緯・意義と基準となる法制）
2. 学習指導要領の改訂の変遷
3. 小学校教育の基本と教育課程の役割（カリキュラム・マネジメントの充実）
4. 教育課程の編成（求められる資質・能力と共通の事項）
5. 教育課程の実施と学習評価（主体的・対話的で深い学びの実現にむけて）
6. 児童の発達の支援（発達支援と子に応じた指導の充実）
7. 教育課程の改善と学校評価（教育課程におけるPDCA）
8. 道徳教育推進上の配慮事項（豊かな体験活動、家庭・地域社会・学校間の連携）
9. 総合的な学習の時間の目標（目標の構成・趣旨・学習指導のポイント）
10. 各学校において定める目標及び内容（全体計画と年間指導計画）
11. 単元計画と学習指導の在り方「福祉」の学習を通して
12. 総合的な学習の時間の指導「伝統と文化など地域や学校の特色に応じた課題」
13. 総合的な学習の時間の指導「環境」
14. 総合的な学習の時間の指導「国際理解」
15. 学習評価の在り方・定期試験

### 授業の方法

学生の発表・論述を大切に、そこから生まれる疑問について理解を深めていく。学校現場での具体的な実践を常にはさむことで、現場での取り組みについて共感を深めていく。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

課題：与えられたテーマに対して自分の考え、感想を含めたプレゼン発表を行う。  
評価方法：平常点50% 定期試験50%

### 欠席について

欠席は1回につき4点減点。

### テキスト

小学校学習指導要領解説（平成29年告示）「総則」「総合的な学習の時間」 文部科学省

### 参考図書

必要に応じて、随時紹介する。

### 留意事項

出席と授業態度を重視する。積極性と意欲を持って、授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育・教職実践演習（幼・小）			17686	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子／佐原 信江	選択	2	公立小学校教員、公立幼稚園教員			

### 授業の到達目標

保育・教職課程科目の学修や学校園での現場学習等を通じて、保育士・教員として必要な資質能力が、実践力としてどのように統合されたかを最終的に確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）の育成を目指す。

### 授業の概要

実習で学んだことを振り返り、課題を確認するとともに保育者・教育者としての役割と責務についての認識を深めていく。職務への使命感、社会性や対人関係能力、また、学級経営能力や指導力を高め、保育者・教育者としての資質の向上を目指す授業を進める。

### 授業計画

1. 授業概要の説明、受講の心構え、これまでの学修の振り返り
2. 保育・教職の意義や保育士・教員の役割、職務内容、子どもに対する責任等についての討議
3. 社会性や対人関係能力（職場、保護者・地域との人間関係の構築等）についての講義・グループ討議
4. 幼児・児童理解や学級経営についての講義・グループ討議
5. 保育計画案・学級経営案の作成
6. 保育計画案・学級経営案の発表とグループ討議
7. 学校園現場の見学・調査①
8. 学校園現場の見学・調査②
9. 社会性、対人関係能力、幼児・児童理解、学級経営についてのグループ討議
10. 保育・教科の指導力についての講義・グループ討議
11. 模擬保育・模擬授業と討議①
12. 模擬保育・模擬授業と討議②
13. 事例研究とロールプレイング①
14. 事例研究とロールプレイング②
15. 目指す教師像と自己課題の確認

### 授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

### 準備学修

事前に課題を提示するので、レポートや作品等を作成すること。具体的な課題については、保育・教職（幼・小）の各担当教員から提示する。

### 課題・評価方法

- ①レポートや作品等の提出物については、担当教員による批評とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

### 欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

### テキスト

各担当教員が参考図書の中から指定する。

### 参考図書

厚生労働省『保育所保育指針解説』、文部科学省『幼稚園教育要領解説』、内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園 教育・保育要領解説』フレーベル館、文部科学省『小学校学習指導要領』、わかば社『教職実践演習 これまでの学びと教師への歩み』

### 留意事項

自己目標・課題をもって意欲的に授業に臨むこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（幼稚園） I	教職幼		17691	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	1	公立幼稚園教員			

### 授業の到達目標

教育実習とは何か、幼稚園に勤務する教諭の仕事とは何かなど、教育実習に向けて準備すべき実際や心構えを学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とK(思いやり)の育成をめざす。

### 授業の概要

1週間の観察・参加実習にあたり、教育実習の目的・意義、特に実習記録のとり方について具体的に学んでいく。加えて、人権感覚を養うなど教師としての資質向上をめざす内容を取り入れている。

### 授業計画

1. 幼稚園教諭とは
2. 教育実習の意義と目的
3. 教育実習園の選択と決定
4. 教育実習園の教育などの理解
5. 教員に求められる資質
6. 週間実習に向け、園への依頼の仕方
7. 実習記録の取り方と記載について
8. 実習記録の記載に際しての留意事項
9. 実習に際しての具体的な留意事項
10. 実習後について(礼状の作成など)
11. 1週間実習を終えての成果や課題について協議①
12. 1週間実習を終えての成果や課題について協議・発表②
13. 実習記録について個人指導及び指導  
3週間実習に向けて課題の整理
14. 実習記録について個人指導及び指導  
3週間実習に向けて課題の整理
15. 実習記録について個人指導及び指導  
3週間実習に向けての準備

### 授業の方法

テキストやプリントをもとに、具体的な内容で授業を進める。実習後は、幼稚園から返却された実習記録や評価をもとに、自らの成果と課題を明確にする。

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

- ①提出を求めるワークシート等について、授業内で評価と助言を行う。
- ②平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

基本的に欠席は認められない。やむをえず欠席する時は必ず事前に申し出ること。その場合のみ1回につき3点の減点とする。

### テキスト

本学作成の「幼稚園教育実習の手引き」「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」フレーベル館「あそびうた大全集200」永岡書店 「実践！造形あそび」ナツメ社

### 参考図書

「保育とカリキュラム」ひかりのくに社  
幼稚園教育指導資料第5集「指導と評価に生かす記録」チャイルド社

### 留意事項

免許取得のための教育実習に向けた授業であることを十分心得ること。

### 教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職小		17697	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	1				

### 授業の到達目標

「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身に付ける。「介護等体験」でかかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）、E（倫理）を考える。

### 授業の概要

いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身に付けられるようにする。

### 授業計画

1. 「介護等体験」の目的と概要
2. 社会福祉施設 1
3. 社会福祉施設 2
4. 介護の心構えと実際
5. 高齢者の心と身体
6. 特別支援学校
7. 障がいのある子どもとのかかわり方と「介護等体験」
8. 「介護等体験」に臨む心構え・留意事項

### 授業の方法

講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとりいれる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。  
平常点50%、定期試験50%

### 欠席について

欠席1回につき3点減点する。

### テキスト

増田雅暢ほか『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会  
全国特別支援学校長会『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』ジアース教育新社

### 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

### 留意事項

この授業は7.5回行う。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（幼稚園）Ⅱ			17707	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	1	公立幼稚園教員			

### 授業の到達目標

1 週間実習の成果と課題を生かして、さらに充実した3 週間実習となるよう、教育実習の目的意識と実践力を確かなものにする。実習終了後は評価反省を行い、幼稚園教諭となるにふさわしい自分をめざす。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）の育成をめざす。

### 授業の概要

1週間実習の成果と課題を自ら明確にし、3週間実習に意欲的に取り組めるようにする。実習で直面するであろう課題や問題点について、実践例をもとに教材研究などを具体的に学ぶ。実習終了後は自らの課題を明確にし、その課題克服に努める。

### 授業計画

1. 実習園でのオリエンテーション(依頼電話のかけ方、訪問に際して等)
2. 指導実習に向けての教材の作成①
3. "②
4. "③
5. 絵本の読み聞かせとリズム遊び①
6. "②
7. 実習園のオリエンテーションを受ける。
8. 実習園の教育理念や指導方法を学ぶ。
9. 指導実習に向けての教材研究と指導案の作成①
10. "②
11. 実習記録の記入方法について
12. 実習に向けて留意事項の再確認
13. 礼状の作成
14. 実習園の評価をもとに反省と考察を行い、課題を明確にする。
15. まとめ

### 授業の方法

実習園の教育方針について理解すると共に、教材研究や指導案の作成、実習記録の取り方など、実際に即した内容で授業を進める。

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

①提出を求めるシート等について、授業内で評価と助言を行う。  
②平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

必ず全回出席である。やむをえず欠席する場合は必ず事前に申し出ること。その場合のみ、1回につき3点減点する。

### テキスト

「幼稚園教育実習の手引き」本学作成 「あそびうた大全集200」永岡書店  
「実践！造形あそび」ナツメ社

### 参考図書

「幼稚園教育要領解説」フレーベル館  
「教員をめざそう！」文部科学省

### 留意事項

免許取得のための教育実習に向けての授業であることを十分心得ておくこと。

### 教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育経営論	教職幼小PC		17713	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
濱田 誠二郎	選択	2	臨床心理士、学校心理士SV、公立小教員			

### 授業の到達目標

教育制度について、法的な知識をふまえながら、その概要を把握し、経営という観点から、学校を総合的・多面的に理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

### 授業の概要

現在の教育システムの在り方をとらえ、学校・学級経営の様々な場面に応じて、組織を有効に活用する教育経営論を学ぶ。教育について、制度及び経営という側面から考察していく。また、学校制度や教育関係法規から、学校教育の目的や教職員の職務等を学び、教師の職責について理解を深める。

### 授業計画

1. 受講の心構え・授業規律・授業内容等についてのガイダンス、学校の種類と公教育
2. 教育制度の歴史と発展 1
3. 教育制度の歴史と発展 2
4. 子どもの権利と人権 1
5. 子どもの権利と人権 2
6. 教育制度を学ぶ意義 1
7. 教育制度を学ぶ意義 1
8. 教育法 1
9. 教育法 2
10. 教育の目的と目標
11. 学校の制度
12. 義務教育の制度
13. 教育の機会均等
14. 教職員の制度
15. まとめ

### 授業の方法

考えを書く活動とグループディスカッションを多く取り入れる。

### 準備学修

世界各国の教育制度や教育の現状、教育法等について事前に調べた

り、レポートを作成したりすること。授業時間の2倍程度の時間を準備学修（予習・復習）に費やすこと。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

出席については、大学が認める欠席以外考慮しない

### テキスト

必要な場合授業時に指示する。

### 参考図書

川口洋誉・中山弘之『未来を創る 教育制度論』北樹出版

### 留意事項

出席と授業態度を重視する。

### 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・健康			17717	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石田 伸子	選択	2	私立幼稚園教員			

### 授業の到達目標

教育要領には「見通しを持って行動し、自ら健康で安全な生活を作り出すようになる」のが終了時の具体的な姿として示されている。幼児期に身につけるべき、心と身体の健康に関する内容が理解できること。また、実際に体を動かすことの楽しさ・心地よさを体験し、発達に応じた幼児の運動遊びの指導法を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とA（自律）を養う。

### 授業の概要

毎日の生活を満足感を持って楽しく充実して過ごすには健康が基本になる。健康であるということは生活上すべての活動の基本となることである。基本的な生活習慣の自立への指導から、健康な身体作り・健康管理・安全教育など、幼児自ら心身ともに健康な生活ができるようにするには何が必要か、発達の段階を踏まえて学習する。

### 授業計画

1. 健康とは何か
2. 子どもの身体の発育・発達
3. 乳幼児期の運動
4. 乳幼児期の安全教育と病気の予防
5. 運動遊び(実技)①(縄、新聞紙、ボールなどを使った遊び等)
6. 運動遊び(実技)②(大縄、フープを使った遊び、用具を使わない運動遊び等)
7. 運動遊び(実技)③(運動用具一平均台、跳び箱、マット等を使った遊び等)
8. 乳幼児期の生活習慣の形成
9. 乳幼児期の遊びと運動
10. 乳幼児期の生活と食
11. 領域「健康」の理解と指導法
12. 領域「健康」をめぐる現代の諸問題
13. 指導計画作成から保育へ①
14. 指導計画作成から保育へ②
15. 「幼児教育指導法」[初等音楽]と連携によるマリア幼稚園実習

### 授業の方法

テキストに添って講義を進めるが、事例を多くとり入れ、理解しや

すいようにする。ディスカッションや実技を取り入れ、主体的に体得していけるようにする。

### 準備学修

Webで参照すること

### 課題・評価方法

グループ発表後は、教員によるフィードバックを行う。実技の積極性、動きなどを評価する。平常点50% 定期試験50%とする。

### 欠席について

欠席数は成績評価に反映する

### テキスト

演習 保育内容「健康」－基礎的事項の理解と指導法－川邊貴子・吉田伊津美編著 建帛社

### 参考図書

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

### 留意事項

実技①②③は、運動しやすい服装(名前がわかりやすい名札あるいはゼッケンをつけること)・体育館シューズ・新聞紙・縄跳び用縄を持参のこと。場所は未定。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育内容の研究・環境			17721	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

### 授業の到達目標

近年の社会の変化にともなって、子どもを取り巻く様々な環境も従来とは変わり続けている。この現状をしっかり受け止め、子どもを取り巻く環境のあり方や保育者の役割を理解する。環境が成長過程に影響することが理解でき、その時期にふさわしい環境の構成あるいは環境の取り入れ方が分かるようになる。幼児に影響を与える人的環境としての保育者が大きな存在となることを踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)とE(倫理)の育成を目指す。

### 授業の概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の領域「環境」に「周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」と述べられている。子どもたちが園内外の“自然・文化・人・もの・事象・文字・記号”などに自ら触れ、生きる力を育む直接的体験を積み重ねられる環境を準備するために、保育者自身が様々な環境に対し興味や関心を持ち理解し、子どもの主体性を引き出す為どのような環境づくりをしていけばいいのか、指導案作成と模擬保育等を通して、保育者自身も常に主体性を持って環境について学び、専門的な能力を身につけていけるようにする。

### 授業計画

1. 保育と「環境」
2. 領域「環境」とは
3. 子どもの育ちと領域「環境」(DVD視聴「子どもを育む保育の環境」)
4. 教室を出ての実験体験とグループワーク
5. 子どもを取り巻く自然環境
6. 生き物とのかかわりにおける子どもの育ち (DVD視聴「動物を知る」)
7. 生き物とのかかわりにおける子どもの育ち
8. 子どもを取り巻く人的環境
9. 子どもを取り巻く物的環境
10. 子どもの活動をひきだす保育環境
11. 子どもの活動を引き出す保育環境(教室を出て実験体験、DVD 視聴)
12. 子どもの生きる力を育む環境

子どもを取り巻く社会的環境、子どもを守り育てる環境

13. 環境を通じた保育の内容・教材研究
14. 環境を通じた保育の内容・教材研究
15. 環境を通じた教育・保育の現在の課題

### 授業の方法

講義を中心にし、内容に沿ったDVD視聴や事例の中から、グループで話し合ったり意見発表を多く取り入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%。  
レポートの提出や振り替わりテストなどについて講義の中でフィードバックを行う。

### 欠席について

欠席数は成績評価に反映する

### テキスト

「保育内容 環境 あなたならどうしますか？」岡澤陽子、杉本裕子、平野麻衣子、松山洋平、山下文一、萌文書林

### 参考図書

幼稚園教育要領解説 フレーベル館  
保育所保育指針 日本保育協会  
3,4,5歳児が夢中になる実践「造形遊び」 平田智久監修 ナツメ社  
あそぶうた大全集 永岡書店

### 留意事項

教室を出ての実験体験等を含むので、授業計画が変更する可能性がある為、授業前のボードをよく注意して見ておくこと

### 教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児教育指導法			17725	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐原 信江	選択	2	公立幼稚園教員			

### 授業の到達目標

幼児期の教育・保育の実践にあたり、基本となる教育内容の再認識と指導実践力の習得をめざす。この科目ではKAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

### 授業の概要

幼児期の教育の基本を再認識するとともに、視覚教材(PP)を通して、子どもの生活や遊びとはどのようなものか学ぶ。また教材研究と演習、指導案作成と模擬保育を通して、教師の役割について実践的な習得をめざす。

### 授業計画

1. 幼児の生活と幼稚園の役割、幼児期の特性
2. 幼児期の教育の基本(人格形成の基礎・環境を通して行う教育)
3. 幼児期の教育の基本(5領域のねらい及び内容・幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿・個々に応じた指導など)
4. 幼児期の教育の基本(教師の役割、教職員間の連携)
5. 教材研究と演習①ペープサート シナリオと教材の作成
6. 教材研究と演習②ペープサート グループで協力し人形劇の完成
7. 教材研究と演習③ペープサート 各グループの演習と評価
8. 保育内容の指導実践①基本的な生活習慣の育成・安全教育
9. 保育内容の指導実践②いろいろな行事、自然を取り入れた活動
10. 保育内容の指導実践③保護者との連携、子育ての支援・預かり保育
11. 保育内容の指導実践④小学校教育との円滑な接続
12. 教材作成と模擬保育①パネルシアターの作成
13. 教材作成と模擬保育②パネルシアターを活用した保育指導案の作成
14. 教材作成と模擬保育③指導案をもとに模擬保育
15. 幼稚園で実際の保育体験と振り返り

### 授業の方法

実際の園生活の様子を視聴しながら講義を進める。加えて教材作成、実技演習、グループディスカッションなどを通して、実践的な指導力をつけていく。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①教材作成のもと指導案作成と模擬保育を行い、授業内で教員によるフィードバックを行う。
- ②平常点30% 演習30% レポート等の提出40%

### 欠席について

1回の欠席につき3点減点とする。

### テキスト

「幼稚園教育要領解説」(文部科学省)「保育所保育指針解説」(厚生労働省)「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(内閣府・文部科学省・厚生労働省)「実践!造形あそび」(ナツメ社)「あそぶうた大全集200」(永岡書店)

### 参考図書

「初等教育資料」文部科学省「幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について」文部科学省「幼児教育じほう」全国公立幼稚園長会

### 教員連絡先

sahara@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
幼児指導論（カウンセリングを含む）			17729	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
成木 智子	選択	2	公立保育所保育士 民間保育士			

### 授業の到達目標

幼児の心身の発達の道筋を理解し、幼児理解に基づく適切な援助・指導のあり方を学ぶ。幼児一人一人の発達課題に即した援助・指導や環境構成の意義がわかり、保育者の役割についての理解を深める。幼児教育にとって必要なカウンセリングマインドの基本と心構えを理解し、カウンセリングマインドの姿勢で幼児を受け入れ、幼児の理解者として、幼児の遊びの指導者として、保育者の役割を理解する。またカウンセリングマインドを通して保護者を理解する。このクラスはKAISEIパーソナリティのとA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

教育とは、子どもの遊びを触発し、それを援助・組織して、子どもたちの発達を促す営みである。幼児教育を担う者にとって重要なのは、幼児の心身の発達や興味や関心を適切にとらえ、それに応じた具体的な環境を整えることで、自発的、能動的な活動を引き出すことが基本となる。幼児一人ひとりが、喜びと充実感を伴った学びの体験をし、成長する喜びを実感しながら発達に必要な体験を積み重ねていけるような援助や指導の方法を知ることが大切である。本講義では、幼児を援助・指導するという事の本質について、カウンセリングマインドの姿勢を通して、保育相談にも対応できるような、具体的な事例を挙げながら指導する。

### 授業計画

1. 幼児指導の基本
2. 乳幼児期の発達と子どもの理解
3. 環境を通しての教育
4. 遊びを通しての指導
5. 幼児の主体性の育成
6. 保育者の役割
7. 遊びのなかの学びをはぐくむ保育（保育者の援助）
8. 遊びのなかの学びをはぐくむ保育（遊びの目的）
9. 保育形態による幼児の育ちと保育における評価
10. 幼児期の教育と小学校教育の連携と現状
11. 家庭や地域と連携した保育
12. 保育におけるカウンセリングマインドの基本的な心構え
13. 子どもの健やかな育ちを支援する

14. 特別な配慮を必要とする子どもを支援する
15. 授業全体を振り返り、定期試験を行う。

### 授業の方法

事例を多く取り入れ講義を進める。意見を発表し、グループ討議をする中から、課題意識を持って主体的に取り組めるようにする。

### 準備学修

Webで詳細を参照すること。  
出された課題には前向きに取り組むこと。

### 課題・評価方法

- ①レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②グループ討議後は、担当教員によるフィードバックを行う。
- ③平常点50%、課題レポート20%、定期試験30%

### 欠席について

欠席1回につき5点、遅刻1回につき2点の減点とし、5回を超える欠席で不合格とする。

### テキスト

「どの子にもあ～楽しかった！の毎日」 赤木和重 岡村由紀子  
金子明子 馬飼野陽美著 ひとなる書房  
保育所保育指針解説 ・幼稚園教育要領解説  
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等音楽科指導法			17733	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
南 夏世	選択	2				

### 授業の到達目標

教科「音楽」の意義を理解し、実態を視野に入れた授業を構成できる能力や、幅広い音楽活動の指導ができる技術を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

### 授業の概要

『小学校学習指導要領（音楽）』の内容について理解し、音楽教育の歴史についての知識を習得するとともに、これからの音楽教育について考察する。歌唱指導・鑑賞指導・器楽指導のための教材研究ならびに演習や発表を行い、実態に適した音楽指導法を研究する。

### 授業計画

1. 「小学校学習指導要領（音楽）」の概説と理解
2. 「小学校学習指導要領（音楽）」の概説と理解
3. 楽典の基礎と他教科とのかかわり
4. リコーダーの理解と合奏
5. いろいろな楽器の理解と奏法
6. 合奏教材と指揮法基礎演習
7. 歌唱教材の研究と演習
8. 歌唱教材の研究と演習
9. 鑑賞教材の研究（音楽の歴史）
10. 鑑賞教材の研究（日本の音楽・世界の音楽）
11. 音楽づくり
12. 日本の音楽教育
13. 模擬授業
14. 模擬授業
15. 振り返りと展望

### 授業の方法

講義と個人あるいはグループでの演習や研究発表。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①授業で研究発表、演奏を行い、フィードバックをする。

- ②平常点50%、定期試験50% 各項目ごとの発表は平常点に反映する。定期テストは筆記試験を実施する。

### 欠席について

授業時の発表や演習も評価の対象となるのでできるだけ、欠席しないこと。

### テキスト

初等科音楽教育法（音楽之友社）

### 参考図書

教育芸術社「小学校の音楽1～6」

### 留意事項

グループ演習も多いので、毎回の出席と積極的な活動を心がけること

### 教員連絡先

minami@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等図画工作科指導法			17737	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
花房 雅剛	選択	2	公立小学校教員			

### 授業の到達目標

小学校学習指導要領にある図画工作科の低・中・高学年それぞれの目標を理解し、教材研究や模擬授業等とおして指導上必要な知識と技術を習得し、授業実践できる力を身に付けることである。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を養う。

### 授業の概要

講義やディスカッション、模擬授業、教材研究をおして図画工作科の指導内容や指導方法、評価等について学ぶ。鑑賞の分野では、視聴覚機材及び博物館、美術館等を活用し作品鑑賞のねらい等を学習する。

### 授業計画

1. 学習指導要領にある図画工作科の目標等と役割
2. 図画工作科の年間計画、授業設計、指導案の作り方
3. 思考の継続化を図る図画工作科としての横断的学習の授業設計
4. 図画工作科と他教科との領域の関係を理解した横断的学習の教材研究と模擬授業
5. 図画工作科としての言語活動と評価
6. 絵画の表現形式
7. 絵画表現に関する教材研究と模擬授業
8. 版画の種類と仕組み、用具の安全な使い方
9. 版画の表現技法に関する指導方法と授業改善の視点
10. 様々な材料、用具を使った立体・工作の表現
11. 立体・工作に関する用具の安全な使用方法
12. 造形遊びに関する用具や材料の使用方法和場所の活用方法
13. 美術館を活用した効果的な鑑賞指導と授業設計
14. 美術館での効果的な鑑賞指導の在り方と模擬授業
15. まとめと定期テスト

### 授業の方法

講義と作品制作（教材研究）、美術館での作品鑑賞を中心とする。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

平常点70% 定期試験30%

### 欠席について

欠席1回について3点減点、遅刻1回について1点減点

### テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 図画工作編』

### 参考図書

日本文教出版『図画工作』『ずがこうさく』

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等家庭科指導法			17741	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

### 授業の到達目標

小学校における家庭科教育に必要な実践的指導力を身に付ける。学習指導要領に示された小学校家庭科の目標と内容、その指導上の留意点を理解する。小学校家庭科とその背景となる学問領域との関係を理解し、教材研究に活用することができる。小学校家庭科の学習指導の理論と方法を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

小学校家庭科の目標と内容、家庭科教育のために必要な学習指導の理論と方法、教材研究などを学ぶ。さらに、子どもの発達段階や生活実態を踏まえた、また情報機器及び教材を活用した授業設計と学習指導案の作成を学び、模擬授業を行う。

### 授業計画

1. 小学校家庭科の目標と内容
2. 「家族・家庭生活」「衣食住の生活」に関する指導上の留意点
3. 「消費生活・環境」に関する指導上の留意点
4. 小学校家庭科の評価
5. 「家族・家庭生活」「衣食住の生活」に関する教材研究
6. 「消費生活・環境」に関する教材研究
7. 子どもの発達・生活と家庭科教育
8. 小学校家庭科の施設・設備（情報機器含む）
9. 小学校家庭科の学習指導の理論と方法
10. 小学校家庭科の学習指導計画
11. 小学校家庭科の学習指導案の作成
12. 「家族・家庭生活」「衣食住の生活」の模擬授業
13. 「消費生活・環境」の模擬授業
14. 模擬授業の検討・改善
15. まとめ

### 授業の方法

講義に加えて、ディスカッションと模擬授業をとりいれる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席1回につき3点減点する。

### テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版

### 参考図書

必要に応じて授業中に指示する。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
初等体育科指導法			17745	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
木岡 正雄	選択	2	公立小学校教員			

### 授業の到達目標

体育科の学習指導案を作成することができて、模擬授業を行う力を養う。また、授業観察力を培う。グループワークを主として行い、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）、S（奉仕）の育成を目指す。

### 授業の概要

小学校体育科の目標、指導計画、学習指導法、教材内容の扱い方等を把握する。理解した知識を基に学習指導計画を立て、模擬授業を実施する。また、授業を観察するポイントを理解する。

### 授業計画

1. オリエンテーション。体育科の目指す授業について
2. 小学校学習指導要領、体育編の内容を知る。
3. これから目指す体育授業について。運動の特性について
4. 低学年の目標と学習内容について
5. 中学年の目標と学習内容について
6. 高学年の目標と学習内容について
7. 学習指導案の書き方について
8. 指導案を作成する。①
9. 指導案を作成する。②
10. 指導案を作成する。③
11. 模擬授業を実施する。①
12. 模擬授業を実施する。②
13. 模擬授業を実施する。③
14. 模擬授業を振り返る。学習評価について。
15. 学習のまとめ。これからの体育学習について

### 授業の方法

小グループでの話し合い、調べ学習、作業等を主とする。体育の実技も実施予定である。

### 準備学修

文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）  
文部科学省 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編等  
を読み、学習指導計画案等を事前に調べ、予習・復習等60時間を

費やすこと。

### 課題・評価方法

- ①学習指導計画案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点30点、学習指導計画案40点、模擬授業30点とする。

### 欠席について

原則欠席をしないこと。登校できる程度なら見学でも出席すること。

### テキスト

文部科学省 「小学校学習指導要領（平成29年告示）」と「小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 体育編」

### 参考図書

新しい体育授業の運動学 三木四郎 著 明和出版  
平成23年版神戸市小学校体育指導の手引き

### 留意事項

実技も実施するので、運動のできる服装の用意をする。

### 教員連絡先

〒651-2277 神戸市西区美賀多4-7-20  
自宅電話番号&Fax 078-961-4362

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
道徳教育指導論	教職小		17749	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	2	公立小学校教員			

### 授業の到達目標

小学校「特別の教科 道徳」の目標と内容、指導計画、学習指導法等について、基礎的な理論と指導技術を修得する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とE（倫理）の育成を目指す。

### 授業の概要

道徳教育の目標と内容、授業方法、指導計画、資料の扱い方等、小学校における道徳の指導法を把握するための講義と演習を行う。また、学習指導案作成や模擬授業を通して、実践的な指導力を身に付ける。

### 授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、道徳教育の基礎理論
2. 道徳教育の歴史
3. 道徳性とは何か
4. 道徳の目標と内容
5. 道徳性の発達理論と道徳教育
6. 道徳教育の計画
7. 道徳科の学習指導
8. 道徳教材の活用
9. 道徳科における問題解決的な学習
10. 道徳科における体験的な学習
11. 道徳科の授業展開
12. 道徳の評価
13. 模擬授業（低学年）
14. 模擬授業（高学年）
15. これからの道徳教育の課題

### 授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、批評とアドバイスをを行う。
- ②授業への参加度30%、定期試験70%とする。

### 欠席について

欠席は5点減点し、遅刻は2点減点する。

### テキスト

柳沼良太『道徳の理論と指導法』図書文化社  
文部科学省『小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』廣済堂あかつき

### 参考図書

必要に応じて、授業中に随時紹介する。

### 留意事項

出席と授業態度（模擬授業の準備や提出物を含む）を重視する。道徳の指導法を身に付けようとする意欲をもって授業に臨むこと。

### 教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論（進路指導を含む）	教職小		17753	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
花房 雅剛	選択	2	公立小中学校教員			

### 授業の到達目標

小学校における生徒指導体制や指導方法、課題等を理解し、人権尊重の精神を根幹に据えた生徒指導と自己実現を目指す進路指導のあり方を学び、自己指導能力を育む教員としての実践力を身に付けることである。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)を養う。

### 授業の概要

今日的な生徒指導・進路指導の課題を学校現場の情報や新聞等の資料より把握し、『生徒指導提要』等に基づき児童の内面理解を基盤に据えた生徒指導・進路指導のあり方を考察する。

### 授業計画

1. 生徒指導の意義と目的
2. 教育課程と生徒指導
3. 学校組織としての生徒指導
4. 進路指導・キャリア教育と生徒指導
5. 児童生徒理解を図る方法とその活用
6. 学級担任としての生徒指導
7. 集団指導と個別指導
8. 教育相談の進め方
9. 基本的生活習慣の確立(学校・家庭・地域の役割)
10. 学校と家庭・地域・関係機関の連携
11. 生徒指導に関する法制度
12. 問題行動の未然防止と早期発見
13. いじめと不登校
14. 情報教育と生徒指導
15. まとめと定期テスト

### 授業の方法

講義とディスカッション

### 準備学修

webで参照すること

### 課題・評価方法

平常点30% 定期試験70%

### 欠席について

欠席1回につき3点減点、遅刻1回につき1点減点

### テキスト

文部科学省『生徒指導提要』に基づいた配布資料

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
子どもの保健ⅠB			17762	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
狐塚 善樹	選択	2	小児科医（日本小児科学会小児科専門医）			

### 授業の到達目標

小児科医は「子どもの総合診療医」、「育児・健康支援者」、「子どもの代弁者」などとされて、子どもの疾病だけでなく、子どもの健全な発育を総合的に支援することが必要とされている。これらのことは小児科医に限られたことではなく、子どもに専門的に関わる者に置き換えても共通する部分が多い。子どもの特徴、成長発達、病気の経過、子どもを取り巻く環境の理解などを深める必要がある。そのために以下の項目を理解する。

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。
4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。

このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を目指す。

### 授業の概要

子どもは大人のミニチュアではないと言われる。子どもを理解する上で総論的な観点から、共通認識としての用語の定義、生物としてのヒト及びその生理、現在の社会環境及び社会制度（統計、各種子育て支援など）、体・情緒のwell-being、それらへの関わり方や役割などを理解する。それらを基礎として各論に進む。子どもの発達は発育段階で異なり、身体発育と生理機能発達、運動機能発達、心の発達が互いに関係し合っている。これらの発達は理論的に説明できることもあり、丸暗記ではない実際に役立つしっかりとした責任ある知識を身につける必要がある。このいわゆる正常発達知識に基づいて現在の子どもの健康状態を把握する。子どもの疾患の病態生理、特徴を理解して、その予防（予防接種、感染対策など）、対応（初期対応、事後対応など）を理解する。以上の知識に基づいて、ある時にある子どもをみて、今の状態がどうか、何が必要かを適切に対応でき、また保護者に説明できることを学ぶ。

### 授業計画

1. 子どもの健康と保健の意義 (1) 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的
2. 子どもの健康と保健の意義 (2) 健康の概念と健康指標
3. 子どもの健康と保健の意義 (3) 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
4. 子どもの健康と保健の意義 (4) 地域における保健活動と児童虐待防止

5. 子どもの身体発育と生理機能の発達 (1) 身体発育と保健
6. 子どもの身体発育と生理機能の発達 (2) 生理機能の発達と保健
7. 子どもの健康状態の把握 (1) 健康状態の観察
8. 子どもの健康状態の把握 (2) 体調不良等の早期発見
9. 子どもの健康状態の把握 (3) 発育・発達の把握と健康診断(I)
10. 子どもの健康状態の把握 (3) 発育・発達の把握と健康診断(II)
11. 子どもの健康状態の把握 (4) 保護者との情報共有
12. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1) 主な疾病の特徴(I)
13. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (1) 主な疾病の特徴(II)
14. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (2) 子どもの疾病の予防と適切な対応(I)
15. 子どもの疾病の予防及び適切な対応 (2) 子どもの疾病の予防と適切な対応(II)

### 授業の方法

スライド講義を中心とする。配布資料、参考資料を用い、症例検討も行う。新聞、ネットなどの子どもに関する情報（感染、制度、社会問題など）は常にチェックしておく。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

- ①課題  
講義内容のまとめ、提示課題、症例検討のレポートの提出（全3回以上）を求め、講義の中でフィードバックを行う。
- ②評価方法について、  
平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

講義は前回の内容を理解している事を前提に進めて行くので、連続性が必要で、欠席は減点対象とする。但し、一般的に出席停止（インフルエンザなど）となるものは欠席としない。欠席は3点減点、遅刻は1点減点。

### テキスト

テキストは特定の本は指定しない。基本的には講義内容と配布資料とする。  
参考図書としては、子どもの保健Ⅰ 佐藤益子/中根淳子編著 ななみ書房、子どもの健康と安全 「最新 保育士養成講座」 総括編集委員会/編 全国社会福祉協議会

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
社会的養護内容			17766	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	1	重症心身障害児施設職員			

### 授業の到達目標

現代の子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、それに伴い家庭での養育・保護していく機能は脆弱化している。「家庭養護」だけでは子どもの養育が困難な状況となり、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となる。地域社会をも含めた施設養護の本質と機能を理解し、施設養護の内容と実際、養護施設における援助技術について、実践的活動事例を通して施設養護観を深める。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

### 授業の概要

児童福祉施設に入所・利用している子どもたちの背景には多様で複雑な状況がある。それらの子どもたちの心身の成長や発達を保障し援助するための具体的な知識・技能を習得する。また、里親制度についての現状と今後の展望についても理解する。さらに、社会福祉専門職として、これらの児童に対する社会的支援の必要性についても理解する。

### 授業計画

1. オリエンテーション 児童の社会的養護の理念と概念
2. 施設における子どもの社会的養護 施設養護の特質と機能、被虐待児への対応
3. 施設における子どもの社会的養護 施設養護の流れ、入所前後・退所前後のケア
4. 社会的養護における支援の計画と内容 個別支援計画作成の留意点と作成事例
5. 虐待問題と児童養護 増加する児童虐待の要因と課題
6. 社会的養護の実際 学校教育や地域社会との連携、自立支援
7. 里親制度と課題 日本と海外の相違、保育士としての役割
8. 障害児、その保護者への支援 事例からの考察、まとめ

### 授業の方法

VTR、DVDなどの事例を多く取り上げて、双方向の授業とする。積極的な参加を求める。また、指定教科書はないが、ノートはしっかりとること。

### 準備学修

児童虐待、障害児などの社会問題に対して、関心を深めておくこと。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

理由のある特例欠席以外は、認めない。

### テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

### 留意事項

将来、児童養護等社会福祉施設関係での就職を希望する人は、ぜひ受講すること。「社会的養護」「相談援助」「保育相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
相談援助			17770	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	1	障害児者相談支援専門員			

### 授業の到達目標

授業を通して、ソーシャルワークの歴史、また個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、地域援助技術（コミュニティワーク）、ケアマネジメントを中心とした直接援助技術および間接援助技術の理論と実践方法を学び、アセスメント・計画策定実施・評価までの援助過程を展開できる基礎知識・技術を習得することを旨とする。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目標とする。

### 授業の概要

少子化や核家族化が進行するなど子ども・家族を取り巻く環境の変化を背景として、子育てにかかわるニーズは多様かつ複雑化している。このような社会的変化を背景に、保育士には、子どもへの保育に加えて、社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）を用いながら相談援助を展開していくソーシャルワーカーとしての役割が期待されている。

本科目は「保育相談支援」と相互関連科目であり、相談援助を展開する際に必要となる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法を身につけることを目的としている。

### 授業計画

1. 社会福祉援助技術の体系と歴史
2. 人間関係と自己理解 ①
3. 人間関係と自己理解 ②
4. 社会福祉専門職の価値・倫理 ①
5. 社会福祉専門職の価値・倫理 ②
6. 事例研究 ①
7. 事例研究 ②
8. まとめ

### 授業の方法

VTR、DVD等で現状の社会福祉場面を理解し、専門職の役割とその意義について理解する。

### 準備学修

子どもに関わる日常の社会的事例について、関心を深めること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

特例欠席以外は認めない。

### テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

### 留意事項

対人援助技術は、これからの保育士には必要なものである。関心を深めること。また、「社会的養護」「社会的養護内容」「保育相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育相談支援			17772	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
佐々木 勝一	選択	1	障害児者相談支援専門員			

### 授業の到達目標

本科目では、子どもの最善の利益に焦点をあてながら保育相談支援の基本となる「価値と倫理」について理解した上で、事例検討を通して保育所等児童福祉施設における保育相談支援の実際について学んでいく。本科目を通して、子どもや保護者を取り巻く環境（社会的側面）へのアプローチも含めた多角的視野から根拠（evidence）に基づいた保育相談支援を展開していく能力の習得を目指す。このクラスではKAISEIパーソナリティのS(奉仕)を目指す。

### 授業の概要

「相談援助」で取り上げる社会福祉援助技術（ソーシャルワーク）の理論と技法をふまえた上で、保育所等児童福祉施設における保育相談支援について理解し、多岐にわたる生活問題を抱えた児童や保護者に対して多角的・総合的な支援を展開できる力を身につけることを目的としている。また、社会福祉専門職である保育士として求められる相談支援場面に必要な知識と技術についても理解する。

### 授業計画

1. オリエンテーション  
コミュニケーション技法 ①
2. ケースワーク、グループワークの理解
3. 面接技法 ①
4. 面接技法 ②
5. コミュニティーワーク
6. 事例研究 ①
7. 事例研究 ②
8. まとめ

### 授業の方法

VTR、DVD等で現状の保育相談支援場面について、理解を深める。また、双方向の授業であるから、積極的な参加を求める。

### 準備学修

日常から子どもに関わることに関心を持つこと。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

特例欠席以外は認めない。

### テキスト

必要に応じて、資料を配布する。

### 留意事項

保育士に求められる対人援助技術の意義について、しっかり考える機会とすること。また、「社会的養護」「社会的養護内容」「相談支援」科目と関係するので、教科書は必ず購入すること。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
家庭支援論			17774	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
浅井 由美	選択	2				

### 授業の到達目標

家族の機能、家庭の意義と役割を理解する。子育て家庭の現状とそれを取り巻く社会的・経済的状況を理解する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制を理解する。子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関連機関との連携について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養うとともに、K（思いやり）を考える。

### 授業の概要

まず「現代家族関係論（2年次配当）」の復習も兼ねて、家族の機能、家庭の意義や役割について学ぶ。次に、少子高齢社会・男女共同参画社会における家族関係や家庭生活の変化、地域社会の変容、家族と家庭を取り巻く社会的・経済的状況について概観する。子育て家庭に対する支援の必要性と支援体制や支援方法等について解説し、ニーズに応じた多様な支援や関連機関との連携を考える。

### 授業計画

1. 家庭の意義と役割
2. 家庭支援の必要性と保育士等が行う家庭支援の原理
3. 現代の家庭における人間関係
4. 地域社会の変容と家庭支援
5. 男女共同参画社会とワークライフバランス
6. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源
7. 子育て支援施策・次世代育成支援施策
8. 子育て支援サービスの概要
9. 保育所入所児童の家庭への支援
10. 地域の子育て家庭への支援
11. 要保護児童及びその家庭に対する支援
12. 子育て支援における関連機関との連携
13. 諸外国における子育て支援
14. 子育て支援サービスの課題
15. まとめ

### 授業の方法

講義に加えてプレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

欠席1回につき3点減点する。

### テキスト

小田豊ほか『家庭支援論』北大路書房

### 参考図書

内閣府『少子化社会対策白書』  
授業中に必要に応じて指示する。

### 留意事項

「現代家族関係論」を先に履修しておくことが望ましい。

### 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳児保育 I			17778	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

### 授業の到達目標

乳児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。乳児期（3歳未満児）の発育・発達と保育について学び、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題についても理解する。なお健康やかな成長を支えるための生活と遊びなど乳児保育の理論や知識・技術の具体的な事例を通して保育の内容を理解する。また、乳児保育における職員間の連携・協働及び保護者や地域の関係機関との連携について理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)E(倫理)を考える。

### 授業の概要

わが国における乳児保育の歴史の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を資料を基に把握し、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を理解する。また、乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題、いわゆる保育環境や長時間保育での乳児の生活の仕方など援助の実際を理解し、乳児の保育にあたる保育者としての専門的な能力を身につけられるようにする。

### 授業計画

1. 乳児保育とは(DVD視聴「乳幼児の発達と保育 0歳児」)
2. 乳児保育の理念と歴史の変遷
3. 乳児の保育と思春期への育ち
4. 愛されて育つということの意味(DVD視聴「アタッチメント関係」)
5. 乳児期の発達と保育内容(DVD視聴「乳児の成長記録」)
6. 乳児期の発達と保育内容(DVD視聴「乳児の成長記録」)
7. 乳児期の環境と人間関係(DVD視聴「環境構成」)
8. 乳児保育の実際(教室を出て実際体験)
9. 乳児期の環境と人間関係(DVD視聴「人とのかかわりの中で学ぶ」)
10. 乳児期の生活と保育
11. 保育所や保育所以外の施設における乳児保育  
地域における子育て支援
12. 乳児期の保育課程と指導計画
13. 様々な発達の考え方
14. 乳児期における連携・協同
15. まとめ

### 授業の方法

講義と演習を中心とし、内容に沿ったDVD視聴を取り入れたり、実際体験をする。

### 準備学修

Webで確認すること。

### 課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%  
レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。

### 欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

### テキスト

新時代の保育双書 乳児保育第3版 (株)みらい 大橋貴美子編

### 参考図書

乳児保育の基本 責任編集 汐見稔幸・小西行郎・榎原洋一 フレーベル館  
保育の内容・方法を知る 乳児保育〔新版〕 増田まゆみ編著 北大路書房  
保育所保育指針 日本保育協会  
乳児の生活と保育 ななみ書房

### 留意事項

教室を出ての実際体験等を含むため、授業計画の変更もある。授業課前のボードをよく注意して見ておくこと。

### 教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳児保育 II			17779	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

### 授業の到達目標

乳児保育 I を踏まえて、乳児の発育・発達の過程や特性を踏まえた援助やかかわりについての理解を深め、養護と教育の一体性を考えた生活や遊びと、保育の方法について、実際体験を通して具体的に理解する。また、そのための指導計画のあり方を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)E(倫理)を考える。

### 授業の概要

乳児保育 I での授業を振り返りながら、乳児保育とはどのようなものであるかを、実際体験や演習を通して再認識し、またその保育をする上での計画について理解を深め、乳児保育にあたる保育者として専門的な能力を身につけられるようにする。

### 授業計画

1. 乳児保育の基本 発達と援助
2. 乳児保育の基本 発達と援助(DVD視聴「乳幼児の発達と保育 0, 1, 2歳児」)
3. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
4. 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実際
5. 乳児保育の実際(教室を出て実際体験)
6. 乳児保育における計画の実際
7. 乳児保育における計画の実際
8. まとめ

### 授業の方法

講義と演習を中心とし、内容に沿ったDVD視聴を取り入れたり、実際体験をする。

### 準備学修

Webで確認すること。

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

レポート提出を求め、講義の中でのフィードバックを行う。

### 欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

### テキスト

はじめて学ぶ 乳児保育 第2版 同文書院 志村聡子編著者

### 参考図書

新時代の保育双書 乳児保育 第3版 (株)みらい 大橋貴美子編  
乳児の生活と保育 (改訂版) ななみ書房 松本園子編著  
あそびうた大全集 永岡書店

### 留意事項

教室を出ての実際体験もあるため、授業計画の変更もある。教務課前掲示板をよく注意して見ておくこと。

### 教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害児保育			17782	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

### 授業の到達目標

我が国における障害児保育の歴史的変遷を土台として、これからの保育実践について自分なりの実践方法を模索する。大きな課題の一つである保護者への支援に関しては、ペアレントトレーニングやSST等の心理教育でのファシリテーターの働きも学ぶ。さらに、様々な障害を理解し支援する上で必要な個別支援計画が作成できる保育者をめざす。このクラスは、KAISEIパーソナリティーK（思いやり）とI（知性）を考える。

### 授業の概要

障害児保育は特別支援教育へとつながり、インクルーシブシステムの具現化が求められる。そこで、本授業では障害の理解に留まらず、個々人がきちんと障害教育観を持つことで、教育現場で通用する基本的な保育技術を学ぶ。また、事例を活用して「この子にどんな支援が有効なのか、必要なのか」という教育的視点から討論する。

### 授業計画

1. 障害の理解と現在までの障害保育の概要
2. 肢体不自由児・難聴幼児通園施設の実際
3. 知的障害がある子どもの理解と支援
4. 学校園における発達障害がある子どもへの支援 1
5. 学校園における発達障害がある子どもへの支援 2
6. 様々な自閉症スペクトラムの理解と指導
7. 障害がある子どもの受け入れポイント
8. 障害がある子どもの受け入れに関する施設・設備の工夫と課題
9. 障害がある子どもの面談法
10. 障害がある子どもの行動観察法
11. 関係諸機関 専門医の診断法
12. 関係諸機関 保健センター、福祉関係機関
13. 家庭への子育て支援 幼児期の障害児への支援
14. 家庭への支援 健常者の保護者への啓発
15. 就学に向けての保護者との連携支援

### 授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参加できる形式も採り入れる。

### 準備学修

日常生活の一コマを、一つの考え方にこだわらずに複数の視点で考えてみる姿勢を望む

### 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

### 欠席について

学内規定に準ずる

### テキスト

若井淳二著『障害児保育テキスト』（教育出版）

### 参考図書

授業中に紹介する。

### 留意事項

国の障がい者施策および事業に関心を持つ

### 教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害者・障害児心理学			17783	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

### 授業の到達目標

本講義では、障害をもつ子どもたちへの教育、障害理解のための心理社会的知識、特別支援教育の在り方を学ぶことを目的としている。「身体障害、知的障害及び精神障害の概要」と「障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援」について、特別支援教育の観点から学ぶ。このクラスは、KAISEIパーソナリティーK（思いやり）とI（知性）を考える。

### 授業の概要

特別支援教育の制度、背景、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。それだけでなく、障害理解のために必要な専門知識を身に付ける。それらを踏まえ、子どもの一生涯における発達と教育の在り方について考える。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 特別支援教育の現状
3. 視覚障害の理解と特別支援教育
4. 聴覚障害の理解と特別支援教育
5. 言語障害の理解と特別支援教育
6. 知的障害の理解と特別支援教育
7. 発達障害の理解と特別支援教育 1
8. 発達障害の理解と特別支援教育 2
9. 肢体不自由の理解と特別支援教育
10. それぞれの障害の理解と特別支援教育 1
11. それぞれの障害の理解と特別支援教育 2
12. 特別支援教育の変遷
13. 生涯発達支援について 1
14. 生涯発達支援について 2
15. まとめ

### 授業の方法

講義形式を中心に、受講者が実際の教育現場でどのように実践するのかを考える時間を設ける。

### 準備学修

毎日テキストを30分程度、読む。

### 課題・評価方法

考える時間を設けた後は、担当教員からフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

### 欠席について

学内の規定に従う。

### テキスト

高橋 智 編著『インクルージョン時代の障害理解と生涯発達支援』（日本文化科学社）

### 教員連絡先

nakazono@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小	17785	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
大岸 啓子	選択	1	公立小学校教員		

## 授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。また、教育実習の成果と課題を振り返り、さらに身に付けるべき知識や技能等について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

## 授業の概要

教育実習に必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例や実践を通して、小学校教師の様々な仕事と職責について学ぶ。

## 授業計画

1. 受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、小学校教育実習を受ける前に
2. 実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
3. 実習中の心得（勤務、礼儀、言葉遣い、服装、持ち物）
4. 実習中の心得（学級経営、給食指導、休み時間）
5. 児童や教職員との接し方
6. 実習記録の書き方
7. 学習指導と生徒指導
8. 算数科模擬授業（低学年）
9. 算数科模擬授業（高学年）
10. 教育実習の成果と課題

## 授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

## 準備学修

テキストの指定ページを予習したり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

## 課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

## 欠席について

欠席は10点減点し、遅刻は3点減点する。

## テキスト

石橋裕子・梅澤実・林幸範『小学校教育実習ガイド』萌文書林

## 参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説』東洋館出版社

## 留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して授業に臨むこと。

## 教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導A			17811	Ⅲ	春／秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石畠 多恵／渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

## 〈児童福祉施設実習〉

### 授業の到達目標

保育実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、自己評価を行い課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

### 授業の概要

実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「児童福祉施設とは」を理解し、機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

### 授業計画

1. 実習の意義、目的、概要について理解する。
2. 各施設の役割と機能を理解する。①
3. 各施設の役割と機能を理解する。②
4. 施設実習の準備と心構えを理解する。①
5. 施設実習の準備と心構えを理解する。②
6. 実習における観察・記録・評価の仕方を理解する。
7. 実習記録の書き方を理解する。実践及び実習に関する諸手続
8. 実習についての心構え、留意事項などの確認（実習事後の御礼状の書き方なども含む）
9. 事後指導における実習の総括と自己評価、課題の明確化

### 授業の方法

講義・演習・実践により進める。

### 準備学修

webで参照すること。

実習施設についての概要を事前に調べる。手あそびを数多く知るようになり、絵本の読み聞かせの練習をしたりする。

### 課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

### 欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

### テキスト

必要資料については随時プリントを配布する。

### 参考図書

あそびうた大全集 永岡書店  
手あそび百科 ひかりのくに  
実習の記録と指導案 ひかりのくに  
3. 4. 5歳児が夢中になる実践！造形遊び ナツメ社

### 留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく。

### 教員連絡先

ishihata@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

## 〈保育所実習〉

### 授業の到達目標

保育所実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、「保育実習Ⅱ」に向けての課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とS（奉仕）、E（倫理）を考える。

### 授業の概要

保育所実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお初めての保育所実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「保育所とは」を理解し、保育所の機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、「保育実習Ⅰ」の総括と自己評価を行い、「保育実習Ⅱ」に向けての新たな課題や学習目標を明確にし、より「保育実習Ⅱ」が効果的に行えるようにする。

### 授業計画

1. 保育所実習の意義・目的・概要について理解する
2. 保育所の役割と機能を理解する
3. 発達過程の理解を深める
4. 保育の計画について再認識し、理解を深める 実習指導案の書き方を知る
5. 保育内容の実践
6. 実習生個人票の作成およびオリエンテーションの受け方、事務手続について理解する
7. 実習記録の書き方を知る
8. 実習に際しての心構え、留意事項（事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む）
9. 事後指導における実習の総括と自己評価・課題の明確化

### 授業の方法

講義・演習・実践により進める。

### 準備学修

webで参照すること。

### 課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

### 欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

### テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）  
必要資料については随時プリントを配布する。

### 参考図書

あそびうた大全集 永岡書店  
手あそび百科 ひかりのくに  
実習の記録と指導案 ひかりのくに  
3. 4. 5歳児が夢中になる実践！造形遊び ナツメ社

### 留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく（絵本の読み聞かせ・制作・手あそび・歌など）

### 教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導 I A			17812	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

### 授業の到達目標

保育所実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお保育所実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、「保育実習Ⅱ」に向けての課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)、E(倫理)を考える。

### 授業の概要

保育所実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお初めての保育所実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「保育所とは」を理解し、保育所の機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、「保育実習Ⅰ」の総括と自己評価を行い、「保育実習Ⅱ」に向けての新たな課題や学習目標を明確にし、より「保育実習Ⅱ」が効果的に行えるようにする。

### 授業計画

1. 保育所実習の意義・目的・概要について理解する
2. 保育所の役割と機能を理解する
3. 発達過程の理解を深める
4. 保育の計画について再認識し、理解を深める 実習指導案の書き方を知る
5. 保育内容の実践
6. 実習生個人票の作成およびオリエンテーションの受け方、事務手続きについて理解する
7. 実習記録の書き方を知る
8. 実習に際しての心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
9. 事後指導における実習の総括と自己評価・課題の明確化

### 授業の方法

講義・演習・実践により進める。

### 準備学修

webで参照すること。

### 課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

### 欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

### テキスト

保育実習指導の手引き(海星版)  
必要資料については随時プリントを配布する。

### 参考図書

あそびうた大全集 永岡書店  
手あそび百科 ひかりのくに  
実習の記録と指導案 ひかりのくに  
3. 4. 5歳児が夢中になる実践! 造形遊び ナツメ社

### 留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく(絵本の読み聞かせ・制作・手あそび・歌など)

### 教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導 I B			17813	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石島 多恵	選択	1	公立保育所保育士			

### 授業の到達目標

保育実習の意義・目的および実習の内容を理解し、自らの課題を明確化する。なお実習を円滑に進めていくため実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解し、実習がより効果的に行えるようにする。また、子どもの人権と最善の利益、プライバシーなどの守秘義務について理解する。事後指導においては、自己評価を行い課題や学習目標を明確にする。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とS(奉仕)、E(倫理)を考える。

### 授業の概要

実習の意義・目的・方法を理解し、実習内容・心構え・実習記録の意義と記録の仕方について学ぶ。なお実習を受けるにあたり各教科の講義で得た知識をもとに「児童福祉施設とは」を理解し、機能や保育士の役割、子どもの理解、日々の子どもの生活や遊びの援助の仕方について習得し、保育現場での実践に結びつけられるようにする。事後指導では、自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にしていく。

### 授業計画

1. 実習の意義・目的・概要について理解する。
2. 各施設の役割と機能を理解する。①
3. 各施設の役割と機能を理解する。②
4. 施設実習の準備と心構えを理解する。①
5. 施設実習の準備と心構えを理解する。②
6. 実習における観察・記録・評価の仕方を理解する。
7. 実習記録の書き方を理解する。実践及び実習に関する諸手続
8. 実習についての心構え、留意事項などの確認(実習事後の御礼状の書き方なども含む)
- 9.、事後指導における実習の総括と自己評価、課題の明確化

### 授業の方法

講義・演習・実践により進める。

### 準備学修

webで参照すること。

### 課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

### 欠席について

欠席は、1回につき5点減点とする。

### テキスト

保育実習指導の手引き(海星版)  
必要資料については随時プリントを配布する。

### 参考図書

あそびうた大全集 永岡書店  
手あそび百科 ひかりのくに  
実習の記録と指導案 ひかりのくに

### 留意事項

実習を受けるまでに乳幼児の発達過程をしっかり把握し、保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく(絵本の読み聞かせ・制作・手あそび・歌など)

### 教員連絡先

ishihata@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
保育実習指導B			17820	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	1	公立保育所保育士			

### 授業の到達目標

保育実習ⅠAを通して得た自己課題をもとに、保育技術面での向上を旨として学習し、十分とは言えないが実践能力を養い保育実習Ⅱに取りくむことができたものとする。KAISEI パーソナリティのK（思いやり）とI（知性）、E（奉仕）を考え、A（自律）を養う。

### 授業の概要

保育実習ⅠAで修得した知識をもとに、保育実習Ⅱでは現場での保育実践を念頭に置き、指導案や保育実践に取りくめるように、必要な知識や技術を学ぶ。

### 授業計画

1. 保育実習Ⅱの意義・目的を理解する
2. 保育実習Ⅱに関する事務手続き、書類等の配布と指導
3. 保育実習に向けての遊びの指導①
4. 保育実習に向けての遊びの指導②
5. 保育実習に向けての遊びの指導③
6. 実習指導案の作成 実習指導案に基づいた保育内容の確認、実践①
7. 実習指導案の作成 実習指導案に基づいた保育内容の確認、実践②
8. 実習の心構え、留意事項(事後の実習園に対するお礼状の書き方等含む)
9. 事後指導における実習の総括と自己評価 課題の明確化

### 授業の方法

講義・演習・実践により進める。

### 準備学修

webで参照すること。

### 課題・評価方法

授業出席状況・諸提出物・実習記録などにより評価する。定期試験は実施しない。

### 欠席について

欠席1回につき5点減点。

### テキスト

保育実習指導の手引き（海星版）  
必要資料については随時プリントを配布する。

### 参考図書

手あそび百科 ひかりのくに  
実習の記録と指導案 ひかりのくに  
あそびうた大全集 永岡書店  
3, 4, 5歳児が夢中になる実践！造形遊び ナツメ社

### 留意事項

実習を受けるまでに乳幼児に関する保育実践の知識や技術をできるだけ多く身につけておく(絵本の読み聞かせ・製作・手あそび・歌など)

### 教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

### オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
神経・生理心理学			17827	II	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
古谷 真樹	選択	2				

### 授業の到達目標

中枢神経や自律神経の構造と機能について理解し、注意や記憶、感情等の生理学的反応の機序、夢などのトピックから、心と脳の関係および高次脳機能障害の概要について説明できるようになる。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

### 授業の概要

神経・生理心理学は複雑で多様な人間の心理とそれに伴う行動について、脳神経をはじめ生理指標から考察する学問である。中枢神経や自律神経の構造や機能といった基礎的な内容から医療や福祉、教育現場における応用まで幅広く学ぶ。

### 授業計画

1. 神経心理学・生理心理学とは
2. 中枢神経系(脳神経系の構造及び機能)
3. ニューロンと活動電位
4. 認知・注意と高次脳機能障害
5. 記憶と高次脳機能障害
6. 脳画像法と高次脳機能障害
7. 睡眠中の認知活動
8. 自律神経系と情動
9. 皮膚電気活動
10. 筋電図
11. 神経伝達物質
12. ホルモン
13. リラクゼーション法
14. テストバッテリー
15. まとめと試験

### 授業の方法

毎回、授業始めに復習の小テストを行う。

### 準備学修

Webで参照すること。

### 課題・評価方法

小テスト60%、定期試験40%

### 欠席について

1回欠席で4点減点（小テスト含む）、5回以上の欠席で不合格とする。

### テキスト

適宜紹介する。

### 教員連絡先

m-furu@people.kobe-u.ac.jp

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
司法・犯罪心理学			17831	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
十倉 利廣	選択	2	法務省心理職として非行・犯罪アセスメントなどに従事する。 少年鑑別所長、矯正研修所長等を歴任する。			

### 授業の到達目標

- ・司法・犯罪分野の制度及び同分野の心理臨床の領域を概観できる。
- ・犯罪の原因及びメカニズムに関する諸理論を理解できる。
- ・警察関係機関、家庭裁判所（少年及び家事）、少年鑑別所、少年院、刑事施設（刑務所）、保護観察所、被害者支援領域における心理臨床業務に関する知識を習得する。
- ・非行・犯罪に関するアセスメント及び処遇技法に関する基礎知識を習得する。
- ・この授業を通して、KAISEパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を身につける。

### 授業の概要

司法・犯罪領域における心理臨床の理論や業務を理解するために、犯罪・非行、犯罪被害及び家事事件についての基本的知識を身につけるとともに、司法・犯罪分野の問題に対して必要な心理に関する支援についての基本的知識を身につける。

### 授業計画

1. 司法・犯罪心理学の基礎知識
2. 犯罪心理学理論の進展 1
3. 犯罪心理学理論の進展 2
4. 各種犯罪 1 (窃盗)
5. 各種犯罪 2 (薬物犯罪)
6. 各種犯罪 3 (性犯罪)
7. 各種犯罪 4 (暴力犯罪)
8. 捜査心理学 1 (プロファイリング)
9. 捜査心理学 2 (虚偽検出)
10. 捜査心理学 3 (証言)
11. 精神鑑定
12. 犯罪被害者支援
13. 家庭裁判所における心理臨床
14. 少年鑑別所における心理臨床
15. 少年院・刑務所における心理臨床及び授業のまとめ

### 授業の方法

講義を中心とする。

### 準備学修

webで参照すること。

### 課題・評価方法

適宜レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。  
平常点60%、定期試験40%

### 欠席について

原則として、欠席数が5回を超える場合は成績評価対象外とする。

### テキスト

毎回講義資料を配布する。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
健康・医療心理学			17835	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
石川 慎一	選択	2	医師			

### 授業の到達目標

心理職に求められる健康心理学の基礎及び応用領域についての知識を深める。また、健康心理学に関する原理や方法、求められている専門性について具体的に説明できる。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）とE（倫理）を養う。

### 授業の概要

近年我が国でも心理の国家資格が誕生し、健康保健・医療分野における心理職の立場は確立しつつある。今後心理職による社会への貢献を考える上で、健康心理学、医療心理学の基礎知識の獲得、および近年の動向を把握してゆくことが必要である。この授業では、健康とは何か、疾病予防、健康増進に対する心理学的なアプローチについて、またストレスと心理支援、そして、健康・医療の様々な現場における心理支援の実践について領域ごとに学ぶ。

### 授業計画

1. ガイダンス-健康心理学とは
2. 健康心理学におけるアセスメントと支援
3. ストレスマネジメント-ストレスと心身の疾病との関係
4. 各種の心理支援法
5. 医療心理学-医療現場における心理社会的課題及び必要な支援
6. 医療心理学におけるアセスメントと支援
7. 精神科、児童精神科
8. 院内独立型心理室
9. 心療内科
10. 小児科(母子保健含む)
11. 緩和医療
12. 産業保健
13. 地域保健活動の実際-保健活動が行われている現場における心理社会的課題及び必要な支援
14. 災害心理学-災害時等に必要心理に関する支援、多職種協働と医療連携
15. まとめと試験

### 授業の方法

講義形式で実施する。毎回授業の冒頭で、前の講義の振り返りテスト等、小テストを実施する。地域の医療機関等について調査しレ

ポートとして提出後、発表する機会も設ける。

### 準備学修

テキストの予習復習、小テストの準備、レポート作成等の課題を実施する。

### 課題・評価方法

平常点30点、定期試験70点

### 欠席について

各授業への欠席で3点、遅刻で2点の減点とする。5回を超える欠席は不合格となる。

### テキスト

宮脇稔他編『健康・医療心理学』医歯薬出版株式会社 2018

### 参考図書

その都度適宜紹介する。

### 留意事項

本講義は土曜の午後の2コマ連続の集中講義となる。日程を掲示するので確認する事。



現代人間学部 英語観光学科  
教職に関する科目



ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育原理	教職中等	14115	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務		

## 授業の到達目標

- 1 教育の理念と目的について理解する。
  - 2 教育に関する歴史及び思想について理解する。
  - 3 日本と諸外国の学校制度について理解する。
  - 4 現代社会における教育の現状と課題について理解する。
- このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。

## 授業の概要

教育学上の重要な理念について理解した上で、教育思想及び学校制度の歴史の変遷について理解を深める。このことを踏まえ現在の社会における教育課題や学校教育の在り方について考察する。

## 授業計画

1. 講義の進め方と講義概要について説明する。
2. 人とは？教育とは？
3. 学校の歴史 その1 諸外国の教育の思想と歴史
4. 学校の歴史 その2 日本における学校制度の成立と展開
5. 教育に関する法規
6. 現行法における日本の学校教育の目的
7. 教育課程と教育内容
8. 学習指導要領の変遷
9. 教師の仕事と専門性
10. よい授業とは
11. 現代社会と教育問題—いじめ・不登校問題など
12. 教育改革の新しい動きと方向について
13. 日本と諸外国の教育制度
14. 生涯学習の意義と生涯学習の機会
15. まとめとテスト

## 授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

## 準備学修

本講義は、「教育とは何か」「学校制度」などを歴史的な視点や諸外国との比較で研究し考察する。教育に関する思想家や法規など耳慣れない事項がでてくるため、関連する事柄について予習と復習

を必ず行うこと。Webで参照すること。

## 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

## 欠席について

学内の規定に準ずる。

## テキスト

- ・「問いからはじめる教育学」 勝野 正章・庄井 良信著 出版社：有斐閣
- ・取得を希望する校種の学習指導要領総則解説  
その他 必要に応じて資料を配付

## 参考図書

- ・「はじめての子どもの教育原理」 福元真由美著 出版社：有斐閣
- ・「やさしい教育原理」 田嶋 一他著 出版社：有斐閣
- ・「教育の原理を学ぶ」 遠藤 克弥・山崎 真之著 出版社：川島書店

## 留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、自ら問題意識を持って主体的に研究し学ぶこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
介護等の体験(事前指導)	教職中等	14147	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
浅井 由美	選択	1			

## 授業の到達目標

「介護等体験」の意義を理解する。社会福祉施設や特別支援学校について、基本的な知識を身に付ける。「介護等体験」でかかわる人々の状況を理解する。「介護等体験」にあたっての心構えや留意点を理解する。このクラスではKAISEIパーソナリティのK（思いやり）、A（自律）、S（奉仕）、E（倫理）を考える。

## 授業の概要

いわゆる「介護等体験特例法」は、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から、小学校又は中学校の教諭の普通免許状の授与を受けようとする者に、障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験を行わせる」としている。授業では、この法律の趣旨を理解できるように指導する。社会福祉施設（5日間）と特別支援学校（2日間）において「介護等体験」を円滑に行い十分な成果を得るため、基本的な知識と技能を身に付けられるようにする。

## 授業計画

1. 「介護等体験」の目的と概要
2. 社会福祉施設 1
3. 社会福祉施設 2
4. 介護の心構えと実際
5. 高齢者の心と身体
6. 特別支援学校
7. 障がいのある子どもとのかかわり方と「介護等体験」
8. 「介護等体験」に臨む心構え・留意事項

## 授業の方法

講義とDVD視聴に加えて、プレゼンテーションやディスカッションをとり入れる。

## 準備学修

Webで参照すること。

## 課題・評価方法

レポートの提出を求め、授業中にフィードバックを行う。  
平常点50%、定期試験50%

## 欠席について

欠席1回につき3点減点する。

## テキスト

増田雅暢ほか『よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会  
全国特別支援学校長会『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』ジアース教育新社

## 参考図書

授業中に必要に応じて指示する。

## 留意事項

この授業は7.5回行う。

## 教員連絡先

yumi@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別活動論	教職中等		14185	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
澤井 一夫	選択	2	県教育委員会勤務			

## 授業の到達目標

特別活動は、「様々な集団の中で体験を通して人としての生き方を学ぶ」場である。教育課程における位置づけと意義を理解し「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点、他教科との往還的な関連、地域との連携など特別活動の特質を踏まえ教師として指導に必要な基礎的知識を身につける。

このクラスではKAISEIの1(知性)を養う。

## 授業の概要

特別活動の意義から学校の具体的な実践までを、歴史的な経緯を踏まえながら学習する。

1. 特別活動の歴史的な経緯を踏まえ意義や目標を理解する。
2. 特別活動の4つの内容である「学級活動(ホームルーム)」「生徒会活動(児童会活動)」「クラブ活動(部活動)」「学校行事」について理解する。
3. 特別活動の内容について、実践例などを参考にしながら、具体的に各指導計画をたて指導の在り方について考察する。

## 授業計画

1. 講義の進め方と概要を説明(オリエンテーション)
2. 教育課程における特別活動の位置づけ
3. 特別活動の歴史の変遷
4. ① 各校種における特別活動の内容と目標  
② 特別活動の内容1「学級活動」について
5. 特別活動の内容2「生徒会(児童会)活動」について
6. 特別活動の内容3「学校行事」について
7. 学校目標と特別活動の指導計画について
8. 演習1 学級活動の指導計画を作成する。その1
9. 演習2 学校行事の指導計画を作成する。
10. 演習3 校外学習を施設を利用して体験する。
11. 演習4 校外学習を終えて
12. 演習5 学級活動の指導計画を作成する。その2
13. クラブ活動と部活動との違い、部活動の教育的意義と課題について
14. 特別活動と社会とのかわり
15. まとめ

## 授業の方法

講義を中心に討議や発表を設ける。

## 準備学修

- 各授業に関連する内容について「中学校・高等学校学習指導要領 解説 特別活動編」を熟読し予習する。
- 自分の小学校から高校までの特別活動について整理をする。
- 特別活動の実践例など日頃から新聞等を見て整理する。
- Webで参照すること

## 課題・評価方法

平常点50%、定期試験50%

## 欠席について

学内の規定に準じる。

## テキスト

文部科学省「中学校学習指導要領(平成29年告示)解説『特別活動編』」東山書店  
必要に応じて資料を配付する。

## 参考図書

- ・他の校種の学習指導要領、特に「特別活動」
- ・学級・学校文化を創る特別活動【中学校編】 東京書籍 国立教育研究所 教育課程研究センター
- ・「社会力を育てる」岩波新書 門脇厚司著
- ・「学校の社会力」朝日新聞 門脇厚司著など

## 留意事項

教職を目指す学生として、講義内容をただ受容するだけでなく、現在の社会に目を向け、主体的に考え課題意識をもって捉える姿勢でのぞむこと。

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
特別支援教育(中高)			14187	Ⅱ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
瀨田 誠二郎	選択	2	公立小教員、学校心理士SV、臨床心理士、上級教育カウンセラー、教育委員会			

## 授業の到達目標

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒の実態を理解したうえで、個別の指導計画及び教育支援計画の立案方法を理解する。  
このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA(自律)とI(知性)の育成を目指す。

## 授業の概要

特別支援を必要とする幼児・児童・生徒への理解を深め、より良い教育課程や支援を理解する。発達に課題があるなど障害種にかかわらず、幼児・児童・生徒が「生きる力」を身に付けることができるよう、個別の教育的ニーズを理解し、教員として、また、学校がチームとして求められる支援の方法を考察する。

## 授業計画

1. 特別支援教育(インクルーシブ教育含む)の理念や制度
2. 発達障害を含む特別な支援を必要とする幼児・児童・生徒の困り感
3. 発達障害を含む特別な支援が必要な幼児・児童・生徒の心の発達
4. 障害のある幼児・児童・生徒の困り感
5. 障害のある幼児・児童・生徒の家族、特に母親の気持ちに寄り添う支援技術
6. 障害のある幼児・児童・生徒の保護者・兄弟姉妹・祖父母等の障害受容
7. 合理的配慮の必要性和生活上の困難に対し主体的に取り組む自立活動
8. 障害のある幼児・児童・生徒の教材選定
9. 通常学級でのスモールステップ支援と通級指導による指導の時間
10. 構音障害等通級教室の活用によるチーム支援
11. 様々な障害種、重複障害と個別的教育支援
12. 特別支援教育コーディネーター等との連携
13. 障害種に応じた様々な関係機関等との連携
14. 障害のある幼児・児童・生徒以外の個別的教育支援
15. 外国から移住してきた幼児・児童・生徒の学習、生活面での支援

## 授業の方法

講義、発表とワークショップ

## 準備学修

Webで参照すること。

## 課題・評価方法

定期試験80%、授業最後に提出するレポートと振り返り20%

## 欠席について

学内の規定に準ずる

## テキスト

必要に応じて指示する

## 参考図書

子どもの発達障害と情緒障害(杉山登志郎、講談社)

## 留意事項

必要な場合授業時に指示する

## 教員連絡先

shamada@kaisei.ac.jp

## オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。  
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教職実践演習 (中・高)	ET	14214	IV	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人 / 惣谷 美智子	選択	2	私立・公立中学校、私立高等学校教員 神戸市教育委員会指導課指導主事、中学校長		

## 授業の到達目標

中学校又は高等学校の教師を目指す学生が、教職課程科目で学修した教科指導や生徒指導等の内容について実践することを通して、それらの知識及び技能を修得したことを確認する。このクラスではKAISEIパーソナリティのA (自律)、I (知性)、及びE (倫理)を養う。

## 授業の概要

中学校及び高等学校の教師として必要な知識や技能である(1)使命感・責任感・資質に関する知識、(2)社会性や対人関係能力、(3)教科の指導力について十分に修得できているかどうかをグループ討論、ロールプレイング、模擬授業で確認していく。また、実際の現場を見学することで、修得した知識・技能がどのように活用されているかをまとめる。

## 授業計画

1. イントロダクション—これまでの学習や教育実習について(1)～講義、発表
2. 教師としての使命感や責任感、資質について(1)～講義
3. 教師としての使命感や責任感、資質について(2)～グループ討論
4. 教師としての社会性や対人関係能力について(1)～講義とグループ討論
5. 教師としての社会性や対人関係能力について(2)～ロールプレイング
6. 生徒の理解や学級経営について(1)～討論
7. 生徒の理解や学級経営について(2)～グループ討論
8. 学級経営案の作成とグループ討論
9. 学校現場の見学(1)～見学・調査
10. 学校現場の見学(2)～教職経験者の講話とグループ討論
11. 教科の指導力について(1)～講義
12. 教科の指導力について(2)～グループ討論
13. 教科の指導力について(3)～模擬授業とその振り返り
14. 資質能力の確認・まとめ(1)～小論文とアンケート
15. 資質能力の確認・まとめ(2)～講評

## 授業の方法

講義の中でグループ討論を行う。ロールプレイング、模擬授業も行う。

う。

## 準備学修

次回のテーマに関するハンドアウトをあらかじめ配布するので、それを読み、その中に示されている課題を仕上げてくること。

## 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

## 欠席について

出席点(100点満点)は全体の20%とし、欠席は1回につき20点減点、遅刻・早退は1回につき6点減点する。

## テキスト

適宜、ハンドアウトを配布する。

## 参考図書

授業中に随時紹介する。

## 留意事項

教職に対する情熱をもって授業に参加・貢献する誠実な態度が必要である。実際の中学校を訪問し随時研修を行うので、平素から服装等に配慮すること。

## 教員連絡先

soya@kaisei.ac.jp  
mhori@kaisei.ac.jp

ET 教職科目 <ET 教職科目>	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生徒指導論	教職中等	14217	Ⅲ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人	選択	2	中学校教員、中学校長、神戸市教育委員会指導主事		

## 授業の到達目標

生徒指導の理論と方法、教育相談、進路指導について学ぶ。この講座ではKAISEIパーソナリティのA (自律) でコミュニケーション能力を養い、事例研究の実践でK (思いやり・傾聴力) とI (知性) 状況把握力を高める訓練をする。

## 授業の概要

教科書(文部科学省「生徒指導提要」)を参考資料として授業を進める。生徒指導の方法や生徒理解について考察し、実際の取り組み方を学んでいく。さらに、教育相談の手法を学び、進路指導、キャリア教育も生徒指導の視点から考察する。

## 授業計画

1. 生徒指導の意義と原理(集団指導、個別指導の方法原理)
2. 学校運営と生徒指導の関連
3. 教育課程と生徒指導(教科、道徳教育)
4. 教育課程と生徒指導(総合的な学習の時間、特別活動)
5. キャリア教育と生徒指導の関わり
6. 生徒の心理分析と理解の方法
7. 学校における生徒指導体制を学ぶ(実際の中学での見学体験)
8. 教育相談の進め方(カウンセラー、専門機関)
9. 生徒指導の進め方(支援体制、関係機関との連携)
10. 生徒指導における教職員の役割
11. 進路指導における生徒指導について
12. 課題別生徒指導の考察
13. 生徒指導に関する法制度について
14. 生徒指導短縮事例研究(前半)
15. 生徒指導短縮事例研究(後半)、まとめ

## 授業の方法

レジュメに従って授業を行う。また、配布した資料をもとに事例研究を行い考察をする。

## 準備学修

13歳のハローワーク(村上龍著) 教職関係、を読んでおくこと。

## 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

## 欠席について

やむをえない事情があるときは、事前事後に届け出ること。

## テキスト

文部科学省編「生徒指導提要」最新版

## 参考図書

村上龍 著「13歳のハローワーク」幻冬社

## 留意事項

授業中に配布した資料を基に考察し、毎回レポートを作成する。臨地研修として、1回は近隣の中学校を訪問し見学する予定です。平素から服装等に配慮すること

## 教員連絡先

mhori@kaisei.ac.jp

ET 教職科目〈ET 教職科目〉	クラス	科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習の研究（中等）	教職中	14229	IV	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験		
堀 正人／吉野 美智子	選択	1	神戸市教育委員会指導課教育実習担当主事、中学校長		

## 授業の到達目標

教育実習の事前及び事後の指導を通して、教育の社会的役割を認識し、教職への積極的な態度を養う。教育実習は、教職課程のいわば総仕上げとしての重要な意味をもつものである。大学で学んだ教育理論を教える立場に立つことによって、より深いものとして身につけ、学校という教育現場において、教育実践を通して学校教育についての理解を深め、教職への自らの決意と適性を確認する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）、I（知性）、及びE（倫理）を養う。

## 授業の概要

教育実習の実施計画に基づき、実習校において実習を行うための事前及び事後指導を行う。また、実習校における実習期間中に、本学の指導教員が実習校を訪問し、研究授業等の指導にあたる。

## 授業計画

1. 教育実習事前指導①
2. 教育実習事前指導②
3. 教育実習事前指導③
4. 教育実習事前指導④
5. 教育実習事前指導⑤
6. 教育実習事前指導⑥
7. 教育実習事後指導①
8. 教育実習事後指導②

## 授業の方法

発表とディスカッションを多く取り入れる。

## 準備学修

- ・テキストについて、前時に指示された箇所を読んでおくこと。
- ・毎回、指示されたテーマについて各自が発表を行うので、その準備をしておくこと。
- ・中学校・高等学校の学習指導要領をもう一度よく読むこと。

## 課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

## 欠席について

出席点（100点満点）は全体の20%とし、欠席は1回につき、20点減点する。遅刻・早退は1回につき6点減点する。

## テキスト

米山朝二・杉山敏・多田茂『〔新版〕英語科教育実習ハンドブック』（大修館）  
 文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』最新版  
 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編 英語編』最新版  
 必要に応じてハンドアウトを配布する。

## 参考図書

授業中に随時紹介する。

## 留意事項

- ・平常点には、口頭発表、レポート、出席状況・日頃の学習態度の評価が含まれる。
- ・毎回の授業に出席することはもちろんであるが、それだけではなく、熱意をもって学習する態度が必要である。

## 教員連絡先

mhorik@kaisei.ac.jp  
 myosino@kaisei.ac.jp

# 索 引

- ・ シラバス索引 (科目コード順) ..... P. 349
- ・ シラバス索引 (五十音順) ..... P. 356



## 2020年度 シラバス索引 (科目コード順)

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
共通科目				
キリスト教入門	11101	尾崎 秀夫	I	165
聖書概論	11105		I	165
キリスト教海外研修	11109	尾崎 秀夫	I	166
聖書と現代	11113		II	166
キリスト教と文化	11117	尾崎 秀夫	III	167
基礎演習 I	11201	石原 敬子/宮副 紀子/佐伯 瑠璃子/吉野 美智子	I	167
基礎演習 I	11201	石畠 多恵/森 晴美/中園 佐恵子/渋谷 美智	I	168
基礎演習 II	11205	石原 敬子/宮副 紀子/佐伯 瑠璃子/吉野 美智子	I	168
基礎演習 II	11205	石畠 多恵/森 晴美/中園 佐恵子/渋谷 美智	I	169
海星学 I	11206	堀 正人/一尾 敏正/箕野 聡子/佐伯 瑠璃子/酒井 新一郎	II	169
海星学 I	11206	渋谷 美智/石畠 多恵/南 夏世/中園 佐恵子	II	170
海星学 II	11207	堀 正人/一尾 敏正/箕野 聡子/佐伯 瑠璃子/酒井 新一郎	II	170
海星学 II	11207	渋谷 美智/石畠 多恵/南 夏世/中園 佐恵子	II	171
人間学 1	11209	尾崎 秀夫	I	171
人間学 2	11213		III	172
キャリアデザイン入門	11301	前田 典子	I	172
キャリアデザイン入門	11301	前田 典子	I	173
文学入門	11309	箕野 聡子	I	173
情報活用の基礎知識	11313	埴岡 忠清	I	182
心理学概論	11317	中植 満美子	I	174
統計学入門	11321	埴岡 忠清	I	174
ジェンダー論	11325	浅井 由美	I	175
日本国憲法	11329	四本 健二	I	175
健康科学	11333	柳本 有二	I	176
健康スポーツ 1	11337	後藤 磨也子/片岡 安美子	I	176
日本文化史	11353	箕野 聡子	II	177
簿記会計学	11357	埴岡 忠清	II	177
現代家族関係論	11365	浅井 由美	II	178
人権教育論	11373	堀 正人	II	178
社会科学概論	11377	尾崎 秀夫	II	179
家政学概論	11381	浅井 由美	II	179
経営学入門	11385	栗木 契	III	180
日本語表現法	11401	箕野 聡子	I	180
日本語表現法	11401	大岸 啓子	I	181
日本語文章構成法	11405	箕野 聡子	II	181
情報リテラシー 1	11501	米田 里香	I	182
情報リテラシー 1	11501	渡辺 卓也	I	183
情報リテラシー 2	11505	米田 里香	I	183
情報リテラシー 2	11505	渡辺 卓也	I	184
オフィス情報処理 1	11509	米田 里香	II	184
オフィス情報処理 2	11513	米田 里香	II	185
英語 1	11601	小野 礼子	I	185
英語 1	11601	釜須 久夫	I	186
英語 2	11605	入江 和子	I	186
英語 2	11605	木下 奈美	I	187
英語 3	11609	入江 和子	I	187
英語 4	11613	木下 奈美	I	188
英語 5	11617	James C. JENSEN/Tim KERN	II	188

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
英語 6	1 1 6 2 1	國本 恵理香	Ⅱ	189
英語 7	1 1 6 2 5	James C. JENSEN/Andy RUSHTON	Ⅱ	189
英語 8	1 1 6 2 9	後藤 江里	Ⅱ	190
フランス語 1	1 1 6 3 3	平田 淳子	Ⅰ	190
フランス語 2	1 1 6 3 7	平田 淳子	Ⅰ	191
フランス語 3	1 1 6 4 1	平田 淳子	Ⅰ	191
フランス語 4	1 1 6 4 5	平田 淳子	Ⅰ	192
フランス語 5	1 1 6 4 9	平田 淳子	Ⅱ	192
フランス語 6	1 1 6 5 3	平田 淳子	Ⅱ	193
フランス語 7	1 1 6 5 7	平田 淳子	Ⅱ	193
フランス語 8	1 1 6 6 1	平田 淳子	Ⅱ	194
中国語 1	1 1 6 6 5	坂口 文馨	Ⅰ	194
中国語 2	1 1 6 6 9	沈 竑	Ⅰ	195
中国語 3	1 1 6 7 3	坂口 文馨	Ⅰ	195
中国語 3	1 1 6 7 3	沈 竑	Ⅰ	196
中国語 4	1 1 6 7 7	沈 竑	Ⅰ	196
中国語 4	1 1 6 7 7	王 嬌	Ⅰ	197
中国語 5	1 1 6 8 1	坂口 文馨	Ⅱ	197
中国語 6	1 1 6 8 5	王 嬌	Ⅱ	198
中国語 7	1 1 6 8 9	坂口 文馨	Ⅱ	198
中国語 8	1 1 6 9 3	王 嬌	Ⅱ	199
韓国語 1	1 1 6 9 7	宋 京珠	Ⅰ	199
韓国語 2	1 1 7 0 1	宋 京珠	Ⅰ	200
韓国語 3	1 1 7 0 5	宋 京珠	Ⅰ	200
韓国語 4	1 1 7 0 9	宋 京珠	Ⅰ	201
専門科目 (英語観光学科)				
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	一尾 敏正	Ⅲ	205
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	石原 敬子	Ⅲ	205
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	箕野 聡子	Ⅲ	206
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	宮副 紀子	Ⅲ	206
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	酒井 新一郎	Ⅲ	207
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	吉野 美智子	Ⅲ	207
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	一尾 敏正	Ⅲ	208
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	石原 敬子	Ⅲ	208
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	箕野 聡子	Ⅲ	209
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	宮副 紀子	Ⅲ	209
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	酒井 新一郎	Ⅲ	210
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	吉野 美智子	Ⅲ	210
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	一尾 敏正	Ⅳ	211
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	石原 敬子	Ⅳ	211
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	箕野 聡子	Ⅳ	212
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	酒井 新一郎	Ⅳ	212
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	吉野 美智子	Ⅳ	213
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	吉野 美智子	Ⅳ	213
演習Ⅳ	1 3 1 1 3	一尾 敏正	Ⅳ	214
演習Ⅳ	1 3 1 1 3	石原 敬子	Ⅳ	214
演習Ⅳ	1 3 1 1 3	箕野 聡子	Ⅳ	215
演習Ⅳ	1 3 1 1 3	酒井 新一郎	Ⅳ	215
演習Ⅳ	1 3 1 1 3	吉野 美智子	Ⅳ	216

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
演習Ⅳ	13113	吉野 美智子	Ⅳ	216
ホスピタリティ精神論	13272	國本 恵理香	Ⅰ	234
日本文化論	13273	箕野 聡子	Ⅱ	236
翻訳・通訳論入門	13301	和泉 有香	Ⅱ	237
ことばと社会	13405	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	235
異文化理解	13409	佐伯 瑠璃子	Ⅰ/Ⅱ	234
英米文学入門	13413	吉野 美智子	Ⅰ	235
ことばの意味・文化	13417	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	237
コミュニケーションと文化	13419	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	236
観光概論	13426	一尾 敏正	Ⅰ	239
国際観光交流論	13427	青木 幹生	Ⅰ	240
手話コミュニケーションⅠ	13428	若生 茂嗣/大川 能子	Ⅱ	241
手話コミュニケーションⅡ	13429	若生 茂嗣/大川 能子	Ⅱ	242
環境ツーリズム論	13430	酒井 新一郎	Ⅱ	242
観光事業総論	13431	一尾 敏正	Ⅰ/Ⅱ	243
観光と世界遺産	13432	酒井 新一郎	Ⅱ	243
観光ビジネス実務論	13434	酒井 新一郎	Ⅱ	244
企業研究	13440	一尾 敏正	Ⅱ	244
海外ツーリズム研修	13445	酒井 新一郎/一尾 敏正	Ⅱ	245
ツーリズム実務特論	13450	酒井 新一郎	Ⅱ	245
児童文学	13501	宮副 紀子/箕野 聡子	Ⅱ	238
英米文学研究	13521	惣谷 美智子	Ⅲ	254
女性と社会	13525	浅井 由美	Ⅲ	255
ビジネス翻訳	13621	檜本 雄三	Ⅲ	253
児童英語教育概論	13701	高田 悦子	Ⅰ	260
英語科教育法Ⅰ	13705	後藤 江里	Ⅰ	260
英語科教育法Ⅱ	13709	宮副 紀子	Ⅱ	261
英語学概論	13713	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	238
キッズ・イングリッシュⅠ	13725	高田 悦子	Ⅱ	261
キッズ・イングリッシュⅡ	13729	後藤 江里	Ⅱ	262
キッズ・イングリッシュⅢ (実習)	13733	後藤 江里	Ⅲ	263
英語科教育法Ⅲ	13737	吉野 美智子	Ⅲ	262
英語科教育法Ⅳ	13741	吉野 美智子	Ⅲ	263
外国語教授法	13745	後藤 江里	Ⅲ	264
TOEIC/TOEFL入門 1	13806	和泉 有香	Ⅰ	268
TOEIC/TOEFL入門 1	13806	入江 和子	Ⅰ	269
教職概論 (中高)	13809	堀 正人	Ⅰ	264
教職概論 (キッズ)	13809	森 晴美	Ⅰ	265
教育・学校心理学	13815	濱田 誠二郎	Ⅰ	265
TOEIC/TOEFL 1	13822	和泉 有香	Ⅱ	269
TOEIC/TOEFL 2	13823	和泉 有香	Ⅱ	270
道德教育指導論	13829	堀 正人	Ⅲ	268
比較文化論	13830	箕野 聡子	Ⅲ	254
ホスピタリティ・マネジメント	13831	一尾 敏正	Ⅲ	256
ビジネス中国語	13832	王 嫣	Ⅲ	259
観光マーケティング論	13833	一尾 敏正	Ⅲ	256
宿泊事業論	13835	一尾 敏正	Ⅲ	257
航空ツーリズム論	13836	石井 由美子	Ⅲ	257
観光フランス語	13837	平田 淳子	Ⅲ	259
観光文化地理論	13838	釜須 久夫	Ⅰ	240

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
WEBトラベルプレゼンテーション	13839	釜須 久夫	Ⅲ	258
神戸学	13841	箕野 聡子	Ⅲ	258
観光英検3級	13845	國本 恵理香	I	271
観光英検2級	13846	入江 和子	I	271
観光英検1級	13847	入江 和子	Ⅱ	272
英検2級	13848	和泉 有香	I	270
教育方法論	13851	堀 正人	Ⅱ	266
教育相談(カウンセリングを含む)	13852	濱田 誠二郎	Ⅲ	267
教育経営論(中高)	13853	堀 正人	Ⅲ	267
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法(中高)	13854	都賀 純/堀 正人	Ⅱ	266
Oral Communication 100	13901	James C. JENSEN/Cory McKENZIE	I	217
Oral Communication 100	13901	Andy RUSHTON	I	217
Reading 101	13903	佐伯 瑠璃子/宮副 紀子/和泉 有香	I	218
Reading 101	13903	吉野 美智子	I	218
Writing 102	13905	Andy RUSHTON/James C. JENSEN	I	219
Writing 102	13905	和泉 有香	I	219
Grammar 103	13907	入江 和子/和泉 有香	I	220
Grammar 103	13907	佐伯 瑠璃子	I	220
Pronunciation 104	13908	石原 敬子	I	221
Oral Communication 200	13909	Andy RUSHTON/James C. JENSEN	I	221
Oral Communication 200	13909	Angus HALL	I	222
Reading 201	13911	惣谷 美智子/宮副 紀子/佐伯 瑠璃子/和泉 有香	I	222
Reading 201	13911	吉野 美智子	I	223
Writing 202	13913	Tim KERN/Andy RUSHTON/James C. JENSEN	I	223
Writing 202	13913	國本 恵理香	I	224
Grammar 203	13915	小野 礼子/國本 恵理香/和泉 有香	I	224
Grammar 203	13915	和泉 有香	I	225
Pronunciation 204	13916	石原 敬子	I	225
Oral Communication 300	13917	Andy RUSHTON/James C. JENSEN/Tim KERN/Angus HALL	I/Ⅱ	226
Oral Communication 300	13917	Andy RUSHTON	Ⅱ	226
Reading 301	13919	入江 和子/國本 恵理香/後藤 江里	I/Ⅱ	227
Reading 301	13919	國本 恵理香	Ⅱ	227
Writing 302	13921	James C. JENSEN/Andy RUSHTON/Cory McKENZIE	I/Ⅱ	228
Writing 302	13921	Angus HALL	Ⅱ	228
Grammar 303	13923	宮副 紀子/木下 奈美/後藤 江里	I/Ⅱ	229
Grammar 303	13923	和泉 有香	Ⅱ	229
Oral Communication 400	13925	Andy RUSHTON/James C. JENSEN	Ⅱ	230
Oral Communication 400	13925	Cory McKENZIE	Ⅱ	230
Reading 401	13927	木下 奈美/石原 敬子/後藤 江里	Ⅱ	231
Reading 401	13927	國本 恵理香	Ⅱ	231
Writing 402	13929	Andy RUSHTON/James C. JENSEN/Angus HALL	Ⅱ	232
Writing 402	13929	James C. JENSEN	Ⅱ	232
Grammar 403	13931	和泉 有香/後藤 江里/佐伯 瑠璃子	Ⅱ	233
Grammar 403	13931	後藤 江里	Ⅱ	233
Business English	13935	釜須 久夫	Ⅱ	246
English for Tourism	13937	青木 幹生	Ⅱ	246
Oral Communication 500	13939	Andy RUSHTON/James C. JENSEN/Cory McKENZIE	Ⅱ/Ⅲ	247
Reading 501	13941	宮副 紀子	Ⅱ/Ⅲ	247
Writing 502	13943	Andy RUSHTON/Cory McKENZIE	Ⅱ/Ⅲ	248
Pronunciation 504	13945	石原 敬子	Ⅱ/Ⅲ	248

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
Oral Communication 600	1 3 9 4 7	Cory McKENZIE/Andy RUSHTON	Ⅲ	249
Reading 601	1 3 9 4 9	後藤 江里/宮副 紀子	Ⅲ	249
Writing 602	1 3 9 5 1	Andy RUSHTON	Ⅲ	250
Pronunciation 604	1 3 9 5 3	石原 敬子	Ⅲ	250
Oral Communication 700	1 3 9 5 5	Cory McKENZIE	Ⅲ/Ⅳ	251
English for Academic Purposes 701	1 3 9 5 7	Cory McKENZIE	Ⅲ/Ⅳ	251
Pronunciation 704	1 3 9 5 9	石原 敬子	Ⅲ/Ⅳ	252
Oral Communication 800	1 3 9 6 1	Andy RUSHTON	Ⅳ	252
English for Academic Purposes 801	1 3 9 6 3	Tim KERN	Ⅳ	253
ハワイ文化研究	1 3 9 6 5	釜須 久夫	Ⅰ	241
インターンシップ (海外)	1 3 9 6 7	佐伯 瑠璃子	Ⅱ	239
インターンシップ (国内)	1 3 9 6 9	酒井 新一郎	Ⅲ	255
専門科目 (心理こども学科)				
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	浅井 由美	Ⅲ	275
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	濱田 誠二郎	Ⅲ	275
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	森 晴美	Ⅲ	276
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	中植 満美子	Ⅲ	276
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	佐原 信江	Ⅲ	277
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	浅井 由美	Ⅲ	277
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	濱田 誠二郎	Ⅲ	278
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	森 晴美	Ⅲ	278
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	中植 満美子	Ⅲ	279
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	佐原 信江	Ⅲ	279
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	浅井 由美	Ⅳ	280
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	濱田 誠二郎	Ⅳ	280
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	森 晴美	Ⅳ	281
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	中植 満美子	Ⅳ	281
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	大岸 啓子	Ⅳ	282
演習Ⅲ	1 7 1 0 9	佐原 信江	Ⅳ	282
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	浅井 由美	Ⅳ	283
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	濱田 誠二郎	Ⅳ	283
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	森 晴美	Ⅳ	284
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	中植 満美子	Ⅳ	284
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	大岸 啓子	Ⅳ	285
演習Ⅳ	1 7 1 1 3	佐原 信江	Ⅳ	285
発達心理学	1 7 2 0 1	濱田 誠二郎	Ⅰ	286
保育内容総論	1 7 2 0 5	佐原 信江	Ⅰ	286
感情・人格心理学	1 7 3 1 1	浅谷 豊	Ⅰ	287
臨床心理学概論	1 7 3 2 7	津田 明子	Ⅱ	287
知覚・認知心理学	1 7 3 3 1	中植 満美子	Ⅱ	288
心理学統計法	1 7 3 3 9	安岡 勇輝	Ⅱ	288
心理学実験	1 7 3 4 2	中園 佐恵子	Ⅱ	289
心理的アセスメント	1 7 3 4 4	中植 満美子	Ⅱ	289
心理調査・データ処理法	1 7 3 4 5	新美 裕之	Ⅱ	290
臨床心理学実習 (心理テスト法)	1 7 3 7 5	中植 満美子	Ⅲ	290
心理学的支援法	1 7 3 8 3	津田 明子	Ⅲ	291
心理学研究法	1 7 3 8 7	中園 佐恵子	Ⅲ	291
社会・集団・家族心理学	1 7 3 9 9	中園 佐恵子	Ⅲ	292
生活文化概論	1 7 4 0 5	渋谷 美智	Ⅰ	292

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
教育・学校心理学	17411	濱田 誠二郎	I	293
初等音楽1	17417	南 夏世／由井 敦子	I	293
初等音楽2	17421	由井 敦子／南 夏世	I	294
児童文学	17437	箕野 聡子／宮副 紀子	II	294
乳幼児心理学	17445	長谷川 貴子	II	295
学習・言語心理学	17447	中園 佐恵子	II	295
初等英語科指導法	17467	高田 悦子	II	296
キッズ・イングリッシュII	17469	後藤 江里	II	296
初等音楽3	17473	南 夏世	II	297
初等音楽4	17477	南 夏世	III	297
教育相談(カウンセリングを含む)	17497	濱田 誠二郎	III	298
子育て支援と地域社会	17501	石畠 多恵	III	298
ボランティア論	17505	西橋 隆三	I	299
図画工作	17509	森 晴美	I	299
初等英語	17511	高田 悦子	I	300
初等体育	17513	木岡 正雄	II	300
教育原理	17521	澤井 一夫	II	301
子ども家庭福祉	17523	久松 睦典	II	301
情緒・学習障害の心理	17537	濱田 誠二郎	III	302
保育原理	17607	成木 智子	I	302
教職概論(小)	17613	堀 正人	I	303
教職概論(幼保)	17613	森 晴美	I	303
幼児教育学原理	17617	須河内 優子	II	304
幼児教育課程論	17623	佐原 信江	II	304
保育内容の研究・人間関係	17629	成木 智子	II	305
社会的養護I	17639	佐々木 勝一	I	305
子どもの保健IA	17642	外村 晴美	II	306
子どもの保健	17643	狐塚 善樹	II	306
子どもの保健II	17646	藪内 順子	II	307
保育内容の研究・表現(身体表現)	17653	成木 智子	II	307
保育内容の研究・表現(音楽表現)	17655	南 夏世	II	308
教育方法論	17657	濱田 誠二郎	II	308
初等国語科指導法	17661	大岸 啓子	III	309
初等社会科指導法	17665	山本 博	II	309
初等算数科指導法	17669	都賀 純	II	310
初等理科指導法	17673	山本 博	II	310
初等生活科指導法	17677	東内 則子	II	311
特別活動論	17681	都賀 純	II	311
特別支援教育(幼小)	17683	濱田 誠二郎	II	312
教育課程及び総合的な学習の時間の指導法	17684	都賀 純	II	312
保育・教職実践演習(幼・小)	17686	大岸 啓子／佐原 信江	IV	313
教育実習指導(幼稚園)I	17691	佐原 信江	II	313
介護等の体験(事前指導)	17697	浅井 由美	II	314
教育実習指導(幼稚園)II	17707	佐原 信江	III	314
教育経営論	17713	濱田 誠二郎	III	315
保育内容の研究・健康	17717	石田 伸子	III	315
保育内容の研究・環境	17721	渋谷 美智	III	316
幼児教育指導法	17725	佐原 信江	III	316
幼児指導論(カウンセリングを含む)	17729	成木 智子	III	317
初等音楽科指導法	17733	南 夏世	III	317

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
初等図画工作科指導法	17737	花房 雅剛	Ⅲ	318
初等家庭科指導法	17741	浅井 由美	Ⅲ	318
初等体育科指導法	17745	木岡 正雄	Ⅲ	319
道徳教育指導論	17749	大岸 啓子	Ⅱ	319
生徒指導論（進路指導を含む）	17753	花房 雅剛	Ⅲ	320
子どもの保健ⅠB	17762	狐塚 善樹	Ⅲ	320
社会的養護内容	17766	佐々木 勝一	Ⅲ	321
相談援助	17770	佐々木 勝一	Ⅲ	321
保育相談支援	17772	佐々木 勝一	Ⅲ	322
家庭支援論	17774	浅井 由美	Ⅲ	322
乳児保育Ⅰ	17778	渋谷 美智	Ⅰ	323
乳児保育Ⅱ	17779	渋谷 美智	Ⅱ	323
障害児保育	17782	中園 佐恵子	Ⅱ	324
障害者・障害児心理学	17783	中園 佐恵子	Ⅱ	324
教育実習指導（小学校）	17785	大岸 啓子	Ⅲ	325
保育実習指導A	17811	石畠 多恵	Ⅲ	326
保育実習指導A	17811	渋谷 美智	Ⅲ	326
保育実習指導ⅠA	17812	渋谷 美智	Ⅱ	327
保育実習指導ⅠB	17813	石畠 多恵	Ⅱ	327
保育実習指導B	17820	渋谷 美智	Ⅳ	328
神経・生理心理学	17827	古谷 真樹	Ⅱ	328
司法・犯罪心理学	17831	十倉 利廣	Ⅱ	329
健康・医療心理学	17835	石川 慎一	Ⅲ	329
教職に関する科目				
教育原理	14115	澤井 一夫	Ⅱ	333
介護等の体験（事前指導）	14147	浅井 由美	Ⅱ	333
特別活動論	14185	澤井 一夫	Ⅱ	334
特別支援教育（中高）	14187	濱田 誠二郎	Ⅱ	334
教職実践演習（中・高）	14214	堀 正人／惣谷 美智子	Ⅳ	335
生徒指導論	14217	堀 正人	Ⅲ	335
教育実習の研究（中等）	14229	堀 正人／吉野 美智子	Ⅳ	336

## 2020年度 シラバス索引 (五十音順)

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
B Business English	1 3 9 3 5	釜須 久夫	II	246
E English for Academic Purposes 701	1 3 9 5 7	Cory McKENZIE	III/IV	251
English for Academic Purposes 801	1 3 9 6 3	Tim KERN	IV	253
English for Tourism	1 3 9 3 7	青木 幹生	II	246
G Grammar 103	1 3 9 0 7	入江 和子/和泉 有香	I	220
Grammar 103	1 3 9 0 7	佐伯 瑠璃子	I	220
Grammar 203	1 3 9 1 5	小野 礼子/國本 恵理香/和泉 有香	I	224
Grammar 203	1 3 9 1 5	和泉 有香	I	225
Grammar 303	1 3 9 2 3	宮副 紀子/木下 奈美/後藤 江里	I/II	229
Grammar 303	1 3 9 2 3	和泉 有香	II	229
Grammar 403	1 3 9 3 1	和泉 有香/後藤 江里/佐伯 瑠璃子	II	233
Grammar 403	1 3 9 3 1	後藤 江里	II	233
O Oral Communication 100	1 3 9 0 1	James C. JENSEN/Cory McKENZIE	I	217
Oral Communication 100	1 3 9 0 1	Andy RUSHTON	I	217
Oral Communication 200	1 3 9 0 9	Andy RUSHTON/James C. JENSEN	I	221
Oral Communication 200	1 3 9 0 9	Angus HALL	I	222
Oral Communication 300	1 3 9 1 7	Andy RUSHTON/James C. JENSEN/Tim KERN/Angus HALL	I/II	226
Oral Communication 300	1 3 9 1 7	Andy RUSHTON	II	226
Oral Communication 400	1 3 9 2 5	Andy RUSHTON/James C. JENSEN	II	230
Oral Communication 400	1 3 9 2 5	Cory McKENZIE	II	230
Oral Communication 500	1 3 9 3 9	Andy RUSHTON/James C. JENSEN/Cory McKENZIE	II/III	247
Oral Communication 600	1 3 9 4 7	Cory McKENZIE/Andy RUSHTON	III	249
Oral Communication 700	1 3 9 5 5	Cory McKENZIE	III/IV	251
Oral Communication 800	1 3 9 6 1	Andy RUSHTON	IV	252
P Pronunciation 104	1 3 9 0 8	石原 敬子	I	221
Pronunciation 204	1 3 9 1 6	石原 敬子	I	225
Pronunciation 504	1 3 9 4 5	石原 敬子	II/III	248
Pronunciation 604	1 3 9 5 3	石原 敬子	III	250
Pronunciation 704	1 3 9 5 9	石原 敬子	III/IV	252
R Reading 101	1 3 9 0 3	佐伯 瑠璃子/宮副 紀子/和泉 有香	I	218
Reading 101	1 3 9 0 3	吉野 美智子	I	218
Reading 201	1 3 9 1 1	惣谷 美智子/宮副 紀子/佐伯 瑠璃子/和泉 有香	I	222
Reading 201	1 3 9 1 1	吉野 美智子	I	223
Reading 301	1 3 9 1 9	入江 和子/國本 恵理香/後藤 江里	I/II	227
Reading 301	1 3 9 1 9	國本 恵理香	II	227
Reading 401	1 3 9 2 7	木下 奈美/石原 敬子/後藤 江里	II	231
Reading 401	1 3 9 2 7	國本 恵理香	II	231
Reading 501	1 3 9 4 1	宮副 紀子	II/III	247
Reading 601	1 3 9 4 9	後藤 江里/宮副 紀子	III	249
T TOEIC/TOEFL 1	1 3 8 2 2	和泉 有香	II	269
TOEIC/TOEFL 2	1 3 8 2 3	和泉 有香	II	270
TOEIC/TOEFL入門 1	1 3 8 0 6	和泉 有香	I	268
TOEIC/TOEFL入門 1	1 3 8 0 6	入江 和子	I	269
W WEBトラベルプレゼンテーション	1 3 8 3 9	釜須 久夫	III	258
Writing 102	1 3 9 0 5	Andy RUSHTON/James C. JENSEN	I	219
Writing 102	1 3 9 0 5	和泉 有香	I	219
Writing 202	1 3 9 1 3	Tim KERN/Andy RUSHTON/James C. JENSEN	I	223
Writing 202	1 3 9 1 3	國本 恵理香	I	224

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
Writing 302	1 3 9 2 1	James C. JENSEN/Andy RUSHTON/Cory McKENZIE	I / II	228
Writing 302	1 3 9 2 1	Angus HALL	II	228
Writing 402	1 3 9 2 9	Andy RUSHTON/James C. JENSEN/Angus HALL	II	232
Writing 402	1 3 9 2 9	James C. JENSEN	II	232
Writing 502	1 3 9 4 3	Andy RUSHTON/Cory McKENZIE	II/III	248
Writing 602	1 3 9 5 1	Andy RUSHTON	III	250
い 異文化理解	1 3 4 0 9	佐伯 瑠璃子	I / II	234
インターンシップ (海外)	1 3 9 6 7	佐伯 瑠璃子	II	239
インターンシップ (国内)	1 3 9 6 9	酒井 新一郎	III	255
え 英検2級	1 3 8 4 8	和泉 有香	I	270
英語1	1 1 6 0 1	小野 礼子	I	185
英語1	1 1 6 0 1	釜須 久夫	I	186
英語2	1 1 6 0 5	入江 和子	I	186
英語2	1 1 6 0 5	木下 奈美	I	187
英語3	1 1 6 0 9	入江 和子	I	187
英語4	1 1 6 1 3	木下 奈美	I	188
英語5	1 1 6 1 7	James C. JENSEN/Tim KERN	II	188
英語6	1 1 6 2 1	國本 恵理香	II	189
英語7	1 1 6 2 5	James C. JENSEN/Andy RUSHTON	II	189
英語8	1 1 6 2 9	後藤 江里	II	190
英語科教育法Ⅰ	1 3 7 0 5	後藤 江里	I	260
英語科教育法Ⅱ	1 3 7 0 9	宮副 紀子	II	261
英語科教育法Ⅲ	1 3 7 3 7	吉野 美智子	III	262
英語科教育法Ⅳ	1 3 7 4 1	吉野 美智子	III	263
英語学概論	1 3 7 1 3	佐伯 瑠璃子	II	238
英米文学研究	1 3 5 2 1	惣谷 美智子	III	254
英米文学入門	1 3 4 1 3	吉野 美智子	I	235
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	一尾 敏正	III	205
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	石原 敬子	III	205
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	箕野 聡子	III	206
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	宮副 紀子	III	206
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	酒井 新一郎	III	207
演習Ⅰ	1 3 1 0 1	吉野 美智子	III	207
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	浅井 由美	III	275
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	濱田 誠二郎	III	275
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	森 晴美	III	276
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	中植 満美子	III	276
演習Ⅰ	1 7 1 0 1	佐原 信江	III	277
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	一尾 敏正	III	208
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	石原 敬子	III	208
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	箕野 聡子	III	209
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	宮副 紀子	III	209
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	酒井 新一郎	III	210
演習Ⅱ	1 3 1 0 5	吉野 美智子	III	210
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	浅井 由美	III	277
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	濱田 誠二郎	III	278
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	森 晴美	III	278
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	中植 満美子	III	279
演習Ⅱ	1 7 1 0 5	佐原 信江	III	279
演習Ⅲ	1 3 1 0 9	一尾 敏正	IV	211

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
演習Ⅲ	13109	石原 敬子	Ⅳ	211
演習Ⅲ	13109	箕野 聡子	Ⅳ	212
演習Ⅲ	13109	酒井 新一郎	Ⅳ	212
演習Ⅲ	13109	吉野 美智子	Ⅳ	213
演習Ⅲ	13109	吉野 美智子	Ⅳ	213
演習Ⅲ	17109	浅井 由美	Ⅳ	280
演習Ⅲ	17109	濱田 誠二郎	Ⅳ	280
演習Ⅲ	17109	森 晴美	Ⅳ	281
演習Ⅲ	17109	中植 満美子	Ⅳ	281
演習Ⅲ	17109	大岸 啓子	Ⅳ	282
演習Ⅲ	17109	佐原 信江	Ⅳ	282
演習Ⅳ	13113	一尾 敏正	Ⅳ	214
演習Ⅳ	13113	石原 敬子	Ⅳ	214
演習Ⅳ	13113	箕野 聡子	Ⅳ	215
演習Ⅳ	13113	酒井 新一郎	Ⅳ	215
演習Ⅳ	13113	吉野 美智子	Ⅳ	216
演習Ⅳ	13113	吉野 美智子	Ⅳ	216
演習Ⅳ	17113	浅井 由美	Ⅳ	283
演習Ⅳ	17113	濱田 誠二郎	Ⅳ	283
演習Ⅳ	17113	森 晴美	Ⅳ	284
演習Ⅳ	17113	中植 満美子	Ⅳ	284
演習Ⅳ	17113	大岸 啓子	Ⅳ	285
演習Ⅳ	17113	佐原 信江	Ⅳ	285
お オフィス情報処理 1	11509	米田 里香	Ⅱ	184
オフィス情報処理 2	11513	米田 里香	Ⅱ	185
か 海外ツーリズム研修	13445	酒井 新一郎/一尾 敏正	Ⅱ	245
外国語教授法	13745	後藤 江里	Ⅲ	264
介護等の体験(事前指導)	17697	浅井 由美	Ⅱ	314
介護等の体験(事前指導)	14147	浅井 由美	Ⅱ	333
海星学Ⅰ	11206	堀 正人/一尾 敏正/箕野 聡子/佐伯 瑠璃子/酒井 新一郎	Ⅱ	169
海星学Ⅰ	11206	渋谷 美智/石島 多恵/南 夏世/中園 佐恵子	Ⅱ	170
海星学Ⅱ	11207	堀 正人/一尾 敏正/箕野 聡子/佐伯 瑠璃子/酒井 新一郎	Ⅱ	170
海星学Ⅱ	11207	渋谷 美智/石島 多恵/南 夏世/中園 佐恵子	Ⅱ	171
学習・言語心理学	17447	中園 佐恵子	Ⅱ	295
家政学概論	11381	浅井 由美	Ⅱ	179
家庭支援論	17774	浅井 由美	Ⅲ	322
環境ツーリズム論	13430	酒井 新一郎	Ⅱ	242
観光英検 1 級	13847	入江 和子	Ⅱ	272
観光英検 2 級	13846	入江 和子	Ⅰ	271
観光英検 3 級	13845	國本 恵理香	Ⅰ	271
観光概論	13426	一尾 敏正	Ⅰ	239
観光事業総論	13431	一尾 敏正	Ⅰ/Ⅱ	243
観光と世界遺産	13432	酒井 新一郎	Ⅱ	243
観光ビジネス実務論	13434	酒井 新一郎	Ⅱ	244
観光フランス語	13837	平田 淳子	Ⅲ	259
観光文化地理論	13838	釜須 久夫	Ⅰ	240
観光マーケティング論	13833	一尾 敏正	Ⅲ	256
韓国語 1	11697	宋 京珠	Ⅰ	199
韓国語 2	11701	宋 京珠	Ⅰ	200
韓国語 3	11705	宋 京珠	Ⅰ	200

	科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
	韓国語 4	1 1 7 0 9	宋 京珠	I	201
	感情・人格心理学	1 7 3 1 1	浅谷 豊	I	287
き	企業研究	1 3 4 4 0	一尾 敏正	II	244
	基礎演習 I	1 1 2 0 1	石原 敬子/宮副 紀子/佐伯 瑠璃子/吉野 美智子	I	167
	基礎演習 I	1 1 2 0 1	石島 多恵/森 晴美/中園 佐恵子/渋谷 美智	I	168
	基礎演習 II	1 1 2 0 5	石原 敬子/宮副 紀子/佐伯 瑠璃子/吉野 美智子	I	168
	基礎演習 II	1 1 2 0 5	石島 多恵/森 晴美/中園 佐恵子/渋谷 美智	I	169
	キッズ・イングリッシュ I	1 3 7 2 5	高田 悦子	II	261
	キッズ・イングリッシュ II	1 3 7 2 9	後藤 江里	II	262
	キッズ・イングリッシュ II	1 7 4 6 9	後藤 江里	II	296
	キッズ・イングリッシュ III (実習)	1 3 7 3 3	後藤 江里	III	263
	キャリアデザイン入門	1 1 3 0 1	前田 典子	I	172
	キャリアデザイン入門	1 1 3 0 1	前田 典子	I	173
	教育・学校心理学	1 3 8 1 5	濱田 誠二郎	I	265
	教育・学校心理学	1 7 4 1 1	濱田 誠二郎	I	293
	教育課程及び総合的な学習の時間の指導法	1 7 6 8 4	都賀 純	II	312
	教育課程及び総合的な学習の時間の指導法 (中高)	1 3 8 5 4	都賀 純/堀 正人	II	266
	教育経営論	1 7 7 1 3	濱田 誠二郎	III	315
	教育経営論 (中高)	1 3 8 5 3	堀 正人	III	267
	教育原理	1 7 5 2 1	澤井 一夫	II	301
	教育原理	1 4 1 1 5	澤井 一夫	II	333
	教育実習指導 (小学校)	1 7 7 8 5	大岸 啓子	III	325
	教育実習指導 (幼稚園) I	1 7 6 9 1	佐原 信江	II	313
	教育実習指導 (幼稚園) II	1 7 7 0 7	佐原 信江	III	314
	教育実習の研究 (中等)	1 4 2 2 9	堀 正人/吉野 美智子	IV	336
	教育相談(カウンセリングを含む)	1 3 8 5 2	濱田 誠二郎	III	267
	教育相談(カウンセリングを含む)	1 7 4 9 7	濱田 誠二郎	III	298
	教育方法論	1 3 8 5 1	堀 正人	II	266
	教育方法論	1 7 6 5 7	濱田 誠二郎	II	308
	教職概論 (キッズ)	1 3 8 0 9	森 晴美	I	265
	教職概論 (小)	1 7 6 1 3	堀 正人	I	303
	教職概論 (中高)	1 3 8 0 9	堀 正人	I	264
	教職概論 (幼保)	1 7 6 1 3	森 晴美	I	303
	教職実践演習 (中・高)	1 4 2 1 4	堀 正人/惣谷 美智子	IV	335
	キリスト教海外研修	1 1 1 0 9	尾崎 秀夫	I	166
	キリスト教と文化	1 1 1 1 7	尾崎 秀夫	III	167
	キリスト教入門	1 1 1 0 1	尾崎 秀夫	I	165
け	経営学入門	1 1 3 8 5	栗木 契	III	180
	健康・医療心理学	1 7 8 3 5	石川 慎一	III	329
	健康科学	1 1 3 3 3	柳本 有二	I	176
	健康スポーツ 1	1 1 3 3 7	後藤 磨也子/片岡 安美子	I	176
	現代家族関係論	1 1 3 6 5	浅井 由美	II	178
こ	航空ツーリズム論	1 3 8 3 6	石井 由美子	III	257
	神戸学	1 3 8 4 1	箕野 聡子	III	258
	国際観光交流論	1 3 4 2 7	青木 幹生	I	240
	子育て支援と地域社会	1 7 5 0 1	石島 多恵	III	298
	ことばと社会	1 3 4 0 5	佐伯 瑠璃子	II	235
	ことばの意味・文化	1 3 4 1 7	佐伯 瑠璃子	II	237
	子ども家庭福祉	1 7 5 2 3	久松 睦典	II	301
	子どもの保健	1 7 6 4 3	狐塚 善樹	II	306

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
子どもの保健ⅠA	17642	外村 晴美	Ⅱ	306
子どもの保健ⅠB	17762	狐塚 善樹	Ⅲ	320
子どもの保健Ⅱ	17646	藪内 順子	Ⅱ	307
コミュニケーションと文化	13419	佐伯 瑠璃子	Ⅰ	236
し ジェンダー論	11325	浅井 由美	Ⅰ	175
児童英語教育概論	13701	高田 悦子	Ⅰ	260
児童文学	13501	宮副 紀子／箕野 聡子	Ⅱ	238
児童文学	17437	箕野 聡子／宮副 紀子	Ⅱ	294
司法・犯罪心理学	17831	十倉 利廣	Ⅱ	329
社会科学概論	11377	尾崎 秀夫	Ⅱ	179
社会・集団・家族心理学	17399	中園 佐恵子	Ⅲ	292
社会的養護内容	17766	佐々木 勝一	Ⅲ	321
社会的養護Ⅰ	17639	佐々木 勝一	Ⅰ	305
宿泊事業論	13835	一尾 敏正	Ⅲ	257
手話コミュニケーションⅠ	13428	若生 茂嗣／大川 能子	Ⅱ	241
手話コミュニケーションⅡ	13429	若生 茂嗣／大川 能子	Ⅱ	242
障害児保育	17782	中園 佐恵子	Ⅱ	324
障害者・障害児心理学	17783	中園 佐恵子	Ⅱ	324
情緒・学習障害の心理	17537	濱田 誠二郎	Ⅲ	302
情報活用の基礎知識	11313	埴岡 忠清	Ⅰ	182
情報リテラシー1	11501	米田 里香	Ⅰ	182
情報リテラシー1	11501	渡辺 卓也	Ⅰ	183
情報リテラシー2	11505	米田 里香	Ⅰ	183
情報リテラシー2	11505	渡辺 卓也	Ⅰ	184
女性と社会	13525	浅井 由美	Ⅲ	255
初等英語	17511	高田 悦子	Ⅰ	300
初等英語科指導法	17467	高田 悦子	Ⅱ	296
初等音楽1	17417	南 夏世／由井 敦子	Ⅰ	293
初等音楽2	17421	由井 敦子／南 夏世	Ⅰ	294
初等音楽3	17473	南 夏世	Ⅱ	297
初等音楽4	17477	南 夏世	Ⅲ	297
初等音楽科指導法	17733	南 夏世	Ⅲ	317
初等家庭科指導法	17741	浅井 由美	Ⅲ	318
初等国語科指導法	17661	大岸 啓子	Ⅲ	309
初等算数科指導法	17669	都賀 純	Ⅱ	310
初等社会科指導法	17665	山本 博	Ⅱ	309
初等図画工作科指導法	17737	花房 雅剛	Ⅲ	318
初等生活科指導法	17677	東内 則子	Ⅱ	311
初等体育	17513	木岡 正雄	Ⅱ	300
初等体育科指導法	17745	木岡 正雄	Ⅲ	319
初等理科指導法	17673	山本 博	Ⅱ	310
神経・生理心理学	17827	古谷 真樹	Ⅱ	328
人権教育論	11373	堀 正人	Ⅱ	178
心理学概論	11317	中植 満美子	Ⅰ	174
心理学研究法	17387	中園 佐恵子	Ⅲ	291
心理学実験	17342	中園 佐恵子	Ⅱ	289
心理学的支援法	17383	津田 明子	Ⅲ	291
心理学統計法	17339	安岡 勇輝	Ⅱ	288
心理調査・データ処理法	17345	新美 裕之	Ⅱ	290
心理的アセスメント	17344	中植 満美子	Ⅱ	289

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
す 図画工作	17509	森 晴美	I	299
せ 生活文化概論	17405	渋谷 美智	I	292
聖書概論	11105		I	165
聖書と現代	11113		II	166
生徒指導論	14217	堀 正人	III	335
生徒指導論 (進路指導を含む)	17753	花房 雅剛	III	320
そ 相談援助	17770	佐々木 勝一	III	321
ち 知覚・認知心理学	17331	中植 満美子	II	288
中国語 1	11665	坂口 文馨	I	194
中国語 2	11669	沈 竑	I	195
中国語 3	11673	坂口 文馨	I	195
中国語 3	11673	沈 竑	I	196
中国語 4	11677	沈 竑	I	196
中国語 4	11677	王 嬌	I	197
中国語 5	11681	坂口 文馨	II	197
中国語 6	11685	王 嬌	II	198
中国語 7	11689	坂口 文馨	II	198
中国語 8	11693	王 嬌	II	199
つ ツーリズム実務特論	13450	酒井 新一郎	II	245
と 統計学入門	11321	埴岡 忠清	I	174
道徳教育指導論	13829	堀 正人	III	268
道徳教育指導論	17749	大岸 啓子	II	319
特別活動論	17681	都賀 純	II	311
特別活動論	14185	澤井 一夫	II	334
特別支援教育 (中高)	14187	濱田 誠二郎	II	334
特別支援教育 (幼小)	17683	濱田 誠二郎	II	312
に 日本国憲法	11329	四本 健二	I	175
日本語表現法	11401	箕野 聡子	I	180
日本語表現法	11401	大岸 啓子	I	181
日本語文章構成法	11405	箕野 聡子	II	181
日本文化史	11353	箕野 聡子	II	177
日本文化論	13273	箕野 聡子	II	236
乳児保育 I	17778	渋谷 美智	I	323
乳児保育 II	17779	渋谷 美智	II	323
乳幼児心理学	17445	長谷川 貴子	II	295
人間学 1	11209	尾崎 秀夫	I	171
人間学 2	11213		III	172
は 発達心理学	17201	濱田 誠二郎	I	286
ハワイ文化研究	13965	釜須 久夫	I	241
ひ 比較文化論	13830	箕野 聡子	III	254
ビジネス中国語	13832	王 嬌	III	259
ビジネス翻訳	13621	檜本 雄三	III	253
ふ フランス語 1	11633	平田 淳子	I	190
フランス語 2	11637	平田 淳子	I	191
フランス語 3	11641	平田 淳子	I	191
フランス語 4	11645	平田 淳子	I	192
フランス語 5	11649	平田 淳子	II	192
フランス語 6	11653	平田 淳子	II	193
フランス語 7	11657	平田 淳子	II	193
フランス語 8	11661	平田 淳子	II	194

科目名	コード	教員名	配当年次	ページ
文学入門	11309	箕野 聡子	I	173
ほ 保育・教職実践演習（幼・小）	17686	大岸 啓子／佐原 信江	IV	313
保育原理	17607	成木 智子	I	302
保育実習指導 IA	17812	渋谷 美智	II	327
保育実習指導 IB	17813	石畠 多恵	II	327
保育実習指導A	17811	石畠 多恵	III	326
保育実習指導A	17811	渋谷 美智	III	326
保育実習指導B	17820	渋谷 美智	IV	328
保育相談支援	17772	佐々木 勝一	III	322
保育内容総論	17205	佐原 信江	I	286
保育内容の研究・環境	17721	渋谷 美智	III	316
保育内容の研究・健康	17717	石田 伸子	III	315
保育内容の研究・人間関係	17629	成木 智子	II	305
保育内容の研究・表現（音楽表現）	17655	南 夏世	II	308
保育内容の研究・表現（身体表現）	17653	成木 智子	II	307
簿記会計学	11357	埴岡 忠清	II	177
ホスピタリティ精神論	13272	國本 恵理香	I	234
ホスピタリティ・マネジメント	13831	一尾 敏正	III	256
ボランティア論	17505	西橋 隆三	I	299
翻訳・通訳論入門	13301	和泉 有香	II	237
よ 幼児教育学原理	17617	須河内 優子	II	304
幼児教育課程論	17623	佐原 信江	II	304
幼児教育指導法	17725	佐原 信江	III	316
幼児指導論（カウンセリングを含む）	17729	成木 智子	III	317
り 臨床心理学概論	17327	津田 明子	II	287
臨床心理学実習（心理テスト法）	17375	中植 満美子	III	290